

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2019 経済学部 授業
計画
経済学科

經 濟 学 部

(学部略号：W)

Faculty of Economics

経済学科

(学科略号：W)

Department of Economics

◎教育研究上の目的

経済学を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を有し、現代の経済社会の諸問題に積極的に取り組むことのできる知的・専門的経済人を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（経済学）の学位を授与します。

■知識・理解

- [DP 1] 人文・社会・自然系などからなる教養および基礎科目を修得し、現代経済学の基礎理論を修得するための基礎知識を身につけている。（専門科目学習の前提となる教養に関する知見）
- [DP 2] 経済社会が直面している問題の解決に取り組むことができる経済学の知識を有している。（応用問題対応力）

■思考・判断

- [DP 3] 経済学の専門知識を習得し、経済学的思考に基づき現代の経済社会が抱える課題について、合理的に問題を解決することができる。（応用問題対応力・解決力）
- [DP 4] 他人の意見に耳を傾け、これらを取り入れることにより、多面的な思考を持った議論を行うことができる。（コミュニケーションおよびディスカッション能力）

■関心・意欲・態度

- [DP 5] 経済社会で起きている現象に興味を抱き、新聞・書籍などから積極的に情報を得ることができる。（能動性および主体性）
- [DP 6] 経済学の知識を基に、国内外のフィールド調査に取り組むことができる。（能動性および主体性）
- [DP 7] 幅広い教養と倫理観、人間性に関して理解し、人々に接することができる。（コミュニケーション能力）

■技能・表現

- [DP 8] ICT、論理的なコミュニケーションおよびプレゼンテーション力を身につけている。（論理的思考力およびプレゼンテーション能力）
- [DP 9] 職業人・生活者として自立するとともに、経済活動を通じて社会の発展に貢献できる。（社会に対する観察力・能動性）

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

- ①幅広い見識と豊かな人間性を涵養しながら、現代社会の諸問題に積極的に取り組むこと

ができる知的・専門的能力を養うため、専門科目、基礎科目、教養科目およびキャリア形成科目を組み合わせ配置する。

②経済学の基礎理論を学習する際に、ミクロ経済学・マクロ経済学などの経済学を学ぶうえで不可欠な必修科目と、簿記・金融論などの専門分析のための選択科目とを配置する。

③専門領域を重点的に学ぶため、2年次からの「地域経済」「観光経済」「国際経済」の3領域において、それぞれの領域に応じた専門科目を配置する。

■思考・判断

④論理的思考の修得を図るため、講義や演習の授業において、適宜、レポートなどを課す。

⑤少人数授業における報告発表・討論を通じて、人の意見に耳を傾け、これらを取り入れながら議論を深め、適切な判断力を養うために、「基礎演習」に始まり「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」と続く演習科目を配置する。

■関心・意欲・態度

⑥経済社会で起きている現象を研究テーマに選び、その研究に必要な情報収集方法を身につけるため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を全員必修の科目として配置する。

⑦フィールド調査やインターンシップを通して主体的に行動できる力を養うため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」の必修科目およびコースごとに設けている「実践演習」という選択科目を配置する。

⑧経済社会に関心を持ち、ゼミ内でその諸問題について他者に配慮しながら双方向の議論を行うことができるようにするため、少人数制の「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を配置する。

■技能・表現

⑨議論の経験を通してコミュニケーション能力を高め、また報告・発表を通してプレゼンテーション能力を高めるため、演習系科目を配置する。

⑩語学力・情報リテラシーの基礎を学ぶため、これらの基礎科目を配置し、それらをより高度な次元に昇華させるため、演習系科目を配置する。

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①経済学部で学ぶ諸科目の前提となる、「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」など、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的素養を有している。

■思考・判断

②資料や文章を読解し自分の考えを適切に表現するための論理的な思考力を身につけている。

③資料を数理的に捉えて理解し分析するための基礎的な思考力を身につけている。

■ 関心・意欲・態度

- ④ 経済や社会のニュースに関心があり、これらに対する探究心を持っている。
- ⑤ 人と議論を交わし、他人の意見を尊重し、価値観や文化の多様性を受け入れることができる。
- ⑥ 課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。

■ 技能・表現

- ⑦ 聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
アジア経済史	牧野邦昭	11
アメリカ経済・文化論	朝田康禎	12
イ		
EU経済論	久保廣正	13
インターンシップⅠ	石井三恵	373
インターンシップⅠ	石井三恵	569
インターンシップⅡ	石井三恵	375
インターンシップⅡ	石井三恵	571
エ		
英語Ⅰa	藪井恵美子	225
英語Ⅰa	近藤未奈	226
英語Ⅰa	岩永道子	227
英語Ⅰa	近藤未奈	228
英語Ⅰa	山本尚子	229
英語Ⅰa	齋藤安以子	230
英語Ⅰa	中野華子	231
英語Ⅰa	松木園久子	232
英語Ⅰa	松木園久子	377
英語Ⅰb	藪井恵美子	233
英語Ⅰb	近藤未奈	234
英語Ⅰb	岩永道子	235
英語Ⅰb	近藤未奈	236
英語Ⅰb	山本尚子	237
英語Ⅰb	井原駿	238
英語Ⅰb	中野華子	239
英語Ⅰb	松木園久子	240
英語Ⅰb	近藤未奈	378
英語Ⅱa	高橋章夫	241
英語Ⅱa	俣野裕美	243
英語Ⅱa	ジョセフ シウンシ	245
英語Ⅱa	谷脇康子	247
英語Ⅱa	松井信義	248
英語Ⅱa	ダンカン ホワイト	249
英語Ⅱa	中本明子	251
英語Ⅱa	高橋章夫	380
英語Ⅱa	俣野裕美	382
英語Ⅱa	ジョセフ シウンシ	384
英語Ⅱa	谷脇康子	386
英語Ⅱa	松井信義	387
英語Ⅱa	ダンカン ホワイト	388
英語Ⅱa	中本明子	390
英語Ⅱb	高橋章夫	253
英語Ⅱb	俣野裕美	255
英語Ⅱb	永富真梨	258
英語Ⅱb	谷脇康子	259
英語Ⅱb	松井信義	260
英語Ⅱb	ダンカン ホワイト	261
英語Ⅱb	中本明子	263
英語Ⅱc	高橋章夫	392

科目名	担当者	ページ
英語Ⅱc	俣野裕美	394
英語Ⅱc	永富真梨	397
英語Ⅱc	谷脇康子	398
英語Ⅱc	松井信義	399
英語Ⅱc	ダンカン ホワイト	400
英語Ⅱc	中本明子	402
英語基礎会話a	アイビス ウイリアム	265
英語基礎会話a	ブライアン スレーター	267
英語基礎会話a	ダニエル マリンズ	268
英語基礎会話a	ジョン カール	271
英語基礎会話a	スコット ライリー	272
英語基礎会話a	ジョセフ シウンシ	274
英語基礎会話a	ジョセフ シウンシ	276
英語基礎会話a	アイビス ウイリアム	278
英語基礎会話a	ジョン カール	280
英語基礎会話a	ブライアン スレーター	281
英語基礎会話a	ダニエル マリンズ	282
英語基礎会話a	スコット ライリー	285
英語基礎会話a	ディチ コニック	287
英語基礎会話a	俣野裕美	289
英語基礎会話b	アイビス ウイリアム	291
英語基礎会話b	ブライアン スレーター	292
英語基礎会話b	ダニエル マリンズ	293
英語基礎会話b	ジョン カール	296
英語基礎会話b	スコット ライリー	297
英語基礎会話b	ジョセフ シウンシ	299
英語基礎会話b	ジョセフ シウンシ	301
英語基礎会話b	アイビス ウイリアム	303
英語基礎会話b	ジョン カール	304
英語基礎会話b	ブライアン スレーター	305
英語基礎会話b	ダニエル マリンズ	306
英語基礎会話b	スコット ライリー	309
英語基礎会話b	ディチ コニック	311
英語基礎会話b	俣野裕美	313
エンプロイメントデザインⅠ	石井三恵	573
エンプロイメントデザインⅡ	石井三恵	575
カ		
海外語学研修	鳥居祐介	315
海外語学研修	鳥居祐介	404
海外ビジネスインターンシップ	西之坊 穂	406
会計学入門	朴 景淑	14
会社法	高田尚彦	15
開発経済学	内田勝巳	16
科学技術教養AⅠ	宮本征一	407
科学技術教養CⅠ	伊藤 讓	408
科学技術教養EⅠ	片田喜章	409
科学技術教養MⅠ	堀江昌朗	411
科学技術教養RⅠ	岩田三千子	413
科学技術教養TⅠ	東 武大	415
科学技術教養VⅠ	居場嘉教	417
株式投資と企業家育成	林 正浩	419
観光学入門	持永政人	17

科目名	担当者	ページ
観光学入門	野村佳子	18
観光経済実践演習	持永政人	19
観光経済実践演習	朝田康禎	20
観光経済論	西川浩平	21
観光経済論	西川浩平	22
観光交通論	牧野邦昭	23
観光産業政策論	朝田康禎	24
観光産業政策論	朝田康禎	25
観光産業における経営分析論	西川浩平	26
観光産業における経営分析	西川浩平	27
観光資源論	牧野邦昭	28
観光資源論	牧野邦昭	29
観光人材論	持永政人	30
観光人材論	持永政人	31
観光ビジネス英語	野村佳子	32
観光マーケティング論	持永政人	33
観光マーケティング論	持永政人	34
関西経済論	野長瀬裕二	35
関西経済論	野長瀬裕二	36
管理会計	朴景淑	37

キ

基礎演習	久保廣正	39
基礎演習	後藤和子	40
基礎演習	植杉大	41
基礎演習	内田勝巳	42
基礎演習	岸田未来	43
基礎演習	小塚匡文	44
基礎演習	野長瀬裕二	45
基礎演習	野村佳子	46
基礎演習	朴景淑	47
基礎演習	持永政人	48
基礎演習	朝田康禎	49
基礎演習	郭進	50
基礎演習	田井義人	51
基礎演習	名方佳寿子	52
基礎演習	西川浩平	53
基礎演習	野口義直	54
基礎演習	原田裕治	55
基礎演習	平尾智隆	56
基礎演習	田中鉄二	57
北河内を知る	荻田喜代一	421
キャリアデザイン	水野武	577
キャリアデザインI (BASIC)	石井三恵	423
キャリアデザインI (BASIC)	山岡亮太	425
キャリアデザインI (BASIC)	中川浩一	427
キャリアデザインI (BASIC)	上野山裕士	429
キャリアデザインI (BASIC)	中川浩一	431
キャリアデザインII (ADVANCE)	上野山裕士	433
キャリアデザインII (ADVANCE)	橋本朗子	434
キャリア特別講義	郭進	578
キャリアプラン	水野武	579
教育課程論	大野順子	591

科目名	担当者	ページ
教育経営論	朝日素明	593
教育原理	谷口雄一	595
教育実習I	朝日素明	597
教育実習II	朝日素明	598
教育実習III	朝日素明	599
教育社会学	大野順子	600
教育心理学	吉田佐治子	602
教育相談	吉田佐治子	603
教育方法論	林茂樹	604
教職実践演習(中・高)	吉田佐治子	606
教師論	朝日素明	608
行政法	高橋剛	58
金融論	植杉大	60

ケ

経営学	岸田未来	61
経済学入門(エコノミックリテラシー)	後藤和子	62
経済学入門(エコノミックリテラシー)	植杉大	63
経済キャリア入門	野村佳子	64
経済キャリア入門	田井義人	65
経済キャリア入門	野村佳子	580
経済キャリア入門	田井義人	581
経済思想史	牧野邦昭	67
経済思想史	牧野邦昭	68
経済情報論	郭進	69
経済情報論	岸田未来	70
経済情報論	小塚匡文	71
経済情報論	岸田未来	317
経済情報論	小塚匡文	318
経済情報論	郭進	319
経済地理	野口義直	72
計量経済学	小塚匡文	73
ゲーム理論	植杉大	75
現代韓国事情	田中悟	435
現代ビジネス論	牧美喜男	437
現代ファイナンス論	小塚匡文	76

コ

公益会計論	田井義人	77
公共経済学	平尾智隆	79
公共政策論	名方佳寿子	81
公共政策論	名方佳寿子	82
航空産業論	野村佳子	83
公衆衛生学	小堀栄子	439
交通経済論	牧野邦昭	84
国際協力論	内田勝巳	85
国際金融論	久保廣正	86
国際経済学入門	野口義直	87
国際経済学入門	田中鉄二	89
国際経済実践演習	久保廣正	90
国際経済実践演習	野口義直	91
国際経済の新動向	田中鉄二	92
国際経済論	野口義直	93

科目名	担当者	ページ
国際経済論	田 中 鉄 二	95
国際投資論	田 中 鉄 二	96
国際マーケティング論	岸 田 未 来	97

サ

サービス産業論	西 川 浩 平	98
財政学	名 方 佳寿子	99
産業組織論	西 川 浩 平	100

シ

自然地理学	手代木 功 基	441
社会科・公民科教育法Ⅰ	大 野 順 子	610
社会科・公民科教育法Ⅱ	大 野 順 子	612
社会科・地歴科教育法Ⅰ	脇 田 孝 豪	614
社会科・地歴科教育法Ⅱ	脇 田 孝 豪	616
社会学	武 田 祐 佳	443
社会経済学Ⅰ	平 尾 智 隆	101
社会経済学Ⅰ	原 田 裕 治	103
社会経済学Ⅱ	原 田 裕 治	105
社会保障論	西 川 浩 平	107
就職実践基礎	山 岡 亮 太	444
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	445
宿泊産業論	持 永 政 人	108
商法	高 田 尚 彦	109
人文地理学	渡 邊 英 明	446
心理学Ⅰ	山 本 雅 代	447
心理学Ⅱ	山 本 雅 代	449

ス

数学基礎Ⅰ	西 脇 純 一	320
数学基礎Ⅰ	早 味 俊 夫	321
数学基礎Ⅰ	早 味 俊 夫	322
数学基礎Ⅰ	陽 燧	323
数学基礎Ⅰ	西 脇 純 一	451
数学基礎Ⅰ	早 味 俊 夫	452
数学基礎Ⅰ	早 味 俊 夫	453
数学基礎Ⅰ	陽 燧	454
数学基礎Ⅱ	西 脇 純 一	324
数学基礎Ⅱ	早 味 俊 夫	325
数学基礎Ⅱ	早 味 俊 夫	326
数学基礎Ⅱ	陽 燧	327
数学基礎Ⅱ	西 脇 純 一	455
数学基礎Ⅱ	早 味 俊 夫	456
数学基礎Ⅱ	早 味 俊 夫	457
数学基礎Ⅱ	陽 燧	458
数的能力開発	永 見 誠 二	583
数的能力開発	山 岡 亮 太	584
スポーツ科学実習Ⅰ	河 瀬 泰 治	328
スポーツ科学実習Ⅰ	河 瀬 泰 治	459
スポーツ科学実習Ⅱ	河 瀬 泰 治	329
スポーツ科学実習Ⅱ	河 瀬 泰 治	461

科目名	担当者	ページ
セ		
政治学	森 康 一	463
政治学概論Ⅰ	森 康 一	464
政治学概論Ⅱ	森 康 一	465
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅 野 英 一	466
生徒指導論	朝 日 素 明	618
生物学	尾 崎 清 和	467
西洋経済史	岸 田 未 来	110
世界遺産論	北 條 ゆかり	468
世界観光事情	朝 田 康 禎	111
世界の政治	森 康 一	470
世界の歴史	村 上 司 樹	471
摂南経済ゲストレクチャー	後 藤 和 子	112
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居 場 嘉 教	473
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋 本 正 治	474
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 田 秀 士	475
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 田 裕 子	476
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅 野 英 一	477
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久 保 貞 也	478
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	牧 野 幸 志	479
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大 塚 正 人	480
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 井 信 輝	481
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田 井 義 人	482
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	吉 田 佐 治 子	484
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	上野山 裕 士	485
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤 原 京 佳	486
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	居 場 嘉 教	487
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋 本 正 治	488
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石 田 秀 士	489
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石 田 裕 子	490
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅 野 英 一	491
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久 保 貞 也	492
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	牧 野 幸 志	493
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	大 塚 正 人	494
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石 井 信 輝	495
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	田 井 義 人	496
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	吉 田 佐 治 子	498
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	上野山 裕 士	499
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤 原 京 佳	500
専門演習Ⅰ	内 田 勝 巳	113
専門演習Ⅰ	久 保 廣 正	114
専門演習Ⅰ	後 藤 和 子	115
専門演習Ⅰ	朴 景 淑	116
専門演習Ⅰ	持 永 政 人	117
専門演習Ⅰ	植 杉 大	118
専門演習Ⅰ	岸 田 未 来	119
専門演習Ⅰ	田 井 義 人	120
専門演習Ⅰ	野 口 義 直	121
専門演習Ⅰ	野 村 佳 子	122
専門演習Ⅰ	牧 野 邦 昭	123
専門演習Ⅰ	郭 進	124
専門演習Ⅰ	西 川 浩 平	125

科目名	担当者	ページ
専門演習 I	名 方 佳寿子	126
専門演習 I	野長瀬 裕 二	127
専門演習 I	朝 田 康 禎	128
専門演習 I	原 田 裕 治	129
専門演習 I	田 中 鉄 二	130
専門演習 I	平 尾 智 隆	131
専門演習 I	小 塚 匡 文	132
専門演習 II	内 田 勝 巳	133
専門演習 II	後 藤 和 子	134
専門演習 II	植 杉 大	135
専門演習 II	岸 田 未 来	136
専門演習 II	田 井 義 人	137
専門演習 II	野 口 義 直	138
専門演習 II	西 川 浩 平	139
専門演習 II	持 永 政 人	140
専門演習 II	野 村 佳 子	141
専門演習 II	久 保 廣 正	142
専門演習 II	朴 景 淑	143
専門演習 II	牧 野 邦 昭	144
専門演習 II	郭 進	145
専門演習 II	名 方 佳寿子	146
専門演習 II	野長瀬 裕 二	147
専門演習 II	朝 田 康 禎	148
専門演習 II	原 田 裕 治	149
専門演習 II	田 中 鉄 二	150
専門演習 II	平 尾 智 隆	151
専門演習 II	小 塚 匡 文	152
専門日本語 F I	塩 谷 尚 子	330
専門日本語 F II	塩 谷 尚 子	331
専門日本語 R	塩 谷 尚 子	332

ソ

ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	501
卒業研究	名 方 佳寿子	153
卒業研究	岸 田 未 来	154
卒業研究	野 口 義 直	155
卒業研究	郭 進	156
卒業研究	牧 野 邦 昭	157
卒業研究	朴 景 淑	158
卒業研究	田 井 義 人	159
卒業研究	植 杉 大	160
卒業研究	持 永 政 人	161
卒業研究	野 村 佳 子	162
卒業研究	西 川 浩 平	163
卒業研究	内 田 勝 巳	164
卒業研究	野長瀬 裕 二	165
卒業研究	朝 田 康 禎	166
卒業研究	後 藤 和 子	167
卒業研究	久 保 廣 正	168
卒業研究	原 田 裕 治	169
卒業研究	田 中 鉄 二	170

科目名	担当者	ページ
大学教養応用	大 塚 正 人	503
大学教養実践	伊 藤 讓	505
大学教養入門	荻 田 喜代一	507
ダイバーシティとコミュニケーション	石 井 三 恵	509

チ

地域金融論	植 杉 大	171
地域経済実践演習	後 藤 和 子	172
地域経済実践演習	植 杉 大	173
地域経済実践演習	田 井 義 人	174
地域経済実践演習	野長瀬 裕 二	176
地域経済実践演習	岸 田 未 来	177
地域経済入門	郭 進	148
地域経済入門	後 藤 和 子	179
地域貢献実践演習	鶴 坂 貴 恵	511
地域産業論	後 藤 和 子	180
地域統合論	原 田 裕 治	181
地域統合論	原 田 裕 治	182
地域と私	鶴 坂 貴 恵	512
地域の持続的発展	田 井 義 人	183
地域保健医療	田 井 義 人	184
地域連携教育活動 I	吉 田 佐治子	514
地域連携教育活動 II	吉 田 佐治子	515
チームビルディング	水 野 武	516
地球環境経済	野 口 義 直	186
地誌学	渡 邊 英 明	518
地方財政論	後 藤 和 子	188
地方自治論	田 井 義 人	189
地方自治論	田 井 義 人	190
中小企業論	野長瀬 裕 二	191
地理学 I	手代木 功 基	519
地理学 II	渡 邊 英 明	521

テ

哲学 I	濱 良 祐	522
哲学 II	池 田 清	524

ト

統計学	小 塚 匡 文	192
統計学	田 中 鉄 二	193
道徳教育の研究	谷 口 雄 一	620
特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	林 茂 樹	622
特別活動の理論と方法	林 茂 樹	624
特別支援教育論	林 茂 樹	626

ニ

日本経済史	野長瀬 裕 二	194
日本経済史	野長瀬 裕 二	196
日本経済論	平 尾 智 隆	198
日本経済論	平 尾 智 隆	200
日本語会話 F I	古 川 由理子	333

科目名	担当者	ページ
日本語会話 F II	古川 由理子	334
日本語会話 R	古川 由理子	335
日本国憲法	大仲 淳 介	525
日本語総合 F I	藤原 京 佳	336
日本語総合 F II	藤原 京 佳	337
日本語総合 R	藤原 京 佳	338
日本語読解 F I	佐々木 成 美	339
日本語読解 F II	佐々木 成 美	340
日本語読解 R	佐々木 成 美	341
日本語表現 I	久田 行 雄	342
日本語表現 I	松 繁 弘 之	343
日本語表現 I	久田 行 雄	344
日本語表現 I	松 繁 弘 之	345
日本語表現 I	小林 理 正	346
日本語表現 I	久田 行 雄	527
日本語表現 I	松 繁 弘 之	528
日本語表現 I	久田 行 雄	529
日本語表現 I	松 繁 弘 之	530
日本語表現 I	小林 理 正	531
日本語表現 II	久田 行 雄	347
日本語表現 II	松 繁 弘 之	348
日本語表現 II	久田 行 雄	349
日本語表現 II	松 繁 弘 之	350
日本語表現 II	小林 理 正	351
日本語表現 II	久田 行 雄	532
日本語表現 II	松 繁 弘 之	533
日本語表現 II	久田 行 雄	534
日本語表現 II	松 繁 弘 之	535
日本語表現 II	小林 理 正	536
日本語表現作文 F I	佐々木 成 美	352
日本語表現作文 F II	佐々木 成 美	353
日本語表現作文 R	佐々木 成 美	354
日本語文法 F I	佐々木 成 美	355
日本語文法 F II	佐々木 成 美	356
日本語文法 R	佐々木 成 美	357
日本産業史	野長瀬 裕 二	202
日本事情 F I	門 脇 薫	358
日本事情 F II	門 脇 薫	360
日本事情 R I	門 脇 薫	362
日本事情 R II	門 脇 薫	364
日本の歴史	赤 澤 春 彦	537
ノ		
農業・資源経済学	野 口 義 直	203
ハ		
犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	538
ヒ		
ビジネスイングリッシュ I	グラント パーミンハム	366
ビジネスイングリッシュ I	ニール カ ー	367
ビジネスイングリッシュ I	グラント パーミンハム	540
ビジネスイングリッシュ I	ニール カ ー	541

科目名	担当者	ページ
ビジネスイングリッシュ II	グラント パーミンハム	368
ビジネスイングリッシュ II	ニール カ ー	369
ビジネスイングリッシュ II	グラント パーミンハム	542
ビジネスイングリッシュ II	ニール カ ー	543
ビジネスマナー	奥 田 和 子	544
ビジネスマナー I	奥 田 和 子	585
ビジネスマナー II	奥 田 和 子	587
フ		
ファイナンシャル・プランニング	植 杉 大	205
プロポーザル・デザイン	北 村 浩	546
文化政策論	後 藤 和 子	206
ホ		
貿易論	田 中 鉄 二	207
法学入門	大 仲 淳 介	548
簿記原理 I	朴 景 淑	208
簿記原理 II	朴 景 淑	210
マ		
マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	550
マクロ経済学 I	小 塚 匡 文	211
マクロ経済学 I	郭 進	213
マクロ経済学 II	郭 進	214
ミ		
ミクロ経済学 I	名 方 佳寿子	215
ミクロ経済学 II	名 方 佳寿子	216
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	552
民法	川 谷 道 郎	217
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	坂 本 淳 二	554
ものづくりインターンシップ基礎	檜 橋 祥 一	556
ものづくりインターンシップ実践	坂 本 淳 二	557
ものづくり海外インターンシップ	檜 橋 祥 一	559
ヤ		
役立つ金融知力	陸 川 富 盛	560
ラ		
ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	563
レ		
歴史学 I	赤 澤 春 彦	564
歴史学 II	村 上 司 樹	565
レジャー産業論	持 永 政 人	218
ロ		
労働経済学	平 尾 智 隆	219
労働法	川 谷 道 郎	221

專 門 科 目

科目名	アジア経済史	科目名(英文)	Asian Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1020a0		

授業概要・目的	日本を含むアジアの経済史をグローバルな観点から学ぶ。
到達目標	日本と密接な関係を持つアジアの多様な歴史を学び、異文化を理解すると共にアジアの中で日本がどのように行動すべきかを考えられるようにする。
授業方法と留意点	スライドと配布するプリントを中心に講義を行う一方、関係する映像を流すなどして理解の手助けにする。また地図を用いて地理を学ぶ。中学や高校で習った知識を復習しながら授業を進める。
科目学習の効果(資格)	観光産業、貿易関係の仕事に必要な知識を身につけられるほか、公務員試験対策にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	アジアの経済史を学ぶ意味とは	事前: 中学や高校で習った地理と日本史・世界史の知識を復習しておく	事後: 授業の復習
2	アジア域内交易と大航海時代	16世紀のアジアとヨーロッパ、環大西洋の経済はどのような状態だったのか	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
3	近世東アジアの国際環境	明・清と徳川時代の日本の経済	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
4	インドの植民地化とイギリス	インドとイギリスの経済との関係	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
5	「産業革命」から「バクス・ブリタニカ」へ1	産業革命はなぜイギリスで最初に起きたのか	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
6	「産業革命」から「バクス・ブリタニカ」へ2	イギリスの金融の発達、ドイツ・アメリカの工業化、帝国主義	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
7	アジアの近代化1	西洋との直面に対する中国の対応	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
8	アジアの近代化2	西洋との直面に対する日本とタイの対応	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
9	アジア経済のモノカルチャー化と再編1	中国・日本・インドの世界経済への統合化	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
10	アジア経済のモノカルチャー化と再編2	東南アジアの世界経済への統合化	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
11	両大戦間期の世界経済とアジア1	1920-30年代の世界経済	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
12	両大戦間期の世界経済とアジア2	1920-30年代の日本とアジアの経済	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
13	戦後世界経済の再建と動揺1	IMF・GATT体制と南北問題	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
14	戦後世界経済の再建と動揺2	変動為替相場制下の世界とアジアの経済	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習
15	まとめ	全体のまとめ、質問への対応	事前: 教科書該当箇所の予習	事後: 授業の復習

関連科目	国際経済論、国際投資論、国際マーケティング論、アメリカ経済・文化論、日本経済史、経済思想史
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル経済史入門	杉山伸也	岩波書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(80%)および中間レポート(20%)で評価する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビ等を通じて、日本国内だけでなく外国にも関心を持つようにしてください。また表面的な現象だけに目を奪われず、なぜそうなっているのかを考えるようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	授業時間外に予習復習および中間レポート作成のために20-30時間の学習が望ましい。
----	---

科目名	アメリカ経済・文化論	科目名(英文)	Economy and Culture of the U.S.
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3066a0		

授業概要・目的	アメリカは世界一の経済大国であるとともに、世界文化の中心地でもあります。そんなアメリカを目指して世界中の観光客がアメリカを訪れており、今やフランスやスペインとともに観光大国と呼ばれるようになったアメリカの状況を、観光客数や観光収支に焦点をあてて説明します。この授業では、アメリカ文化が世界的に魅力を持ち続けている背景を理解し、アメリカ経済をさまざまなデータで客観的に眺め、アメリカ文化と経済について理解を深めます。																																																																		
到達目標	アメリカ文化の概要とそれを支えるアメリカ経済を客観的なデータで把握し、経済と文化の関係を理解できるようになります。																																																																		
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	アメリカ文化と経済の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業概要の紹介</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>アメリカの国土</td><td>国土と州ごとの特徴</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>フロンティア</td><td>アメリカ開拓の歴史と精神</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>ビックビジネス</td><td>ビックビジネスの歴史</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>イノベーション</td><td>イノベーションの土壌と役割</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>I T企業</td><td>I T企業の歴史と発展</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>政治思想(1)</td><td>自由主義と民主主義の考え方</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>政治思想(2)</td><td>共和党と民主党の歴史と考え方</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>政治思想(3)</td><td>現代アメリカの政治と選挙</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>社会経済の特徴(1)</td><td>州と独立精神</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>社会経済の特徴(2)</td><td>リーダーシップとグローバリズム</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>社会経済の特徴(3)</td><td>金融自由化と金融企業</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>アメリカ映画</td><td>アメリカ映画の歴史と発展</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>新しい世代</td><td>ミレニアム世代の特徴</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>授業のまとめ</td><td>ここまでの授業内容の要点</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業概要の紹介	配布レジュメの復習	2	アメリカの国土	国土と州ごとの特徴	配布レジュメの復習	3	フロンティア	アメリカ開拓の歴史と精神	配布レジュメの復習	4	ビックビジネス	ビックビジネスの歴史	配布レジュメの復習	5	イノベーション	イノベーションの土壌と役割	配布レジュメの復習	6	I T企業	I T企業の歴史と発展	配布レジュメの復習	7	政治思想(1)	自由主義と民主主義の考え方	配布レジュメの復習	8	政治思想(2)	共和党と民主党の歴史と考え方	配布レジュメの復習	9	政治思想(3)	現代アメリカの政治と選挙	配布レジュメの復習	10	社会経済の特徴(1)	州と独立精神	配布レジュメの復習	11	社会経済の特徴(2)	リーダーシップとグローバリズム	配布レジュメの復習	12	社会経済の特徴(3)	金融自由化と金融企業	配布レジュメの復習	13	アメリカ映画	アメリカ映画の歴史と発展	配布レジュメの復習	14	新しい世代	ミレニアム世代の特徴	配布レジュメの復習	15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	配布レジュメの復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業概要の紹介	配布レジュメの復習																																																																
2	アメリカの国土	国土と州ごとの特徴	配布レジュメの復習																																																																
3	フロンティア	アメリカ開拓の歴史と精神	配布レジュメの復習																																																																
4	ビックビジネス	ビックビジネスの歴史	配布レジュメの復習																																																																
5	イノベーション	イノベーションの土壌と役割	配布レジュメの復習																																																																
6	I T企業	I T企業の歴史と発展	配布レジュメの復習																																																																
7	政治思想(1)	自由主義と民主主義の考え方	配布レジュメの復習																																																																
8	政治思想(2)	共和党と民主党の歴史と考え方	配布レジュメの復習																																																																
9	政治思想(3)	現代アメリカの政治と選挙	配布レジュメの復習																																																																
10	社会経済の特徴(1)	州と独立精神	配布レジュメの復習																																																																
11	社会経済の特徴(2)	リーダーシップとグローバリズム	配布レジュメの復習																																																																
12	社会経済の特徴(3)	金融自由化と金融企業	配布レジュメの復習																																																																
13	アメリカ映画	アメリカ映画の歴史と発展	配布レジュメの復習																																																																
14	新しい世代	ミレニアム世代の特徴	配布レジュメの復習																																																																
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	配布レジュメの復習																																																																
関連科目	観光学入門、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論、観光経済論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	1回のレポート(40%)と期末試験(60%)による総合評価																																																																		
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	EU経済論	科目名(英文)	EU Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3057a0		

授業概要・目的	1950年代に始まったEU(欧州連合)統合は、1999年に共通通貨ユーロを導入した。また、21世紀に入ると中東欧を中心とする諸国が加盟を果たし、EUは28ヶ国からなる体制を形成した。こうした「深化」と「拡大」を続けた結果、EUは国際経済・国際金融、さらには国際政治面で一段とその重要性を高めてきた。このように順調に進展してきたかみえたEU経済であるが、2008年夏以降、ユーロ危機、経済金融危機に見舞われている。また、至近時点では、中東諸国からの難民が流入するようになっている。本講義では、こうしたEUの動きを解説し、分析することを目的とする。また、講義に当たっては、総合商社の駐在員としてロンドンに勤務したことから、日本企業の対EU戦略についても紹介する。
到達目標	本講義の目標は、上記のようなEUの動きを分析することにより、それらの内容を理解し、EUの諸政策が国際経済、あるいは日本経済に及ぼす影響を理解することにある。
授業方法と留意点	ダイナミックに変化しつつあるEU経済について分析するため、日頃から新聞・雑誌などの国際経済欄を丁寧に読んでおくことが望ましい

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	EU経済概観	EU経済の特徴について概説する。	授業の復習
2	EU統合の歴史	欧州石炭鉄鋼共同体の形成から現代のEUまで、その歴史を振り返る。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
3	EU諸機関の役割と意思決定プロセス	欧州委員会、欧州議会、欧州理事会、EU理事会及び欧州司法裁判所の役割について紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
4	通貨統合Ⅰ	欧州通貨制度(EMS)など、為替レート安定化への試みを紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
5	通貨統合Ⅱ	ユーロ導入と欧州中央銀行の役割を論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
6	通貨統合Ⅲ	ギリシャ危機、ユーロ危機について論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
7	産業競争力政策	EUの産業競争力政策について紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
8	EUの高等教育政策	EUによる大学教育政策について紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
9	共通通商政策	EUの貿易・通商政策及びその効果・影響について論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
10	社会労働政策	EUがどのような社会を目指しているのかについて紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
11	地球温暖化対策	EUが環境に影響を及ぼす温室効果ガスなどをいかに抑制しようとしているかを論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
12	EU拡大とEUの改革	EUがどこまで拡大するのか、そのためにはどのような改革が必要かを論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
13	EU経済の将来	EUが目指そうとしている方向性を論じる。また、併せ、イギリスのEU脱退論についても紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
14	EUと日本	日・EU関係を振り返り、至近時点での動きを紹介する。日・EU経済連携協定についても触れる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
15	まとめ	まとめをし、質問があれば答える。	事前：教材全体の復習 事後：全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	地域統合論、国際金融論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代ヨーロッパ経済第5版	田中・久保他	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間試験(20%)と定期試験(80%)で評価する。
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	EUのみならず、国際経済の動きが実感できる講義としたい。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	会計学入門	科目名(英文)	Introduction to Accounting
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW1005a0		

授業概要・目的	企業には、株主、投資家、銀行などの債権者、取引先、従業員等、多様な利害関係者がある。この利害関係者に「経営活動結果」を報告するためのプロセスが会計である。この一連のプロセスは法的規制を受けながら、社会的制度として行われている。このような会計制度の基盤となる会計理論が会計学である。会計学入門では、会計とは何か、会計と企業との係わり、会計の種類などを初心者向けに概説する。会計学の基礎理論を修得することによって、【簿記原理Ⅰ・Ⅱ】「管理会計」など経営関連科目の基礎を構築することを目標とする。
到達目標	会計学の意義および会計(簿記)の基本的な用語を理解すること。また、簿記全体のプロセスがわかり、基本的な会計帳簿の作成が可能となることを本授業の到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はパワー・ポイントと板書を並行する。必ず筆記の用意をすること。
科目学習の効果(資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			学期中の授業の流れを把握できること
1	ガイダンス、講義概要	授業の進め方、15回の授業概要の説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	会計学とは	会計学のフレームワークを説明、会計の分類および会計学における簿記の位置づけ等を述べる	レポート・演習・Quizテスト
3	簿記とは、複式簿記の意義	簿記の意義、複式簿記、簿記を学ぶメリット	レポート・演習・Quizテスト
4	決算書(財務諸表)	重要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の形式と読み方などについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
5	簿記の5要素	資産・負債・資本(純資産)と費用・収益	レポート・演習・Quizテスト
6	簿記の全体的流れ	取引の記録から決算までの全体的な流れをみる(仕訳・転記・決算書(財務諸表)の作成までのプロセス)	レポート・演習・Quizテスト
7	資産・負債・資本Ⅰ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
8	資産・負債・資本Ⅱ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
9	資産・負債・資本Ⅲ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
10	収益・費用Ⅰ	「損益計算書(経営成績を表す決算書)」の構成要素である「収益」と「費用」の勘定科目について学習する	レポート・演習・Quizテスト
11	収益・費用Ⅱ	「損益計算書(経営成績を表す決算書)」の構成要素である「収益」と「費用」の勘定科目について学習する	レポート・演習・Quizテスト
12	仕訳のルールⅠ	仕訳とは、仕訳のルール、仕訳の手続き(資産・負債・資本項目)	レポート・演習・Quizテスト
13	仕訳のルールⅡ	仕訳の手続き(収益・費用項目)	レポート・演習・Quizテスト
14	転記のルール	仕訳の結果を、各勘定科目元帳へ転記する手続きを学習する	レポート・演習・Quizテスト
15	まとめ	14回の授業のまとめと質疑応答	レポート

関連科目	「財務管理Ⅱ」「原価管理Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点40%(授業中行うQuiz test、レポート、授業への参加度などを総合的に評価)、定期試験60%
----------	--

学生へのメッセージ	本授業は内容が続いているので、授業内容の理解のためには欠席せず授業に参加することが大事。 ※「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計」を履修予定の場合は、本科目を履修しておくことを勧める。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 朴教授室(経済学部)
------------	------------------

科目名	会社法	科目名(英文)	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2075a0		

授業概要・目的	会社法では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解できるようになることが期待される。その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 37 を読んでおくこと。(約 60 分)
3	株式(1)	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。(約 60 分)
4	株式(2)	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。(約 60 分)
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 65 を読んでおくこと。(約 4 5 分)
6	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。(約 60 分)
7	株式会社の機関(2)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 115 を読んでおくこと。(約 60 分)
8	株式会社の機関(3)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書 p. 115～p. 122 を読んでおくこと。(約 4 5 分)
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p. 122～p. 137 を読んでおくこと。(約 60 分)
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 137～p. 156 を読んでおくこと。(約 60 分)
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 157～p. 175 を読んでおくこと。(約 60 分)
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 176～p. 186 を読んでおくこと。(約 60 分)
13	組織再編(1)	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 187～p. 205 を読んでおくこと。(約 60 分)
14	組織再編(2)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p. 205～p. 213 を読んでおくこと。(約 60 分)
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p. 214～p. 223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。(約 5 時間)

関連科目	民法、商法。
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(70%)。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する(30%)。
----------	---

学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階 法学部事務室
----------	---------------

備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。
----	--

科目名	開発経済学	科目名(英文)	Development Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2054a0		

授業概要・目的	本授業は、世界の大多数を占める開発途上国の実態を理解し、経済開発理論を学ぶことにより、途上国問題を解決するための処方箋を考えることを目的とする。
到達目標	途上国の開発に関する経済理論・実態・政策を有機的に捉え考察する力を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って、開発の課題、開発理論、課題への処方箋を紹介し、開発問題への取り組みについて考察を行う。
科目学習の効果(資格)	国際開発関係の仕事に従事する上での経済学的基础知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	貧困と不平等	途上国の貧困をどのように捉えるかについて解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
2	二重構造と労働移動	途上国の労働市場の二重経済論と労働移動について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
3	経済成長	経済成長を説明するモデルについて解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
4	人的資本	人口の規模や質(1人当たりの能力)と経済発展の関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
5	貿易	国際貿易と途上国の経済発展の関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
6	海外直接投資	外国資本の流入と途上国の経済発展との関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
7	技術	途上国への技術移転と経済成長の関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
8	産業連関	経済成長に伴う産業構造の変化と生産波及効果について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
9	制度	植民地支配による途上国の制度の形成と経済発展経路について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
10	貧困削減戦略	戦後の開発経済理論と途上国の貧困削減戦略について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
11	政府開発援助	政府開発援助の必要性・援助協調について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
12	農村金融	途上国の農業・農村の組織・制度と金融取引の特徴について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
13	マクロ経済安定化	途上国のマクロ不均衡と安定化政策について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
14	経済統合	経済統合と産業立地について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
15	環境・障害	環境制約の下での開発、障害と開発のあり方について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習

関連科目	国際協力論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストブック開発経済学(第3版)	黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ストーリーで学ぶ開発経済学	黒崎卓・栗田匡相	有斐閣
2	開発経済学入門	戸堂康之	新世社	
3				

評価方法(基準)	定期試験70%、授業での課題提出及び授業態度30%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	今、私たちが生きている世界には様々な問題が山積しています。開発経済学は、これらの問題を理解し解決策を見出すための糸口を与えてくれます。 なお、授業担当の内田勝巳は、政府開発援助(ODA)の実施機関(現 JICA)にて30年近くわたる有償資金協力の実務経験を有していることから、現場での経験を踏まえた教育を行う。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室(経済学部)
備考	事前学習・事後学習各1時間程度

科目名	観光学入門	科目名(英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	<p>少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待される観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますますその必要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。</p> <p>また、授業担当者は観光事業会社での観光事業全般の運営・マネジメント経験から得た知見をふまえ観光に関する実践的な教育を行う。</p>			
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた記事や文献を理解できるようになることを目標とします。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	観光経済を学ぶ上での基礎知識の習得			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明	プレテスト 事後：配布資料の復習
	2	観光と観光学	観光とは何か？観光の定義、観光の果たす役割・意義を考える。	事後：配布資料の復習
	3	観光の歴史Ⅰ	観光の世界史・日本史を講義する。(古代～近世)	事後：配布資料の復習
	4	観光の歴史Ⅱ	観光の世界史・日本史を講義する。(近代～現代)	事後：配布資料の復習
	5	観光と行動	観光行動の形と仕組みについて考える。	事後：配布資料の復習
	6	観光と経済Ⅰ	観光の持つ経済的なインパクトを理解する。	事後：配布資料の復習
	7	観光と経済Ⅱ	経済の一般理論と観光市場の関係について理解する。	事後：配布資料の復習
	8	観光と観光情報	観光における情報の重要性を理解する。	事後：配布資料の復習
	9	観光と交通	交通が観光に果たす役割を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
	10	観光と観光資源	観光資源の特徴と要件を理解する。	事後：配布資料の復習
	11	観光と観光施設	観光施設の区分とそれぞれの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
	12	観光産業Ⅰ	旅行業の役割とこれからのあり方を講義する。	事後：配布資料の復習
	13	観光産業Ⅱ	宿泊産業・航空産業の特徴と役割について講義する。	事後：配布資料の復習
	14	新しい観光と観光政策	新しい観光のあり方と課題は何か、また観光立国を推進する国の観光政策について講義する。	事後：配布資料の復習 課題提出
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	小テスト 事後：配布資料の復習
関連科目	経済キャリア入門、観光人材論、観光マーケティング論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%(2回)、その他(課題提出等)を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事にとりあげられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光学入門	科目名(英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1003a0		

授業概要・目的	少子高齢化の時代において、交流人口増加による地域の活性化が期待できるのが観光です。国を挙げて訪日外国人観光客誘致に取り組むなど、観光は日本にとって重要な政策と位置づけられており、今後さらに重要性を増していくものと考えられます。この授業は、観光産業の主要産業である航空会社とホテルにおいて実務経験のある教員が担当し、観光現象を具体的に分かりやすく説明することによって、観光の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた文献や記事の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	観光経済を学ぶ上での基礎的な知識を習得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および観光がなぜ注目されているのかについて講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
2	観光と観光学	観光の定義、観光の意義を講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
3	観光の歴史(1)	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
4	観光の歴史(2)	観光の世界史・日本史を講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
5	観光と情報	観光と情報のかかわりについて講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
6	観光と環境	観光が自然や環境といかに関わっているべきかについて講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
7	観光と観光対象(1)	観光の対象について講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
8	観光と観光対象(2)	観光の対象について講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
9	観光と地域社会	観光と地域社会のつながりについて講義する 小テスト	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
10	観光と経済	観光の持つ経済的なインパクトを理解し、経済の理論で観光の市場を考える	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
11	観光と旅行業	旅行業の役割とこれからのあり方について講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
12	観光と交通	観光における交通の特徴と役割について講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
13	観光と宿泊業	宿泊産業の特徴と役割について講義する	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
14	新しい観光の形	最近注目されている新しい観光について講義する 課題レポート	配布資料の復習(1時間) 発展学習(1時間)
15	現代観光の課題と観光政策まとめと補足	日本の観光が持つ課題と観光政策について講義する 講義全体を通してのまとめと補足をを行う 小テスト	配布資料の復習(1時間)

関連科目	航空産業論、宿泊産業論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 50%、小テスト 40%、課題レポート 10%
学生へのメッセージ	オリンピック・パラリンピックや万博だけでなく、観光に関するトピックスは頻りにニュースや記事に取り上げられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)
備考	

科目名	観光経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	持永 政人, 野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3048a0		

授業概要・目的	本演習では観光関連事業を実際に行っている企業での就業体験(インターンシップ実習)を行うことによって、観光経済に関わる産業・企業等の活動を実践的に研究することを目的とする。 また、授業担当者は観光事業会社で観光事業全般の運営・マネジメントに携わった経験からインターンシップ等の実践的な教育を行う。																		
到達目標	インターンシップ実習を通して、観光関連産業の実際の活動内容や地域における役割等を理解する。 また同時に就職活動に必要な社会人基礎力やビジネスマナーも身に付ける。																		
授業方法と留意点	インターンシップ派遣に必要な最低限の一般常識とビジネスマナーを身に付けた上で、企業の実務担当者からのレクチャーや広報資料、文献等により派遣先業界、企業の研究を行う。その後4週間程度のインターンシップ実習を通して実地調査を行い、当該産業、企業についての研究課題報告を作成する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 「一般常識」「ビジネスマナー」「派遣先企業研究」等をインターンシップ派遣の事前授業として行う。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】(いずれも8月～9月に実施) 過年度派遣実績: 箱根小涌園、ホテル椿山荘東京、新宿ワシントンホテル、帝国ホテル大阪、太閤園、京都丹後鉄道等。</p> <p>【事後授業】 研究課題報告とプレゼンテーションを行う。</p>																		
関連科目	「経済キャリア入門」「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	「授業への参加態度」「インターンシップ先での評価」「課題報告内容」等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	事前授業の受講態度によっては派遣を見送ることもある。 夏期休暇中にインターンシップを行うため、その間に他の予定を入れないこと。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永・野村研究室																		
備考	5月に説明会を実施予定																		

科目名	観光経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3048a0		

授業概要・目的	この演習では地域における観光経済の実態について観光に関連する企業へのヒアリング調査に参加し、そこで提供される課題に自ら取り組むことで理解を深めることを目的としています。事前学習として調査前に文献・資料講読を行い、事後学習として調査結果の取りまとめを行います。調査企業は2社を予定しています。																		
到達目標	事前・事後学習によって地域の観光経済の動向を理解します。ヒアリング調査によって観光経済の実態を理解し、自ら課題に取り組み、その方法論や姿勢を身につけます。																		
授業方法と留意点	以下の過程で行います。 (1)観光経済に関する事前授業 (2)ヒアリング調査参加 (3)ヒアリング調査結果の整理を行い、レポートにまとめる (4)報告会でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 近年の日本の観光経済と関西の観光の動向について講義を行う。次に、グループ分けを行い、訪問先に関する事前調査を行う。</p> <p>【実習先と実習時期】(5月～11月に予定) 自治体またはアミューズメント施設運営企業を訪問し、そこでの実態や課題についてヒアリング調査を行う。</p> <p>【事後授業】 グループごとに調査結果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備を行う。</p>																		
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「世界観光事情」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	「事前学習での理解度」「ヒアリング調査結果レポート」「報告会でのプレゼンテーション」を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	この授業は事前学習、ヒアリング調査、事後学習(報告会)の全てへの積極的な参加が必要となります。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室																		
備考	4月に説明会を開きます。																		

科目名	観光経済論	科目名(英文)	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	観光産業は全世界のGDPの11%程度、総雇用の10%程度を担う重要な経済部門となっている。わが国においても、その重要性は高まってきており、さらなる観光産業の振興が政策課題となっている。本講義では、こうした現状を踏まえ、観光分野における需要、供給、制度の特徴をミクロ経済理論、経営理論に基づき学習する。
到達目標	経済学、経営学の知識に基づき、観光分野の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	観光経済論を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義内容・配布資料の復習。
2	観光とは?	観光の定義、観光産業に含まれる産業の範囲について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
3	観光産業における供給について(1)	観光産業における供給側の重要性を説明する。	講義内容・配布資料の復習。
4	観光産業における供給について(2)	日本の旅行産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
5	観光産業における供給について(3)	日本の交通産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
6	観光産業における供給について(4)	日本の宿泊産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
7	観光産業における供給について(5)	日本の飲食産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	観光産業における需要(1)	需要の価格弾力性を用いて、価格と観光客数の関係を学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
10	観光産業における需要(2)	需要の価格弾力性を踏まえたうえで、観光産業における価格差別化について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
11	観光産業における需要(3)	為替レートに着目し、為替レートの変動が観光客数に及ぼす影響について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
12	観光産業における需要(4)	需要の所得弾力性を用いて、所得と観光客数の関係を学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
13	観光産業における需要(5)	観光産業における製品・サービスの差別化について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
14	観光と政策(1)	経済学的にみた観光分野における政府の役割について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
15	観光と政策(2)	観光産業における規制の効果について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。

関連科目	観光学入門、ミクロ経済学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光経済学の基礎講義	中平千彦・藪田雅弘	九州大学出版会
2	観光経済学入門	ジェームズ マック	日本評論社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(70%)、中間試験(30%)の得点で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 西川講師室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	観光経済論	科目名(英文)	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2039a0		

授業概要・目的	観光産業は全世界のGDPの11%程度、総雇用の10%程度を担う重要な経済部門となっている。わが国においても、その重要性は高まってきており、さらなる観光産業の振興が政策課題となっている。本講義では、こうした現状を踏まえ、観光分野における需要、供給、制度の特徴をミクロ経済理論、経営理論に基づき学習する。
到達目標	経済学、経営学の知識に基づき、観光分野の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	観光経済論を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義内容・配布資料の復習。
2	観光とは?	観光の定義、観光産業に含まれる産業の範囲について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
3	観光産業における供給について(1)	観光産業における供給側の重要性を説明する。	講義内容・配布資料の復習。
4	観光産業における供給について(2)	日本の旅行産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
5	観光産業における供給について(3)	日本の交通産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
6	観光産業における供給について(4)	日本の宿泊産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
7	観光産業における供給について(5)	日本の飲食産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	観光産業における需要(1)	需要の価格弾力性を用いて、価格と観光客数の関係を学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
10	観光産業における需要(2)	需要の価格弾力性を踏まえたうえで、観光産業における価格差別化について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
11	観光産業における需要(3)	為替レートに着目し、為替レートの変動が観光客数に及ぼす影響について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
12	観光産業における需要(4)	需要の所得弾力性を用いて、所得と観光客数の関係を学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
13	観光産業における需要(5)	観光産業における製品・サービスの差別化について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
14	観光と政策(1)	経済学的にみた観光分野における政府の役割について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
15	観光と政策(2)	観光産業における規制の効果について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。

関連科目	観光学入門、ミクロ経済学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光経済学の基礎講義	中平千彦・藪田雅弘	九州大学出版会
2	観光経済学入門	ジェームズ マック	日本評論社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(70%)、中間試験(30%)の得点で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 西川講師室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	観光交通論	科目名(英文)	Tourism and Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	観光経済・地域経済・国際経済に欠かせない交通を経済学を用いて分析できるようになることを目標にする。
到達目標	交通の経営、交通政策に理解を深める。
授業方法と留意点	教科書に基づきスライドにより講義を行う。授業内容に応じて授業内で10分程度計算問題の演習を行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	関係する業界・公務員等の仕事に関心を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、経済学の復習	授業にあたって必要となる経済学の復習	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
2	交通とは何か	交通サービスの特殊性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
3	交通データの分析	交通のデータの種類、データの見方	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
4	交通の費用	交通の費用の分類とそれによる交通企業の行動の違い	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
5	交通運賃の理論1	どのように交通運賃は決まるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
6	交通運賃の理論2	混雑をなくすにはどのような運賃が望ましいか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
7	交通運賃の理論3	ピーク・ロード・プライシングとラムゼイ運賃形成	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
8	交通運賃の政策1	どのように公共交通の運賃は規制されているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
9	交通運賃の政策2	交通機関における二部料金制度の意味	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
10	規制政策1	交通規制はなぜ存在するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
11	規制政策2	規制緩和の経済理論	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
12	交通投資	交通機関を整備した結果はどのように評価されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
13	外部補助と内部補助	交通機関の赤字はどのように埋められるべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
14	交通ネットワーク1	ネットワークとしての交通を考慮に入れた場合、これまでの議論はどのように修正されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
15	交通ネットワーク2、まとめ	ネットワークの重要性と、総合的な交通政策の必要性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習

関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	交通経済学入門 新版	竹内健蔵	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験70%、レポート30%で評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	日頃よく使う交通について、経済学を用いて考えられるようにしましょう。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	授業の予習復習および中間レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で20~30時間程度行うことが望ましい。
----	--

科目名	観光産業政策論	科目名(英文)	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大いに期待されていますが、観光産業はさまざまな産業にまたがる大きな分野であるため、その正確な把握は容易ではありません。この講義では経済学における産業理論において観光産業をどのようにとらえるかを説明し、さまざまなデータで観光産業を客観的に眺め、経済における観光の役割について理解を深めます。
到達目標	経済における観光産業の特徴を正確に理解し、客観的なデータで世界と日本における観光産業、観光経済の役割を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。
科目学習の効果(資格)	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要の紹介	配布レジュメの復習
	2	世界の観光の動向	国際観光の動向とその成長要因	配布レジュメの復習
	3	日本の観光の動向(1)	近年の外国人観光客の急増と訪日観光成長の要因	配布レジュメの復習
	4	日本の観光の動向(2)	外国人観光客の地域分布と一部地域への集中の要因	配布レジュメの復習
	5	観光統計(1)	訪日外客統計、訪日外国人消費動向調査の概要と活用方法	配布レジュメの復習
	6	観光統計(2)	旅行・観光消費動向調査、宿泊旅行統計調査、観光入込客統計の概要と活用方法	配布レジュメの復習
	7	産業のとらえ方	産業分類の基本と産業分類理論の変遷	配布レジュメの復習
	8	日本標準産業分類	日本標準産業分類の基本構造と日本標準産業分類による日本経済分析	配布レジュメの復習
	9	T S A	T S A (旅行・観光サテライト勘定)の基本構造とT S Aによる観光産業分析	配布レジュメの復習
	10	観光G D Pと観光雇用	T S Aによる観光G D P、観光雇用の把握	配布レジュメの復習
	11	旅行産業	旅行産業の基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	12	宿泊産業	宿泊産業の基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	13	旅客・運輸産業	旅客・運輸産業の基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	14	その他の観光産業	文化サービス、レクリエーションサービスなどその他の観光産業のの基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	配布レジュメの復習

関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	1回のレポート(40%)と期末試験(60%)による総合評価
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)
備考	

科目名	観光産業政策論	科目名(英文)	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3043a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。そのため、日本経済、地域経済において観光産業の経済効果が大いに期待されていますが、観光産業はさまざまな産業にまたがる大きな分野であるため、その正確な把握は容易ではありません。この講義では経済学における産業理論において観光産業をどのようにとらえるかを説明し、さまざまなデータで観光産業を客観的に眺め、経済における観光の役割について理解を深めます。
到達目標	経済における観光産業の特徴を正確に理解し、客観的なデータで世界と日本における観光産業、観光経済の役割を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。
科目学習の効果(資格)	日本と世界の観光産業の状況について客観的なデータで説明できるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要の紹介	配布レジュメの復習
	2	世界の観光の動向	国際観光の動向とその成長要因	配布レジュメの復習
	3	日本の観光の動向(1)	近年の外国人観光客の急増と訪日観光成長の要因	配布レジュメの復習
	4	日本の観光の動向(2)	外国人観光客の地域分布と一部地域への集中の要因	配布レジュメの復習
	5	観光統計(1)	訪日外客統計、訪日外国人消費動向調査の概要と活用方法	配布レジュメの復習
	6	観光統計(2)	旅行・観光消費動向調査、宿泊旅行統計調査、観光入込客統計の概要と活用方法	配布レジュメの復習
	7	産業のとらえ方	産業分類の基本と産業分類理論の変遷	配布レジュメの復習
	8	日本標準産業分類	日本標準産業分類の基本構造と日本標準産業分類による日本経済分析	配布レジュメの復習
	9	T S A	T S A (旅行・観光サテライト勘定)の基本構造とT S Aによる観光産業分析	配布レジュメの復習
	10	観光GDPと観光雇用	T S Aによる観光GDP、観光雇用の把握	配布レジュメの復習
	11	旅行産業	旅行産業の基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	12	宿泊産業	宿泊産業の基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	13	旅客・運輸産業	旅客・運輸産業の基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	14	その他の観光産業	文化サービス、レクリエーションサービスなどその他の観光産業のの基本構造とその特徴	配布レジュメの復習
	15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	配布レジュメの復習

関連科目 観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	1回のレポート(40%)と期末試験(60%)による総合評価
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)
備考	

科目名	観光産業における経営分析論	科目名(英文)	Buisness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	産業・企業の動向を理解していく上で、有価証券報告書などの財務資料を通じた業績の把握は不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を用いて、主に観光産業に分類される企業を事例として紹介しつつ、経営動向を理解・検討する各種指標を学ぶことを目的とする。			
到達目標	有価証券報告書等の財務資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。			
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	経営分析を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義した内容について復習する。
	2	財務諸表の仕組み(1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	3	財務諸表の仕組み(2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
	4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	5	収益性の分析(1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	6	収益性の分析(2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	7	収益性の分析(3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
	8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
	9	安全性の分析(1)	企業における利益とキャッシュの関係を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	10	安全性の分析(2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	11	安全性の分析(3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	12	生産性の分析(1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	13	生産性の分析(2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	14	総合評価(1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
	15	総合指標(2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。
関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間試験(30%)の得点で評価する。			
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)			
備考				

科目名	観光産業における経営分析	科目名(英文)	Buisiness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2042a0		

授業概要・目的	産業・企業の動向を理解していく上で、有価証券報告書などの財務資料を通じた業績の把握は不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を用いて、主に観光産業に分類される企業を事例として紹介しつつ、経営動向を理解・検討する各種指標を学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の財務資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経営分析を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義した内容について復習する。
2	財務諸表の仕組み(1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み(2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済学的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析(1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析(2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析(3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	安全性の分析(1)	企業における利益とキャッシュの関係を学ぶ。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析(2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	安全性の分析(3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析(1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	生産性の分析(2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合評価(1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
15	総合指標(2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間試験(30%)の得点で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	観光資源論	科目名(英文)	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性と、資源とされる側(地域の人々の生活、環境、文化など)への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布しスライドを用いて講義を行う。
科目学習の効果(資格)	観光や地域に関係する業界、自治体などで業務を行う際に役立つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
4	食べ物	特産品やB級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
5	伝統・歴史	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統・歴史が観光化されることによる生じる課題について考える。	事後：授業の復習
6	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
7	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
8	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
10	芸術	アートツーリズムの効果と課題について考える。	事後：授業の復習
11	コンテンツ	コンテンツ(小説、映画、TVドラマ、アニメ等)の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
12	スピリチュアルなもの	最近流行しているパワースポット巡りなどについて課題を考える。	事後：授業の復習
13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
14	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
15	不愉快なもの、まとめ	近年注目を集めているダークツーリズムについて理解を深め、まとめとして観光資源を利用した災害からの復興について考える。	事後：授業の復習

関連科目	観光経済論、観光産業政策論、交通経済論
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光人類学の挑戦	山下晋司	講談社
2	観光学キーワード	山下晋司	有斐閣	
3				

評価方法(基準)	定期試験70%、中間レポート30%で評価する。
学生へのメッセージ	観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
備考	授業後の復習および中間レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で20~30時間程度行うことが望ましい。

科目名	観光資源論	科目名(英文)	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3049a0		

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性と、資源とされる側(地域の人々の生活、環境、文化など)への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布しスライドを用いて講義を行う。
科目学習の効果(資格)	観光や地域に関係する業界、自治体などで業務を行う際に役立つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
4	食べ物	特産品やB級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
5	伝統・歴史	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統・歴史が観光化されることによる生じる課題について考える。	事後：授業の復習
6	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
7	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
8	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
10	芸術	アートツーリズムの効果と課題について考える。	事後：授業の復習
11	コンテンツ	コンテンツ(小説、映画、TVドラマ、アニメ等)の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
12	スピリチュアルなもの	最近流行しているパワースポット巡りなどについて課題を考える。	事後：授業の復習
13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
14	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
15	不愉快なもの、まとめ	近年注目を集めているダークツーリズムについて理解を深め、まとめとして観光資源を利用した災害からの復興について考える。	事後：授業の復習

関連科目	観光経済論、観光産業政策論、交通経済論
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光人類学の挑戦	山下晋司	講談社
	2	観光学キーワード	山下晋司	有斐閣
	3			

評価方法(基準)	定期試験70%、中間レポート30%で評価する。
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	授業後の復習および中間レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で20~30時間程度行うことが望ましい。
----	---

科目名	観光人材論	科目名(英文)	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する制度についての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社の人事部門での7年間、採用・企画・部長等を務めた経験から観光事業における人材管理に関する実践的な教育を行う。																																																																		
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光産業における人材管理の特徴について理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	観光における人材管理の特徴と重要性の理解																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテスト実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人材とは何か</td> <td>「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>観光の意義と仕事</td> <td>何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習 課題作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>観光業における人材管理</td> <td>観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人材管理の仕組みⅠ</td> <td>人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人材管理の仕組みⅡ</td> <td>企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人材管理の仕組みⅢ</td> <td>採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人材管理の仕組みⅣ</td> <td>人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>人材管理の仕組みⅤ</td> <td>労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人材管理の仕組み(まとめ)</td> <td>第4回～第8回のまとめ</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「サービス」と観光人材</td> <td>観光業の主な商品「サービス」について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習 小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「ホスピタリティ」と観光人材</td> <td>観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「顧客満足」と観光人材</td> <td>「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>観光と人材育成</td> <td>観光業界における人材育成の課題について考える。</td> <td>課題作成</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテスト実施		2	人材とは何か	「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習	3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習 課題作成	4	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。	事後：配布資料の復習	5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習	6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	7	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	8	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	9	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	10	人材管理の仕組み(まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習	11	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト	12	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習	13	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習	14	観光と人材育成	観光業界における人材育成の課題について考える。	課題作成	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテスト実施																																																																	
2	人材とは何か	「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習																																																																
3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習 課題作成																																																																
4	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
7	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
8	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
9	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
10	人材管理の仕組み(まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習																																																																
11	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト																																																																
12	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
13	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習																																																																
14	観光と人材育成	観光業界における人材育成の課題について考える。	課題作成																																																																
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習																																																																
関連科目	観光学入門、経済キャリア入門																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、その他(課題作成等)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。																																																																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 持永教授室(経済学部)																																																																		

科目名	観光人材論	科目名(英文)	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8△, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2041a0		

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する制度についての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社の人事部門での7年間、採用・企画・部長等を務めた経験から観光事業における人材管理に関する実践的な教育を行う。																																																																		
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光産業における人材管理の特徴について理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	観光における人材管理の特徴と重要性の理解																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテスト実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人材とは何か</td> <td>「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>観光の意義と仕事</td> <td>何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習 課題作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>観光業における人材管理</td> <td>観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人材管理の仕組みⅠ</td> <td>人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人材管理の仕組みⅡ</td> <td>企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人材管理の仕組みⅢ</td> <td>採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人材管理の仕組みⅣ</td> <td>人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>人材管理の仕組みⅤ</td> <td>労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>人材管理の仕組み(まとめ)</td> <td>第4回～第8回のまとめ</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「サービス」と観光人材</td> <td>観光業の主な商品「サービス」について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習 小テスト</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「ホスピタリティ」と観光人材</td> <td>観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「顧客満足」と観光人材</td> <td>「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>観光と人材育成</td> <td>観光業界における人材育成の課題について考える。</td> <td>課題作成</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテスト実施		2	人材とは何か	「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習	3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習 課題作成	4	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。	事後：配布資料の復習	5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習	6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	7	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	8	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	9	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習	10	人材管理の仕組み(まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習	11	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト	12	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習	13	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習	14	観光と人材育成	観光業界における人材育成の課題について考える。	課題作成	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテスト実施																																																																	
2	人材とは何か	「人材」の意味と「人材」のありかたを考える。	事後：配布資料の復習																																																																
3	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習 課題作成																																																																
4	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
5	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
6	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
7	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
8	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
9	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習																																																																
10	人材管理の仕組み(まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習																																																																
11	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト																																																																
12	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
13	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習																																																																
14	観光と人材育成	観光業界における人材育成の課題について考える。	課題作成																																																																
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習																																																																
関連科目	観光学入門、経済キャリア入門																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、その他(課題作成等)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。																																																																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 持永教授室(経済学部)																																																																		

科目名	観光ビジネス英語	科目名(英文)	Business English for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3047a0		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本にとって、観光関連産業における人材育成は重要な課題です。英語でコミュニケーションができるということは人材要件の一部に過ぎませんが、今後増え続けることが予想される外国人観光客に対応するため、サービスの現場では必須の要素となっています。この授業では、国内外の航空会社とホテルの接客部門で実務経験を持つ教員が担当し、海外旅行の様々な場面での英語に触れながら、実践的な英語と実務知識を身に付けることを目指します。
到達目標	観光関連産業および海外旅行で必要とされる実践的な英語表現を身に付けることを目的とします。各回に関連した実務知識も学びます。
授業方法と留意点	実際に使われているナチュラルな英語教材を中心に授業を進めます。また、各回に関連する実務知識について講義します。
科目学習の効果(資格)	観光産業や海外旅行の場面で実際に使われている英語表現が身に着きます。また、実務知識についても理解を深めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
1	イントロダクション At the airport	授業の進め方について 空港にて	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
2	On the place	機内にて	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
3	Arrival	到着 小テスト	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
4	Checking in at the hotel	ホテルにチェックイン	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
5	Getting information and sightseeing	情報を入手して観光する	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
6	Ordering fast food	ファストフードを注文する 小テスト	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
7	Going to the theater	劇場に行く	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
8	At the restaurant	レストランにて	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
9	Shopping	買物をする 小テスト	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
10	Lost and found	遺失物係にて	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
11	Using public transportation	公共交通機関を利用する	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
12	Renting a bike	自転車を借りる 小テスト	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
13	Finding your way around	道を聞く	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
14	Medical care	診察を受ける	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)
15	Leaving for home	帰途につく 小テスト	教科書の該当部分の復習(1時間) 宿題(1時間)

関連科目	観光学入門、航空産業論、宿泊産業論
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			教科書
1	Enjoy Your Trip! English you need abroad	竹内真澄・中井延美・菅原千津	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			参考書
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 50%、小テスト 50%
----------	-------------------

学生へのメッセージ	授業は極力わかりやすく進めていきますが、実際の現場で使われている英語を学ぶことが目的であるため、文法をある程度理解していることが前提となります。英語は授業に出ているだけでは身につけません。授業で学んだことを必ず復習して、自分のものにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 野村教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	観光マーケティング論	科目名(英文)	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社のホテルマーケティング部門で8年間勤務した経験から観光事業におけるマーケティングに関する実践的な教育を行う。
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用事例が理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテストの実施	
2	マーケティングとは何か	マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習
3	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習
4	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習
5	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
6	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
7	マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅰ	第2回～第6回のまとめⅠ	事後：配布資料の復習
8	マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅱ	第2回～第6回のまとめⅡ	レポート作成 事後：配布資料の復習
9	観光とマーケティングⅠ	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
10	観光とマーケティングⅡ	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習
11	観光のマーケティング・ミックス	観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。	レポート作成 事後：配布資料の復習
12	観光マーケティング事例Ⅰ	観光地のマーケティングを考える(1)	事後：配布資料の復習
13	観光マーケティング事例Ⅱ	観光地のマーケティングを考える(2)	事後：配布資料の復習
14	観光マーケティング事例Ⅲ	観光産業のマーケティングを考える	小テスト 事後：配布資料の復習
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習

関連科目 観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験50%、小テスト30%(2回)、その他(レポート等)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。

担当者の研究室等 1号館7階 持永教授室(経済学部)

備考

科目名	観光マーケティング論	科目名(英文)	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2040a0		

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とします。また、授業担当者は観光事業会社のホテルマーケティング部門で8年間勤務した経験から観光事業におけるマーケティングに関する実践的な教育を行う。																																																																		
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用事例が理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテストの実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マーケティングとは何か</td> <td>マーケティングの基礎的な概念を理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>商品とマーケティング</td> <td>売れる商品の特徴を理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>価格とマーケティング</td> <td>価格設定の考え方を理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>流通チャネルとマーケティング</td> <td>流通チャネルの役割について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>プロモーションとマーケティング</td> <td>プロモーションの役割について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅰ</td> <td>第2回～第6回のまとめⅠ</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅱ</td> <td>第2回～第6回のまとめⅡ</td> <td>レポート作成 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>観光とマーケティングⅠ</td> <td>観光におけるマーケティングの特殊性を考える。</td> <td>小テスト 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>観光とマーケティングⅡ</td> <td>観光マーケティングの主体と対象を考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>観光のマーケティング・ミックス</td> <td>観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。</td> <td>レポート作成 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>観光マーケティング事例Ⅰ</td> <td>観光地のマーケティングを考える(1)</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>観光マーケティング事例Ⅱ</td> <td>観光地のマーケティングを考える(2)</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>観光マーケティング事例Ⅲ</td> <td>観光産業のマーケティングを考える</td> <td>小テスト 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテストの実施		2	マーケティングとは何か	マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習	3	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習	4	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習	5	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習	6	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習	7	マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅰ	第2回～第6回のまとめⅠ	事後：配布資料の復習	8	マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅱ	第2回～第6回のまとめⅡ	レポート作成 事後：配布資料の復習	9	観光とマーケティングⅠ	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習	10	観光とマーケティングⅡ	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習	11	観光のマーケティング・ミックス	観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。	レポート作成 事後：配布資料の復習	12	観光マーケティング事例Ⅰ	観光地のマーケティングを考える(1)	事後：配布資料の復習	13	観光マーケティング事例Ⅱ	観光地のマーケティングを考える(2)	事後：配布資料の復習	14	観光マーケティング事例Ⅲ	観光産業のマーケティングを考える	小テスト 事後：配布資料の復習	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明、プレテストの実施																																																																	
2	マーケティングとは何か	マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
3	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
4	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
5	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
6	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
7	マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅰ	第2回～第6回のまとめⅠ	事後：配布資料の復習																																																																
8	マーケティング・ミックス(まとめ)Ⅱ	第2回～第6回のまとめⅡ	レポート作成 事後：配布資料の復習																																																																
9	観光とマーケティングⅠ	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習																																																																
10	観光とマーケティングⅡ	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習																																																																
11	観光のマーケティング・ミックス	観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。	レポート作成 事後：配布資料の復習																																																																
12	観光マーケティング事例Ⅰ	観光地のマーケティングを考える(1)	事後：配布資料の復習																																																																
13	観光マーケティング事例Ⅱ	観光地のマーケティングを考える(2)	事後：配布資料の復習																																																																
14	観光マーケティング事例Ⅲ	観光産業のマーケティングを考える	小テスト 事後：配布資料の復習																																																																
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習																																																																
関連科目	観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%(2回)、その他(レポート等)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	関西経済論	科目名(英文)	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大阪府を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。周辺の他府県(京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県)も含め、関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。大阪・関西経済の産業構造、地域産業政策のありようなどを講義する。担当教員は実務経験を、電機メーカーにおいて生産技術、設計VE、事業企画、新事業開発を7.8年、その後、医療機械メーカーにおいて取締役を5年、行政系産業支援機関において理事を3年している。その経験を生かし、関西経済のイノベーションの実態や産業支援のあり方を論じることとする。
到達目標	①関西経済の特徴を理解すること。 ②関西の産業に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法と留意点	データを紹介しながら地域経済の状況を説明し、基礎用語の理解を深めることが出来るよう授業を進める。
科目学習の効果(資格)	関西経済の諸特徴を把握し、地域と自分のキャリアについて考える基礎を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本のなかの関西経済	関西経済の現在の諸特徴を日本国内の他地域経済圏との比較などから理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
2	大阪府の産業構造	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	大阪府の各産業	大阪府の第二次産業、第三次産業を中心に各産業について理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
4	大阪府の主要企業の概要	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
5	大阪府の主要企業の分析	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、基礎的な分析を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
6	大阪府の中小企業、ベンチャー企業	大阪府の中小企業、ベンチャー企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
7	京都府の産業と企業	京都府の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
8	兵庫県の産業と企業	兵庫県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
9	奈良県の産業と企業	奈良県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	和歌山県の産業と企業	和歌山県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	滋賀県の産業と企業	滋賀県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	国の政策と自治体の政策	地域経済の発展に関する国の政策と自治体の政策について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	グローバル化、少子高齢化の流れにおいて地域経済の在り方を考える。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、日本産業史、地域産業論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 100%で評価する。
学生へのメッセージ	関西経済の今後の展開を創造するためには、正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。
担当者の研究室等備考	1号館7階 野長瀬教授室(経済学部)

科目名	関西経済論	科目名(英文)	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2029a0		

授業概要・目的	大阪府を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。周辺の他府県(京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県)も含め、関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。大阪・関西経済の産業構造、地域産業政策のありようなどを講義する。担当教員は実務経験を、電機メーカーにおいて生産技術、設計VE、事業企画、新事業開発を7.8年、その後、医療機械メーカーにおいて取締役を5年、行政系産業支援機関において理事を3年している。その経験を生かし、関西経済のイノベーションの実態や産業支援のあり方を論じることとする。
到達目標	①関西経済の特徴を理解すること。 ②関西の産業に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法と留意点	データを紹介しながら地域経済の状況を説明し、基礎用語の理解を深めることが出来るよう授業を進める。
科目学習の効果(資格)	関西経済の諸特徴を把握し、地域と自分のキャリアについて考える基礎を得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	日本のなかの関西経済	関西経済の現在の諸特徴を日本国内の他地域経済圏との比較などから理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	2	大阪府の産業構造	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	3	大阪府の各産業	大阪府の第二次産業、第三次産業を中心に各産業について理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	4	大阪府の主要企業の概要	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	5	大阪府の主要企業の分析	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、基礎的な分析を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
	6	大阪府の中小企業、ベンチャー企業	大阪府の中小企業、ベンチャー企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	7	京都府の産業と企業	京都府の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	8	兵庫県の産業と企業	兵庫県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	9	奈良県の産業と企業	奈良県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	10	和歌山県の産業と企業	和歌山県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	11	滋賀県の産業と企業	滋賀県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	12	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策	大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	13	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策	京都府、京都市、奈良県、和歌山県、滋賀県の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	14	国の政策と自治体の政策	地域経済の発展に関する国の政策と自治体の政策について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
	15	まとめ	グローバル化、少子高齢化の流れにおいて地域経済の在り方を考える。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、日本産業史、地域産業論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験100%で評価する。
学生へのメッセージ	関西経済の今後の展開を創造するためには、正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。
担当者の研究室等備考	1号館7階 野長瀬教授室(経済学部)

科目名	管理会計	科目名(英文)	Management Control
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW3027a0		

授業概要・目的	管理会計とは、経営管理者の多様な意思決定や組織活動の統合等の経営管理活動に対して有用な原価情報を提供するプロセスである。本講義では、財務・原価情報を利用した戦略的管理ツールの基礎知識を概説し、そのプロセスを習得することを目的とする。講義では理論を理解し実践力を身につけるため、演習・事例研究・グループスタディを行う。
到達目標	戦略経営に用いられる管理ツールの理論を理解し、実務でどのように活用されるかを身につけることを本講義の到達目標とする
授業方法と留意点	本授業は一方的な講義ではなく、①基礎理論の講義、②理論の理解のための演習、③理論を用いたグループスタディの3段階で行われる学生参加型授業であるため、積極的な授業参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	日商簿記、SA、公認会計士、税理士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義全体の概要および講義の進め方などの紹介	レポート
2	管理会計のフレームワーク	管理会計学習の意義、管理会計と財務会計、管理会計と資源配分、管理会計と人間・組織	レポート・quizテスト
3	管理会計の発展史	管理会計の発展過程、管理会計手法(tool)の変遷過程管理会計モデルなど	レポート・quizテスト
4	簿記の要約	管理会計論の基礎知識として、会計の基本的な仕組みを理解する。会計期間、簿記の5要素、利益計算、貸借対照表・損益計算書	演習問題
5	投資計画のための管理会計①	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV法・回収期間法・ROI法を用いる	演習問題
6	投資計画のための管理会計②	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。投資案の分析ツールとして、NPV法・回収期間法・ROI法を用いる	演習問題
7	ROIを用いた企業評価：グループ・スタディ	実際の企業の財務諸表を利用し、企業評価を行ってみる。この授業は3人1グループとして演習を行う	演習・レポート
8	短期利益計画とCVP分析①	損益分岐点(BEP)分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。短期利益計画の意義、CVP分析(損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
9	短期利益計画とCVP分析②	損益分岐点(BEP)分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。短期利益計画の意義、CVP分析(損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
10	短期利益計画とCVP分析③	損益分岐点(BEP)分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。短期利益計画の意義、CVP分析(損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
11	価格決定と原価企画①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	演習問題
12	価格決定と原価企画①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	価格決定の事例演習
13	セールス・ミックス(Sales Mix)	複数の製品がある場合、利益最大化のためには、どのようなセールス・ミックスをするのかについて学習する。	演習問題
14	事業部組織における業績評価	事業部制組織の業績評価にはどのような経営指標を用いればいいのか、また、その業績評価結果は事業部長のボーナスなどにどのようにリンクさせるべきであるかについてケースをもって学習する。	事例研究
15	BSC・ABCなどの管理ツール・まとめ	BSCおよびABCのような最近の管理ツールについて考察する。また最後には、講義のまとめおよび質疑応答を行う	レポート

関連科目	会計学入門・簿記原理Ⅰ・Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 100% →平常点は授業中行う演習およびグループ・スタディへの参加度、レポートなどを総合的に評価する			
学生への メッセージ	授業中は計算演習を行うため、必ず電卓を持参すること			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前半は、1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>後半は、新聞・雑誌など興味を持った記事を基に各自が調査した内容を紹介する。 *授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバル化が一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図るようになっている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。また、上記の目的を達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、国際経済学に関する基礎的な文献を輪読する。また、論文・新聞・雑誌、さらには各種の統計を収集し、分析を行う。その際、常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに留意してもらいたい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。 なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学4年間の経済学が10時間で学べる</td> <td>井堀利宏</td> <td>KADOKAWA</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA																
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 *授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起きている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室（経済学部）		
備考			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識 (エコノミック・リテラシーとITリテラシー) を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学で学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。 次に、経済学の基礎的な科目の学習及び1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識をえるための入門的な学習を行う。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学の基本的な2つの流れである近代経済学とマルクス経済学の考え方を習得する。 教科書を基本に大学で学ぶ経済学関連科目への興味を喚起させ具体的な履修計画作成の一助とする。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識 (エコノミック・リテラシーとITリテラシー) を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>																		
関連科目	経済学入門 (エコノミックリテラシー)、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度 (私語・遅刻を含む) を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室 (経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	<p>高校までと異なり、大学には始業式も終業式もありませんし、自主的な意思決定や学習が求められる場面に直面します。大学での過ごし方は高校までのそれとは異なります。それで驚いた学生も多いかと思います。</p> <p>本演習は、そんな大学での学習に必要な基礎的能力（知識や技法）を習得させることを目的としています。それと同時に、この学部で本格的に学ぶ経済学の学習を通して、後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的としています。</p>																		
到達目標	<p>大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識は、主にエコノミック・リテラシーとITリテラシーです。この演習を通して、これらを用いた自主的学習ができるようになることを目指します。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1) 大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得 2) 経済学に必要な不可欠である数理的能力の修得のため、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分実施 3) 1年次の末に行わなければならないコース選択に備えた、入門的な経済学の学習</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 *授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『FIRST YEAR STUDY GUIDE』</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』	摂南大学		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』	摂南大学																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館7階 小塚研究室</p>																		
備考	<p>出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。</p>																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得し、後続学年における学習に備えることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて導入教育および研究倫理教育を行う。 2) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 3) 大学で研究したい事項、興味ある職業について発表を行う。 4) 事業創造についてグループディスカッション、発表を行う。 5) 経済領域の時事用語について学ぶ。 *第1回～4回の際にSPIの試験を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ディスカッション参加 (50%)、レポート (50%) により評価を行う。		
学生へのメッセージ	自分のやりたいことを見つけるための相談をお待ちしています。		
担当者の研究室等	1号館7階		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。受講態度に問題のある学生は、単位取得できない場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。			
到達目標	大学での学びの基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。			
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>			
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度(私語・遅刻を含む)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室			
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 *授業の第1回～4回の際に、SPIの試験を実施する。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI 試験を実施する。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI 試験を実施する。</p>		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 ＊第1回から4回のあいだにSPIの試験を行う。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。 ・政令指定都市での実務経験から社会人として大学生時代に必要な知識、智恵修得の実践的視点から演習を行う。 ・2年次生からの専門教育に繋がる基礎的な内容での近代経済学とマルクス経済学の輪読による発表演習を行う。 																
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 6) 後期は、教科書の輪読を行い、経済学の基礎を学ぶ。 7) 共通課題として「社会人基礎力」試験等を実施することもある。 8) 大学生活の一助とするため、動画による説明を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>																
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済ってそういうことだったのか会議</td> <td>後藤雅彦 竹中平蔵</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>知識ゼロからの経済学入門</td> <td>的場昭弘</td> <td>幻冬舎</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済ってそういうことだったのか会議	後藤雅彦 竹中平蔵	日本経済新聞出版社	2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘	幻冬舎	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	経済ってそういうことだったのか会議	後藤雅彦 竹中平蔵	日本経済新聞出版社														
2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘	幻冬舎														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも気軽に相談して下さい。 ・政令指定都市での30年間の多くの部署での経験から社会人として修得すべき知識や今後の専門教育に向けての実践的な教育を行う。 																
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室（経済学部）																
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミック・リテラシー)、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度(私語・遅刻・出欠を含む)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	勉強面において質問・不安がありましたら積極的に相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室(経済学部)																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	O
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。			
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、第2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。			
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI 試験を実施する。</p>			
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室（経済学部）			
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	P
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという2つの役割を有している。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を確認するとともに、第1年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補充する。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 *第1回～4回の間に、SPIの試験を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分(たち)でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識(エコノミック・リテラシーとITリテラシー)を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>*授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。</p> <p>後半は、グループ学習や学外学習を通じて、前半に学んだレポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方についてさらに実践的に学ぶ。</p>																		
関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度(私語・遅刻を含む)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等																			
備考	出席日数や提出課題の割合が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーと I T リテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1 回 1 0 分程度の数理能力向上テストを 1 5 回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および 1 年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーと I T リテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>*授業の第 1～第 4 回のいずれかに、SPI 試験を実施する。</p> <p>後期</p> <p>グループワークや少人数でのディスカッションなどを通じて、コース選択や 2 年次以降の研究テーマを発見できるようにする。可能な限りコンピュータを用いて、簡単な統計処理の技術を学ぶ。また、可能な限り校外実習を実施し、生きた経済を学ぶ。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 平尾研究室																		
備考																			

科目名	基礎演習	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	S
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1078a0		

授業概要・目的	本演習は2年次以降の専門的な知識を学ぶための基礎的な知識・技術を獲得することを目的とする。		
到達目標	経済の幅広い知識と経済学的思考を身につける。また、情報発信するためのレポートの書き方や発表の方法を習得する。		
授業方法と留意点	First Study Guide を用いて、学習方法などを学ぶ。また、各学生が興味のある社会経済的な問題の簡単な調査・発表を行い、レポートを提出する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1、レポートの書き方、口頭発表の仕方を学ぶ。 2、各自の興味に応じて、調査分析をして口頭発表を行う。 3、その発表に基づいてレポートを完成させ、提出する。 4、First Study Year Guide を用いて研究倫理教育を行う。 5、環境問題を学習し、成果をレポートにまとめる。 *授業の第1～第4回のいずれかに、SPI試験を実施する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表・レポートの完成度、ディスカッションへの参加、受講姿勢、出席を考慮して評価する。		
学生へのメッセージ	1年生なので、卒業後を見据えて目標をつくるよう努力してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室		
備考			

科目名	行政法	科目名(英文)	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 剛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2076a0		

授業概要・目的	行政法には、民法や刑法とは異なり、「行政法」という法典はない。およそ 1,900 あるといわれる個別の行政分野を規律する様々な法律等について、それらに共通する基本的な考え方やよく見られる法的な仕組みについて解説する。また、全行政分野に共通する法的仕組みについて定めるいわゆる行政通則法（行政手続法、行政代執行法、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法など）を解説する。また、行政が実際に行っている様々な活動は、私たちの日常生活と密接に結びついていることを理解してもらうために、行政の現場における事例を挙げて解説する。また、必要に応じて、法律や条例等を読む際に必要となる法制執務に関する知識についても解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①行政法の基本的な概念・原理②建築基準法や生活保護法その他の個別法に共通する基本的な考え方や仕組み、③行政活動に対する法的な統制について理解し、具体例を挙げて説明することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で進めるが、理解の確認、深化を図るために、随時質疑応答も交えた双方向型の授業を取り入れたり、小テスト（確認テスト）の実施を行う。法学の基礎知識のない学生にも配慮した講義を行う。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や各種資格試験に合格できる力を養う。公務員志望者にとっては、行政法の知識があれば、公務員に任用後、建築物基準法や生活保護法など様々な法令（個別法）を自分の力で読みこなすことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに(オリエンテーション)、行政組織	行政法とは(行政の意味と様々な身近な行政活動)、行政機関、行政官庁	事前 教科書第1章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
2	行政法の基本原理	法律による行政の原理、信義則、その他の一般法原則	事前 教科書第2章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
3	行政立法	法規命令、行政規則	事前 教科書第3章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
4	行政行為その1	行政行為の定義、種類、効力	事前 教科書第4章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
5	行政行為その2	行政行為の裁量	事前 教科書第4章を読む。	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。
6	行政契約	行政契約の種類、行政契約の法的統制	事前 教科書第5章をあらかじめ読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
7	行政指導	行政指導の種類、行政指導の法的統制	事前 教科書第6章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
8	行政上の義務履行確保	行政上の強制執行、行政罰、その他の制裁手段、即時強制	事前 教科書第7章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
9	行政計画	行政計画の種類、行政計画の法的統制	事前 教科書補章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
10	行政手続	申請に対する処分に係る手続き、不利益処分に係る手続き	事前 教科書第8章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
11	行政における情報の管理	行政調査、情報公開制度	事前 教科書第9章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
12	行政訴訟	行政訴訟の種類、取消訴訟の要件(処分性、原告適格など)	事前 教科書第10章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
13	行政上の不服申立て	行政不服審査法	事前 教科書第11章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
14	国家賠償	国家賠償法1条、国家賠償法2条	事前 教科書第12章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)
15	損失補償 全体のまとめ	損失補償の内容、範囲 これまでの講義のまとめ	事前 教科書第13章を読む。(30分)	事後 今回の講義の内容や教科書の該当部分をノートにまとめる。(1時間)

関連科目	憲法、民法（総則、不法行為法）、民事訴訟法、地方自治法 法学の基礎知識のない学生にも配慮します。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	行政法(有斐閣ストゥディア)	野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	適宜、参考資料、補助資料等を用意する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点（小テスト等 30%）と学期末の定期試験（70%）によって評価する。定期試験の内容は、○×方式、記号選択式、穴埋め方式です。			
学生への メッセージ	公務員志望者は必ず受講してください。			
担当者の 研究室等				
備考	小テストの解説、講評は、次回の講義で行う。			

科目名	金融論	科目名(英文)	Money and Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1024a0		

授業概要・目的	「金融論」は、経済学の応用分野の一つです。景気、金利や物価などがどのように金融システムの中で決定されているのか(マクロ的な金融論)、個人や企業、銀行や日本銀行などの各経済主体がどのように行動するのか(ミクロ的な金融論)を中心に、基礎的な部分を解説をしていきます。
到達目標	マクロ金融論・ミクロ金融論の理解を通じて、金融政策及びファイナンス理論に関する知識を深め、新聞の経済記事等の理解がスムーズに行えるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式をとります。第8回にマクロ的な金融論にかかわる範囲、第15回にミクロ的な金融論にかかわる範囲についての理解を問う試験を授業内で行います。
科目学習の効果(資格)	マクロ経済学・ミクロ経済学の理解補助 ERE(経済学検定試験)やFP(ファイナンシャルプランナー)をはじめとして、各種資格試験問題にも対応

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	45度線分析②	消費関数 相対所得仮説 ライフサイクル仮説 恒常所得仮説	消費関数に関する議論の理解・復習
3	金利とマクロ経済 IS-LM分析①	利子率 投資の限界効率 投資関数 資産価格の決定式 トービンのq	資産価格の決定式をはじめとする各項目に関する理解・復習
4	金利とマクロ経済 IS-LM分析②	IS-LMモデル 金融・財政政策 流動性のわな	IS-LMモデルの理解・復習
5	物価とマクロ経済 AD-AS分析①	物価指数 AS曲線	AS曲線の導出方法の理解復習
6	物価とマクロ経済 AD-AS分析②	AD曲線 AD-ASモデル	AD曲線の導出方法及びAD-ASモデルの概略の理解・復習
7	為替レート	為替レートの決定理論 購買力平価説 裁定取引	為替レートの決定理論についての概略を理解・復習
8	まとめとテスト	7回までのまとめとテスト(試験範囲は第1~7回)	-----
9	ポートフォリオ理論	期待効用仮説 平均・分散アプローチ 効率的フロンティア 分離定理	統計学の基礎知識とポートフォリオ理論の概略を確認・復習
10	CAPM(資本資産評価モデル)	マーケットリスク・プレミアム リスクフリー・レート ベータ スワップレシオ	統計学の基礎知識とCAPMの概略の理解・復習
11	投資決定理論	NPV(ネット・プレゼント・ヴァリュー) B/S P/L キャッシュフロー 資本コスト	NPVの理解・復習
12	MM理論と企業財務政策	MM理論の第1命題 最適資本構成	MM理論の概略についての理解・復習
13	民間銀行の役割と行動	マネーサプライ 信用創造	信用創造のメカニズムについて理解・復習
14	日本銀行の役割と行動	ハイパワード・マネー 金融政策	各種金融政策とその波及効果について理解・復習
15	まとめとテスト	14回までのまとめとテスト(試験範囲は第9回~14回)	-----

関連科目 マクロ経済学・ミクロ経済学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(60%) + 第8回・第15回に行われる試験(20%+20%)で評価します。
学生へのメッセージ	経済を知るうえで金融の役割を理解するのは必須です。応用的な経済学の分野ですので、受講生は、極力マクロ経済学やミクロ経済学、統計学や経済学(基礎的範囲)をすでに履修していることを強く望みます。
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
備考	授業の第8回・第15回に行われる試験は必ず受験するようにしましょう。

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1008a0		

授業概要・目的	資本主義社会における企業の役割を踏まえて、現代企業の経営活動を理解することを目標とする。具体的な企業の事例を取り上げながら、複雑に展開している企業の経営活動の仕組みと、そこに貫かれる法則性を理解する。
到達目標	経営学にかかわる用語の意味内容および企業活動の基本を理解できる。また経済事象として表れる様々な企業活動のあり方を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。現実の企業経営をイメージしてもらうために、資料等を多用する。毎回プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	日本経済新聞の企業経営に関する記事の意味内容やその背景を、より深く理解することができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	経営学とは何か	経営学とは何か、その目的と対象について、授業の進め方、評価方法などの説明	配布プリントでの復習
	2	現代社会と企業の役割、企業を取り巻く経営環境	企業活動の原理および現代に特徴的な企業活動のあり方、市場と企業との関係について	配布プリントでの復習
	3	市場における企業間の関係	企業同士が取り結ぶ関係、大企業間および大企業と中小企業との関係	配布プリントでの復習
	4	経営戦略とは何か	経営戦略策定の流れ、事業戦略と経営戦略との関係	配布プリントでの復習
	5	経営戦略と経営者の役割	経営者に求められる役割とは何か	配布プリントでの復習
	6	株式会社の仕組み	企業の諸形態の中での株式会社の特徴について	配布プリントでの復習
	7	株式会社制度と企業経営①	株式会社を成り立たせる諸制度および株式市場の機能について	配布プリントでの復習
	8	株式会社制度と企業経営②	株式市場の変化が企業経営に及ぼす影響、コーポレート・ガバナンスについて	配布プリントでの復習
	9	企業組織のデザイン①	企業経営と企業組織との関係	配布プリントでの復習
	10	企業組織のデザイン②	事業環境の変化と企業組織の変遷	配布プリントでの復習
	11	近代企業と経営管理①	現代の大企業はどのように成立したのか	配布プリントでの復習
	12	近代企業と経営管理②	大企業の成立によって、経営管理のあり方はどのように変化したのか	配布プリントでの復習
	13	経営管理の諸理論	企業経営に関する様々な理論の説明	配布プリントでの復習
	14	日本的経営とは何か①	日本企業に特徴的な経営のあり方、日本的経営について	配布プリントでの復習
	15	日本的経営とは何か②	近年における日本的経営の変化について、講義全体のまとめ	配布プリントでの復習

関連科目	中小企業論、国際マーケティング論
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 75%、ミニレポート、授業参加度(質問、感想等) 25%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ニュースや新聞などを通じて、日常的に企業経営に関する知識を得る努力をしてもらおうと、より授業が身近に理解できると思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	経済学の基本的な考え方や用語を理解する。新聞の経済記事が読めるようになる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また、これらと並行して課題を課す。適宜、レジュメを配布する。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	何故経済学を勉強するのか？経済学の対象と経済学的考え方	経済学とは何か、授業の進め方、成績評価について説明する	講義内容の復習
2	大きな社会問題、身近な経済問題 (1)	身近な経済問題について考える 例：なぜ消費税率を上げるの？ なぜ人手不足なのに賃金が上がらないの？	講義内容の復習
3	大きな社会問題、身近な経済問題 (2)	グローバル化が経済にどのような影響を与えているのか考える：インパウンドの増加 (観光)、国際貿易、為替レートなど	講義内容の復習
4	経済学的な発想とは (1)	効率性と公平性	講義内容の復習
5	経済学的な発想とは (2)	需要と供給の世界：ミクロ経済学 1	講義内容の復習
6	ゲスト講師：読売新聞大阪本社 広報宣伝部長・戸田博子氏 「経済記事を楽しもう～新聞の読み方」	経済記事の読み方について、読売新聞大阪本社の広報宣伝部長からレクチャーを受ける	講義内容の復習
7	経済学的な発想とは (3)	需要と供給の世界：ミクロ経済学 2	講義内容の復習
8	経済学的な発想とは (4)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学 1	講義内容の復習
9	経済学的な発想 (5)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学 2	講義内容の復習
10	財政について考える (1)	日本財政の現状、財政赤字の原因と問題点 現代財政の3つの機能	講義内容の復習
11	財政について考える (2)	税について考える	講義内容の復習
12	協力の科学としての経済学	ゲーム理論とは？	講義内容の復習
13	少子高齢化と地域経済	少子高齢化が進む都市と農村の問題について考える	講義内容の復習
14	観光と経済	観光と経済の関係、	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目	マクロ経済学 I・II、ミクロ経済学 I・II
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教養としての経済学	一橋大学経済学部	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スティグリッツ入門経済学第4版	ジョセフ・スティグリッツ	東洋経済新報社
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、レポート(30%)、授業への参加や発表 (10%)に基づく総合評価による。授業への積極的参加 (私語は減点) を高く評価します。
学生へのメッセージ	経済学的考え方の基礎を習得し、経済新聞も読めるようになりましょう。疑問点・わからない点があれば授業中であまいませんので聞いてください。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。授業中に発表 (プレゼンテーション) を求めることもあります。

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1001a0		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	2年次配当科目である、マクロ経済学・ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念や必要な知識を習得し、次学年への準備をおこなう。
授業方法と留意点	基本的にはテキストを中心とした講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを、配付資料を参照しながら解説する。また、これらと並行して小テストや課題を課す予定である。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済学の対象と考え方、学び方	授業の進め方、小テストと課題提出について、成績評価方法、経済記事の読み方、経済指標の探し方、主要経済統計の概説	インターネット活用法、日経新聞活用法、経済データ活用法
2	経済学とは何か	「経世済民」、経済学の歴史概説、生産要素、希少性、一物一価の法則、代替品について	—————
3	需要と供給	市場の仕組みと役割、需要曲線と供給曲線、市場価格、価格弾力性	各種の市場はどこに在るか？
4	経済学の生いたち	「見えざる手」、分業と労働生産性、交換価値、貨幣経済、比較優位	—————
5	失敗する市場	「冷静な頭脳と温かい心情」、効用、セーの法則、限界効用逓減の法則	—————
6	進化する経済学	経済学と科学的手法、経済学の「制度化」、専門化・職業化と有用性 様々な経済主体の最大化問題	—————
7	GDP、豊かさと幸せについて	ケインズの経済学、名目と実質のGDP (国内総生産)、GDP だけでなく豊かさ	—————
8	まとめと中間テスト	第7回までの復習、中間テスト	中間テスト
9	効率性について	官から民へ、市場主義の 1980 年代、効率性と民営化	大きな政府と小さな政府
10	構造改革と効率性	構造改革と規制緩和、バレート効率性、民営化企業	民営化企業の現状と課題
11	市場と政府の役割と限界 (1)	市場主義改革、財政金融政策による景気対策、公共投資と雇用政策、乗数効果	経済政策の有効性
12	市場と政府の役割と限界 (2)	直接税と間接税、消費税、購買力平価、国税と地方税、不況対策としての減税	減税の経済効果
13	戦後日本経済史	戦後復興、高度経済成長、技術革新、変動為替相場移行と石油危機、バブル経済とその崩壊	—————
14	教育問題	制度改革と教育の再生、教育問題の経済的側面	—————
15	持続可能な社会	持続可能な仕組みへの模索、少子高齢化と福祉、地球温暖化とCO2排出規制、気候異変と気候安全保障、食料自給の国際経済	持続的発展への枠組み

関連科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)・中間テスト等 (40%) に基づく総合評価による。
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	質問があれば気軽に来て下さい。
-----------	-----------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 植杉教授室 (経済学部)
------------	--------------------

科目名	経済キャリア入門	科目名(英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHI
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、どのような生き方をしたいかということに連なる問題です。人生の大半を占める職業生活を充実したものにするためには、自分の適性や価値観を知ったうえで職業についての理解を深め、進路を選択していく必要があります。本授業は航空会社やホテルでの実務経験を持つ教員が担当し、企業側からの視点も入れながら、具体的に自分のキャリアについて考えることができるようになることを目指します。
到達目標	観光経済と地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深めること、社会で求められる人材像を理解すること、生涯にわたるキャリアを主体的に考えていく能力を涵養することを目標とします。
授業方法と留意点	授業は配布資料を用いた講義のほか、映像資料なども取り入れてわかりやすく進めていきます。また、学生が主体となるグループディスカッション(演習)も行います。
科目学習の効果(資格)	地域経済と観光経済および国際経済に関連する職業について理解を深めます。また、授業を通して自分自身の価値観や適性を知り、将来像に向かって大学生活を有意義に送るための主体性を身に着けます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	働くということ	働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める	配布資料の復習(1時間)
3	学生と社会人の違いについて	社会人として求められるマナーや態度について講義する	配布資料の復習(1時間)
4	「キャリア・マップ」に挑戦!	適性検査により、物事への取り組み姿勢や自分に向いている職業を知り、今後の大学生活を考えるきっかけとする	配布資料の復習(1時間)
5	職業理解(1)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	課題レポート提出
6	職業理解(2)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	課題レポート提出
7	職業理解(3)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	課題レポート提出
8	SPIに挑戦!	就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する	出題問題の復習(1時間)
9	先輩の体験から学ぶ	経済学部の上級生による大学生活や就活の体験談を聴講する	課題レポート提出
10	能力開発とキャリア	働くうえで必要な能力の開発とキャリアの考え方について理解する	配布資料の復習(1時間)
11	演習:グループディスカッション(1)	与えられたテーマについてグループディスカッションを行う	演習課題レポート準備
12	演習:グループディスカッション(2)	グループディスカッションの結果をレポートにまとめる	演習課題レポート提出
13	社会で求められる人材について	社会で求められる人材について講義する	配布資料の復習(1時間)
14	企業の採用活動	企業の採用活動と人材戦略について講義する	配布資料の復習(1時間)
15	まとめ	授業全体を通してのまとめと補足	配布資料の復習(1時間)

関連科目	観光学入門
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 50%、課題 40%、演習参加および演習課題 10%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	本授業を自分の将来像を描く一助として、目標に向かって有意義な大学生活を送ってほしいと思います。皆さんの授業への積極的な参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 野村教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	経済キャリア入門	科目名(英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、「どのような生き方をしたいか。」を考えることが重要である。 ・時間の余裕がある大学生の時期に、職業に対する自分の適性や価値観を知ることが重要である。 ・本講義では、以下の3つの内容の修得を目的とする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 礼儀、個人間のコミュニケーション力、集団での意志表現力。 (2) 目標管理とスケジュール作成力。 (3) 観光関連、地域関連および国際経済関連産業の職業とそこで求められる人材像の理解。 ・政令指定都市において総務（行政改革、職員研修所、人事）、経理（経営企画）、事業所現場庶務、システム開発部門での実務経験を活かして、組織が求める人材の資質（コンピテンシー）向上の啓発に資する講義を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的の講義内容から、自分のキャリアを主体的に考える習慣を身につけること。 ・決められた課題を期限内に達成する習慣を身につけること。 ・レポート提出回数などを自主管理することで、計画的に課題対応及び就学の習慣をつけること。 ・経済学部学生としてのキャリア形成に必要な考える習慣を身につけること。 <p>以上を到達目標とする。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、教科書を用いた講義を中心に進めるが、参加が必要なコミュニケーションの実践やグループディスカッション(演習)も行う。 ・参加意欲、積極的な意思表示、真摯な受講態度を重視する。 ・他の受講生に迷惑になる行為に対しては、退出を求める等の厳格な対応を行う。 ・授業目的を達成するため、毎回のレポート提出を重視する。
科目学習の効果(資格)	地域、観光および国際経済産業の仕事を理解することと自分自身の価値観や適正を知ることおよび主体的に行動することの重要性を知るとともに、大学生生活を有意義に過ごし、自己の将来像を描ける学習効果を修得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション 教科書内容： <ul style="list-style-type: none"> ・潜在能力を引き出す3つの力。 ・意志力の本能 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容と進め方を講義する。 ・教科書で講義する内容を説明する。 	事前：教科書第1章、第2章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出①
2	<ul style="list-style-type: none"> 【外部講師講演】 ・民間企業の代表取締役社長の講演 ・働くために必要なこと。働き方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める。 ・積極的かつ自立した学外活動の必要性の理解を深める。 	事後：配布資料の復習。アンケート回答②
3	教科書内容： <ul style="list-style-type: none"> ・自制心が筋肉と似ている理由。 ・「人は間違った衝動」を信用する。 ・欲求と幸せと勘違いする理由 	教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第3章、第4章、第5章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出③
4	【演習】 自己理解のための「キャリアマップ」	「キャリアマップ」を使って、自分の性格や適正を知る。	事後：出題問題の復習 レポート提出④
5	【職業理解(1)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑤
6	【職業理解(2)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑥
7	【職業理解(3)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑦
8	【試験体験】 SPIに挑戦！	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する。 ・知識レベルの確認と対策の認識。 ・学習支援センター、資格サポートセンターの活用方法の紹介。 	事後：出題問題の復習
9	【職業理解(3)】 先輩たちと語る。	<ul style="list-style-type: none"> ・内定を得ている4年生の先輩から学生生活や就活について話を聞く。 ・先輩への質問から今後の学習等について気づきを得る。 	事後：感想文提出⑧
10	【演習】 社会で求められる人材について(1) (演習：コミュニケーション能力)	社会で求められる人材能力としてのコミュニケーション演習を行う。	事後：レポート提出⑨
11	【演習】 社会で求められる人材について(2)-1 (演習：グループディスカッション能力)	社会で求められる人材能力としてのグループディスカッション演習を行う。	事後：グループ毎に第12回目発表のグループワークをまとめる 感想文提出⑩
12	【演習】 社会で求められる人材について(2)-2 (演習：グループディスカッション能力)	第11回で実施したグループディスカッション演習の内容をグループワークにまとめる。	事後：グループワークの内容復習 感想文レポート提出⑪
13	教科書内容：	教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第6章、第7章、第8章の熟読と自己

	<ul style="list-style-type: none"> ・気分の落ち込みが挫折に繋がる。 ・快樂の経済学 ・意志力はうつる。 		体験の比較 事後：レポート提出⑫																
14	【講演】 スケジュールリングの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と目標に向かうスケジュールリングの重要性を知る。 ・スケジュールリングの実践を行う。 	事後：配布資料の復習 感想文提出⑬スケジュール表の提出⑬																
15	教科書内容： <ul style="list-style-type: none"> ・「やらない力」の限界 ・自分自身をじっとみつめる。 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書内容に沿って講義する。 ・講義全体を通してのまとめと補足 	事前：教科書第9章、第10章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出⑭																
関連科目	観光学入門 地方自治論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタンフォードの自分を変える教室</td> <td>ケリー・マクゴニカル</td> <td>大和書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について、レポートの作成や感想文を求める。 ・定期試験 (50%) レポート (20%) 受講態度 (30%) で総合評価する。受講態度はレポートの提出回数 12 回以上を厳守する。提出回数は評価に加える。 ・本講義は、説明だけでなく演習などの参加型の場合もあるので、その習熟度結果報告であるレポート、感想文提出を含めた受講態度を重視する。 																		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活ほど多くの時間を有する時間は無い。人生のこの時期に「考える習慣」や「社会と関わる術」などを取得して欲しい。 ・大学生生活を有意義に過ごす行動指針に活用して欲しい。 ・提出物に質問や意見を記載する自由記入欄を必ず設けるので、意見がある場合は、そこに記入してください。 ・演習や動画感想など講義に出席しないとレポート作成することができない場合があるので必ず出席してください。 <p>・政令指定都市で30年間複数の部局で勤務し、職員から管理職に到るまでの経験から組織に必要な人材のコンピテンシーに関する実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進捗に関わらず、選定した教科書を熟読し、自己体験と比較する習慣を勧める。 ・納得できる内容とそうでない内容について、しっかりと認識し、レポートで表現できることを目指す。 ・騒ぐなど他の受講生に迷惑を及ぼす場合は、退席などを求める。 																		

科目名	経済思想史	科目名(英文)	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	古代・中世の経済思想にも触れた上で、近代から現代にいたる経済思想の歴史を概説し、最後に日本の現実にもどって、経済思想と経済理論の意義について考える。経済学を学習するために必要な経済思想・経済学説・経済学者についての基礎知識を与えることを目的とする。
到達目標	抽象的に思われる思想や理論を社会・歴史の現実と結びつけて考える習慣が身につくこと。
授業方法と留意点	教科書に基本的に従いつつ、スライドを用いた講義を主とする。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学・マクロ経済学・社会経済学の基礎となる知識の習得と経済史、経済思想史への入門

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済思想史への招待	経済思想とは何か、それをなぜ学ぶ必要があるのか	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
2	古代・中世の経済思想	古代・中世の人びとは経済をどのように考えていたか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
3	近代の経済思想(アダム・スミス)	「経済学の父」スミスはどのようなことを主張したか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
4	近代の経済思想(マルサス)	人口と経済はどのように関係するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
5	近代の経済思想(リカード)	なぜ貿易が行われるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
6	近代の経済思想(ユートピア社会主義)	貧困や格差をどう解決すべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
7	近代の経済思想(マルクス)	資本主義の矛盾とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
8	近代の経済思想(19世紀の経済学)	現代のミクロ経済学はどのように作られたか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
9	近代の経済思想(ヴェブレン)	資本主義の特徴は何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
10	現代の経済思想(ケインズ)	不況にどう対処すべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
11	現代の経済思想(シュンペーター)	新結合(イノベーション)とは何か、資本主義はどうなるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
12	現代の経済思想(現代経済学)	現代の経済学で「思想」はどのような役割を果たしているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
13	日本の経済思想(近世)	江戸時代の日本の経済思想はどのようなものだったのか	事後：授業の復習
14	日本の経済思想(近現代)	明治から現代までの日本ではどのような経済思想があり、どのように時代と関係してきたのか	事後：授業の復習
15	まとめ	経済学(者)は思想から無縁でいられるか	事後：授業の復習

関連科目	経済学入門(エコノミックリテラシー)、西洋経済史、日本経済史、ミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済思想史 世俗的思想家たち	R. L. ハイブローナー	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	増補改訂版 福祉の経済思想家たち	小峯敦編	ナカニシヤ出版
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(80%)および中間レポート(20%)で評価する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	経済学は多くの人たちの努力によって作られてきました。その歴史を知ることで今の経済学や経済についても理解が深まります。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	授業時間以外に、予習復習および中間レポート作成のために合計で20時間以上の学習をすることが望ましい。
----	--

科目名	経済思想史	科目名(英文)	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1018a0		

授業概要・目的	古代・中世の経済思想にも触れた上で、近代から現代にいたる経済思想の歴史を概説し、最後に日本の現実にもどって、経済思想と経済理論の意義について考える。経済学を学習するために必要な経済思想・経済学説・経済学者についての基礎知識を与えることを目的とする。
到達目標	抽象的に思われる思想や理論を社会・歴史の現実と結びつけて考える習慣が身につくこと。
授業方法と留意点	教科書に基本的に従いつつ、スライドを用いた講義を主とする。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学・マクロ経済学・社会経済学の基礎となる知識の習得と経済史、経済思想史への入門

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済思想史への招待	経済思想とは何か、それをなぜ学ぶ必要があるのか	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
2	古代・中世の経済思想	古代・中世の人びとは経済をどのように考えていたか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
3	近代の経済思想(アダム・スミス)	「経済学の父」スミスはどのようなことを主張したか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
4	近代の経済思想(マルサス)	人口と経済はどのように関係するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
5	近代の経済思想(リカード)	なぜ貿易が行われるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
6	近代の経済思想(ユートピア社会主義)	貧困や格差をどう解決すべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
7	近代の経済思想(マルクス)	資本主義の矛盾とは何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
8	近代の経済思想(19世紀の経済学)	現代のミクロ経済学はどのように作られたか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
9	近代の経済思想(ヴェブレン)	資本主義の特徴は何か	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
10	現代の経済思想(ケインズ)	不況にどう対処すべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
11	現代の経済思想(シュンペーター)	新結合(イノベーション)とは何か、資本主義はどうなるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
12	現代の経済思想(現代経済学)	現代の経済学で「思想」はどのような役割を果たしているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
13	日本の経済思想(近世)	江戸時代の日本の経済思想はどのようなものだったのか	事後：授業の復習
14	日本の経済思想(近現代)	明治から現代までの日本ではどのような経済思想があり、どのように時代と関係してきたのか	事後：授業の復習
15	まとめ	経済学(者)は思想から無縁でいられるか	事後：授業の復習

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)、西洋経済史、日本経済史、ミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済思想史 世俗的思想家たち	R. L. ハイブローナー	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	増補改訂版 福祉の経済思想家たち	小峯敦編	ナカニシヤ出版
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験(80%)および中間レポート(20%)で評価する。

学生へのメッセージ 経済学は多くの人たちの努力によって作られてきました。その歴史を知ることで今の経済学や経済についても理解が深まります。

担当者の研究室等 1号館7階 牧野准教授室(経済学部)

備考 授業時間以外に、予習復習および中間レポート作成のために合計で20時間以上の学習をすることが望ましい。

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	OPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業の目的は、経済学の学習に役立つ情報処理の方法を身につけること。
到達目標	この授業を履修することによって、次のスキルを習得できる。①電子メールやインターネットの利用方法。とりわけ、経済に関連するデータや情報をネットワークで検索・収集する能力を習得する。② Microsoft Word を学習することによって、レポートや卒業論文などを作成に必要なスキルを身につける。③ Microsoft Excel を学習することによって、表の作成とデータ分析の基礎をマスターする。④ Microsoft PowerPoint を学習することによって簡単なプレゼンテーションができる。
授業方法と留意点	各種の応用ソフトウェアを使った演習を行う。
科目学習の効果(資格)	この授業で習得した情報処理のスキルは、大学生活だけではなく社会人として働くときにも役に立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	大学の情報環境(解説); Windows の操作など(演習)	授業後、アンケートを実施。
	2	コンピューターのしくみと文書入力	コンピューターのしくみや二進数と十進数など(解説); ファイル操作、日本語テキスト入力(演習)	授業後、課題の提出
	3	電子メールの利用とインターネットの基礎	インターネットの利用とネット接続(解説); 電子メールの使い方(演習)	授業後、課題の提出
	4	情報セキュリティと情報検索	情報セキュリティと著作権(解説); インターネットで図書、文献、経済データなどの検索方法(演習)	授業後、課題の提出
	5	Microsoft Word (I)	Word の概要と書式の設定(解説); Word による文書作成(演習)	授業後、課題の提出
	6	Microsoft Word (II)	図表の作成、文章の表現力アップの方法(解説); Word による文書作成(演習)	授業後、課題の提出
	7	Microsoft Word (III)	大学レポートの作成方法(解説); Word による課題の提出(演習)	授業後、課題の提出
	8	Microsoft Excel (I)	Excel の概要とデータの作成(解説); Excel によるデータの作成(演習)	授業後、課題の提出
	9	Microsoft Excel (II)	表とグラフの作成とデータベース機能(解説); Excel による表とグラフの作成(演習)	授業後、課題の提出
	10	Microsoft Excel (III)	様々な関数の利用(解説); Excel によるデータ処理(演習)	授業後、課題の提出
	11	Microsoft Excel (IV)	簡単な統計分析の方法(解説); データに基づく初歩的な統計分析を行う(演習)	授業後、課題の提出
	12	Microsoft PowerPoint (I)	PowerPoint の概要とスライド作成(解説); PowerPoint によるスライド作成(演習)	
	13	Microsoft PowerPoint (II)	プレゼンテーションの要領とポイント(解説); PowerPoint によるプレゼンテーション作成(演習)	授業後、課題の提出
	14	経済統計情報の利用と Word、Excel、Powerpoint の連携	経済学の勉強に必要な経済データの収集方法(解説); Word、Excel、Powerpoint の連携(演習)	授業後、課題の提出
15	総まとめとプレゼンテーション	全体の総括(解説); これまでに学んだ知識に基づき、簡単なプレゼンテーションを行う(演習)		

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013	杉本くみ子 大澤栄子	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業での提出課題 50%、期末レポート 50%の割合で総合的に評価する。ただし、無断欠席が 3 回以上ある場合には、成績評価できない。

学生へのメッセージ 経済学を学習するには情報処理の能力が不可欠である。毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。

担当者の研究室等 1 号館 7 階 郭准教授室(経済学部)

備考

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	経済学を学習する上で不可欠な、パソコンによる情報処理の基礎を学び、経済学の学習や経済分析に役立つ情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法を身につけることを目標とする。より具体的には、①電子メール・ウェブサイトの利用法、②Microsoft Word による文書・レポート作成、③Microsoft Excel による表作成・基礎的データ分析、④Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーション法、⑤ネットを活用した経済情報の収集と分析について学ぶ。
到達目標	授業で取得した情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法をもとに、経済情報収集と分析能力をスムーズに行い、その成果をレポートやプレゼンテーション、また卒業論文の作成などとしてまとめることができる。
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら授業を行う(実習形式)。
科目学習の効果(資格)	パソコンによる情報収集、レポート作成やプレゼンを通して、自分の考えを正確かつ効果的に他者に伝えることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	大学の情報環境について。Windowsの基礎	授業後、課題の提出
	2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出
	3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出
	4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出
	5	Microsoft Word②	数式の入力と表作成	授業後、課題の提出
	6	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出
	7	Microsoft Excel②	表・グラフの作成とデータベース機能	授業後、課題の提出
	8	Microsoft Excel③	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出
	9	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要とスライド作成	授業後、課題の提出
	10	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーションの要領と資料作成	授業後、課題の提出
	11	経済統計情報の利用	インターネット上から得たデータを使い、初歩的な統計データの加工を行う	授業後、課題の提出
	12	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出
	13	日本の経済政策を学ぶ	政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る	授業後、課題の提出
	14	経済情報にアクセスする	インターネット上でさまざまな経済情報を取得する	授業後、課題の提出
	15	レポートの作成	これまで得た情報から、レポートを作成する	授業後、課題の提出

関連科目 特になし。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末レポート50%、授業内での課題50%を総合的に評価する
学生へのメッセージ	分からない点などは、遠慮なく積極的に質問するようにしてください。
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
備考	

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H I J K L M N
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学の学習においても、社会に出てからの仕事においても、パソコンの基本的な技能は必要です。むしろ、「使えることが前提」となっていることが多いかもしれません。とはいえ、パソコンを使ってプログラミングをする、計量分析ソフトを使って複雑な数式からなるモデルをもとに分析をする、といったことが求められているわけではありません。求められているものは、文書作成ソフト（Word など）、表計算ソフト（Excel など）、プレゼンテーションソフト（PowerPoint など）の基本的な使い方です。また、インターネットを活用したデータ収集も重要です。この講義では、実習を中心として、これらの基本的なパソコンの使い方を学びます。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本的な使い方を修得する。 2. インターネットを利用したデータ収集の方法を修得する。 3. 文書作成ソフトを用いたレポート作成方法を学ぶ。 4. 表計算ソフトを用いて、簡単なデータ処理を学ぶ。 5. プレゼンテーションソフトの使い方を修得する。 																																																																		
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら、講義を進めていきます。また、テーマを各自で設定した上で、プレゼンテーションソフトを用いて、(グループ単位で) 実際に発表をしていただきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学の授業やゼミに必要なパソコンの技能や情報収集の仕方を修得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>大学の情報環境やパソコンの基本的な使い方について</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データや資料の検索</td> <td>経済データや経済関係の資料の検索方法など</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文書作成ソフトの使い方①</td> <td>Word を利用した文書の作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文書作成ソフトの使い方②</td> <td>Word による手紙の作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文書作成ソフトの使い方③</td> <td>その他の便利な使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>表計算ソフトの使い方①</td> <td>Excel でできること、セルの参照、グラフの作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表計算ソフトの使い方②</td> <td>Excel で計算できる基本統計量</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>表計算ソフトの使い方③</td> <td>Excel の各種関数について：便利な使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>表計算ソフトの使い方④</td> <td>Excel を使った基本統計量の計算</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>表計算ソフトの使い方⑤</td> <td>Excel を使った簡単なデータ分析</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>表計算ソフトの使い方⑥</td> <td>Excel のその他の便利な使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーションソフトの使い方①</td> <td>PowerPoint の概要</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーションソフトの使い方②</td> <td>PowerPoint を使った、プレゼンテーション資料の作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション実習①</td> <td>グループ単位で実施します。</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション実習②</td> <td>グループ単位で実施します。</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	大学の情報環境やパソコンの基本的な使い方について	授業後、課題の提出	2	データや資料の検索	経済データや経済関係の資料の検索方法など	授業後、課題の提出	3	文書作成ソフトの使い方①	Word を利用した文書の作成	授業後、課題の提出	4	文書作成ソフトの使い方②	Word による手紙の作成	授業後、課題の提出	5	文書作成ソフトの使い方③	その他の便利な使い方	授業後、課題の提出	6	表計算ソフトの使い方①	Excel でできること、セルの参照、グラフの作成	授業後、課題の提出	7	表計算ソフトの使い方②	Excel で計算できる基本統計量	授業後、課題の提出	8	表計算ソフトの使い方③	Excel の各種関数について：便利な使い方	授業後、課題の提出	9	表計算ソフトの使い方④	Excel を使った基本統計量の計算	授業後、課題の提出	10	表計算ソフトの使い方⑤	Excel を使った簡単なデータ分析	授業後、課題の提出	11	表計算ソフトの使い方⑥	Excel のその他の便利な使い方	授業後、課題の提出	12	プレゼンテーションソフトの使い方①	PowerPoint の概要	授業後、課題の提出	13	プレゼンテーションソフトの使い方②	PowerPoint を使った、プレゼンテーション資料の作成	授業後、課題の提出	14	プレゼンテーション実習①	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出	15	プレゼンテーション実習②	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	大学の情報環境やパソコンの基本的な使い方について	授業後、課題の提出																																																																
2	データや資料の検索	経済データや経済関係の資料の検索方法など	授業後、課題の提出																																																																
3	文書作成ソフトの使い方①	Word を利用した文書の作成	授業後、課題の提出																																																																
4	文書作成ソフトの使い方②	Word による手紙の作成	授業後、課題の提出																																																																
5	文書作成ソフトの使い方③	その他の便利な使い方	授業後、課題の提出																																																																
6	表計算ソフトの使い方①	Excel でできること、セルの参照、グラフの作成	授業後、課題の提出																																																																
7	表計算ソフトの使い方②	Excel で計算できる基本統計量	授業後、課題の提出																																																																
8	表計算ソフトの使い方③	Excel の各種関数について：便利な使い方	授業後、課題の提出																																																																
9	表計算ソフトの使い方④	Excel を使った基本統計量の計算	授業後、課題の提出																																																																
10	表計算ソフトの使い方⑤	Excel を使った簡単なデータ分析	授業後、課題の提出																																																																
11	表計算ソフトの使い方⑥	Excel のその他の便利な使い方	授業後、課題の提出																																																																
12	プレゼンテーションソフトの使い方①	PowerPoint の概要	授業後、課題の提出																																																																
13	プレゼンテーションソフトの使い方②	PowerPoint を使った、プレゼンテーション資料の作成	授業後、課題の提出																																																																
14	プレゼンテーション実習①	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出																																																																
15	プレゼンテーション実習②	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出																																																																
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末レポート 50%、授業内での課題 50%を総合的に評価します。5回以上欠席した人は期末レポートの採点対象外とします。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	経済地理	科目名 (英文)	Economic Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1009a0		

授業概要・目的	<p>経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめる、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉は TPP 交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。</p>																																																																		
到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義ガイダンス</td> <td>講義概要、教科書紹介</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の大企業のグローバル化と中小企業</td> <td>教科書 第1章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム</td> <td>教科書 第2章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制</td> <td>教科書 第3章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アメリカ企業・政府によるグローバル化</td> <td>教科書 第4章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本の流通の再編と寡占化</td> <td>教科書 第5章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地球環境問題</td> <td>教科書 第7章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>グローバル化のもとの日本の労働者の状態</td> <td>教科書 第8章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本における外国人労働者</td> <td>教科書 第9章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>労使関係の日本—スウェーデン比較</td> <td>教科書 第13章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料</td> <td>教科書 第10章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域間格差の拡大と日本財政</td> <td>教科書 第11章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グローバル化と税制改革</td> <td>教科書 第12章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代資本主義の特徴と日本社会</td> <td>教科書 序章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—	2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習	3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習	4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習	5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習	6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習	7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習	8	グローバル化のもとの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習	9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習	10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習	11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習	12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習	13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習	14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習	15	まとめ		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—																																																																
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習																																																																
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習																																																																
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習																																																																
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習																																																																
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習																																																																
7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習																																																																
8	グローバル化のもとの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習																																																																
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習																																																																
10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習																																																																
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習																																																																
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習																																																																
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習																																																																
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習																																																																
15	まとめ																																																																		
関連科目	国際経済学入門、日本経済論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響</td> <td>豊福裕二編</td> <td>文理閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末レポート (100%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室 (経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	計量経済学	科目名(英文)	Econometrics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2026a0		

三題斬(こばなし)ではありませんが、まず次の1~3を読んでみましょう。

1. 近年、人工知能(AI)というものが注目されています。その応用として、囲碁や将棋のソフトが開発され、実際に棋士と対戦しています。この人工知能には、棋譜であらわされた対戦データを使って、囲碁や将棋の戦い方を学習させています。
2. 全国高等学校野球選手権大会(いわゆる「夏の甲子園」)の全国大会には、東京都・北海道を除いて、原則として各府県から1校ずつ出場します。このしくみの下では、人口の少ない県からは甲子園の全国大会に出場しやすい(それでも大変なことですが)ため、「野球留学」をする生徒が多い、といわれています。
3. このシラバスを執筆している時点(2019年1月後半)では、1ヶ月前と比べて(対米ドルで)円高が進んでいます。円高になると日本の製造業に打撃に、円安になると追い風になる、とよく言われます。そのため、円相場が動くと日本経済の先行きがいろいろと論じられます。

さて、一見まったく関係のないように思えるこれら3つの話ですが、「回帰分析」という共通のキーワードがあります。その成り立ちや使い方を習得することが、この「計量経済学」の重要な目的です。

到達目標
この講義では、数学、統計学、経済学を融合した学問分野である、計量経済学の基本を習得します。特に、最小二乗法に代表される回帰分析と、必要な統計学の基礎知識(検定・推定など)、そして経済データの特性について理解を深め、「統計学」の内容よりもより進んだ知識を身に付けます。

授業方法と留意点
基本的にテキストに従って講義を進めますが、講義中にデータ実習、練習問題および調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作、イヤホンで音楽などを聴くこと、を禁止します(常識の範囲内ですが)。
この科目の性質上、どうしてもある程度の数学を使うことは避けられません。必要な数学知識は講義中に解説します。

科目学習の効果(資格)
回帰分析など、基本的なデータ処理の方法が理解できるようになります。また統計学や回帰直線に関する知識は、ITパスポート試験や基本情報技術者試験でも問われています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	計量経済学とは	計量経済学の概要について説明します。この講義のイントロダクションです。	教科書第1章・講義資料(1)
2	データの整理①: 統計的記述	統計学の基本として、まず経済データの種類について説明し、続いてデータの特性をどうあらわすか、について説明します。	教科書第2章・講義資料(2)
3	データの整理②: 母集団と標本	母集団と標本は、データを使った分析を進める際に、基本中の基本となる概念です。ここでは母集団と標本の違い、および分布について説明します。	教科書第2章・講義資料(3)
4	統計的推測: 推定と検定	データ(標本)から母集団の特徴を推測する方法が推定・検定です。統計的な推論のキーとなる概念です。	講義資料(4)
5	最小二乗法①	計量経済学の中心的要諦とも呼べる、回帰分析について解説します。ここではその基本である最小二乗法について扱います。	教科書第3章・講義資料(5)
6	最小二乗法②	最小二乗法で推定した結果について、その妥当性を検証する方法(決定係数など)について解説します。また応用例も紹介します。	教科書第3章・講義資料(6)
7	単回帰分析①	分析のために必要な各種推論(基準化変量、偏差値、正規分布、t分布など)について解説します。	教科書第4章・講義資料(7)
8	単回帰分析②	最小二乗法で推定した推定量には、優れた特徴があります。ここではそれらの検定方法などについて解説します。	教科書第4章・講義資料(8)
9	単回帰分析③	モデルの仮定や最小二乗推定量の特徴について解説します。また、実証分析例も紹介します。	教科書第4章・講義資料(9)
10	多重回帰分析の基礎①	説明変数の数を増やしたケースについて解説します。実証例も紹介いたします。	教科書第5章・講義資料(10)
11	多重回帰分析の基礎②	多重回帰分析における推定結果の解釈や、注意すべき点について解説します。実証分析の例も紹介します。	教科書第5章・講義資料(11)
12	価格指数・デフレータ他	物価をあらわすデータである、物価指数やデフレータについて解説します。また名目変数と実質変数の違いについても扱います。	教科書第6章・講義資料(12)
13	多重回帰分析の拡張	ダミー変数、ラグ変数などの多重回帰分析における重要な応用について解説します。また、重要な問題点である多重共線性についてもここで扱います。	教科書第7章・講義資料(13)
14	F検定	複数の係数の推定値を同時に検定する手法である、F検定について解説します。	教科書第8章・講義資料(14)
15	まとめ	これまでの学習の復習と期末試験に関する告知	これまでの配布資料

関連科目 「統計学」「経済情報論」で学んだ内容を事前に復習しておいてください。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 計量経済学 Excel による実証分析のガイド	山本拓・竹内明香	新世社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	4回実施する宿題(40%)、期末試験(60%)を総合的に評価します。5回以上欠席した人は期末試験の採点対象外とします。			
学生への メッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。 なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。 積み重ねが大切なので、きちんと出席し、復習をしてください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 小塚研究室			
備考				

科目名	ゲーム理論	科目名(英文)	Game Theory
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3025a0		

授業概要・目的	ゲーム理論は、経済学のみならずあらゆる分野で応用されており、いまや、ものごとを戦略的・論理的に考える基本的な技術といってよいでしょう。ただし、その基本的な方法を習得し、これらに応用するには一定の練習が必要です。本講義では、経済学でも頻りに適用される非協力ゲームに絞り、基本的な概念の理解と、応用力を身につけるための問題演習に重点を置きます。
到達目標	最終的には、ゲーム理論を利用して戦略的思考を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は、ほぼ隔週で小テストを実施します。小テストの得点は、成績評価に係りますので、必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	他の経済学等の科目(特に「マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」)の学習・理解に資する内容です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ゲーム理論とは何か	イントロダクションとしてマイクロ経済学的発想の解説、及びゲーム理論のマイクロ経済学への応用例を示します。	授業内容の確認・復習
2	非協力ゲーム 1-1 戦略の支配とナッシュ均衡	標準型ゲーム、純粋戦略、囚人のジレンマ、被支配戦略の逐次消去	授業内容の確認・復習
3	非協力ゲーム 1-2 混合戦略(1)	ナッシュ均衡、混合戦略	確認テスト1(1~2回までの範囲)
4	非協力ゲーム 1-3 混合戦略(2)	混合戦略に関する具体例による演習(復習及び解説) クールノー・モデルなど	授業内容の確認・復習
5	非協力ゲーム 1-4 ゼロ和ゲーム(1)	定和ゲーム、ゼロ和ゲーム、マクスマニ戦略、ミニマクス定理	確認テスト2(3~4回までの範囲)
6	非協力ゲーム 1-5 ゼロ和ゲーム(2)	ゼロ和ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説)	授業内容の確認・復習
7	非協力ゲーム 2-1 展開型ゲーム(1)	展開型ゲーム、ゲームの木、展開型ゲームの戦略型表現	確認テスト3(5~6回までの範囲)
8	非協力ゲーム 2-2 展開型ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、局所戦略	授業内容の確認・復習
9	非協力ゲーム 2-3 展開型ゲーム(3)	展開型ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説) チェーンストア・パラドクスなど	授業内容の確認・復習
10	非協力ゲーム 2-4 展開型ゲーム(4)	繰り返しゲーム(有限回)	確認テスト4(7~9回までの範囲)
11	非協力ゲーム 2-5 展開型ゲーム(5)	繰り返しゲーム(無限回)、トリガー戦略	授業内容の確認・復習
12	非協力ゲーム 3-1 情報不完備なゲーム(1)	ベイジアンゲーム、ベイジアン=ナッシュ均衡	確認テスト5(10~11回までの範囲)
13	非協力ゲーム 3-2 情報不完備なゲーム(2)	完全ベイジアン均衡 自然 信念 一括均衡 分離均衡	授業内容の確認・復習
14	非協力ゲーム 3-3 情報不完備なゲーム(3)	公共財、逆選択	確認テスト6(12~13回までの範囲)
15	講義のまとめと今後の学習に関するガイダンス	講義のまとめとして基本的な概念の確認と、講義内で扱えなかったさらなるトピックスについて概説します。	期末テストの学習

関連科目 特に「マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」その他多数

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 各授業での小テスト約40%、定期試験約60%で総合評価します。

学生へのメッセージ 継続的な演習を促すために、小テストを重視します。数学的な式に不安な場合でも、適宜解説を行いながらゆっくり進めます。

担当者の研究室等 1号館7階 植杉教授室(経済学部)

科目名	現代ファイナンス論	科目名(英文)	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3064a0		

授業概要・目的	この講義では、「コーポレート・ファイナンス」とよばれる、企業財務に関する学問分野を扱います。企業財務とは、必要な資金をどこから調達するか、そして回収した資金をどのように使うか、といった点にかかわる事務手続きのことを指します。この分野は比較的新しいものであり、日本の大学教育に本格的に導入されたのは2000年代に入ってからです。しかしその重要性は増してきており、新聞記事でもこの分野の関するものは多く見られるようになってきています。 この講義では、企業財務の戦略を考える上で欠かせない一般的な基礎理論を解説します。 この他、1コマを使って実務家をゲストスピーカーとして招聘し、企業財務の実務について講義をしていただく予定です。
到達目標	コーポレート・ファイナンスの基本的な項目を理解・修得し、企業財務の問題に取り組む際にどのような点に着目すればよいか、判断できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	企業財務に関する基本的な理論や考え方を習得します。金融関係科目の他に簿記会計の基本的な知識があると、学習の大きな助けになります。また、割引率や複利の計算があるので、基本的な数学の知識が必要です。なお、講義では練習問題(計算実習)を解くので、電卓は必携です。
科目学習の効果(資格)	コーポレート・ファイナンスに関する基本的な概念や、企業の資金調達および投資判断の決定過程についての理解が深まります。また、本講義では明示的に取り扱いませんが、証券アナリストの試験内容とも関連があります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに:この講義で学ぶこと	授業内容の概要、注意事項の説明、イントロダクション	シラバスをよく読んでおくこと
2	キャッシュフローの現在価値と将来価値	現在価値・将来価値の考え方の基本(ファイナンスの基本中の基本)	教科書1章
3	評価の基本原則	現在価値から評価をする際の基本項目	教科書2章
4	債券の評価	現在価値の考え方の債券への応用	教科書3章
5	株式の評価	現在価値の考え方の株式への応用	教科書4章
6	企業価値の評価	現在価値の考え方の企業価値への応用	教科書5章
7	企業の設備投資決定	企業の設備投資判断について	教科書6章
8	企業の資本構成	バランスシートの基本について	教科書7章
9	リスクとリターン①	数列など必要となる数学の基礎	教科書8章
10	リスクとリターン②	微分、確率変数など必要となる数学の基礎	教科書9章、11章
11	企業財務の実務について	大手企業の財務担当者をゲストスピーカーとして招聘し、新興国での実務について講義をしていただく予定です。	
12	リスクとリターン③	債券投資の理論について	教科書10章
13	ポートフォリオ理論	2つ、および3つ以上の資産を考慮した場合の最適な資産保有について	教科書12章
14	資本資産価格評価モデル	平均・分散アプローチの基本	教科書13章
15	講義のまとめ	これまでの復習 期末試験に関する告知	これまでの講義内容

関連科目	金融論
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門	手嶋宣之	ダイヤモンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(100%)で評価します。5回以上欠席した人は期末試験の採点対象外とします。
----------	--

学生へのメッセージ	教科書を持っていることを前提に講義を進めます。教科書は必ず購入してください。 疑問が生じたら、講義中、講義後問わず、積極的に質問してください。また講義中の練習問題にも積極的に取り組んで下さい。 積み重ねが大切なので、きちんと出席し、復習をしてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 小塚研究室
------------	-------------

科目名	公益会計論	科目名(英文)	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎、DP2◎、DP3◎、DP4○、DP5◎、DP6○、DP7○、DP8○、DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3070a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。 その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公(益)会計処理について理解する。 <p>・政令指定都市における一般会計、公営企業会計の部署での予算・決算調書、市議会答弁作成・実施等の経験を活かして公益会計が市民への説明責任を果たすべき仕組みであるとの視点から、あるべき方向性を考察する実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。 国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。 両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。 今後検討されている国や地方自治体業務の国民への説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている。 地方自治体も経営責任が重視される。そこで新しい公会計では、民間企業と同様に発生主義、複式簿記の処理を求められつつある新しい公会計処理について講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。 複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			配布資料	「読む」
1	公益会計(公会計)とは簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料	「作る」-簿記の常識
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料	「読む」-会計の常識
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書	第1章 公会計の基礎
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書	第2章 財務報告
5	財務諸表の構成要素-資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書	第3章 財務諸表の構成要素(1)-資産と負債
6	財務諸表の構成要素-収益と費用	(収入、歳入)と(支出、歳出)について講義する。	教科書	第4章 財務諸表の構成要素(2)-収益と費用
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書	第5章 公的部門の業績評価
8	中央政府会計-我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書	第6章 中央政府会計(1)-我が国の中央政府会計制度
9	中央政府会計-会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書	第7章 中央政府会計(2)-会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要
10	地方政府会計-我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書	第8章 地方政府会計(1)-我が国の地方自治体会計の概要
11	地方政府会計-新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書	第9章 地方政府会計(2)-新公会計改革と財政健全化法
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。		第11回までの資料等
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書	第10章 公営企業会計
14	各国の政府会計-アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA(政府業績評価法)について講義する。	教科書	第11章 各国の政府会計(1)-アメリカ
15	各国の政府会計-イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書	第12章 各国の政府会計(2)-イギリス

関連科目 地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目
地方自治論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公会計	稲沢克祐	同分館出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公会計改革 ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会議	日本経済新聞社
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。

学生へのメッセージ

- 公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義である。
- 民間企業の会計処理との比較も行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・税金がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。 ・簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。 ・勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。日商簿記3級程度の勘定科目と仕分け処理の関係を理解している必要があります。 <p>・政令指定都市での30年間の一般会計部局、公営企業会計部局等での経験から単式簿記、複式簿記及び実現主義、発生主義の視点での会計処理の比較により今後の公会計の目指すべき内容についての実践的な教育を行う。</p>
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)
備考	

科目名	公共経済学	科目名(英文)	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3069a0		

授業概要・目的	社会には市場メカニズムだけでは実現できない社会全体の利益が存在します。その実現のためには公的部門の活動が不可欠です。この講義では、我々のライフサイクルの諸現象（特に社会保障の問題）を追いながら、それを支える制度を経済学の視点から説明していきます。
到達目標	次の項目について説明できて、必要に応じて計算できることを目標とする。 ・公共経済学の基礎的理論。 ・社会保障制度（教育、雇用保険、労災保険、年金、医療、社会保険など） ・講義の知見から自身の今後のライフイベントとその対処策を考えることができる。 ・現代日本で起こっている社会保障の問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	・板書による講義形式で授業を進めます。 ・講義内容を直感的に理解できるように視聴覚教材を利用することもあります。 ・Moodleを利用した理解度チェックや小テストを実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）することができる。 ・自身の人生とライフイベントを客観視できるようになり、キャリア形成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、授業内容の全体像について説明します。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
2	ライフサイクルと社会保障制度	生涯から死までのライフサイクル(ライフサイクル仮説)と社会保障の関わりについて学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
3	少子高齢化問題	人口統計を確認し、人口減少社会における社会保障制度のあり方を学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
4	人生前半の社会保障(1)	幼児教育から中等教育まで、なぜ教育は行われるのかを考えます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
5	人生前半の社会保障(2)	人はなぜ進学するのか。高等教育の社会的意味を考えます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
6	社会保険制度(1)	民間医療保険を題材にして逆選択の概念について学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
7	社会保険制度(2)	社会保険制度が雇用・賃金に与える影響について学習します。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
8	失業	労働市場の均衡と失業理論について学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
9	雇用保険・労災保険	雇用保険と労災保険について学び、就労期のセーフティネットのあり方について、考えます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
10	公的年金制度	公的年金制度の内容について学び、人生100年時代の資産形成について考えます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
11	医療保険制度	医療保険制度について、逆選択の理論を復習しながら説明します。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
12	公共経済学の理論	市場均衡は最適な資源配分を実現するかどうかを解説します。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
13	公共経済学の理論	公害はなぜ起こるのかを例に外部性の概念について学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
14	公共経済学の理論	公的年金を題材にして不確実性の概念について学びます。	(事前)事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、公共経済学の基本的な考え方を復習します。	(事前)これまでの配付資料を読み、ノートの整理を行う(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。

関連科目	労働経済学, 公共政策論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (70%) ・授業中に実施する小テストないしチェックテスト (30%) ・出席日数が不足する者は, 単位取得の資格を失う場合があります。 			
学生への メッセージ	ライフサイクルの諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。公的部門が行う政策とそれによって形作られる法律と制度の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか, 経済学的思考で考えてください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平尾研究室 (経済学部)			
備考				

科目名	公共政策論	科目名(英文)	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。公共政策論では政府の役割を理論的に学ぶのに対し、財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学びます。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習
	2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習
	3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習
	4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習
	5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
	6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習
	7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習
	8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの復習
	9	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習
	10	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
	11	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
	12	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習
	13	地域間再分配政策	国から地方への補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
	14	1~13回目の授業に関する練習問題	1~13回目の授業に関する練習問題を解説する。	講義ノートの復習
15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習	

関連科目	ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)で評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	公共政策論	科目名(英文)	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2028a0		

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。公共政策論では政府の役割を理論的に学ぶのに対し、財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学びます。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習
	2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習
	3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習
	4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習
	5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
	6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習
	7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習
	8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの復習
	9	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習
	10	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
	11	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
	12	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習
	13	地域間再分配政策	国から地方への補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
	14	1~13回目の授業に関する練習問題	1~13回目の授業に関する練習問題を解説する。	講義ノートの復習
	15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目	ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)で評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	航空産業論	科目名(英文)	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3045a0		

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されます。航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設・撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。この授業は航空会社で実務経験のある教員が担当し、具体例を交えながら、わかりやすく説明することによって、航空産業の全体像を理解することを目的とします。
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。
科目学習の効果(資格)	観光産業の主要産業である航空産業の全体像を理解することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			配布資料の復習	発展学習
1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
4	低コスト航空会社(LCC)	台頭著しいLCCについて講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
5	航空会社間の連携(アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
8	地球環境	航空と地球環境の関わりについて講義する 小テスト	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
10	航空運賃とレベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
11	CSとブランド戦略	航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
12	CRSとIT戦略	航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
13	マイレージとデータベースマーケティング	航空会社にとってのFFPの役割を講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)
15	これからの航空産業 まとめと補足	これからの航空産業のあり方について講義する 課題レポート	配布資料の復習 (1時間)	発展学習 (1時間)

関連科目	観光学入門、観光ビジネス英語
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 50%、小テスト 30%、課題レポート 20%
----------	------------------------------

学生へのメッセージ
LCCの躍進が話題にのぼることが多い現在、航空産業の動向に興味を持っている人は多いのではないのでしょうか。変化の著しい航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。

担当者の研究室等
1号館7階 野村教授室(経済学部)

備考

科目名	交通経済論	科目名(英文)	Economic Analysis of Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3067a0		

授業概要・目的	観光経済・地域経済・国際経済に欠かせない交通を経済学を用いて分析できるようになることを目標にする。
到達目標	交通の経営、交通政策に理解を深める。
授業方法と留意点	教科書に基づきスライドにより講義を行う。授業内容に応じて授業内で10分程度計算問題の演習を行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	関係する業界・公務員等の仕事に関心を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、経済学の復習	授業にあたって必要となる経済学の復習	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
2	交通とは何か	交通サービスの特殊性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
3	交通データの分析	交通のデータの種類、データの見方	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
4	交通の費用	交通の費用の分類とそれによる交通企業の行動の違い	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
5	交通運賃の理論1	どのように交通運賃は決まるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
6	交通運賃の理論2	混雑をなくすにはどのような運賃が望ましいか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
7	交通運賃の理論3	ピーク・ロード・プライシングとラムゼイ運賃形成	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
8	交通運賃の政策1	どのように公共交通の運賃は規制されているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
9	交通運賃の政策2	交通機関における二部料金制度の意味	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
10	規制政策1	交通規制はなぜ存在するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
11	規制政策2	規制緩和の経済理論	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
12	交通投資	交通機関を整備した結果はどのように評価されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
13	外部補助と内部補助	交通機関の赤字はどのように埋められるべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
14	交通ネットワーク1	ネットワークとしての交通を考慮に入れた場合、これまでの議論はどのように修正されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
15	交通ネットワーク2、まとめ	ネットワークの重要性と、総合的な交通政策の必要性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習

関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	交通経済学入門 新版	竹内健蔵	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験70%、レポート30%で評価する。
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	日頃よく使う交通について、経済学を用いて考えられるようにしましょう。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	授業の予習復習および中間レポート作成などの授業外の学修時間を授業合計で20~30時間程度行うことが望ましい。
----	--

科目名	国際協力論	科目名(英文)	International Co-operation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎, DP3△, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3053a0		

授業概要・目的	国際開発協力の歴史、異なる開発協力主体（国際機関、先進国、NGO や社会的企業等の民間組織）による開発協力の特徴、地球規模の課題等、様々な切り口から国際協力の実態について学ぶことにより、国際協力に関する総合的な知識を身に付けることを目的とする。
到達目標	学生が、さまざまな国際協力のあり方を知ることにより、国際社会の課題を理解できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義を中心に行うが、課題の提出を通じて、講義内容について十分に理解し、国際協力に関する関心をより深めることを期待する。
科目学習の効果(資格)	国際協力の実務者になるために必要な基礎知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:植民地の独立と南北問題の登場	国際協力とは何か。国際協力の概念とその始まりについて解説する	開発経済学の復習と課題の提出
2	IMF と世界銀行の金融支援: 国際経済の安定と貧困削減戦略	ブレトンウッズ体制の下で IMF と世界銀行が途上国の開発に果たしてきた役割について解説する	前回の復習と課題の提出
3	国連開発機関と持続可能な開発目標 (SDGs)	様々な国連開発機関の活動と持続可能な開発目標(SDGs)について解説する	前回の復習と課題の提出
4	DAC 加盟国と新興国ドナー	先進国による開発援助委員会 (DAC) の役割と DAC に加盟していない中国等の新興国ドナーの途上国支援の特徴を解説する	前回の復習と課題の提出
5	日本の政府開発援助 (ODA) : 歴史と理念	日本の ODA の歴史と理念について解説する	前回の復習と課題の提出
6	市民社会と NGO	国際協力における市民社会の役割と非政府組織 (NGO) の活動について解説する	前回の復習と課題の提出
7	自然災害と緊急人道支援	予測できない自然災害に対して国際社会はどのように対応しているのか解説する	前回の復習と課題の提出
8	平和構築:脆弱国家のガバナンス	政府の統治能力が弱く、国内で紛争等が起きている国の復興支援や平和構築支援について解説する	前回の復習と課題の提出
9	包括的社会開発: 貧困と社会的弱者	子供の権利、ジェンダー平等、障害とユニバーサルデザイン等、包括的な社会開発支援について解説する	前回の復習と課題の提出
10	地域統合:メコン流域開発	地域地統合が進展する ASEAN のなかで経済開発の遅れた CLM 諸国への広域協力について解説する	前回の復習と課題の提出
11	地球環境問題と持続可能な開発	地球環境問題を中心に持続可能な社会に向けての国際協力のありかたについて解説する	前回の復習と課題の提出
12	民間企業の社会的責任 (CSR) と BOP ビジネス	世界で活動する多国籍企業の社会的責任 (CSR) と途上国での BOP ビジネスについて解説する	前回の復習と課題の提出
13	世界を変える社会起業家: マイクロファイナンス	バングラデシュのグラミン銀行を創設したユヌス教授等、途上国開発に影響を与えた社会起業家について解説する	前回の復習と課題の提出
14	国際協力の管理と評価	多くの国際協力はプロジェクトの形で実施されるが、事業管理や事業評価はどのようになされているのか解説する	前回の復習と課題の提出
15	大学の知的貢献と開発教育	大学は国際協力でどのような貢献ができるのかについて考察する	前回の復習と課題の提出

関連科目	開発経済学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際協力 (第3版)	下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子	有斐閣
	2	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社
	3			

評価方法(基準)	期末試験 70%、授業での課題提出及び授業態度 30%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	私たちは世界中の人々とのつながりの中で生きています。世界の国々や地域は多様性に富んでいます。受講生には、広く世界の出来事に関心を持ち、それぞれの国や人々の異なる文化や価値観を理解し、世界を多面的に見る力を養ってもらいたいと考えています。 なお、授業担当の内田勝巳は、政府開発援助 (ODA) の実施機関 (現 JICA) にて 30 年近くわたる有償資金協力の実務経験を有していることから、現場での経験を踏まえた教育を行う。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 内田教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	国際金融論	科目名(英文)	International Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3055a0		

授業概要・目的	国際金融に関する制度および理論を解説し、国際金融現象に対する理解力と洞察力を高めることを目的とする。なお、講義に当たっては、総合商社に勤務した経験から、外国為替実務についても、具体的な書類を示しながら解説する。
到達目標	激変する国際金融市場について、自ら判断できる能力を身に付ける。
授業方法と留意点	指定した教科書を中心に講義する。また、毎回、プリントを配布する。授業に積極的に参加することを希望する。
科目学習の効果(資格)	国際金融に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	グローバル化するもの・カネ	グローバル化の経済学的意義について説明する。	授業の復習
2	国際収支の見方	国際収支の作成方法と見方を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
3	国際資本移動はなぜ生じるか	国際資本移動が生じる経済学的理由を説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
4	外国為替の仕組み	外国為替市場の仕組みを説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
5	為替レートをみる	さまざまな為替レートについて説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
6	円高・円安と貿易収支	円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
7	世界の通貨制度	さまざまな世界の通貨制度を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
8	購買力平価	為替レート決定理論の一つである購買力平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
9	購買力平価は本当に成立するか。	購買力平価が現実の世界で成立するかどうかを検討する	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
10	金利平価	為替レートの決定理論の一つである金利平価説を解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
11	為替レート決定理論のフローからストックへ	なぜ為替レート決定理論がフローからストックへと転換したかを理論的に説明する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
12	為替リスク	為替レート変動にともなう為替リスクについて解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
13	為替レートの予想とニュース	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
14	為替介入	外国為替市場に政府が介入する意味と限界について解説する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習
15	まとめと総括	まとめをし、質問があれば答える。	事前：教材全体の復習 事後：全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	国際経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際金融のしくみ第4版	秦・本田・西村	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間試験(20%)、定期試験(80%)を総合的に判定する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	国際金融現象に関心をもつようし、疑問点や不明点については、積極的に質問することを歓迎する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 久保教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	国際経済学入門	科目名(英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する21世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済のグローバル化について、商品の生産と流通に関わる実体経済分野と、貨幣の貸し借りや投資に関わる金融分野とに分けて、グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済(国民経済)にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代のグローバル経済と日本経済の関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	教科書の内容解説を主とする講義形式で行う。しっかりと教科書を予習し、疑問点を明確にしながから授業に臨んでもらいたい。ノートを評価対象とするので、ノートのとり方を身につけること。
科目学習の効果(資格)	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書の紹介	-
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書(p.10-21)の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書(p.22-33)の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書(p.34-45)の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICsとNEXT11 BOPビジネスと貧困 開発援助を通して見る世界 グローバル化と食料・農業問題	教科書(pp.46-63)の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か?	教科書(p.65-77)の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書(p.78-95)の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書(p.96-107)の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書(p.108-121)の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の“成長戦略” 株主価値重視の経営	教科書(p.122-135)の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書(p.136-147)の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金の下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書(p.148-159)の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書(pp.160-171)の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書(pp.172-177)の予習
15	まとめ	講義のまとめ	

関連科目 経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 経済の論点	柴田努	旬法社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資本主義の現在	豊福裕二	文理閣
2				
3				

評価方法 (基準)	ノート提出(20%)、定期試験(80%)の結果をふまえて、総合的に評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が難しいことの一つの理由である。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつことを目指そう。
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
備考	

科目名	国際経済学入門	科目名(英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1004a0		

授業概要・目的	日本を含む世界の経済問題を広く扱う。世界の実物市場と金融市場で近年みられる顕著な動きを学び、アベノミクスと呼ばれるような日本の経済政策についても議論する。
到達目標	国際経済の事情をひとつずつ把握し、その中で日本経済がどのような位置にあるのかを理解すること。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行う。その中でトピックに応じた映像を紹介する。
科目学習の効果(資格)	本講義で学ぶことで、国際経済の基礎知識が身に付き、関連のニュース記事の多くを理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス	講義の進め方について 国際経済とは	講義の復習
	2	国際経済の基礎 1	国際相互依存の重要性 資本主義と共産主義の比較 市場経済の基本的メカニズム	講義の復習
	3	国際経済の基礎 2	株式の仕組みと株式市場 外国為替と通貨の仕組み 海外貿易と国際収支	講義の復習
	4	国際経済の基礎 3	輸出入にかかる税金 国際分業 金利の基本と各国の金融政策	講義の復習
	5	冷戦終結まで 1	世界の基軸通貨の変遷 世界大恐慌とブロック化経済 大恐慌から第二次世界大戦への道のり	講義の復習
	6	冷戦終結まで 2	ブレトンウッズ体制の成立 ニクソンショックと固定相場制の終焉 オイルショック	講義の復習
	7	冷戦終結まで 3	双子の赤字とブラザ合意 東アジア経済と日本のバブル ユーロ通貨統合	講義の復習
	8	冷戦終結以降の国際経済 1	冷戦の終結とマネー経済の浸透 通貨危機が発生する理由 国際経済における冷戦終結の影響	講義の復習
	9	冷戦終結以降の国際経済 2	多国籍企業と世界的な企業再編 国際会計基準と自己資本規制 失われた 10 年と構造改革	講義の復習
	10	冷戦終結以降の国際経済 3	韓国経済危機と奇跡の復活 EU、ユーロが生まれるまで 同時不況から脱出した世界経済	講義の復習
	11	国際的な経済協調 1	経済協調が必要な理由 GATT と WTO 統一通貨ユーロの現状と今後	講義の復習
	12	国際的な経済協調 2	FTA のメリット・デメリット 発展途上国への援助 武器貿易をめぐる歴史	講義の復習
	13	これからの国際経済 1	持続可能な社会 経済格差を映す世界の食料事情 知的所有権の経済問題	講義の復習
	14	これからの国際経済 2	ドルとユーロ、円の今後の関係	講義の復習
		15	まとめ	講義全体の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解国際経済のしくみ	清野一治監修	PHP 文庫
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート提出 60%、期末試験 40% の割合で評価する。また、講義中の発言などで加点を行う。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	1号館 7階 田中研究室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	国際経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 廣正、内田 勝巳、田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3059a0		

授業概要・目的	8月下旬から9月初旬まで約2週間、豪州に滞在し、英語による講義受講、豪州企業あるいは農家訪問などを通じ、国際経済の動きに触れること、生きた英語を学ぶことにより、経済学部生として必要な知識・英語能力を向上させる。			
到達目標	経済動向に関する自らの考え方を明確に英語で表現し、意思疎通を図ることができるようになる。			
授業方法と留意点	8月下旬から9月初旬まで約2週間、豪州 University of New England 周辺の一般家庭宅に滞在し、同大学における講義を受講する。また、企業・農家訪問なども予定している。そのための費用は合計で約25万円(航空券+現地滞在費)。なお、滞在期間中、教員が引率を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国国際収支動向、日豪経済関係、自由貿易協定など国際経済に関する基礎的知識を事前に学んでおくこと。また、帰国した後、報告会に出席し、学んだ内容についてレポートすること。			
関連科目	地域統合論、貿易論、国際投資論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	現地での学習態度、さらには事前事後の学習態度を総合評価する。			
学生へのメッセージ	海外に出て、生きた英語を通して国際経済の動きを実感しましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室、内田教授室			
備考	5月に説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。			

科目名	国際経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3059a0		

授業概要・目的	この実践演習では、夏休み期間中(8月下旬)に一週間程度、中国・上海にてフィールドワークを行う。履修学生は、他大学の学生とともに、「上海グローバルキャリアプログラム」に参加する。また、フィールドワークの前後に集中講義を行う。		
到達目標	上海で活動する日本企業を見学し、日本人駐在員や中国人学生との交流を通じて、海外で働くことの喜びや苦勞を学び、海外で働くための資質について考える機会をもつことで、自分の進路にむけて主体的に準備ができるようになる。		
授業方法と留意点	海外でのフィールドワーク「上海グローバルキャリアプログラム」と、その前後に実施する講義からなる。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【事前授業】上海でのフィールドワークの準備として、中国の歴史、政治経済について学ぶ。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】8月後半に一週間程度の上海フィールドワークを行い、上海市内の視察、中国の大学生との交流、日本企業数社の訪問、若手日本人ビジネスマンとの交流などを計画している。詳細な日時とプログラム内容については、別途掲示する。</p> <p>【事後授業】フィールドワークの活動をまとめたレポートを作成、提出する。このレポートをもとに、プレゼン発表を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	上海でのフィールドワークに出席することが必須である。前後に行う講義の出席状況と、授業への参加態度などを考慮に入れて、総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	上海で活動する日本企業の訪問、ビジネスマンや中国人大学生との交流など、他では得がたい貴重な体験がもてる機会なので、積極的に挑戦してほしい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室		
備考	15名を定員とする。定員を超えて申込者があった場合は、面接等によって選抜する。 参加費用については、学部からの援助がある。		

科目名	国際経済の新動向	科目名(英文)	New Trends in International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3060a0		

授業概要・目的	本講義では最新の世界の経済問題や潮流を幅広く学習する。			
到達目標	各地域の経済を把握することで世界経済の動きを俯瞰できるようになること。			
授業方法と留意点	スライドによる講義だけでなく、映像も使い講義を進める。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス、イントロダクション		
	2	米国経済(1)	米国の金融政策 株式市場 シェアール革命	講義の復習
	3	米国経済(2)	長期停滞論 労働市場	講義の復習
	4	欧州経済(1)	欧州の金融政策 株式市場	講義の復習
	5	欧州経済(2)	移民問題 Brexit ショック EU 財政問題	講義の復習
	6	中国経済	中国の株式市場 過剰債務問題	講義の復習
	7	アジア経済	アジア経済 フィリピン経済	講義の復習
	8	その他の新興国経済	ロシア経済 中南米経済 ブラジル経済	講義の復習
	9	日本経済(1)	金融政策	講義の復習
	10	日本経済(2)	財政	講義の復習
	11	日本経済(3)	少子高齢化 不動産市場	講義の復習
	12	日本経済(4)	農政 TPP	講義の復習
	13	その他の動向(1)	Fintechからの金融イノベーション	講義の復習
	14	その他の動向(2)	気候変動 原油相場	講義の復習
	15	まとめ		
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	この一冊でわかる世界経済の新常識 2017	大和総研編著	日経 BP 社
	2			
	3			
評価方法(基準)	レポート60%、期末試験40%で評価し、発言などで加点する。			
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室			
備考				

科目名	国際経済論	科目名(英文)	International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済のグローバル化について、商品の生産と流通に関わる実体経済分野と、貨幣の貸し借りや投資に関わる金融分野とに分けて、グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代のグローバル経済と日本経済の関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	教科書の内容解説を主とする講義形式で行う。しっかりと教科書を予習し、疑問点を明確にしながから授業に臨んでもらいたい。ノートを評価対象とするので、ノートのとり方を身につけること。
科目学習の効果(資格)	経済グローバル化についての基礎的素養の獲得

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書の紹介	-
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書 (p.10-21) の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書 (p.22-33) の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書 (p.34-45) の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICs と NEXT11 BOP ビジネスと貧困 開発援助を通して見る世界 グローバル化と食料・農業問題	教科書 (pp.46-63) の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か？	教科書 (p.65-77) の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書 (p.78-95) の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書 (p.96-107) の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書 (p.108-121) の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の“成長戦略” 株主価値重視の経営	教科書 (p.122-135) の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書 (p.136-147) の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金 downloader 続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書 (p.148-159) の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書 (pp.160-171) の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書 (pp.172-177) の予習
15	まとめ	講義のまとめ	

関連科目 経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学 I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 経済の論点	柴田 努	旬法社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資本主義の現在	豊福裕二	文理閣
2				
3				

評価方法 (基準)	ノート提出(20%)、定期試験(80%)の結果をふまえて、総合的に評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まる。まだ経済生活に入っていない学生は、現実の経済活動についてイメージをもつことが難しい。これが初学者にとって経済学が難しいことの一つの理由である。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、商品として販売するという経済活動である。そして、君たちの就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受ける。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世界の経済動向について、ある程度の見通しをもつことを目指そう。
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
備考	

科目名	国際経済論	科目名(英文)	International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本を含む世界の経済問題を広く扱う。世界の実物市場と金融市場で近年みられる顕著な動きを学び、アベノミクスと呼ばれるような日本の経済政策についても議論する。
到達目標	国際経済の事情をひとつずつ把握し、その中で日本経済がどのような位置にあるのかを理解すること。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行う。その中でトピックに応じた映像を紹介する。
科目学習の効果(資格)	本講義で学ぶことで、国際経済の基礎知識が身に付き、関連のニュース記事の多くを理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス	講義の進め方について 国際経済とは	講義の復習
	2	国際経済の基礎 1	国際相互依存の重要性 資本主義と共産主義の比較 市場経済の基本的メカニズム	講義の復習
	3	国際経済の基礎 2	株式の仕組みと株式市場 外国為替と通貨の仕組み 海外貿易と国際収支	講義の復習
	4	国際経済の基礎 3	輸出入にかかる税金 国際分業 金利の基本と各国の金融政策	講義の復習
	5	冷戦終結まで 1	世界の基軸通貨の変遷 世界大恐慌とブロック化経済 大恐慌から第二次世界大戦への道のり	講義の復習
	6	冷戦終結まで 2	ブレトンウッズ体制の成立 ニクソンショックと固定相場制の終焉 オイルショック	講義の復習
	7	冷戦終結まで 3	双子の赤字とブラザ合意 東アジア経済と日本のバブル ユーロ通貨統合	講義の復習
	8	冷戦終結以降の国際経済 1	冷戦の終結とマネー経済の浸透 通貨危機が発生する理由 国際経済における冷戦終結の影響	講義の復習
	9	冷戦終結以降の国際経済 2	多国籍企業と世界的な企業再編 国際会計基準と自己資本規制 失われた 10 年と構造改革	講義の復習
	10	冷戦終結以降の国際経済 3	韓国経済危機と奇跡の復活 EU、ユーロが生まれるまで 同時不況から脱出した世界経済	講義の復習
	11	国際的な経済協調 1	経済協調が必要な理由 GATT と WTO 統一通貨ユーロの現状と今後	講義の復習
	12	国際的な経済協調 2	FTA のメリット・デメリット 発展途上国への援助 武器貿易をめぐる歴史	講義の復習
	13	これからの国際経済 1	持続可能な社会 経済格差を映す世界の食料事情 知的所有権の経済問題	講義の復習
	14	これからの国際経済 2	ドルとユーロ、円の今後の関係	講義の復習
	15	まとめ	講義全体の復習	講義の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解国際経済のしくみ	清野一治監修	PHP 文庫
	2			
	3			

評価方法(基準) レポート提出60%、期末試験40%の割合で評価する。また、講義中の発言などで加点を行う。

学生へのメッセージ 疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。

担当者の研究室等 1号館7階 田中研究室

備考

科目名	国際投資論	科目名(英文)	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2051a0		

授業概要・目的	講義形式で行う。講義ノートの復習が基本だが、参考書があれば便利だろう。																																																																		
到達目標	投資の視点から経済の動きを把握できるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	前半はファンダメンタルズ分析に、後半はテクニカル分析に焦点を当てる。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義のガイダンス</td> <td>国際投資とは何か</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>複利について</td> <td>複利の意味 複利の計算法</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リスクとリターン</td> <td>ポートフォリオ理論 分散投資</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>外国市場</td> <td>高金利投資 為替リスク</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>外貨資産ヘッジ</td> <td>購買力平価 GDP成長と為替レート</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>レバレッジの効果</td> <td>レバレッジとは何か レバレッジの脆弱性</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>不動産について</td> <td>PRRについて</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>グラフの読み方</td> <td>ローソク足 ローソク足の組み合わせ</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>移動平均</td> <td>短期移動平均 長期移動平均</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>出来高</td> <td>出来高の解釈 移動平均と出来高の組み合わせ</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>グランビル法</td> <td>グランビル法とは ゴールデンクロスとデッドクロス</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>抵抗線と支持線</td> <td>抵抗線と支持線の見つけ方</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>オシレーター</td> <td>RSI ボリンジャーバンド</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>リスクマネジメント</td> <td>リスク管理の重要性</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義全体の復習</td> <td>講義ノートの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義ノートの復習	2	複利について	複利の意味 複利の計算法	講義ノートの復習	3	リスクとリターン	ポートフォリオ理論 分散投資	講義ノートの復習	4	外国市場	高金利投資 為替リスク	講義ノートの復習	5	外貨資産ヘッジ	購買力平価 GDP成長と為替レート	講義ノートの復習	6	レバレッジの効果	レバレッジとは何か レバレッジの脆弱性	講義ノートの復習	7	不動産について	PRRについて	講義ノートの復習	8	グラフの読み方	ローソク足 ローソク足の組み合わせ	講義ノートの復習	9	移動平均	短期移動平均 長期移動平均	講義ノートの復習	10	出来高	出来高の解釈 移動平均と出来高の組み合わせ	講義ノートの復習	11	グランビル法	グランビル法とは ゴールデンクロスとデッドクロス	講義ノートの復習	12	抵抗線と支持線	抵抗線と支持線の見つけ方	講義ノートの復習	13	オシレーター	RSI ボリンジャーバンド	講義ノートの復習	14	リスクマネジメント	リスク管理の重要性	講義ノートの復習	15	まとめ	講義全体の復習	講義ノートの復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義のガイダンス	国際投資とは何か	講義ノートの復習																																																																
2	複利について	複利の意味 複利の計算法	講義ノートの復習																																																																
3	リスクとリターン	ポートフォリオ理論 分散投資	講義ノートの復習																																																																
4	外国市場	高金利投資 為替リスク	講義ノートの復習																																																																
5	外貨資産ヘッジ	購買力平価 GDP成長と為替レート	講義ノートの復習																																																																
6	レバレッジの効果	レバレッジとは何か レバレッジの脆弱性	講義ノートの復習																																																																
7	不動産について	PRRについて	講義ノートの復習																																																																
8	グラフの読み方	ローソク足 ローソク足の組み合わせ	講義ノートの復習																																																																
9	移動平均	短期移動平均 長期移動平均	講義ノートの復習																																																																
10	出来高	出来高の解釈 移動平均と出来高の組み合わせ	講義ノートの復習																																																																
11	グランビル法	グランビル法とは ゴールデンクロスとデッドクロス	講義ノートの復習																																																																
12	抵抗線と支持線	抵抗線と支持線の見つけ方	講義ノートの復習																																																																
13	オシレーター	RSI ボリンジャーバンド	講義ノートの復習																																																																
14	リスクマネジメント	リスク管理の重要性	講義ノートの復習																																																																
15	まとめ	講義全体の復習	講義ノートの復習																																																																
関連科目	国際経済学入門、国際金融論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今こそ知りたい資産運用のセオリー</td> <td>竹中正治</td> <td>光文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>黄金練習帳</td> <td>秋津学</td> <td>毎日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今こそ知りたい資産運用のセオリー	竹中正治	光文社	2	黄金練習帳	秋津学	毎日新聞出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	今こそ知りたい資産運用のセオリー	竹中正治	光文社																																																																
2	黄金練習帳	秋津学	毎日新聞出版																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート60%、期末試験40%で評価を行うが、講義中の発言(1回3点)や演習問題の発表(1回10点)で加点を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	国際マーケティング論	科目名(英文)	International Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△, DP3○, DP4○, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3056a0		

授業概要・目的	企業活動の目的の一つは、新規市場を開拓し、既存の市場においては他社に対する支配的な地位を確立することである。本講義の目的は、そのような市場を対象とした活動の一つとして、生成・発展してきた宣伝・広告、ブランド戦略、市場調査などの多様なマーケティング活動の役割を、企業の国際的な経営活動の観点から明らかにすることである。講義では、企業による国際的なマーケティング活動を、市場環境の変化と関連付けながら体系的に理解することを目標とする。
到達目標	国際マーケティングにかかわる用語を理解し、グローバルな企業活動においてマーケティング活動の果たす重要性について説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。必要に応じて資料や映像などを使用する。
科目学習の効果(資格)	現代企業のグローバルな経営活動を理解し、国際マーケティングに関連する諸問題について分析できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	現代マーケティングの基本概念	現代マーケティングにおける STP とマーケティング・ミックス	配布プリントでの復習
3	企業活動のグローバル化と国際マーケティング	多国籍企業の成長とマーケティング活動、国際マーケティングの特徴	配布プリントでの復習
4	グローバル・マーケットと STP	世界の市場におけるセグメンテーションと、当該国市場でのターゲティング・ポジショニング	配布プリントでの復習
5	グローバルな市場参入戦略	参入方法の決定基準と参入方法の選択	配布プリントでの復習
6	国際マーケティングと製品政策①	複数国市場に対応した製品開発戦略	配布プリントでの復習
7	国際マーケティングと製品政策②	製品政策における世界同一商品戦略と現地適応化戦略	配布プリントでの復習
8	国際マーケティングと価格政策①	生産の多国籍化と国際価格設定	配布プリントでの復習
9	国際マーケティングと価格政策②	グローバルな価格設定の諸要因と価格政策のマネジメント	配布プリントでの復習
10	国際マーケティングと流通政策①	流通の国際化とグローバル・サプライチェーン	配布プリントでの復習
11	国際マーケティングと流通政策②	各国における流通チャネルの開拓とグローバル小売の役割	配布プリントでの復習
12	国際マーケティングとプロモーション政策①	国際プロモーション戦略の多様性	配布プリントでの復習
13	国際マーケティングとプロモーション政策②	プロモーション政策における文化問題と各国の広告規制	配布プリントでの復習
14	企業の国際ブランド戦略	国境を越えるブランドを作り出す企業戦略とマーケティング活動	配布プリントでの復習
15	新規市場の創出とマーケティング活動	途上国市場におけるマーケティング活動	配布プリントでの復習

関連科目	経営学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 75%、授業中に行うミニレポートや授業参加態度(質問、感想等) (25%) を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	企業経営に関連するニュースや記事を、普段から意識的にフォローしておくことをお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	サービス産業論	科目名(英文)	Service Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3068a0		

授業概要・目的	経済学の理解において価格は重要な役割を担っている。製造業については、メーカー、卸売業者、小売業者等との取引を通じて、ある程度定型的に価格は決定している。その一方で、サービス産業では定型に当てはまらない分野が多々あり、政府の規制を通じて価格が決定していることもある。本講義では、この定型に当てはまらない産業(特に規制の強い産業)に着目し、当該産業の市場構造等を把握した上で、価格決定プロセスおよび、当該プロセスが採用された経済的根拠について学習する。
到達目標	経済学的思考と知識に基づき、当該産業における価格決定における規制の影響を理解し、規制の是非を判断する能力を養う。

授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	サービスの定義	サービスの用語と系譜について学習する。	講義した内容について復習する。
3	ミクロ経済の復習(1)	完全競争市場、独占市場における価格の決定方法について復習する。	講義した内容について復習する。
4	ミクロ経済学の復習(2)	寡占市場における価格の決定方法について復習する。	講義した内容について復習する。
5	タクシー産業(1)	タクシー市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
6	タクシー産業(2)	タクシー市場における価格規制の変遷を学習する。	講義した内容について復習する。
7	タクシー産業(3)	タクシー市場の価格規制の緩和が及ぼした影響について学習する。	講義した内容について復習する。
8	前半の講義の復習および中間試験	これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	電力市場(1)	電力市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
10	電力市場(2)	電力市場で採用されている総括原価方式について学習する。	講義した内容について復習する。
11	電力市場(3)	インセンティブ規制であるヤードスティック規制、プライスキャップ規制について学習する。	講義した内容について復習する。
12	電力市場(4)	電力市場における発送電分離について学習する。	講義した内容について復習する。
13	医療市場(1)	医療市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
14	医療市場(2)	医療の価格を決定する診療報酬制度について学習する。	講義した内容について復習する。
15	医療市場(3)	医療における価格規制が医師や患者の行動に及ぼす影響を学習する。	講義した内容について復習する。

関連科目	ミクロ経済学、産業組織論。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間試験(30%)の点数で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 西川講師室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	財政学	科目名(英文)	Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1023a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学ぶのに対し、公共政策論では政府の役割を理論的に学びます。
科目学習の効果(資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	財政論とは?	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習
	2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習
	3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
	4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
	5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
	6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
	7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習
	8	租税原則と財政投融资制度	租税制度のあるべき姿と財政投融资改革について説明する。	講義ノートの復習
	9	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習
	10	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習
	11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習
	12	公債の理論	公債による経済的影響について説明する。	講義ノートの復習
	13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習
	14	地方財政 II	地方税と補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
	15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目	公共政策論、公共経済学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)で総合的に評価します。座席指定を行います。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
備考	

科目名	産業組織論	科目名(英文)	Industrial Organization
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3063a0		

授業概要・目的	産業組織論とはミクロ経済学の応用分野であり、主に市場構造等が企業行動に及ぼす影響を分析する。本講義ではミクロ経済学の知識に基づき、不完全競争市場における政府の役割を学習し、政府の市場介入の理論的根拠を理解することを目的とする。																																																																		
到達目標	経済学的思考に基づき、我が国および諸外国で行われている産業政策を理解する能力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>産業組織論を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。</td> <td>配布資料の復習をする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>産業組織論の歴史</td> <td>産業組織論の発展における歴史的背景を学習する。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ミクロ経済学の復習(1)</td> <td>競争市場における消費者行動と企業行動を学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ミクロ経済学の復習(2)</td> <td>競争市場における市場の効率性について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>独占市場(1)</td> <td>参入圧力の弱い独占企業の価格、供給量の決定プロセスを学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>独占市場(2)</td> <td>独占企業が行う価格差別について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自然独占</td> <td>自然独占がなぜ発生するかを学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>前半の講義の復習および中間試験</td> <td>これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。</td> <td>特になし。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>参入の経済効果(1)</td> <td>参入圧力の強い独占市場における価格、供給量の決定プロセスを考察したコンテスト市場理論について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>参入の経済効果(2)</td> <td>政府による参入規制の強化・緩和の経済効果について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ゲーム理論の基礎</td> <td>寡占市場およびカルテルの分析で用いられるナッシュ均衡について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>寡占市場(1)</td> <td>クールノー競争時の価格と生産量の決定について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>寡占市場(2)</td> <td>ベルトラン競争時の価格と生産量の決定について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>カルテル</td> <td>カルテルが引き起こす経済的損失、カルテルを維持するインセンティブ、カルテルに対する政府の規制について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>市場支配力</td> <td>市場集中度を測る各種指標について学ぶ。</td> <td>講義した内容について復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	産業組織論を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	配布資料の復習をする。	2	産業組織論の歴史	産業組織論の発展における歴史的背景を学習する。	講義内容を復習する。	3	ミクロ経済学の復習(1)	競争市場における消費者行動と企業行動を学ぶ。	講義内容を復習する。	4	ミクロ経済学の復習(2)	競争市場における市場の効率性について学ぶ。	講義内容を復習する。	5	独占市場(1)	参入圧力の弱い独占企業の価格、供給量の決定プロセスを学ぶ。	講義内容を復習する。	6	独占市場(2)	独占企業が行う価格差別について学ぶ。	講義内容を復習する。	7	自然独占	自然独占がなぜ発生するかを学ぶ。	講義内容を復習する。	8	前半の講義の復習および中間試験	これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。	9	参入の経済効果(1)	参入圧力の強い独占市場における価格、供給量の決定プロセスを考察したコンテスト市場理論について学ぶ。	講義内容を復習する。	10	参入の経済効果(2)	政府による参入規制の強化・緩和の経済効果について学ぶ。	講義内容を復習する。	11	ゲーム理論の基礎	寡占市場およびカルテルの分析で用いられるナッシュ均衡について学ぶ。	講義内容を復習する。	12	寡占市場(1)	クールノー競争時の価格と生産量の決定について学ぶ。	講義内容を復習する。	13	寡占市場(2)	ベルトラン競争時の価格と生産量の決定について学ぶ。	講義内容を復習する。	14	カルテル	カルテルが引き起こす経済的損失、カルテルを維持するインセンティブ、カルテルに対する政府の規制について学ぶ。	講義内容を復習する。	15	市場支配力	市場集中度を測る各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	産業組織論を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	配布資料の復習をする。																																																																
2	産業組織論の歴史	産業組織論の発展における歴史的背景を学習する。	講義内容を復習する。																																																																
3	ミクロ経済学の復習(1)	競争市場における消費者行動と企業行動を学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
4	ミクロ経済学の復習(2)	競争市場における市場の効率性について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
5	独占市場(1)	参入圧力の弱い独占企業の価格、供給量の決定プロセスを学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
6	独占市場(2)	独占企業が行う価格差別について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
7	自然独占	自然独占がなぜ発生するかを学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
8	前半の講義の復習および中間試験	これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。																																																																
9	参入の経済効果(1)	参入圧力の強い独占市場における価格、供給量の決定プロセスを考察したコンテスト市場理論について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
10	参入の経済効果(2)	政府による参入規制の強化・緩和の経済効果について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
11	ゲーム理論の基礎	寡占市場およびカルテルの分析で用いられるナッシュ均衡について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
12	寡占市場(1)	クールノー競争時の価格と生産量の決定について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
13	寡占市場(2)	ベルトラン競争時の価格と生産量の決定について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
14	カルテル	カルテルが引き起こす経済的損失、カルテルを維持するインセンティブ、カルテルに対する政府の規制について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
15	市場支配力	市場集中度を測る各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。																																																																
関連科目	ミクロ経済学、計量経済学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プラクティカル産業組織論</td> <td>泉田成美、柳川隆</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>競争政策論</td> <td>小田切宏之</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プラクティカル産業組織論	泉田成美、柳川隆	有斐閣アルマ	2	競争政策論	小田切宏之	日本評論社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プラクティカル産業組織論	泉田成美、柳川隆	有斐閣アルマ																																																																
2	競争政策論	小田切宏之	日本評論社																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間テスト(30%)の得点で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEFGHI
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを示した上で、現在の資本主義システムの特徴を明らかにした上で、今後どのように変わっていくかについて議論する。
到達目標	次の項目について説明できて、必要に応じて (古典派の) 経済理論を用いた計算ができることを目標とする。 ・資本主義経済の基本的な仕組みを説明することができる。 ・資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 ・現代の資本主義経済が、国ごとに多様であることを説明することができる。 ・上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を、第1回から必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心をもち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	(事前) 教科書第1章前半を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	(事前) 教科書第1章後半を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
3	資本主義の基本要素 (1): 社会的分業と貨幣	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	(事前) 教科書第2章「私的所有、あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
4	資本主義の基本要素 (2): 雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	(事前) 教科書第2章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	(事前) 教科書第2章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生き残るには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどうなるかを考える。	(事前) 教科書第3章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	(事前) 教科書第3章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
8	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	(事前) 教科書第3章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	(事前) 教科書第4章前半を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
10	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	(事前) 教科書第4章後半を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
11	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	(事前) 教科書第5章前半を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
12	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	(事前) 教科書第5章後半を読み、独自のノートをとる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。
13	新しい技術・労働・企業・市	新しい技術 (情報通信技術など) が労働	(事前) 教科書第7章前半を読み、独自のノートをとる

	場	様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	まとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。															
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	(事前) 教科書第7章後半を読み、独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。															
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	(事前) 教科書を全章読み、講義内容の全体を確認する (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する (60分)。															
関連科目	社会経済学 II, 経済思想史																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図解雑学 資本主義のしくみ</td> <td>八木紀一郎・宇仁宏幸</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社	2				3				
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社															
2																		
3																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3				
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1																		
2																		
3																		
評価方法 (基準)	毎回の授業で Moodle を通じた理解度チェックテストを行います。このとき、教科書・配付資料等を参照しても構いません。授業の途中で、中間確認テストを行います。中間確認テスト40%、定期試験60%で評価します。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。																	
学生への メッセージ	毎回、講義で教科書を参照しますので、教科書は、必ず買ってください。この本では、一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって、まず、この本の図を見ながら、本文を読み返してください。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。																	
担当者の 研究室等 備考	1号館7階 平尾研究室																	

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1014a0		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを示した上で、現在の資本主義システムの特徴を明らかにした上で、今後どのように変わっていくかについて議論する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済の基本的な仕組みを説明することができる。 資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 現代の資本主義経済が、国ごとに多様であることを説明することができる。 上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を、第1回から必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心を持ち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	教科書第1章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	教科書第1章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
3	資本主義の基本要素 (1) : 社会的分業と貨幣	市場による調整という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	教科書第2章「私的所有、あるいは私有財産」から「貨幣の機能」までを予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
4	資本主義の基本要素 (2) : 雇用関係と企業	雇用関係という資本主義の基本要素を、「労働力商品の特殊性」や「私企業としての資本の運動」という視点から考える。	教科書第2章「資本主義の雇用関係」から「資本は企業の形態をとる」までを予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
5	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第2章「資本主義の流通機構」から「近代国家」までを予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
6	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生き続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどういふものかを考える。	教科書第3章「労働と生産性」から「利潤成立の条件」を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
7	再生産と資本蓄積	資本主義経済が再生産されつつ発展していく過程がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第3章「生産性上昇とその社会的効果」から「投資と貯蓄」を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
8	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	教科書第3章「労働市場と失業」から「競争と独占・革新」を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
9	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	教科書第4章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
10	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第4章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
11	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第5章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
12	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	教科書第5章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術 (情報通信技術など) が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	教科書第7章前半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	教科書第7章後半を予習する。 Moodleで出題された復習課題に取り組む。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	教科書をひととおり読み、自分の理解度をチェックする。

関連科目	社会経済学 II, 経済思想史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>授業時間内外の課題 40%，期末試験 60%の割合で評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので，授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。 なお，出席日数が不足する者は，単位取得の資格を失う場合があります。</p>			
学生への メッセージ	<p>毎回，講義で教科書を参照しますので，教科書は，必ず買ってください。 この本では，一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって，まず，この本の図を見ながら，本文を読み返してください。くれぐれも，ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは，ときどき，きわめて偏った説明がされています。</p>			
担当者の 研究室等 備考	1 号館 7 階 原田准教授室			

科目名	社会経済学Ⅱ	科目名(英文)	Social Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2015a0		

授業概要・目的	<p>通常、経済学はその分析対象を経済活動＝取引が行われる場を「市場」に限定する。しかし、経済取引の場は市場に限られないし、経済活動は他者と関係を取り結ぶということでもある。また、私たちは日々の暮らしの中で、さまざまな面で社会的な関係をもつが、そこでは一定の行動ルール＝制度が存在する。そのことは経済的取引においても当てはまり、あらゆる経済活動は——市場取引さえも——一定の制度的な枠組みに従っていると考えることができ、現実にもそうである。</p> <p>この講義は、経済活動における制度の存在とその役割を重視する制度経済学の観点から、経済システムの動態を明らかにすることを目的とする。具体的には、経済取引における制度（ルール）の存在を確認した上で、経済学において制度がどのように扱われてきたかを概観する。つづいて、労働・企業・金融・国家といった各種分野において、制度が経済調整に果たす役割を検討する。また異なる領域の制度間の関係についても論じる。さらに、制度は国や時代によって多様であるとの認識から、資本主義経済システムの多様性について議論する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動を理解する上での「制度の重要性」を説明できる。 ・ 労働力商品の特殊性と賃労働関係について説明することができる。 ・ 賃金の多面的役割を、賃金交渉制度の多様性の説明に適用できる。 ・ 技能形成や生産組織が国ごとにどのように異なるかについて説明することができる。 ・ コーポレート・ガバナンスの多様性を規定する諸要因を具体的に述べるることができる。 ・ 企業の資金調達方法の国ごと違いについて説明することができる。 ・ 社会保障制度の多様性を規定する諸要因を述べるることができる。 ・ 制度と経済パフォーマンスの関係について説明することができる。 ・ 制度的補完性の理論的事例を具体的に述べるることができる。 ・ 資本主義の多様性を規定する主要因について、主要論者の違いを指摘することができる。 ・ 金融化やグローバル化といった潮流の中で、資本主義の多様性がどのように推移するかを推論することができる。
授業方法と留意点	適宜資料を配布しつつ、講義形式による授業を行う。演習問題を行うなどして、授業の理解を促進する。
科目学習の効果(資格)	社会経済学(制度経済学)が経済の動きをどのように説明するかを理解することで、標準的な経済学との比較が可能になり、現実の経済社会で起きている問題を理解する上で、多様なものの見方を行うことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	これまでに学習した経済学と制度経済学との違いについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。
2	市場とコーディネーション	市場による調整と制度による調整(コーディネーション)の違いについて議論する	教科書第6章「市場による調整」から「資本主義の多様性」までを予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
3	技能形成のちがいがい	労働者の技能形成や教育制度が国によってどのように異なるかを理解する。	教科書第6章「技能形成のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
4	生産組織のちがいがい	企業における生産組織が国によってどのように異なるかを解説し、そのような違いが各国の経済活動の特化に影響を与えることを理解する。	教科書第6章「生産組織のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
5	雇用制度のちがいがい	雇用制度が国によってどのように異なるかを解説する。	教科書第6章「雇用制度のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
6	労使関係と賃金交渉のちがいがい	労使関係と賃金交渉制度が国によってどのように異なるかを解説する。	教科書第6章「労使関係と賃金交渉のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
7	資金調達のちがいがい	企業による資金調達が国によってどのように異なるかを明らかにする。	教科書第6章「資金調達のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
8	企業統治のちがいがい	企業は誰のものであるかを議論した上で、企業統治が国によってどのように異なるかを明らかにする。	教科書第6章「企業統治のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
9	福祉制度のちがいがい	社会保障制度が国によってどのように異なるかを明らかにする。	教科書第6章「福祉制度のちがいがい」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
10	制度と経済パフォーマンス	経済制度が異なることで経済パフォーマンスがどのように異なるかについて議論する。	事前学習課題を読み込む。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
11	制度の補完性	異なる分野の制度がどのような関係をもつ可能性があるかについて解説する。	教科書第6章「制度の補完性」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
12	資本主義の多様性	資本主義経済が全体としてどのように多様となるかについて、各種議論を紹介しつつ明らかにする。	教科書第6章「米国型資本主義」「日本型資本主義」「発展途上国の資本主義」「中国の「社会主義市場経済」」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
13	経済システムと政治システム	制度の多様性を生み出す要因として政治を取り上げ、経済システムと政治システムとの対応について議論する。	事前学習課題を読み込む。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
14	米国型資本主義に収れんするか	金融化やグローバル化といった潮流の中で、資本主義の多様性がどのように推移するかについて議論する。	教科書第6章「米国型資本主義に収れんするか」を予習する。 Moodle で出題された復習課題に取り組む。
15	まとめ	これまでの議論を振り返って、資本主義経済の多様性と動態について改めて考える。	期末試験の準備

関連科目	社会経済学Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『図解雑学 資本主義のしくみ』	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題（50%）、期末試験（50%）の割合で評価します。授業時間内外の課題ではMoodleを利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。			
学生への メッセージ	経済学は、抽象的な概念やモデルを用いて議論を行います。その際、何が原因でどのようなことが生じるのかという因果関係を理解することが重要となります。そうした考え方を身につけるには、それなりの労力が必要です。授業では、社会経済学・制度経済学の基礎的な概念を少しずつ説明していきますが、ただ授業を聞いているだけでそうした考え方を身に付けるのは困難でしょう。受講生の皆さんには問題演習などを通じて、積極的に学修に取り組んでもらいたいと思います。			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田准教授室			
備考				

科目名	社会保障論	科目名(英文)	Social Security
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3071a0		

授業概要・目的	少子高齢化の進展もあり、年金、医療といった社会保障への関心は高まっている。本講義では、社会保障制度の中でも特に支出額の多い社会保険分野に焦点を当て、我が国の制度の特徴および課題を学ぶ。その上で、社会保険の一分野である医療に焦点を当て、患者、医師等の医療供給者の行動をミクロ経済学に基づき説明する。最終的な目的は経済学視点から制度上の課題を把握できることとする。			
到達目標	経済学的思考に基づき、我が国における社会保障制度、特に医療分野の現状と課題を理解する能力を養う。			
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に理解度を確認する問題を出す。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	社会保障を学ぶ意義および基礎となる概念について説明する。	講義した内容について復習する。
	2	社会保障の財政(1)	社会保障制度の財政方式および運営主体を説明する。	講義した内容について復習する。
	3	社会保障の財源(2)	時系列・国際比較を用いて、我が国の社会保障分野への支出額の妥当性を検討する。	講義した内容について復習する。
	4	社会保障に関する指標(1)	世代間不平等の程度を測る所得再分配係数について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	5	社会保障に関する指標(2)	より幅広い分野において不平等の程度を測るために用いられるジニ係数について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	6	年金保険(1)	老後の生活において不可欠な年金制度の特徴等を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	7	年金保険(2)	現状の年金制度における、負担金額、受給金額の計算方法を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	8	雇用保険・労災保険	現代社会において不可避な現象ともいえる失業に関連する雇用保険の制度・現状を説明する。	講義した内容について復習する。
	9	医療保険(1)	医療サービスの価格を示す診療報酬について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	10	医療保険(2)	医療サービスにおける需要の価格弾力性について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	11	医療保険(3)	医療サービスの効率的な供給について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	12	医療保険(4)	医療サービスで問題視される医師誘発需要について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	13	医療保険(5)	医療サービスの需要と供給の関係について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	14	医療保険(6)	医療サービスの需要と供給の関係を分析した、Rand 研究所の調査について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	15	医療保険(7)	諸外国で採用されている医療分野に関する政策を紹介する。	講義した内容について復習する。
関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ちょっと気になる社会保障	権丈 善一	勁草書房
	2	入門テキスト 社会保障の基礎	西村 淳	東洋経済新報社
	3	教養としての社会保障	香取 照幸	東洋経済新報社
評価方法(基準)	定期試験(70%)およびレポート(30%)の得点で評価する。			
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 西川講師室(経済学部)			

科目名	宿泊産業論	科目名(英文)	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3044a0		

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。 また、授業担当者は観光事業会社でホテル支配人として5年間勤務した経験から、宿泊施設経営に関する実践的な教育を行う。
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	宿泊関連産業動向の理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習
3	宿泊産業の歴史 I	海外(欧州、米国)における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
4	宿泊産業の歴史 II	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
5	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習
6	宿泊産業の種類	宿泊産業を形成する多様な各種業態について理解する。	事後：配布資料の復習
7	宿泊産業に関わる法律	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習
8	宿泊施設 I	国際的なホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
9	宿泊施設 II	国内におけるホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
10	宿泊施設の運営管理 I	主にホテルを例に宿泊産業の運営について学ぶ。	事後：配布資料の復習
11	宿泊施設の運営管理 II	主にホテルの経営指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出
12	宿泊施設の運営管理 III	宿泊施設の収益性分析について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出
13	事例研究 I	宿泊関連企業の事例研究(1)	事後：配布資料の復習、演習問題提出
14	事例研究 II	宿泊関連企業の事例研究(2)	小テスト 事後：配布資料の復習
15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、その他(演習問題提出等)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけではなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)
備考	

科目名	商法	科目名(英文)	Commercial Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2074a0		

授業概要・目的	商法は、一般法である民法の特別法であり、企業関係に特有な法規の総体とし、企業を商法の中心概念と考えています。企業とは、一定の計画に従い継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位のことであり、会社形態をとっていても、この要件を満たせば企業といえます。授業では、企業活動に関与する者にとり必要とされる商法の基本的知識を習得できるように講義を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、一般法である民法の基本的知識を前提に、商法の基本概念である商人概念および商行為概念について理解するとともに様々な商行為についても学修することにより、商法の基本的問題について具体的な法的解決能力を修得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、商法の意義	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 商法の意義、商法の法源、隣接法との関係。	教科書第1章(p.1~p.14)を見直すこと。(約60分)
2	商法の基本概念	商人の意義、商行為、商人資格、営業能力。	教科書第2章(p.15~p.29)を読んでおくこと。(約60分)
3	商業登記	商業登記の意義・手続・効力。	教科書第3章(p.30~p.43)を読んでおくこと。(約60分)
4	商号	商号の意義、商号の選定、商号の登記、商号権の保護、商号の譲渡、名板貸。	教科書第4章(p.44~p.65)を読んでおくこと。(約60分)
5	営業と営業譲渡、商業帳簿	営業の意義、営業所、営業の譲渡、営業の賃貸借・経営委任。 商業帳簿の意義・種類・保存義務。	教科書第5章および第6章(p.66~p.87)を読んでおくこと。(約60分)
6	商業使用人	商業使用人の意義、支配人・その他の商業使用人。	教科書第7章(p.88~p.99)を読んでおくこと。(約60分)
7	代理商	代理商の意義、代理商の権利、義務、代理商関係の終了。	教科書第8章(p.100~p.109)を読んでおくこと。(約45分)
8	商行為法総論	商行為法の意義、商行為通則。	教科書第9章(p.110~p.126)を読んでおくこと。(約60分)
9	商事売買	商人間売買の規律、消費者法。	教科書第10章(p.127~p.149)を読んでおくこと。(約60分)
10	交互計算その他の決済手段、匿名組合	企業取引の決済手段、交互計算、相殺契約(ネットティング)、匿名組合、資産流動化、ファイナンス・リース。	教科書第11章および第12章(p.150~p.163)を読んでおくこと。(約60分)
11	仲立営業、問屋営業	仲立人の権利・義務、問屋営業、問屋と委託者との関係。	教科書第13章および第14章(p.164~p.181)を読んでおくこと。(約60分)
12	運送営業・運送取扱営業	物品運送契約、旅客運送契約。	教科書第15章(p.182~p.214)を読んでおくこと。(約60分)
13	倉庫営業、場屋営業。	倉庫寄託契約、倉荷証券、場屋営業の意義、場屋営業者の責任。	教科書第16章および第17章(p.215~p.227)を読んでおくこと。(約60分)
14	手形・小切手	約束手形、為替手形、小切手。	レジュメを見直しておくこと。(約60分)
15	商法まとめ	商法総則・商行為法の総括。	これまでの範囲を見直しておくこと。(約5時間)

関連科目	民法、会社法。
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スタンダード商法I 商法総則・商行為法	北村雅史編	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する(70%)。その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する(30%)。
学生へのメッセージ	商法は、商法総則と商行為法に大別されます。授業では、民法に関する知識にも触れながら分かりやすく説明します。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部事務室
備考	小テストは、当該授業または次の授業で解説する。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	西洋経済史	科目名(英文)	Western Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1019a0		

授業概要・目的	資本主義はヨーロッパの封建社会の中から誕生し、その後世界へと広まっていった。資本主義のシステムを理解するため、なぜヨーロッパのイギリスにおいて最初に資本主義が発展したのか、またその後の世界的な資本主義システムの展開において、イギリスからアメリカへの覇権の交代が、なぜ、いかんして生じたのかを明らかにする。 本講義では、中世末期から20世紀にかけての、西欧およびアメリカにおける資本主義経済の長期的な発展プロセスを、体系的に理解することを目標とする。
到達目標	西洋経済史にかかわる用語の意味内容を理解し、西欧およびアメリカを事例に、資本主義の長期的な発展プロセスの主要なモメントを説明することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。毎回プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	西欧に端を発する資本主義の世界的な発展史を理解し、よって日本およびアジア地域の経済発展の歴史的位相への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中世ヨーロッパの社会と経済	レーン制と荘園制を基礎におく封建社会	配布プリントでの復習
3	中世末期のヨーロッパを取り巻く世界	ヨーロッパの拡大と植民地、市場経済の広まり	配布プリントでの復習
4	イギリス産業革命前夜の経済と社会	商業革命と生活スタイルの変化	配布プリントでの復習
5	イギリス産業革命	綿業を中心とした工業化の進展	配布プリントでの復習
6	ヨーロッパ大陸における後発国の工業化	ドイツにおける工業化の進展	配布プリントでの復習
7	ボックス・ブリタニカ	イギリス帝国の世界的な支配体制	配布プリントでの復習
8	アメリカ資本主義の発達	イギリス植民地経済からの発展と国民国家形成	配布プリントでの復習
9	新産業の登場と19世紀後半の「大不況」	19世紀後半の世界的な大恐慌が資本主義各国にもたらした影響、独占体制の成立	配布プリントでの復習
10	20世紀「福祉国家」と社会政策の源流	「労働者」の台頭と社会政策の展開	配布プリントでの復習
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	アメリカとヨーロッパの新たな結びつき	配布プリントでの復習
12	1920年代のアメリカ経済の繁栄	大衆消費社会の出現	配布プリントでの復習
13	1930年代の大不況と西欧諸国	世界大恐慌とナチズムの台頭	配布プリントでの復習
14	第二次世界大戦とアメリカ資本主義の台頭	東西冷戦とアメリカによる戦後資本主義体制の再編と強化	配布プリントでの復習
15	ボックス・アメリカーナの20世紀	第二次大戦後のアメリカを中心とする資本主義体制の発展と現状	配布プリントでの復習

関連科目	日本経済史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験75%、ミニレポート・授業参加度(質問・感想等)25%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	短期的な視野のみではなく長期的に資本主義の生成・発展を考えたい、また日本と西欧との比較に関心があるという人の受講を、特に歓迎します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	世界観光事情	科目名(英文)	International Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3072a0		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。一方で、急激な変化であるため、日本での観光に対する研究や認識は十分に進んでいません。この授業では、日本と世界の観光の現状について、さまざまなデータで客観的に眺め、世界の観光事情について理解を深めます。
到達目標	日本と世界の観光の現状について客観的なデータで把握し、経済における観光の役割を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。基本的にはパソコン室で講義と実習を行います。
科目学習の効果(資格)	日本と世界の観光の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要の紹介	配布レジュメの復習
	2	世界の観光の動向(1)	国際観光客の動向	配布レジュメの復習
	3	世界の観光の動向(2)	国際観光客増加の要因	配布レジュメの復習
	4	日本の観光の動向(1)	近年の訪日外国人旅行者の動向	配布レジュメの復習
	5	日本の観光の動向(2)	訪日外国人旅行者増加の要因	配布レジュメの復習
	6	観光産業	産業としての観光のとらえ方	配布レジュメの復習
	7	観光政策	観光行政の変遷と観光政策	配布レジュメの復習
	8	ツーリズム	体験型旅行としてのツーリズムの形態	配布レジュメの復習
	9	MICE	MICEの4つの形態と今後の可能性	配布レジュメの復習
	10	観光のデータ分析(1)	世界各国の観光客の動向についてデータ分析	配布レジュメの復習
	11	観光のデータ分析(2)	訪日外国人旅行者の地域分布についてデータ分析	配布レジュメの復習
	12	観光のデータ分析(3)	RESASによる都道府県観光客の動向の分析	配布レジュメの復習
	13	観光のデータ分析(4)	RESASによる市町村観光客の動向の分析	配布レジュメの復習
	14	観光のデータ分析(5)	データ分析結果のレポートへの反映	配布レジュメの復習
	15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	配布レジュメの復習

関連科目	観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内の発表3回(60%)と期末レポート(40%)による総合評価
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	摂南経済ゲストレクチャー	科目名(英文)	Setsunan Guest Lectures
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1061a0		

授業概要・目的	グローバル化とインターネットの発達により、労働者に求められるスキルが高度化しています。グローバル化した世界で働くには何が必要なのか？国際経済、地域経済、観光経済、などのトピックにかかわって、担当教員のガイドのもとに、ゲスト講師を招いて授業を行います。2019年度も、魅力的なゲストをお招きして、お話を伺います。
到達目標	社会人講師のレクチャーを聴いて、現実の社会や経済の動向を知るとともに、在学中及び卒業後の自分のキャリア形成のイメージが持てるようになる。とりあつかわれたトピックについて自分で調べて、自分の意見を含むレポートが書けるようになる。
授業方法と留意点	それぞれのゲストレクチャーの前に、担当教員が事前レクチャーを行い、受講者に予習をさせます。⇒ゲストによるレクチャーを受講⇒最後に全体を通したレポートを提出してもらいます。(発表、レポートが試験のかわりになります。必ず提出してください。)
科目学習の効果(資格)	視野を広げ、現場における課題を知って実践的態度を身につけることができるでしょう。簡単なレポートを書く訓練にもなります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	4月17日(水)3時限 事前学習	ゲストの話に関連した事前学習をする	ゲストの話に関連した予習をする
3	4月24日(水)3時限 八木紀一郎学長	大学とは何か・学生とは何か	予習、ゲストの話レポートにまとめる(ゲストの話の後は毎回)
4	5月8日(水)3時限 ニッセイ基礎研究所研究理事・吉本光宏氏	東京2020大会—文化プログラムの可能性と課題	予習
5	5月15日(水)3時限 事後学習・事前学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習
6	5月22日(水)3時限 パリ日本文化会館館長、初代ブルキナファッソ特命全権大使・杉浦勉氏	日仏間の文化及び経済交流について	予習
7	5月29日(水)3時限 事後学習・事前学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習
8	6月5日(水)3時限 大蔵流狂言師・茂山千三郎氏	日本人の和らい	予習
9	6月12日(水)3時限 事後学習・事前学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習
10	6月15日(土)2時限 クラブツーリズム(株)国内旅行部 京の旅デザインセンター顧問・宮本茂樹氏 この日程は、7月10日(水)の振替	産業としての観光の過去・現在・未来とそこに求められる人材像	予習
11	6月19日(水)3時限 事後学習・事前学習	ゲストの話について発表し、今後のゲストに関連した事前学習をする	予習
12	6月26日(水)3時限 千島土地株式会社代表取締役社長・芝川能一氏	不動産業から地域の未来を考える〜アートを切り口とする地域活性化の試み	予習
13	7月3日(水)3時限 摂南大学経済学部・内田勝巳教授	JICA- 開発援助という仕事	予習
14	7月17日(水)3時限 神戸大学 EU 総合学術センター・花田エバ准教授	中東欧4か国とEU-スロバキアに注目して—	まとめのレポートを完成する
15	7月24日(水)3時限 まとめ	レポートを発表し提出する	学習のまとめを行う

関連科目	地域経済入門、観光学入門、国際経済入門
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	出席・授業態度・発表(40%)、レポート(ノート)60%で総合評価します。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	広く世界に目を向け、経済や社会の現実を学びます。そのなかから、自分たちに何が求められているのか考え、在学中及び卒業後のキャリア形成のイメージを持てるようにしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	ゲストの都合で、日程を変更することがあります。
----	-------------------------

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	「国際協力」というグローバルな視点から、開発途上国や日本の地域開発のあり方を探求する。その際、経済開発理論と現場での実践に注目する。		
到達目標	論文の作成に必要な形式や論理的思考に関する基礎的知識を身につけて、次年度以降のフィールド調査および卒業論文作成の準備が円滑に行えるようになることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	前期のおわり（7月）にゼミ論の作成計画書を提出し、後期のおわり（1月）にゼミ論を提出しプレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各自が関心のある日本の地域問題、開発途上国や地球規模の問題について、どのような研究が行われているか文献調査を行い参考文献一覧表を作成する（授業時間外に自身で行う）。 2) 各自が関心のあるテーマの特定地域・特定分野の具体的な研究計画を立て、当該地域・分野に関連したゼミ論を作成する。 3) 可能な限り受講生の希望に沿って課外活動を実施する。 4) 併せて、研究倫理教育を行う。 		
関連科目	開発経済学、国際協力論、地域経済入門		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康
	2		
	3		
評価方法（基準）	文献を調査し理解する力、討議への参加、ゼミ論作成能力、プレゼンテーション能力等で総合的に評価する。ゼミ対抗プレゼン大会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	演習を通じて自ら関心のあるテーマの学習を深めていってください。		
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	まず、国際経済学の基礎的文献を輪読する。その後、わが国産業がどのように国際展開を図ろうとしているのか、国際社会にどのように日本をアピールしようとしているのかについて情報収集する。		
到達目標	わが国産業の未来を考えるうえで基礎的な学力を養成することを到達目標とする。		
授業方法と留意点	基礎的な文献を輪読した後、最近のわが国産業に関する論文、雑誌、さらには各企業のHPなどにより情報収集を行う。また、こうした情報に基づき、経済学・経営学の手法を用いて、わが国産業の将来について考える。常に、産業界の動向について興味を持ち、情報収集に心がけてもらいたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国産業の将来をテーマとする。本演習中には、国際経済学・経営学の基礎理論を学び、得られた情報について分析を行い、わが国産業の将来を考える分析力を養成する。演習中に事前事後の学習課題を指示する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	本演習に取り組む姿勢、さらには分析結果について評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	テーマは、文化経済をキーワードとして地域や観光への理解を深めることである。初年度は、文化経済学の基礎理論や、文化産業・クリエイティブ産業の理論と現実を学び、文化と地域経済との関わりについて、探求することを目指す。																		
到達目標	基礎的な理論を理解するとともに、文献や論文の検索、現地調査の準備ができるようになる。経済学部のプレゼンテーション大会に参加する。																		
授業方法と留意点	前期は、文献を読み、今年度の調査テーマを考える。また、土曜日に関西圏のフィールドワークを行う。前期終了時に、今年度のフィールドワークの計画を完成し、後期に、1泊2日のフィールドワークを行う。1月には、グループに分かれてプレゼンテーション大会の準備をする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化経済や文化市場の基礎的な理論を学ぶ 2. 文化産業やクリエイティブ産業の理論と実態を学ぶ 3. 文化産業の集積と地域、文化による都市や地域の再生、文化による観光振興など、文化と地域の関わりや可能性を学生自らが探求するアクティブ・ラーニングを目指す。 4. 学生自らが研究テーマを見つけ、フィールド調査を計画し実行する。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	演習への出席状況 (欠席は半期に3回まで)、レポートや学習成果 (30%)、フィールドワークへの参加 (30%)、プレゼンテーション (40%) を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室																		
備考	演習の主体は学生です。積極的な参加を求めます。また、演習を通して将来の仕事への展望が持て、社会人としての基本的なスキルを身につけられるように頑張りましょう。イタリアの学生との合同ゼミや、現地調査等も行う予定です。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	3年・4年時の上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。		
到達目標	①会計学の基礎の演習 ②研究レポートの書き方、ディスカッションによる研究の調整・発展テクニックの習得 ③プレゼンのスキルを身につける		
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加型のゼミですので積極的に参加すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室		
備考	積極さが必要		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	文献購読、学外視察、業界関係者のレクチャー等により地域・観光産業の概要を理解する。同時に社会人としての一般常識を習得する。			
到達目標	学外活動等から得た地域・観光に関する情報を活用し、主体的にプランを作成、実践できる。			
授業方法と留意点	授業の一環として、学外の施設を訪問したり、学外の方を招いたりすることが多いので、摂大生として節度ある行動と変則的なゼミ運営に留意すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期：文献（教科書）購読及び内容発表、レクチャー等、 後期：学外視察、学外活動を行い、3年次専門演習Ⅱで行う観光実践演習に必要な基礎的な知識や素養を習得する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サービスマネジメント入門（第3版）	近藤 隆雄	生産性出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見・資料収集・分析、レジュメおよびレポート・発表の内容、ゼミ活動・課題解決への取り組み姿勢等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済の問題点について基本的な認識を持つ。 2. 地域経済における地域金融機関の取り組みについて事例研究する。 3. 次年度に向けて自分の関心を確立する。 		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、プレゼンテーションといった一連の作業を経験することを通じて、基礎的な知識と方法論を身につける。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	世界的な競争のグローバル化のもとで、日本では、いまだ世界トップ水準の国際競争力を維持する自動車産業が存在する一方で、かつて日本の経済成長を支えた電機産業では衰退が進んでいるなど、グローバル競争への対応力に大きな違いがみられる。このようなその違いを生み出す要因とは何であろうか。この点を、いくつかの産業分野を取り上げ、主にこれまでの競争条件および競争力のあり方とその変化という点から検討する。																
到達目標	基本的な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身に付け、それらを他人へと伝える効果的なプレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。他人の意見を理解し、また自らの見解を説得力を持って展開させ、有効な議論を行うことができる。																
授業方法と留意点	文献や資料の輪読・検討を行う。工場見学や企業訪問の計画を立て、現場の実態を調査する。後期の終りに一年間の学習内容をレポートもしくはプレゼンテーションとしてまとめる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業経営のイメージを得るための基礎的な学習を行う。 2. 自分で選んだ対象企業について、資料を収集し、さまざまな角度から分析を行う。 3. 各自の学習成果を報告・検討する。 4. 研究倫理教育を行う。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (発表、発言、調査への取り組みなど) で評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室																
備考																	

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 地域における経済活性化の取り組みとして情報化、地域コミュニティ醸成の必要性及び地域保健医療の環境整備の必要性について考察する。 また、地域の特色を活かした地域振興や地域資源、施設の活用について視察や訪問によって学ぶ。 少子高齢化や社会保障の社会情勢への対応の視点から保健福祉医療関係等の施設見学や地域振興の視点から現地調査等についてもゼミ生が主体的に実施することを奨励する。 <p>・政令指定都市職員勤務の実績を活かして地域活性化の施策実施の視点と協働する市民の視点の両面から地域活性化事業検討やフィールドワーク実施の授業を行う。</p>																		
到達目標	・授業概要・目的に述べた施設見学や現地調査の情報から専門演習 II で研究する内容への理解を深めることを到達目標とする。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習で理解を深めた近代経済学とマルクス経済学の考え方を踏まえ地域経済活性化の手段としての保健福祉医療関係や地域振興の役割について習得する。 また、これらの事業について視察や配布資料によって議論を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域経済活性化への保健福祉医療と地域振興等の重要性を考える。 中央集権的な経済構造によって高度成長期を経て、現在は地域を中心に経済が沈静化しつつある。 地域は地域振興の活性化や保健福祉医療事業の活性化によって事業展開がローカルからグローバル化することが可能であることを配布資料の輪読や議論によって学ぶ。 フィールドワークや日経ビジネス等の雑誌から現状の課題への対応策について、検証し、まとめ、プレゼンテーション等の手法により報告・議論する。 併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習 II 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし 適宜資料を配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし 適宜資料を配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	なし 適宜資料を配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ゼミへの参加は、議論によって自らの考えをまとめ話す力を醸成します。醸成された知識を学生間で交換することでコミュニケーション能力が修得出来ます。 従ってゼミへの参加は、自らの成長と共に「就活力」の向上が望めます。 出席を重視します。 課題レポート及びプレゼン資料の作成によって研究内容の充実化と発表スキルを醸成します。必ずこれらの提出を心がけてください。 <p>・政令指定都市に 30 年勤務した経験から政策・施策の視点で実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の研究室等	1号館 7階 田井准教授室 (経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> 地域の経済活動を支える保健福祉医療事業だけでなく地域振興の事業への関心を持ち、ゼミ生自ら地域の事業への調査を通じての研究・発表を期待する。 地域実践演習や PBL 等の課外活動を奨励する。これらの活動から得た知見を研究に役立てて欲しい。 																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	ゼミのテーマ：環境問題と現代社会 21世紀は環境の世紀であり、企業の活動も資源・環境の制約や諸制度からは逃れられない。本ゼミでは、政府の環境政策、企業の環境戦略、産業再編の相互関係について分析し、日本経済についての認識を深める。																		
到達目標	ゼミ活動を通じた自発的な学び、大学らしい学びがスタートする。 大学のゼミ活動、最終的には卒論執筆に必要となる、研究を遂行するための基礎的能力について学び、これが学士力、社会人基礎力と共通することを理解する。 「ピブリオ・バトル」(書評会)を適宜開催し、プレゼン能力の向上をはかる。																		
授業方法と留意点	学生自身がテーマを決め、調査・研究・発表を行い、学士力を身につける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期には、入門的なテキストを輪読して、レジュメ作成と発表の基本的な技術を習得する。 後期には、各自が興味のある研究テーマを決定し、情報収集とレポート発表をおこなう。 併せて、研究倫理教育を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習への参加状況(出席、レポート提出、発表など)																		
学生へのメッセージ	大学時代はあっという間です。目標をもって努力し、自分の力を高めて下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)																		
備考	ゼミ参加者は「地球環境経済」の講義に出席すること。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	本演習では、文献研究と学外研修・視察などを通して、観光関連産業とさまざまな観光について理解を深めることを目的とします。また、観光関連の英語についても、基礎力が身に付くよう工夫していきます。		
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、観光関連産業とさまざまな形の観光についての理解を深めることを目標とします。		
授業方法と留意点	文献研究の他、ゲストによるレクチャーや学外研修なども行いますので、マナーを守り、大学生としての自覚を持って授業に臨んでください。ゼミの運営においても、各自責任感を持って積極的に協力すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光関連産業とさまざまな形の観光について研究を進めます。文献研究の他、理解を深めるために学外研修や視察等も行います。併せて、研究倫理教育を行います。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	1からの観光	高橋一夫他編著
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レポート・課題提出、発表内容、ゼミ運営への貢献度等を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	様々なことに積極的に挑戦して、世界を広げてください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。		
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	3年次以降のゼミでの学習・研究に必要な「読解力」「要約力」「プレゼンテーション能力」「ディスカッション能力」を身につける。また知識としては地域の現状を経済学のおよび歴史的に分析する。		
到達目標	地域の問題を歴史的な視点から見る視点とその方法を学ぶ。また「読解力」「要約力」「プレゼンテーション能力」「ディスカッション能力」を身につける。		
授業方法と留意点	前期では個人で、後期ではゼミ全体で一つのテーマについてまとめる。 また、必要に応じて時事問題について議論したりする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業全体を通じて3年次以降で必要となる技術と知識を習得していく。教科書の輪読を中心とするが適宜見学に行くことも考慮している。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	1970年 大阪万博の時代を歩く	橋爪伸也
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	発表内容及びそれを基にした質問や意見の表明の内容、議論への参加の態度などを総合的に評価する。無断欠席が多い場合単位が与えられない場合があるので注意すること。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室 (経済学部)		
備考	通年で演習の予習復習また課題作成を合わせて30-40時間の授業外学習が望ましい。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	本演習はプロ野球・オリックス野球クラブとの教育協定に基づく授業が行われる。今年度は『オリックス・バファローズから見た日本のプロ野球』という研究課題に取り組んでいる。		
到達目標	①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。		
授業方法と留意点	パソコン室で基本的な統計手法を学びながら、フィールド調査やヒアリング調査も行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、オリックス・バファローズの球団職員を講師に招き、実体験を交えた野球ビジネスを解説いただくとともに、球団へのヒアリング調査を実施。そして、今後京セラドームでの球場調査も実施するなどして、プロ野球に関する情報の収集と分析を行う予定です。これらを通じて、プロ野球の問題点を経済学の視点から分析する能力を高めて行きたい。さらに、研究成果を球団側の方にプレゼンテーションを実施する。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	フィールド調査に積極的に参加してほしい。		
担当者の研究室等	一号館7階 郭准教授室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	市場にはヒットする商品が存在する一方、全く売れない商品も存在する。この売れる商品と売れない商品の違いを分析するに当たり、経済学は貴重な知見を提供する。当ゼミの目的は、これまで蓄積されてきた経済学の知見を用いて、商品ヒットにつながった要因を分析することにある。		
到達目標	商品ヒットにつながった要因を分析するに当たり必要とされる、マイクロ経済学、計量経済学の能力を身につける。		
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では、主に経済学、経営学で蓄積されてきた、新商品普及に関する文献を学習する。 後期は特定の市場データを用いて、売れる商品と売れない商品で何が異なっているのかを分析するため、エクセル等の表計算ソフトを用いたデータ処理の手法を学ぶ。 最終的に分析結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	マイクロ経済学、産業組織論、統計学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	この授業では4つのことを目標とする。第1に学生に関心のある経済記事を選んでもらい、Power Point で発表してもらい、文章をまとめる能力とプレゼン能力をつけてもらう。第2に、SPI 対策として練習問題を行う。第3に、3分間スピーチを行い、自分の意見を上手く伝える能力をつけてもらう。第4に、データの分析の仕方、グラフの作成の仕方について学ぶ。																		
到達目標	Powerpoint を使ったプレゼン能力、ディスカッション能力、パソコンを使ったデータ分析の能力を身につけてもらう。																		
授業方法と留意点	基本的には学生によるプレゼン、ディスカッション、データ分析をメインに行います。学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <p>1. 新聞記事や本を読んで日本でおきている経済に関する問題点を調べてもらいます。学生にはグループで PowerPoint を使って発表してもらい、プレゼン能力を身につけてもらいます。</p> <p>2. また身近でおきているテーマを取り上げグループでディスカッションをします。これによって社会人に必要な考える能力・Discussion 能力を身につけてもらいます。</p> <p>後期：データ分析の仕方を学びます。具体的にはパソコン室で Excel を使い、データの分布やデータ間の関係性について学習します。これによりデータ分析能力と Excel のスキルを身につけてもらいます。</p> <p>併せて、研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン (30%)、ディスカッション (20%)、データ分析 (50%) で総合評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	<p>地域産業、ベンチャー企業、既存の中小企業や大手企業について、基礎から学んでいきます。 特定自治体の産業の分析、特定企業の分析を学んでいきます。 分析を通じて地域の行政、金融機関の産業活性化における役割を学んでいきます。 卒業研究に向けて、テーマ候補の選定、参考文献の選定などを徐々に行っていきます。 キャリアプランのブラッシュアップを行います。 環境マネジメントについて基礎を学びます。 研究倫理教育を行う。 グループワークによるゼミプロジェクトの企画を希望があった場合に行います。</p>																
到達目標	<p>卒業研究の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。</p>																
授業方法と留意点	<p>卒業研究について学生がたたき台の案を提示し、それをブラッシュアップしていく。 事例を提示し、それに対して分析し、ディスカッションしていく。 地域経済実践演習の履修を推奨する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 はじめに 今後の進め方、ゼミのガイダンスを行う。研究倫理について学ぶ。 研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 2 研究テーマ候補の列挙 キャリアプランのアイデア、分析する企業、自治体の選定 ゼミ生の発表、ディスカッション、発表に対する指摘事項への対応を考える 3 企業分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。 用語について次回までにレポート作成 4～6 企業分析の演習①～③ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 7 企業分析の演習④ 選定された事例企業を実際に分析する。研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 8 研究テーマ候補、キャリアプランについての中間報告 ゼミ生の発表、ディスカッション 発表に対する指摘事項への対応を考える 9～10 企業分析の演習⑤⑥ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 11 自治体分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。 用語について次回までにレポート作成 12～14 自治体分析の基礎①～③ 選定された事例自治体を実際に分析する。復習し理解を深める 15 研究テーマ候補、キャリアプランについての暫定報告 ゼミ生の発表、ディスカッション、興味を持った企業が自治体について分析のレポートを提出</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>ディスカッションへの参加と発表 (50%)、レポート (50%) による評価を行う。</p>																
学生へのメッセージ	<p>どのようなゼミにしていくかは、ゼミ生の皆さん次第です。 楽しいゼミを作っていきましょう。</p>																
担当者の研究室等	<p>1号館7階</p>																
備考																	

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式で、各人が自らの課題を設定し、資料・データ収集、分析、考察を行い、その成果を発表します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>これらの内容に併せて研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察をゼミ論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。 2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。 3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。 			
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。また、主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。 2. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 3. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。 4. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。 			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果 (プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など)、集団学習への貢献度 (質問、提案、議論のまとめなど) をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。		
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。		
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。 基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	プレゼンテーションやレポートの完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生（キャリア）に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。 		
授業方法と留意点	演習形式（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査）		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>演習のテーマ：キャリアの経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は、専門知識の習得、読解力の向上、プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、ワークショップ、シミュレーションゲーム、校外実習などを行います。学生が企画・実施もします。 ・卒業研究（卒業論文）で経済学的な分析ができるように、コンピューターを用いた労働統計分析の演習を行います。また、データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。 ・以上の活動を通じて、卒業研究（卒業論文）で扱う自身の研究テーマを見つけます。 		
関連科目	労働経済学、公共経済学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	キャリアのみかた（改訂版）	阿部正浩・松繁寿和
	2		
	3		
評価方法（基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加と貢献を評価します。（出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です） ・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション ・卒業論文のテーマに関わるミニレポート 		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2079a0		

授業概要・目的	<p>この演習では、まずマクロ経済学 I・II の内容を踏まえて、マクロ経済学の単元 (GDP、物価、資産価格、為替レート等) について、指定テキストの輪読を行い、マクロ経済学の基本的知識の習得を目指します。その上で、これらの経済変数に対する金融政策の効果について、学習していきます。</p> <p>学生には指定テキストの担当箇所をまとめ、報告していただきます。主体的な取り組みを期待します。</p> <p>また、データの収集およびデータ加工の実習を通じて、日本経済の状況に対する理解を深めます。</p>			
到達目標	<p>1) マクロ経済学の基本知識を習得する。</p> <p>2) 日本の経済データを参照しながら学習を進め、日本経済の状況を理解する。</p> <p>3) 金融政策がマクロ経済に与える効果について、理解を深める。</p>			
授業方法と留意点	<p>この講義は演習なので、学生の主体的な取り組みが非常に重要です。学生には指定テキストの担当箇所をまとめ、報告していただきます。この演習の指定テキストでは、経済データが多く紹介されています。これらをもとに、データの収集およびデータ加工の実習にも取り組んでもらいます。なお、次年度の専門演習 II では計量分析の基本を学び、これらのデータを用いた実証分析の手法を学びます。希望があれば、日本銀行大阪支店など、企業 (?) 見学を企画します。回数に限りはありますが、遠慮なくリクエストしてください。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>概ね、次のような順番で進めます。ただし、1つの単元が2コマ分、というわけではありません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金融政策とマクロ経済の関係 2. マクロ経済学の意基本的な考え方 3. GDP と物価 4. 消費 5. 投資 6. 貨幣の需給 7. 総需要・総供給分析 8. 為替レート 9. 景気循環と経済成長 10. マクロ経済と資産価格 11. マクロ経済と銀行貸出 12. マクロ経済政策 13. 金融政策の役割 14. 日本の金融政策 			
関連科目	マクロ経済学 I・II、金融論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コア・テキスト マクロ経済学	宮尾龍蔵	新世社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 (レポート含む) の提出状況、演習の取り組み姿勢、プレゼンテーション、出欠状況などをもとに、総合的に判断します。			
学生へのメッセージ	金融政策やマクロ経済というと、一部の偉い人が動かす「大きな話」であるといったイメージを持つ方も多いと思います。しかし、金融政策やマクロ経済の変化は我々の生活にも関係しています。せっかく経済学部の学生をしているのですから、身近に入手できるデータから、経済の「大きな話」を考えてみましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室			
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。			
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書(卒業論文ドラフト)として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	社会調査・アンケート調査・データ解析につき学習しつつ、基本的には専門演習Ⅰで作成したゼミ論テーマに沿って、各自でフィールド調査計画をたて、質問票等を作成し、フィールド調査を実施する。フィールド調査は夏季休暇期間中を目途に実施することが望ましい。フィールド調査結果をとりまとめ、11月から12月にかけて、順次、フィールド調査のプレゼンテーションを実施する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書
	2			
	3			
評価方法(基準)	受講態度(20%)、フィールド調査の実施(40%)、フィールド調査報告書(30%)、プレゼンテーション(10%) ゼミ対抗プレゼン大会出席者は高く評価する。			
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別/グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 内田勝巳教授室(経済学部)			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。		
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書(卒業論文ドラフト)として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月：基本的な文献の購読</p> <p>5-7月：ゼミで行う現地調査テーマの設定と文献サーベイ、1日のフィールドワーク(2年生と一緒に)</p> <p>9-11月：フィールド調査の計画、アポイントメント、実施</p> <p>11-12月：フィールド調査報告書の提出とプレゼンテーション</p> <p>12月-1月：卒業論文のテーマを決めて書き始める併せて、研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	受講態度(30%)、フィールド調査報告書(50%)、プレゼンテーション(20%) ゼミ対抗プレゼン大会出席者を高く評価する		
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別/グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)		
備考	必要な文献は、適宜指示します。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度に確立された自分の研究テーマを深化させる。 2. フィールド調査を通じて、地域経済の問題点を考察し、自分なりの認識を持つ。 3. 次年度の卒業研究論文作成に向けて、必要な分析の方法を学習する。 			
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>テーマ：日本企業および日本の産業のグローバル化</p> <p>世界的な競争のグローバル化のもとで、日本では、いまだ世界トップ水準の国際競争力を維持する自動車産業が存在する一方で、かつて日本の経済成長を支えた電機産業では衰退が進んでいるなど、グローバル競争への対応力に大きな違いがみられる。このようなその違いを生み出す要因とは何であろうか。この点を、いくつかの産業分野を取り上げ、主にこれまでの競争条件および競争力のあり方とその変化という点から検討する。</p>																		
到達目標	<p>基本的な文献を読み解き、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。フィールドワークを行うに当たっての企画や準備、またインタビュー調査などを自らおこなうことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身につけ、それらを他人へと伝える効果的なプレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。他人の意見を理解し、また自らの見解を説得力を持って展開させ、有効な議論を行うことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>自分の関心がある特定の産業分野を取り上げるか、特定企業の経営分析を行い、レポートを作成する。可能な形でフィールド調査を行う。個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業研究および企業経営分析に関する文献を検討する。 2. フィールド調査の計画・準備・実行・事後調査を行う。 3. 各自の学習成果を報告・検討する。 <p>併せて、研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>授業への参加状況(発表、発言、調査への取り組みなど)で評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>1号館7階 岸田准教授室</p>																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰの内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域経済における地域保健福祉医療だけでなく地域振興の活性化についても考察する。 ・それらを通じて、卒業論文をまとめるための文章力の養成を行う。 ・また教科書及び資料によってアイデア創出のスキルを醸成する。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化する就職活動にも対応するコミュニケーション力向上と学生相互が議論できる課題と環境を構築して学生が、自立した意見表明が出来ること及び卒業研究に繋げる表現力・文章作成力の修得を到達目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰで理解を深めた経済学的視点を踏まえ地域経済活性化の手段としての施策について考察する。 ・教科書・参考資料の輪読を行う。さらに課題認識と課題対策の具体化を支援するフィールドワークからの考察、演習・発表を中心に行う。 ・前半は学生が選択した冊子を輪読し、分担した内容について意見表明による議論を行い、自立した意見発表の演習を行う。 ・演習後半には、4年次に本格化する就職活動に向けて、学生個々の進路に合わせた課題演習も実施していきたい。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加によって議論に慣れ、社会に役立つ知識と知恵を修得することができる。 ・大学生時代しかこのような体験はできないので、時間を有意義に活用する習慣を修得して欲しい。 ・出席、議論参加を重視します。 																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)																		
備考	学生の積極的な参加意欲によるゼミ参加を奨励する。無断欠席は、厳重に対処する。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	<p>テーマ 環境問題と産業・企業 さまざまな環境問題への対応を迫られる産業・企業の実態について研究する。</p>		
到達目標	研究・調査・発表についての基礎的な能力を高める。		
授業方法と留意点	<p>関心がある環境問題と産業・企業の関わりについてテーマ設定し、調査レポートを作成する。 個人あるいはグループで、作成したレポートを発表・報告する。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>各自の問題意識による調査・研究を軸とする。 前期は、グループごとにテーマを設定し、調査・研究を行う。 後期は、卒業論文を意識し、個人ごとにテーマを設定して、調査・研究を行う。 併せて、研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加状況(発表、発言、調査への取り組みなど)で評価する。		
学生へのメッセージ	卒業論文の作成を意識し、テーマを選択するために、アンテナをはっておきましょう。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	観光産業は近年注目を集めている分野であるが、その制度・政策の妥当性・有効性について、経済学的な観点から十分に検討されているとはいえない。本ゼミの目的は、観光産業を含む経済政策全般を対象に、各産業における制度・政策を評価する手法を学び、その効果を定量的に示す能力を養うことにある。			
到達目標	産業における政策の効果を分析するに当たり必要とされる、ミクロ経済学、計量経済学の能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査する。この調査を踏まえ、仮説を立て、費用対効果分析や計量経済学の基本的な手法を用いて、仮説の妥当性を検証し、その成果を個人単位で発表する。仮説の提示、分析データの収集の過程で、必要に応じて企業へのインタビュー、アンケート調査等を実施する。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題の発見、資料収集、分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	観光企業、自治体、観光地等の実地調査や文献研究により観光事業の諸課題やその多様なあり方を実践的に理解する。		
到達目標	観光事業に関する実地調査とそれに基づいたレポート作成と発表が出来る。		
授業方法と留意点	前期：様々な観光事業に関する文献購読、関連資料調査等によって観光事業に対する理解を深め各自研究課題を設定する。 後期：前期で得た知識を踏まえ、研究課題に関する観光企業、自治体、観光地等への実地調査等（視察、ヒヤリング等）を実施し、調査レポートにまとめ提出、プレゼンテーションする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前学習として観光の様々なテーマ（環境保護、文化振興、地域・産業振興、健康増進等）に関して事業主体（企業、自治体、NPO、観光地等）がどのような活動を行っているか、事例研究を行う。更に必要に応じ観光地・企業等の実務担当者からのレクチャー等を実施する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	提出レポートの内容、プレゼンテーション内容、ゼミ活動への参加態度、等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	価値観が多様化し、情報のあり方が変わるなか、観光においても新しい様々な事象が発生しています。また、訪日外国人観光客の増加やリビーターに対応するため、地域の対応も求められています。本演習は国内外の航空産業と宿泊産業の現場で実務経験のある教員が担当し、観光振興と地域活性化をテーマとして、実務的な面からも助言をしながら研究を進めていきます。																		
到達目標	様々な観光事象について理解を深め、観光振興と地域活性化について考えていきます。																		
授業方法と留意点	学生が選んだテーマにつき、グループで研究を進めていきますので、一人ひとりが責任をもって自主的に行動してください。学外研修も実施しますので、積極的に参加してください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	専門演習Ⅰで学んだ観光関連産業と様々な観光事象についてさらに理解を深め、その中から学生が主体的にテーマを設定し、グループで研究を進めていきます。文献や資料については授業内で適宜指示します。																		
関連科目	観光学入門、専門演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	レポート・課題提出、発表内容、ゼミ運営への貢献度等を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	取り組む姿勢の違いによって、身に着くことが違ってきます。一つでも多くのことを学ぶという食欲な姿勢で、積極的に授業に参加してください。																		
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	国際経済学に関する文献を輪読する。そのうえで、わが国の産業がどのように国際展開を図ろうとしているのか、国際社会にどのように日本をアピールしようとしているのかについて情報収集し、分析を行う。			
到達目標	わが国産業の未来を考える上で必要な学力を身に付けることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	文献を輪読した後、最近のわが国産業に関する論文、雑誌、さらには主要企業のHPなどにより情報収集を行う。また、こうした情報に基づき、経済学・経営学の手法を用いて、わが国産業の将来について考える。常に、業界の動向について興味を持ち、情報収集に心がけてもらいたい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国産業の将来をテーマとする。本演習中には、国際経済学・経営学の基礎理論を学び、得られた情報について分析を行い、わが国産業の将来を考える。演習中に事前事後の学習課題を提示する。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	本演習に取り組む姿勢、さらには分析結果について評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。 また、卒業研究のための文献サーベイ、アンケート調査法、実地調査、データの収集・分析などの演習をする。			
到達目標	卒研作成のための調査方法および調査スキルを理解し、3年生の最後までは「卒業研究計画書」が作成できること			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミですので積極的に参加すること			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	必ず出席要			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	専門的な知識を身につけるとともに、時事問題への関心、社会人として必要な基礎的能力を身に付けてもらう。		
到達目標	特に交通問題について歴史・経済学の両面から理解を深め、最新の動向についても理解を深める。こうした知識を踏まえて将来の針路を明確にする。		
授業方法と留意点	グループによる発表・議論に慣れてもらう。また時事問題に触れることで就職への対策も行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	交通問題を経済学および歴史の面からテキスト(前期)や論文(後期)の輪読・見学によって学ぶ。グループ発表およびレポート提出をしてもらう。発表者以外の人にも必ず何か質問してもらう。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	MaaS モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ	日高洋佑ほか
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表内容及びそれを基にした質問や意見の表明の内容(80%)、議論への参加の態度(20%)で評価する。なお、これらは出席を前提としたものであり、無断欠席が多い場合単位が与えられない場合がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)		
備考	事前事後の予習復習や課題も含めて、通年で30~40時間の授業時間外の学習を求めたい。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	本演習は、計量経済学的手法を用いて、実際の経済現象を観察し分析する力を養うことを目的とする。		
到達目標	演習では、経済理論(マクロ・ミクロ)の基礎知識を学習すると同時に、経済データの収集方法や処理方法などについても勉強する。さらに、地域経済や観光経済の実証分析を挑戦する。		
授業方法と留意点	統計学のテキストを定めて、統計学の理論を勉強すると同時に、コンピュータによる経済データの収集方法と処理方法についても学習する。さらに、ゼミ生が自ら興味を持つ課題を選び、プレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	2年次で学んだマクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論をより深く理解するために、現実のデータを用いた実証分析を行う。そのために、統計学や計量経済学の基礎を学んだ上で、コンピュータによる実習を行う。特に、産業連関分析や回帰分析などの分析手法を用いて地域経済・観光経済における経済現象を計量化して分析する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	欠席せずに頑張ってください。		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この授業では2つのことを目標とする。第1に前期においては学生をテーマごとにグループに分け論文を書いてもらう。後期にはそれを参考に自分の卒業論文のテーマを選び準備をしてもらう。第2に就職活動の準備をおこない、3年の後期から始まる就職活動に備えてもらう。			
到達目標	前期はグループで論文を作成する能力を身につけてもらう。後期には就職活動の万全な準備と卒業テーマの決定を目標とする。			
授業方法と留意点	学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は2つの内容から構成される。前期においてはまず学生をテーマごとにグループに分け、各グループで論文を書いてもらう。後期においては、前期の論文作成をもとに卒業論文のテーマを選び、大まかな流れ、筋道をみつけ4年の卒業論文の作成につなげてもらう。併せて、研究倫理教育を行う。就職活動に関しては自己分析・面接の練習を授業の中で行い、論理的な思考・発表能力を身につけてもらう。その他に学生によるスピーチ、グループディスカッションも行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	前期のグループでの論文の内容(50%)と後期の卒業論文への準備(50%)で総合評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	卒研の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。																		
到達目標	卒研の研究テーマ、テーマ選定理由、研究目的、研究方法を明らかにする。 キャリアプラン立案に必要とされる知識の基礎を身につける。																		
授業方法と留意点	毎回、卒研の研究計画のブラッシュアップを行います。 課題提出が不足している学生は不合格とすることがあるので、毎回出席と課題提出に努力すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後 学習課題	<p>1. 卒研の研究計画書完成</p> <p>(1) 研究テーマの決定 (2) テーマ選定理由の決定 (3) 研究目的の決定 (4) 研究方法の決定</p> <p>毎回、指摘事項を直し、研究計画書をブラッシュアップ。 参考文献リスト、分析方法まで考えることとします。</p> <p>2. キャリアプラン立案に必要とされる基礎知識</p> <p>(1) 業界知識 (2) 業務知識 (3) キャリアプラン作成</p> <p>キャリアについて未確定部分はあろうと、自分のビジョン、ロードマップを示すこととします。 それぞれが1業界を担当し、2年次に習得した手法を基礎に業界分析、発表を行う。 他のゼミ生の業界分析の発表を聞くことで、就活の準備とする。</p> <p>3. 面接に必要な基礎知識</p> <p>(1) 企業等の選定 (2) 想定される質問事項の選定 (3) 質問への回答案の作成 (4) 面接演習</p> <p>仮定した企業や自治体等への面接を模擬的に体験します。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の提出、ブラッシュアップの進捗、ディスカッションへの参加により評価します。 十分ブラッシュアップされた研究計画書、キャリアプランが提示されているかどうかを重視します。																		
学生へのメッセージ	4年になると就活に入ります。その前に卒研やキャリアプランの基盤を固めることを重視します。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式で、各人が自らの課題を設定し、資料・データ収集、分析、考察を行い、その成果を発表します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察をゼミ論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。 2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。 3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。 		
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。また、主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。 2. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 3. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。 4. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果(プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など)、集団学習への貢献度(質問、提案、議論のまとめなど)をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。卒業研究を意識したテーマ選びを行い、研究を進める。			
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。			
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	プレゼンテーションやレポートの完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この演習では、教育、労働、社会保障といった我々の人生(キャリア)に関わる諸問題を経済学の側面から理解し、学習していきます。教育、労働、社会保障に関わる諸問題を自身のキャリア形成上の問題であると同時に社会の大きな問題として考え、研究を進めていきます		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働経済学、教育経済学、社会保障論の基礎的な考え方を知る。 ・演習で得られた知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている教育・労働・社会保障問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。 		
授業方法と留意点	演習形式(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、コンピュータ実習、フィールド調査)		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ：キャリアの経済学 <ul style="list-style-type: none"> ・関連テキストの輪読や発表を行います。この取組は、専門知識の習得、読解力の向上、プレゼンテーション能力の向上を企図したものです。 ・より身近な問題としてキャリアを理解するために、可能な限り、ワークショップ、シミュレーションゲーム、校外実習などを行います。学生が企画・実施もします。 ・卒業研究(卒業論文)で経済学的な分析ができるように、コンピュータを用いた労働統計分析の演習を行います。また、データ収集の方法を身につけるために社会調査法を学びます。 ・以上の活動を通じて、卒業研究(卒業論文)で扱う自身の研究テーマを見つけます。 		
関連科目	専門演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	職業の経済学	阿部正浩ほか
	2		
	3		
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への参加と貢献を評価します。(出席し、ワークと議論に積極的に参加することが必要です) ・プレゼンテーション課題の成果物の提出とプレゼンテーション ・卒業論文のテーマに関わるレポート 		
学生へのメッセージ	教育、労働、社会保障の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。教育、労働、社会保障の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、そして社会問題としてのそれらを経済学的思考で考えてください。		
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室(経済学部)		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3080a0		

授業概要・目的	この演習では、計量分析(データ分析)の基本を学びます。指定テキストにはデータ実習の課題が多くあるので、この内容に即して、データ実習を行います。また、これ以外にも日本のマクロ経済データを用いた実習も行います。																		
到達目標	1) 計量経済学の基本知識を習得する。 2) 日本の経済データを用いた実習を通して、日本経済の状況を理解する。 3) 金融政策やマクロ経済の学習を通して、卒業論文のテーマを決定する。																		
授業方法と留意点	この講義は演習なので、学生の主体的な取り組みが非常に重要です。学生には指定テキストやデータ実習の結果を報告していただきます。また、希望があれば、日本銀行大阪支店など、企業(?)見学を企画します。回数に限りはありますが、遠慮なくリクエストしてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	概ね、次のような順番で進めます。ただし、1つの単元が2コマ分、というわけではありません。(計量経済学の講義とリンクしています) 1. 様々な経済データ 2. 様々な指数 3. 統計的記述 4. 母集団と標本 5. 推定 6. 検定 7. 最小二乗法 8. 単回帰分析 9. 多重回帰分析 10. F検定(8章) 11. 系列相関 12. 不均一分散 13. 時系列分析 14. 実証分析のレポート作成手順																		
関連科目	統計学、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、計量経済学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門 計量経済学 Excelによる実証分析のガイド</td> <td>山本拓・竹内明香</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門 計量経済学 Excelによる実証分析のガイド	山本拓・竹内明香	新世社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	入門 計量経済学 Excelによる実証分析のガイド	山本拓・竹内明香	新世社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題(レポート含む)の提出状況、演習の取り組み姿勢、プレゼンテーション、出欠状況などをもとに、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	金融政策やマクロ経済というと、一部の偉い人が動かす「大きな話」であるといったイメージを持つ方も多いと思います。しかし、金融政策やマクロ経済の変化は我々の生活にも関係しています。せっかく経済学部の学生をしているのですから、身近に入手できるデータから、経済の「大きな話」を考えてみましょう。																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																		
備考	欠席回数が多い場合は、単位取得を認めないことがあります。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	前期においては卒業論文の先行研究の読解、問題意識、現状分析について文章の作成をしてもらいます。後期にはデータを集めて回帰分析をしてもらい、卒業研究を作成してもらいます。		
到達目標	現実の問題からテーマを見つける能力、情報収集能力、情報から仮説を構築し、データ分析で検証する能力を身につけてもらう。		
授業方法と留意点	就職活動で忙しいと思いますが、学生には適宜メールなどで連絡して事前の欠席連絡・事後のフォローアップを徹底させたいと思います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期においては卒業論文の先行研究を数本読んでもらい、どのように論文を作成すべきか、またどのような統計にデータが存在し、どのような点に着目すべきかについて学んでもらいます。その先行研究をもとに自分が具体的にどのような内容について研究するのか説明してもらい、後期には自分の選んだテーマについて必要なデータを探してもらい回帰分析を行ってもらい、その分析結果をもとに卒業論文を書いてもらう。また随時学生同士就職活動の状態について相談し、いいフィードバックをお互い得られるように取り計らう。併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	普段の授業態度 (出席、発言)、プレゼンの内容、回帰分析、卒業論文の内容から総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<p>テーマ：日本企業および日本の産業のグローバル化</p> <p>世界的な競争のグローバル化のもとで、日本では、いまだ世界トップ水準の国際競争力を維持する自動車産業が存在する一方で、かつて日本の経済成長を支えた電機産業では衰退が進んでいるなど、グローバル競争への対応力に大きな違いがみられる。このようなその違いを生み出す要因とは何であろうか。この点を、いくつかの産業分野を取り上げ、主にこれまでの競争条件および競争力のあり方とその変化という点から検討する。</p>																		
到達目標	卒業論文のテーマとして有効な研究課題を設定できる。卒業論文作成に必要な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身につけ、それらを卒業論文としてまとめることができる。																		
授業方法と留意点	これまでのフィールド調査を踏まえて、卒業論文作成に向けて各自でテーマを設定し、資料収集や文献調査を行う。必要に応じて補足的なフィールド調査を行う。 個人あるいは集団で卒業論文を作成し、発表する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文に関連する文献を検討する。 2. 補足的なフィールド調査を行う。 3. 各自の卒業論文の内容を報告・検討する。 4. 併せて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (発表、発言、調査への取り組みなど) で評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。		
到達目標	卒論執筆を通して、課題発見、課題解決能力を高めることを目的とする。		
授業方法と留意点	各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、継続的な研究態度を身につける。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。		
学生へのメッセージ	卒業論文は学生時代の自分の作品です。自分が真剣に取り組めるテーマを発見し、意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。		
到達目標	ゼミ生が選んだ卒論テーマに沿って、問題設定、論理展開（実証分析を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	毎回の演習で、数名のゼミ生による論文作成の進度に関する報告を行い、論文の内容についてゼミ内で討論する。各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では各自の卒業論文のテーマを選定し、それに沿って調査や研究を行い、卒業論文を作成する準備を行う。後期では4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への授業態度、発表状況、論文の完成度等を考慮して評価する。		
学生へのメッセージ	実証分析の能力を養ってください。		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	これまで大学で学んできたことを基に個々の関心のある事柄について研究を行い、それを論文としてまとめる。			
到達目標	卒業研究論文を完成・提出する。			
授業方法と留意点	卒業研究論文を仕上げるための個別指導を中心とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期終了までに研究計画を策定し、後期に実際の論文の執筆を指導する。 併せて研究倫理教育を行う。 設定テーマに関連する文献を調べておくこと。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究論文の水準により可否を判定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室 (経済学部)			
備考	特に後期においては、できるだけ多くの時間を卒業研究完成に使ってほしい。			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<p>専門演習で習得した基礎知識と分析方法に基づき、上級ゼミで決めてきたゼミ生各自の卒業研究テーマについて、より深く調査・分析・考察を行いながら、ゼミでプレゼン・ディスカッションすることで研究を深めて卒業研究論文を作成する。 到達目標：ゼミ生各自のテーマに関する研究結果を卒業研究論文としてまとめて発表する。</p>																		
到達目標	卒業研究論文の作成ができること																		
授業方法と留意点	<p>まず、ゼミは15回必ず参加し、ディスカッションに参加することで、自分の卒業研究テーマのみではなく、ゼミ生全員のテーマについても一緒に勉強できるようにする。授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミであるため積極的に参加すること。併せて研究倫理教育を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	必ず出席要																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅱの内容を踏まえてフィールドワークによって得た知識や自ら選択した専門書籍からの知見及びインターンシップ等での体験、実地調査等によって卒業研究をまとめる。 ・その作成支援を行う。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・政令指定都市に勤務し、事業者との交渉や協働に従事した実務経験から公共事例だけでなく民間事例を踏まえて卒業研究指導を行う。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の卒業研究作成支援を行う。そのうち1回は、全員参加のゼミとし、ゼミ生相互の意見交換を行う。他の1回は、ゼミ生個別に卒業研究の作成指導を行う。 ・全員参加ゼミでは、教科書の輪読、意見交換を通じて卒業研究作成の共通スキルを養成する。個別ゼミでは、学生毎のテーマに沿った卒業研究作成指導を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。 ・卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・併せて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加状況、卒業研究作成内容等によって総合的に評価する。 ・就職活動と大学での勉学の学生生活を両立する姿勢を評価する。 ・課題提出、発表の活動の評価を重視する。 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究は大学での集大成である。単独での卒業研究をまとめるに際して学生間相互の議論によって進めることが重要である。 ・学生相互の議論による課題発見、必要な調査内容などを通じて卒業研究作成を奨励する。 ・論文作成スケジュールと就活の両立が必須である。卒業単位不足にならないよう講義受講計画を立て修学する必要がある。 ・政令指定都市に30年間勤務した経験から公共的視点での実践的な教育を行う。 																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動対策と勉学を両立させ、大学生活の成果としての卒業研究をまとめることが社会人になるための第1段階であることを認識させる。 ・真摯に研究に取り組む姿勢を評価する。 																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習し、最終的に卒業研究論文をまとめる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度までに確立された自分の研究テーマをさらに深化させる。 2. フィールド調査を実施し、さらなる地域経済への考察を行うことで、認識を確立する。 3. 卒業研究論文の作成および卒業研究発表会への参加。 																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。併せて研究倫理教育を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	これまでの大学生活で学んだ知識や経験（インターンシップ等を含む）を生かし、卒業研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	卒業研究レポートの完成			
授業方法と留意点	適宜、研究の進捗に応じた個別指導を行う。またゼミでの中間報告や全員参加の議論により研究内容の充実を図ること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の興味と問題意識に応じて、主に地域または観光に関わるテーマを設定し、各自調査・研究を進める。またゼミでの議論を通して研究の質の向上を図る。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの内容及びゼミ活動への参加態度等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	大学での学びの集大成として、各人が選んだテーマに沿って、課題を設定・論理展開して、結論に至る卒業研究論文を作成します。		
到達目標	期限内に卒業研究論文を完成し、提出することを目標とします。		
授業方法と留意点	経過報告を何度も行い、ゼミ生全員で討議します。執筆段階に応じて個別指導も行います。併せて研究倫理教育を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の問題意識に基づき、観光または地域に関わるテーマを設定して、研究を進めていきます。経過報告での学生間の議論や、教員からのアドバイスを重視し、それを研究の質の向上につなげていくこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	経過報告の内容および参加姿勢と、卒業研究論文の内容により評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰ・Ⅱの学習を通じて関心をもったテーマについて、自身の見解を客観的に評価することを目的に、統計的手法を用いた卒業研究を執筆する。			
到達目標	自身に関心をもったテーマについて、経済理論、経験則に基づき仮説を立て、統計的手法を用いて仮説の妥当性を判断する能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見、資料収集・分析、卒業研究の作成・発表を割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光分野における政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査し、調査結果を踏まえた仮説を立てる。この仮説の妥当性を統計的手法を用いて定量的に評価し、その成果を卒業研究としてまとめる。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	執筆した卒業研究の内容で評価する。評価は、テーマの面白さ、データの特異性、用いた手法の妥当性、結果の解釈の4つの視点から行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	3年次に作成したフィールド調査報告書を下敷きに卒業論文を作成することが目的である。		
到達目標	卒業論文の作成及びプレゼンテーションを通じて、問題発見力、論理的思考力、文章作成力、説明・発表力を養い、高等教育履修者に対し社会が求める基礎能力を身に着けること。		
授業方法と留意点	卒業論文のテーマに応じ個別指導を行う。 必要な形式を満たしていない論文及び剽窃等の不正行為が認められる論文に対しては単位を与えないので留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の卒業論文のテーマに沿った論文指導を行う。 前期をめぐり卒業論文のドラフトが完成できるよう、授業の事前及び事後での自主的な卒業論文作成作業が求められる。 定められた授業時間帯以外でも柔軟に論文作成指導を行う。 11月から12月にかけて完成した卒業論文のプレゼンテーションを実施しプレゼンテーション力を評価する。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文の内容 (形式への準拠、独創性、論理展開・論文構成力、文章力、データ分析力、等) 及びプレゼンテーション力に基づき評価する。 卒業論文発表会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究は大学で学んだ専門知識に関連した自らの思索を記 (しめ) すことのできる貴重な機会です。多くの学生にとって、このような機会は人生に一度しかありません。卒業研究を通じて思考力を鍛錬してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	卒研の分析・研究を進める。 就活の報告・相談を行う。		
到達目標	提出期限までに、一定水準以上の卒研を完成させ提出する。		
授業方法と留意点	卒研をブラッシュアップし、卒業に必要な水準を超えるよう指導する。 就活の報告・相談にたいする指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒研の研究方法の確認 2. 分析結果の確認と研究方法のブラッシュアップ 3. 分析結果のまとめ。 4. 必要な参考文献、分析手法の指導 5. 卒研の体裁の確認 6. 就活状況に基づくキャリアプランのブラッシュアップ 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	期限内に提出された卒研の内容による評価を行う。定期的に卒研指導を受けない学生は不合格とする。		
学生へのメッセージ	残された時間を有意義に使いましょう。		
担当者の研究室等	1号館7F		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解し、それらを卒業論文としてまとめます。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式で、各人が自らの課題を設定し、資料・データ収集、分析、考察を行い、その成果を発表します。併せて研究倫理教育を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1) 身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2) 身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3) 自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1) 自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2) その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3) 自らの研究テーマについて卒業論文としてまとめていきます。</p> <p>(4) 卒業論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察を卒業論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマを卒業論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各自の研究テーマに沿って、調査を進め卒業論文を完成させる。																		
到達目標	十分に調査し分析して、卒業論文を完成させる。																		
授業方法と留意点	卒論発表をゼミ内で行い、自分の論文ばかりでなく、他のゼミ生からも学びながら論文作成を進めていく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月に卒業論文の進捗状況を確認する。</p> <p>毎月2回、進捗状況を発表しながら、各自の調査や分析を進める。</p> <p>9月に再度進捗状況を確認し、12月完成を目指して論文を書き進める。</p> <p>11月末にゼミの教員に論文を提出し、修正点を話し合う。</p> <p>1月に卒業論文を提出する。</p> <p>併せて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	演習Ⅰ 演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業論文のテーマ設定(20%)、卒業論文に取り組む姿勢(20%)、調査や分析の仕方(40%)、論文の完成度(20%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	大学でしかできない経験です。自分で考え、資料を集め分析しましょう。																		
担当者の研究室等	後藤研究室(1号館7階)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	各自が選択した卒業研究テーマについて、逐次、その内容を報告し、所定の期間内に卒業研究を完成するように指導する。		
到達目標	所定の期間内に卒業研究論文を仕上げる。		
授業方法と留意点	自らが興味を抱いた内容を選択し、自らの分析により卒業論文を仕上げるように指導・助言する。卒業研究に関連する情報を常に入手するように心がけてもらいたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	逐次、卒業研究の内容を発表してもらおうが、発表に当たっては十分な事前学習を心がけてもらいたい。また、発表の際に指摘したポイントは、必ず発表後にも学習してもらいたい。		
関連科目	併せて研究倫理教育を行う。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究の内容について、論理的な一貫性、分析力、表現力などを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	<p>経済（学）的な関心にもとづいて選んだテーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで繰り返し報告・討論する中で、問題をより明確にし、分析内容をより質の高いものにできるように指導を行う。</p> <p>また、卒業研究の質を向上させるだけでなく、自らの研究をまわりにわかるように伝える一方で、他の人の意見や質問を的確に理解し、それにもとづいて研究の内容を改善できるように指導を行う。</p>																		
到達目標	<p>自ら選んだテーマに沿って明確な問題設定を行い、それに対してきちんとした根拠を伴う結論を論理的に導き出し、それを他人が明確にわかる形で論文にまとめることを到達目標とする。</p>																		
授業方法と留意点	<p>受講者全員が参加して、各自の研究内容を報告してもらい、それをめぐって討論を行う授業と、個別指導を行う授業とを、状況に合わせて組み合わせつつ授業を進める。</p> <p>全員参加の場合では、各人が中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的に研究を行う態度を身につけてもらう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。</p> <p>併せて、研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して総合的に評価する。</p> <p>なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW4081a0		

授業概要・目的	専門演習 II で選んだテーマに沿って、研究を行い、発表する。最後に卒業論文を完成させる。			
到達目標	各自が選んだテーマで卒業研究を完成させる。その中で、論理展開や検証能力、ディスカッションの方法を学ぶ。			
授業方法と留意点	週一回、全員参加での研究発表で、質疑応答を行う。また個別指導も行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーションや卒業研究の完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室			
備考				

科目名	地域金融論	科目名(英文)	Regional Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3031a0		

授業概要・目的	地域金融機関とは何か、地域経済と地域金融とのつながり、地域金融機関の現状における課題や問題点、地域経済を円滑に運営するために求められる役割は何かなど、地域金融機関に対する認識を深め、ひいては地域経済に対するより広い視野と洞察を持てるようになることが目的です。
到達目標	地域金融機関が地域経済において果たすべき役割を十分理解し、それら知識を応用して、自分の係わる地域におけるアイデアを形成することができるようになること。
授業方法と留意点	原則的に講義形式をとります。第8回と第14回にまとめテストを行います。
科目学習の効果(資格)	地域経済に対する、金融面からの理解を得ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	オリエンテーション/地域金融論とは	地域金融に関する概論	-----	
2	地域金融機関の制度的側面	地域金融を担う金融機関にはどのようなものがあるか、制度的な分類を行う。	授業の復習	
3	地域金融機関のこれまで	地域金融機関の発展の経緯について概観すると同時に、地域金融機関のパフォーマンスについて説明を行う。	授業の復習	
4	地域金融機関の抱える諸問題	現在、地域的、国内的、国際的に地域金融機関を取り巻く環境下で、どのような活動を行っているのかを理解する。	授業の復習	
5	中小企業金融の役割・特徴	日本における中小企業金融の役割や特徴について概観する。	授業の復習	
6	中小企業金融システムと銀行融資①	中小企業金融システムの外観と銀行融資に関する諸問題についての概略を説明する。	授業の復習	
7	中小企業金融システムと銀行融資②	中小企業金融システムと銀行融資について、特に理論的側面に着目し、説明を行う。	授業の復習	
8	まとめテスト・解説	テスト範囲は第2回から第7回まで	-----	
9	リレーションシップ・バンキング①	リレーションシップ・バンキングとは何かを理解する。	授業の復習	
10	リレーションシップ・バンキング②	リレーションシップ・バンキングは機能しているのか、強化されているのかを、事例に基づき検討する。	授業の復習	
11	リレーションシップ・バンキング③	リレーションシップ・バンキングに関する様々な評価を比較検討し、現状の問題点等を認識する。	授業の復習	
12	地域金融機関の新しい潮流①	国内的な問題を中心に、リレーションシップ・バンキングの可能性とその限界、地方銀行の合併の動向、地域活性化への取り組みなどを紹介する。	授業の復習	
13	地域金融機関の新しい潮流②	第12回の続き、および地方銀行の海外展開の動向などを紹介する。	授業の復習	
14	事業性評価	近年の地域金融モデルである事業性評価に関する解説を行い、リレバンとの相違点について検討する。	授業の復習	
15	講義のまとめと今後の学習について	講義のまとめを行うとともに、今後地域金融機関に関する認識を深めるための学習方法の紹介を行う。	-----	

関連科目	地域経済論 金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%)+まとめテスト(40%)で評価します。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	気軽に質問に来てください。
-----------	---------------

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	ゲスト講師を招待しての特別授業を数回実施する予定です(詳細未定)。
----	-----------------------------------

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後藤 和子, 原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	この講義では、主にヨーロッパを対象に、地域経済の多様なあり方やそれらが抱える課題を理解することを目的とする。また、できれば、日本との比較を行う。授業では、調査地域の経済と文化、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して現地調査を行う。また調査した内容を、レポートまたはプレゼンテーションを通じて発表する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州の経済や文化を理解する ・ 海外現地調査の手法を身につける ・ 地域経済の多様性を、比較研究の視点を通じて理解する ・ 調査内容を対外的に発表できる水準にまとめる 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容は、海外調査の事前準備、IULM 大学での授業受講と海外調査、事後のまとめ、の3つの部分から構成される ・ ミラノ訪問の時期については、先方の事情により変更されることがありうる 																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献購読を通じてイタリアの経済と文化について理解を深める。また同時に各人がテーマを設定し、海外視察の準備をすすめる。ミラノ訪問は、往復時間を含めて1週間程度の予定で行い、現地での講義受講、視察等を行う。事後には、レポートまたはプレゼンテーションによる発表を行う。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】2019年2月に、摂南大学の協定校である IULM 大学の授業を受ける(予定)とともに、ミラノ市内を探索し、イタリアの文化産業(食、建築とデザイン、ファッション企業など)や、博物館・美術館等を視察する。</p>																		
関連科目	地域経済入門																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	・事前準備(20%)、現地調査(60%)、事後のまとめ(20%)の、いずれに不参加の場合も単位は認定されない。また、単位認定は受講年の翌年となる。																		
学生へのメッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また IULM 大学での授業では一定の語学力も必要となります。少々難易度が高いかもしれませんが、日本のみならず世界の地域経済を知ることは、経済がグローバル化している現代では必須といえます。海外企業等を視察した経験は、グローバル人材を求める就職活動にもプラスになるはずです。																		
担当者の研究室等	後藤研究室																		
備考	4月に合同説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。																		

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	本授業において地域経済を学ぶ対象は、和歌山県日高郡由良町である。地域の基幹産業である農林水産業や製造業、さらに今後発展が期待される観光業の現状を、実地体験、フィールド調査を通じて考察する。可能であればオリジナルな施策の提案を行い、プレゼンテーションを行うことを目的としている。																		
到達目標	フィールド調査、グループディスカッション、プレゼンテーションの方法を体得する。																		
授業方法と留意点	グループ単位で行動する。フィールドワークへの参加はもちろん、積極的なグループディスカッションを行ってもらい、プレゼンテーションを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 関連文献の輪読を通じて、問題発見に重点を置く。</p> <p>【実習先と実習時期 (予定)】 和歌山県日高郡由良町 (10月上旬)</p>																		
関連科目	特になし。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	積極的参加の程度に応じて評価する。																		
学生へのメッセージ	事前・事後学習やプレゼンテーション作成の基礎的条件として、グループディスカッションがしっかりできるかがポイントとなります。他のメンバーと協力・協調し、しっかりしたグループワークができるかどうかをよく判断して受講して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)																		
備考	受講者数(上限) : 8名 (上限を超えた場合の選抜方法 : 教員による面接) 諸費用: 交通費及び宿泊費(おおよそ3万円程度を予定) 説明会を5月中に実施予定です。																		

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	<p>この演習では、年間を通して地域の抱える課題について、地域での活動に実際に参加することによる体験的学習によって理解し対策を考察することを目的とする。</p> <p>そのための課題設定から地域選択の方法、文献購読、資料の活用方法など予備調査の方法を取得し、その後、実際に調査地域において学外調査を行う。調査地域は3つの地域を予定しているが、学生自身が選択した地域活動についても考慮する。3つの地域での考察内容は「授業テーマ」の欄を参照すること。</p> <p>政令指定都市に勤務した経験から市民視点で政策を企画・調整・実施した経験を活かして地域が抱える課題に取り組み実績をあげた事例の現地に赴き課外活動を行う実践的教育を実施する。</p>																
到達目標	<p>自ら積極的に行動し、課題を発見し対策を検討する姿勢から卒業論文作成や就活あるいは就業に向けての姿勢の涵養を図ることを目的とする。</p> <p>大学時代に自立的な活動を行う習慣と直面する課題に対して自ら取り組む積極性の修得を目指す。</p>																
授業方法と留意点	<p>以下のプロセスによって行う。</p> <p>(1) 事前授業</p> <p>(2) フィールドワーク参加 報告書画像や活動報告の記載 10日以上を参画</p> <p>10日に満たない場合は、(3) (4)への参加あるいは別のボランティアやインターンシップ等のフィールドワークへの参加で不足日数を充当すれば単位認定を考慮する。</p> <p>(3) 演習での報告と整理 フィールドワークで得た知見による別の課題対応事例研究</p> <p>(4) プレゼンテーションでの報告</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 下記フィールドワーク参加に当たって、担当教員がこれまで取り組んできた「ボランティア活動支援講義」の手法により活動についての注意事項と報告書様式の説明を行う。</p> <p>【実習先と実習時期 (予定)】 【①徳島県上勝町コース (冬期を除く時期)】 限界集落である町が「葉っぱビジネス」により高齢者の地域振興への貢献によって社会保障依存から貢献に転換した希有な事例である。さらに自然環境保護や自然を生かした新たな地域創生 (振興) 施策を実施している。インターンシップ方法による地域住民宅での共同生活から学生自身が設定した課題設定と具体的な対策を実践演習する。 (1) 授業テーマ: 地域振興による高齢者主体のまちおこし (2) 方法: 上勝町のホームページによるインターンシップ参加募集による。 (3) 事前、事後、学習課題: 上勝町設定のインターンシップ項目に沿って学生自身で課題設定し、事前、事後学習を行う。課題設定に対しては教員が事前にチェックを行う。</p> <p>【②広島県尾道市 空き家再生プロジェクト (夏季から秋期前期)】 少子高齢化と共に「空き家」の課題が顕在化している。固定資産税制の課題だけでなく、地域の発展には「空き家」対策が必要となっている。尾道市では、NPOを中心に地域住民が他地域の学生等とともに1軒ずつ木造の空き家を再生し地域活性化を図っている。自主上映映画館、「しまなみ街道」あるいは「尾道ラーメン」等との観光資源開発にも尽力されている。 (1) 授業テーマ: 木造建築再生を中心とする地域再生とまちづくり (2) 方法: NPO主催の尾道空き家再生プロジェクトに参画する。 (3) 事前、事後、学習課題: 事前に尾道市空き家再生プロジェクトとの打ち合わせと輪読冊子による学習を行い、プロジェクト参加についての意義を学習する。自治体の空き家対策との違いを比較分析する必要がある。</p> <p>【③都市内地域再生 かもよんプロジェクト (年間)】 大阪市城東区蒲生4丁目地域では、地主と借り主との効果的なコラボレーションにより住民のニーズに対応した「食」による地域創生 (振興) に成功している。米倉を改造したフランス料理店や長屋を生かした韓国料理店や創作衣料販売などを行っている。</p> <p>【④新たな共生社会における多世代交流による地域活性化 (夏季から秋期前期)】 石川県金沢市の社会福祉法人佛子園が運営する施設「シェア金沢」では、高齢者、学生、障害者などの施設が併存し多世代交流によってそれぞれの施設目的の達成と地域貢献に寄与している。当該施設の学生住宅に10以上居住し30時間以上のボランティア活動を行うことで多世代交流による地域活性化を体験する。</p> <p>【⑤東北被災地再生 三陸ひとつなぎ自然学校 (夏季)】 摂南大学と包括協定を締結している三陸ひとつなぎ自然学校を拠点に東北での地域活性化策に10日以上活動する。インフラ整備だけでなく東北地域で実際活動することで復興支援活動を体験する。</p> <p>【⑥吹田市栄通り商店街での夏期事業: 吹田祭り】 摂南大学の年間事業であるPBLで全学学生が取り組んでいるプロジェクトに夏期期間追加的に課外活動として参加する。シャッター商店街でない事例から地域の商店街での取り組みについて考察する。</p> <p>以上6つの地域住民との企画に学生が参画することによって地域創生 (振興) のプロセスを考察する。 (1) 授業テーマ: 住民ニーズを調査し、都市における地主と借り主との利害関係の調整によって地域再生に取り組んでいる。そのプロセスを学ぶ。 (2) 方法: 教員が推薦する「かもよんプロジェクト」主催者と学生との直接打ち合わせにより活動内容と場所を設定する。 (3) 事前、事後、学習課題: 上記方法によって学生自ら設定する課題について教員と主催者、学生との間で事前に学習すべき内容を考察する。コラボレーション手法、活動内容及び地域再生の課題検討等についての内容を検討する。その課題分析から仮説を設定し現地でのフィールドワークを実践する。</p>																
関連科目	経済キャリア入門																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RESASの教科書</td> <td>日経ビッグデータ</td> <td>日経BP社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域ブランドを引き出す力</td> <td>金丸弘美</td> <td>合同出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社	2	RESASの教科書	日経ビッグデータ	日経BP社	3	地域ブランドを引き出す力	金丸弘美	合同出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社														
2	RESASの教科書	日経ビッグデータ	日経BP社														
3	地域ブランドを引き出す力	金丸弘美	合同出版														
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その島のひとたちはひとの話をきかない 精神科医「自殺希少地域」に行く	森川すいめい	青土社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①10日以上の学外活動(複数以上の課外活動での10日以上に達すれば評価する)②事前事後学習への参加及び学習内容(特に現状分析と対策としての課外活動内容)③研究成果のプレゼンテーションによる発表の3つの項目による総合的評価を行う。特に③での研究成果に重点を置く。
学生への メッセージ	本演習の成果は、学生の積極性に依存する。また実際活動中の社会人や地域に居住する住民との触れあいの中から研究成果を模索するため、コミュニケーション能力が必須であるとともに社会人に対する礼儀も必要となる。そのため経済キャリア入門でのコミュニケーション力の演習経験履修済みであることやボランティア活動への関心から相手への思いやる気持ちが本演習には不可欠となる。またグループで活動する場合は、他のメンバーとの協調・協力する姿勢が必要である。活動前に教科書を熟読することが望ましい。 政令指定都市職員として地域活性化に取り組んだ体験を活かして課外活動に対する実践的指導を行う。
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)
備考	実習先については、調整ができ次第追加周知する。また、変更もあるので、演習を希望する学生に適宜周知する。

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	地域経済の実態を理解するための実践演習を行う。 地域経済を支える企業家活動の一環として、地域における商品企画を、事例研究を通じて理解する。																		
到達目標	商品の事業構想を立案する。 マーケティングの4Pについて体系的に理解する。 商品開発の地域経済への波及について考えることができるようになる。																		
授業方法と留意点	基本的に、調査、グループディスカッション、発表を中心に進めます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事例商品の選定 2. 基礎理論の習得 3. フィールド調査の計画 4. アンケート、ヒアリング調査の計画 5.-12. 調査実施と商品コンセプト確立 13-14. 事業構想と商品企画のブラッシュアップ 15. まとめ																		
関連科目	専門演習、中小企業論、関西経済論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プロジェクトへの貢献度合、アイデア提示・調査への関与の度合、提出物、発表の内容により評価																		
学生へのメッセージ	企業における商品企画の経験から実践的な内容とします。 「自分で調べて自分で考える」を基本とします。 やる気のある皆様の参加を待っています。																		
担当者の研究室等	1号館7階																		
備考																			

科目名	地域経済実践演習	科目名(英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3037a0		

授業概要・目的	この講義では、本学が立地する寝屋川市を対象に、地域経済のあり方やそれらが抱える課題を理解し、その実践的な対応策を考えることを目的とする。授業では、地域経済と地域社会のあり方、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して調査を行う。これら調査した内容および学習の成果として、最終的には9月に「寝屋川市ベンチャービジネスコンテスト」への応募を行う。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な市町村を例に地域経済や地域社会のあり方を理解する ・現地調査の手法を身につける ・地域経済の抱える課題を発見し、それらに対する実践的な解決方法を考える ・学習内容を対外的に発表できる水準にまとめる 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は、現地調査の事前準備、調査、事後のまとめ（ベンチャービジネスコンテストへの応募）および発表、の3つの部分から構成される ・グループ単位での作業が主となる ・調査の対象や時期については、先方の事情により変更されることがある 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献講読を通じて調査に必要な技術を習得する。また同時に調査にあたってのテーマを設定し、その準備をすすめる。事後には、ベンチャービジネスコンテストへの応募用紙作成を行う。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】主には前期の平日に、複数回のインタビューやヒアリング調査を行う。対象は公的機関や市内企業、諸団体を予定している。</p>																		
関連科目	地域経済入門、経営学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的・主体的に参加しているかどうかを評価基準とする。 ・事前準備、現地調査、事後のまとめ・発表のいずれに不参加の場合も単位は認定されない。 																		
学生へのメッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また調査では自らアポイントを取ったり、日程調整を行ったりと、調査を主体的に企画することが求められます。身近な地域が抱える問題を具体的に調査し、かつ、その解決策を「起業」という手法を通じて考える（授業内では実際の起業には至りませんが）、ということに関心のある人の受講を希望します。																		
担当者の研究室等	岸田研究室																		
備考	4月に合同説明会を実施する。																		

科目名	地域経済入門	科目名 (英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。とりわけ、産業連関表の応用として、最近注目されている経済波及効果の分析を学習する。
到達目標	この授業を履修することによって、①地域経済学の基礎知識を身につける。②産業連関表のしくみおよび経済波及効果の分析を理解できる。③グローバル経済の中で地域経済の活性化の重要性を実感する。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、実際の地域経済データを用いての数値分析の能力を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	地域概念と基本地域メッシュ	地域概念と地域メッシュについて説明する。	授業後、課題の提出
3	日本の地域構造と人口動態	日本の地域構造と人口動態について説明する。	授業後、練習問題の提出
4	地域経済計算とその概念	地域経済計算とその概念について説明する。	授業後、練習問題の提出
5	地域所得の決定	地域所得の決定について説明する。	授業後、練習問題の提出
6	産業分類と産業連関表	日本の産業分類と産業連関表の基本取引表について紹介する。	授業後、練習問題の提出
7	産業連関分析 (1)	経済波及効果の算出方法について説明する。	授業後、課題の提出
8	産業連関分析 (2)	経済波及効果の分析事例を紹介する。	
9	まとめ、中間テスト	1回から8回までの内容のまとめと中間テスト。	1回から8回までの内容を復習すること。
10	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について説明する。	授業後、練習問題の提出
11	地域経済成長の理論 (1)	移出基盤モデルについて説明する。	
12	地域経済成長の理論 (2)	特化係数法と基盤比率について説明する。	授業後、課題の提出
13	地域間格差と人口移動	統計分析の手法を用いて地域間格差を考察し、地域間格差と人口移動の関係について説明する。	授業後、練習問題の提出
14	地域政策について	地域政策の目的と地域開発戦略について説明する。	
15	総まとめ	講義の総まとめ及び期末試験の対策を説明する。	

関連科目	特になし
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

評価方法 (基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
-----------	---

学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域であるが、授業中、学生諸君がイメージしやすい面白い題材を選択し、講義を行っていくと思う。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	地域経済入門	科目名 (英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1002a0		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。この授業を履修することによって、グローバル化の中の地域経済について理解し、観光にも応用できる地域経済学の基礎的素養を身につける。
到達目標	地域経済とは何か、産業連関表や経済波及効果等の基本的な考え方が理解できるようになる。なぜ、人や企業は大都市に集積するのか等、空間と経済についても理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の復習、本日の授業テーマの講義や学生による発表、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、地域経済の現状や政策を理解する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	地域経済に関する新聞記事を見つけ、発表準備をする (2回目以降も同様)
	2	地域経済学の課題	地域概念、グローバル化と地域経済について学習する。	講義の復習
	3	日本の地域構造	産業構造の変化や情報化と地域構造の変化について学習する。	講義の復習
	4	地域経済と所得形成	地域経済計算とその概念、地域所得の決定について学習する。	講義の復習
	5	産業連関分析	産業連関表の考え方、経済波及効果の算出方法を学習する。	講義の復習
	6	地域成長の経済分析	地域経済の成長を説明するモデルである「需要主導型モデル」と「供給主導型モデル」について学習する。	講義の復習
	7	地域間交易の理論	比較優位と地域間交易について学習する。	講義の復習
	8	地域間格差と人口移動	地域間格差が存続する理由と地域間の人口移動について学習する。	講義の復習
	9	産業の立地	工業立地論、空間的集積、外部経済について学習する。	講義の復習
	10	都市の成立・発展	集積の経済や都市発展のメカニズムについて学習する	講義の復習
	11	商店街の活性化	日本の商業の課題、特に商店街空洞化の現状や問題点を知り、商店街活性化の成功事例について学習する。	講義の復習
	12	地域政策 1	地域政策の目的と地域開発戦略、日本の地域・都市政策について学習する。	講義の復習
	13	地域政策 2	地域政策と観光について学習する	講義の復習
	14	文化による地域再生	文化を生かした都市・地域の再生について学習する	講義の復習
		15	まとめ	授業全体のまとめを行う。

関連科目	経済学入門 (エコノミックリテラシー)
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域経済入門第3版	山田浩之・徳岡一幸編	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化経済学—理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、レポート (30%)、授業への参加や新聞発表 (10%) を総合的に評価する。授業への積極的な参加 (私語は減点) を高く評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域です。授業では教科書に沿って、地域経済学の主要な項目をひとつひとつ履修することにより、地域経済学の体系的な知識を身につけることを目指します。また、実際の地域や政策に関する新しい動向も紹介します。観光や国際にも応用できるような力を身につけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	学生の理解度に応じて授業内容を変更することがある。
----	---------------------------

科目名	地域産業論	科目名(英文)	Regional Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係などについて、基本的な理論と現状が理解できるようになる。 地方財政の課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法と留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、実際の地方財政を分析して発表してもらう。
科目学習の効果(資格)	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する	復習
2	政府の役割と地方政府の役割 (1) パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習
3	政府の役割と地方政府の役割 (2) 公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習
4	政府の役割と地方政府の役割 (3) 政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習
5	地方財政の予算と収入 (1)	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習
6	地方財政の予算と収入 (2)	地方税の体系について学ぶ	復習
7	地方税と補助金の理論 (1)	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習
8	地方税と補助金の理論 (2)	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習
9	地方財政の経費 (1)	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習
10	地方財政の経費 (2)	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	復習、レポート課題に取り組む(提出期限まで引き続き取り組む)
11	地方財政の経費 (3)	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習
12	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習
13	地方財政の歴史	地方自治の歴史や三位一体の改革について学ぶ	復習
14	地方財政の現状分析	学生による地方財政分析の発表を行う	復習
15	地方財政の現状分析	学生による地方財政分析の発表を行う	復習

関連科目	財政学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい地方財政論	中井英雄ほか著	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波ジュニア新書
2			
3			

評価方法(基準)	レポート(35%)、授業中の発表や課題提出(5%)、期末テスト(60%)で評価する
----------	---

学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかりと理解しましょう。地方財政は地域の健康診断ともいえます。地方財政を見ると地域の経済力も分かります。そのため、地域活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室
----------	-------------

備考	授業内容は、学生の理解度に応じて変更することがある
----	---------------------------

科目名	地域統合論	科目名(英文)	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	世界各所で見られる地域経済統合の展開を、歴史的・制度的・理論的な観点から解説し、こうした展開が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて考える。とりわけ、地域統合で先行している欧州連合(EU)と東アジアにおける経済統合を比較することで、地域経済統合への理解を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自由貿易と保護貿易の考え方を比較してそれぞれの特徴を明らかにすることができる。 第2次世界大戦後における世界の貿易体制の変遷について説明することができる。 欧州経済統合の過程とその特徴について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 東アジアにおける経済統合について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 欧州と東アジアにおける経済統合について比較分析することができる。 現在進行している、または今後生じうる地域経済統合に関わる動きについて、批判的に評価することができる。
授業方法と留意点	毎回配布する資料にもとづいて講義形式で授業を行う。授業時間の内外において、適宜課題を課すので、授業を聞くだけでなく積極的に課題に取り組んで理解を深めること。
科目学習の効果(資格)	授業を通して基本的な知識を身に付けることで、新聞などで報じられる経済統合に関するニュースを理解し、それを批判的に評価することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習
2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
3	世界貿易体制の展開	第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開(とりわけ GATT から WTO への流れ)を整理する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果と様々な形態について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
5	欧州連合(EU)(1)	EU 統合の歴史を説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
6	欧州連合(EU)(2)	EU の制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
7	欧州連合(EU)(3)	EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
8	欧州連合(EU)(4)	EU の通貨統合と金融システムを説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
9	欧州連合(EU)(5)	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
10	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
11	東アジアにおける事実上の経済統合(1)	日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資(企業の海外進出)の拡大について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
12	東アジアにおける事実上の経済統合(2)	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖(GVC)の展開について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
13	東アジアにおける制度的な経済統合:ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEAN の形成と現状について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
14	経済統合の比較分析:ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
15	まとめ	授業全体を振り返り、まとめを行った上で、今後日本が取るべき通商戦略を考察する	事後:授業の復習, 期末試験への準備

関連科目 国際経済論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業時間内外の課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。

学生へのメッセージ 地域経済統合の問題は、多くの要素が複雑に絡みあって生じています。それを理解するのは容易なことではありませんが、基本的な事項を1つずつ押さえながら授業を進めるつもりなので、辛抱強く取り組んでください。また話を聞くだけでは理解が進まないことがありますので、授業時間の内外で行う課題演習にも積極的に取り組むことをお勧めします。さらに日頃から、現在起こっている経済問題に関心をもつことも理解をすすめる助けになります。

担当者の研究室等 備考

科目名	地域統合論	科目名(英文)	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2052a0		

授業概要・目的	世界各所で見られる地域経済統合の展開を、歴史的・制度的・理論的な観点から解説し、こうした展開が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて考える。とりわけ、地域統合で先行している欧州連合(EU)と東アジアにおける経済統合を比較することで、地域経済統合への理解を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自由貿易と保護貿易の考え方を比較してそれぞれの特徴を明らかにすることができる。 第2次世界大戦後における世界の貿易体制の変遷について説明することができる。 欧州経済統合の過程とその特徴について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 東アジアにおける経済統合について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 欧州と東アジアにおける経済統合について比較分析することができる。 現在進行している、または今後生じうる地域経済統合に関わる動きについて、批判的に評価することができる。
授業方法と留意点	毎回配布する資料にもとづいて講義形式で授業を行う。授業時間の内外において、適宜課題を課すので、授業を聞くだけでなく積極的に課題に取り組んで理解を深めること。
科目学習の効果(資格)	授業を通して基本的な知識を身に付けることで、新聞などで報じられる経済統合に関するニュースを理解し、それを批判的に評価することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習
2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
3	世界貿易体制の展開	第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開(とりわけ GATT から WTO への流れ)を整理する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果と様々な形態について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
5	欧州連合(EU)(1)	EU 統合の歴史を説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
6	欧州連合(EU)(2)	EU の制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
7	欧州連合(EU)(3)	EU における市場統合と共通政策の特徴について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
8	欧州連合(EU)(4)	EU の通貨統合と金融システムを説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
9	欧州連合(EU)(5)	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
10	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
11	東アジアにおける事実上の経済統合(1)	日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資(企業の海外進出)の拡大について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
12	東アジアにおける事実上の経済統合(2)	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖(GVC)の展開について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
13	東アジアにおける制度的な経済統合:ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEAN の形成と現状について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
14	経済統合の比較分析:ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習, 授業時間外の課題への取り組み
15	まとめ	授業全体を振り返り、まとめを行った上で、今後日本が取るべき通商戦略を考察する	事後:授業の復習, 期末試験への準備

関連科目	国際経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時間内外の課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価します。授業時間内外の課題では Moodle を利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。
----------	---

学生へのメッセージ	地域経済統合の問題は、多くの要素が複雑に絡みあって生じています。それを理解するのは容易なことではありませんが、基本的な事項を1つずつ押さえながら授業を進めるつもりなので、辛抱強く取り組んでください。また話を聞くだけでは理解が進まないことがありますので、授業時間の内外で行う課題演習にも積極的に取り組むことをお勧めします。さらに日頃から、現在起こっている経済問題に関心をもつことも理解をすすめる助けになります。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	地域の持続的発展	科目名(英文)	Sustainable Regional Development
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3035a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部等への依存型社会から自律した住民での地域活動の重要性について講義する。 ・地方公務員が現在取り組んでいる行政と市民活動との協働について詳細に分析する。 ・地域活性化の具体事例から地域経済活性化策研究のフィールドワークに役立つ考え方を修得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済発展の契機となる地域活動について求められる考え方を修得する。 ・授業で得られた情報から地域の持続的発展に貢献する対策を考察できる知識を修得する。 ・地域創生(活性化)の事例から自己での分析力および文章作成力を習得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を土地の境界によって規定される範囲だけでなく、住民活動や行政との協働活動等に必要エリアとして考察する。 ・住民にとって、安心・安全で住みやすい環境を構築する公共空間を地域と考え、地域での住民の取り組みが持続的に継続あるいは発展している事例に焦点をあて、それらを支える自助、公助そして共助へと展開するプロセスについて事例等に基づき講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市の発展過程を踏まえ、今後の地域の持続的発展には何が具体的に必要であるのかについて、自ら考える姿勢を養う効果を目的とする。 ・今後、議論が本格化されていく「副首都構想」等広域行政圏に基づくまちづくりについての見識を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本経済と地方自治体(デフレ、インフレ社会)	ポストデフレ社会について講義する。	配布資料 第1回
2	日本経済と地方自治体(財政赤字と地域再生)(ミレニアムプロジェクトの行方と電子自治体)	・財政赤字の現状と電子自治体について考察する。 ・情報化の推進としての電子自治体構想について講義する。	配布資料 第2回
3	日本経済と地方自治体(地域再生の必要性)	「地域再生とは」について「地域経済」の視点から講義する。	配布資料 第3回
4	地域再生とは(観光づくりの視点)	地域再生、地域経済活性化としての観光の概略を講義する。	配布資料 第4回
5	地域再生とは(地域産業の活性化)	地域産業、地域振興の視点で講義する。	配布資料 第5回
6	地域再生とは(地域雇用と人材活用)	地域での雇用及び人材活用について講義する。	配布資料 第6回
7	地域再生とは(行政のかかわり)	地域再生を支える行政サービスについて講義する。	配布資料 第7回
8	地域再生とは(まちづくりの視点)	地域再生に求められるまちづくりについて講義する。	配布資料 第8回
9	ITの活用(情報アクセシビリティ)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(情報活用-アクセシビリティ)	配布資料 第9回
10	ITの活用(IT人材教育)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(ITの進展と地域における人材教育)	配布資料 第10回
11	ITの活用(個人情報保護)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(個人情報保護)	配布資料 第11回
12	ITの活用(情報セキュリティ)	地方自治体におけるIT設計・活用について講義する。(情報システムへの脅威への対応)	配布資料 第12回
13	まちづくりの議論(PPP Public Private Partnershipとは)	PPPについての考え方を講義する。	配布資料 第13回
14	PPP推進の条件(自治体経営におけるPPPの活用)	自治体経営におけるPPPの活用について講義する。	配布資料 第14回
15	・自治体と企業(事例研究) ・新たな「公益と営利」「官と民」の定義	PPPの事例研究からPPPの視点について講義する。	配布資料 第15回

関連科目	地域経済、観光経済関連科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜配布する資料		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域経営の新しいパートナーシップ『PPPで始める実践 地域再生』	日本政策投資銀行地域企画チーム	ぎょうせい

評価方法(基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・中央集権的な経済発展構造から地域経済活性化への社会構造の変化についての理解を深める。 ・特に地域社会におけるICTの利活用や地域振興について考察する。 ・少子高齢化社会の到来に向け、地域の発展を考える。 ・官民の役割分担、地域振興の有効性など主体的に考える習慣を修得して欲しい。 ・政令指定都市に30年間勤務した経験から、地域活性化に関する実務的な教育を行う。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 田井准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	地域保健医療	科目名(英文)	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3034a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。 ・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和60年12月の第1次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。 ・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。 ・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして理解する。 ・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。 ・地域の医療資源の配分を管理する都道府県業務について大阪府の事例を用いて説明し、他の都道府県の地域医療に関する理解促進を図る。 ・少子高齢化社会における地域医療整備の重要性を理解する。 			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性と意義について考察する。 ・大阪府保健医療計画に基づき、その必要性と意義について講義する。 ・さらに後半では現状の地域医療が直面する課題について考察する。 ・2018年度に改訂された大阪府医療計画と大阪府地域医療構想内容について講義する。 			
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。 ・医療事務資格を取得する場合の病院機能の分類(一般病院、地域医療支援病院、特定機能病院等)を理解し、地域医療での病院の役割を理解する。 			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	大阪府保健医療計画について	医療計画策定の意義とその必要性および運用方針について講義する。	大阪府医療計画について 第1章
	2	保健医療提供体制の基本的な状況	大阪府における保健医療の提供体制の現状についてデータから考察する。	大阪府医療計画 第2章
	3	保健医療従事者の確保と資質の向上	医療へのニーズの拡大に伴いこれを支える医療従事者の確保と資質の向上が必要となる。専門職種別に、その現状と取り組みについて講義する。	大阪府医療計画 第8章
	4	医療圏及び基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。	大阪府医療計画 第3章
	5	大阪府における保健医療体制	大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担および連携について講義する。	大阪府医療計画 第4章 地域医療構想
	6	主要な事業ごとの保健医療体制(4疾病)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち4疾病への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第6章
	7	主要な事業ごとの保健医療体制(5事業)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち5事業への現状と医療体制について講義する。	大阪府医療計画 第6章
	8	在宅医療の推進とその他の対策	4疾病5事業以外の重要な保健医療について講義する。	大阪府医療計画 第5章
	9	保健医療提供体制と保健医療計画の評価および見直し	現状の保健医療提供体制の充実と評価および見直しについて講義する。	大阪府医療計画 第9章 2次医療圏
	10	保健・医療・福祉の総合的な取組	保健、医療、福祉は相互に連携することにより安心安全なまちづくりに貢献することが可能となる。その取り組みとして、それぞれの計画について講義する。	大阪府医療計画 第7章 その他の医療体制
	11	健康危機管理体制の構築	地域防災計画と保健医療計画との関連について講義する。	大阪府医療計画 全体で対応
	12	これまでのまとめ	大阪府医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について考察する。	中間レポート
	13	【薬学部、法学部学生とのワークショップ未参加学生】 自治体病院・地域医療に何が起きているのか。医師はなぜ病院から立ち去るのか。	地域医療を担う中核病院としての自治体病院の運営の視点から地域医療を考察する。	配布資料
	14	【薬学部、法学部学生とのワークショップ未参加学生】 自治体病院の経営はなぜ限界を抑えているのか。自治体病院の経営をどのように変革するのか。	自治体病院の現状の課題について講義する。	配布資料
	15	【薬学部、法学部学生とのワークショップ未参加学生】 地域医療再生への処方箋。病院PFIを考える。	地域医療再生の基幹となる自治体病院とその運営手段としてのPFIについて考察する。	配布資料
関連科目	地域医療、地域経済関係科目 メディカルツーリズムを検討するにあたり観光関係科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大阪府医療計画と医療構想（平成 30 年～平成 35 年）	大阪府のホームページから取得	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生	伊関友伸	時事通信社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験（50%）、習熟度試験またはレポート（20%）、受講態度（30%）で総合評価する。 薬学部、法学部学生とのワークショップ参加によるレポートを定期試験に該当する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部、法学部の学生とワークショップを行う。このワークショップに参加することによって、13, 14, 15 回目の受講に該当する。ワークショップ参加によるレポートを定期試験に該当する。ワークショップに使用する教材は別途参加学生に配布する。ワークショップ実施日時は、講義で周知する。 ・実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。 ・医薬分業体制の課題や院内、院外での薬剤師の業務の課題及び薬価や診療報酬等の経済的課題について関心を持って欲しい。治験、サテライトファーマシの必要性や院外薬局、お薬手帳の必要性についても興味を持って欲しい。 ・少子高齢化社会における医療計画策定主体である都道府県業務への関心を喚起するとともに大阪府の例から自分の属する都道府県の医療計画への関心を持って欲しい。 <p>・高度医療機関である市民病院に 15 年間勤務した経験を活かして、都道府県で策定される医療計画や医療構想を理解するとともに地域医療の現状と今後についての理解を深める授業を行う。</p>			
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 田井准教授室（経済学部）			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。 ・医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済を支える仕組みであることの気づきを期待する。 			

科目名	地球環境経済	科目名(英文)	Global Environmental Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2062a0		

授業概要・目的	長い人類の歴史を通じて局地的な環境破壊はあったが、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が出現し、問題化したのは20世紀後半のことである。地球環境問題は、18世紀の産業革命より資本主義経済がもたらした巨大な生産力の発展(大量生産)と人類の消費能力の増大(大量消費)、自然界の処理能力を越える大量の廃棄物の発生(大量廃棄)に発生した。20世紀後半より、人類は地球環境問題の存在を認識しはじめ、「持続可能な発展」(Sustainable Development)などの新たな概念も提起され、政府や国際機関による環境政策の展開、企業や研究機関による環境技術の革新が進められている。地球環境問題を克服し、持続可能な従来の資本主義経済の生産力構造と人々の生活様式をグローバルな規模で変革させることが、21世紀の大きな課題となっている。本講義では、以上のような地球環境問題と人類の経済活動との関係について講義する。
到達目標	環境問題と人間の経済活動の関わりについての理解を深める。
授業方法と留意点	配付資料にしたがった講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングし、板書や講義のノートをとる習慣をつけること。講義後、講義内容を自分の言葉で要約し、書きとどめておくことが大切。
科目学習の効果(資格)	環境社会検定試験(eco検定)(http://www.kentei.org/eco/index.html)

	授業計画		
	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	講義ガイダンス	講義の紹介。環境問題とは何か。環境問題と経済(採取-生産-消費-廃棄)との関係。環境経済学の諸潮流。
	2	地球温暖化問題とその対策	地球温暖化問題とその対策。化石燃料の大量消費、低炭素社会、エネルギー技術革命、地球温暖化防止条約。 視聴覚教材：NHK『未来への提言 ラジエンドラ・パチャウリー地球温暖化IPCCからの警告』
	3	原子力発電と放射性廃棄物問題	科学技術と人類社会。巨大テクノロジーの恩恵とリスク。 視聴覚教材：NHK BS ドキュメンタリー『地下深く 永遠(とわ)に ~100,000年後の安全~』(2010年、デンマーク)。
	4	環境問題と人類の経済活動	人類の経済活動(採取-生産-消費-廃棄)と自然環境の関係を考察する。人類史的な生産力発展の負の側面、環境破壊の可能性の増大。資本主義のもとでの生産力の飛躍的発展。
	5	資本主義と環境問題(1) 大量生産の原因-なぜ資本主義のもとで生産力が飛躍的に発展するのか	営利企業が主体となる資本主義的生産活動の特殊性。営利=貨幣増殖を目的とする生産の無限性。生産性向上をめぐる個別企業間の不断の競争。
	6	資本主義と環境問題(2) 科学技術の飛躍的発展-なぜ資本主義のもとで生産力が飛躍的に発展するのか	生産力の契機としての科学技術。科学技術の発展と利用の担い手としての資本主義的営利企業。未熟な科学技術を営利的利用することによる環境問題の深刻化と予防原則の提唱。環境に関する科学技術の発展は環境問題の発見と解決のための技術的条件もつくりだす。
	7	資本主義と環境問題(3) 大量消費の原因-なぜ資本主義のもとで消費が飛躍的に拡大するのか	資本主義以前：自給自足的な狭い農民的消費-資本主義以後：賃金収入で生活手段を購入する賃金労働者による個人的消費の発展。 仏レギュラシオン学派のフォーディズム概念。 営利企業によるマーケティング活動と個人的消費の拡大、計画的陳腐化。
	8	環境問題への対応を迫られる資本主義(1) 20世紀後半の環境保護運動・NGOの発展と環境政策の国際的展開	1960年代の公害や環境問題への自然科学者の警鐘、レイチェル・カーソン『沈黙の春』(1962年)のインパクト。 ローマクラブ「成長の限界」(1972年)から、国連ブルントラント報告「持続可能な発展」(1987年)へ。 国連の環境保護会議、環境保護条約。欧米各国の環境政策の展開。
	9	環境問題への対応を迫られる資本主義(2) 自動車産業のエコカー開発競争	政府の環境政策が企業の環境技術革新(イノベーション)を促進する。 アメリカの大気浄化政策と排ガス低減技術、低燃費技術の革新。 電気自動車革命。
	10	環境問題への対応を迫られる資本主義(3) エネルギー産業の構造変化	21世紀初頭、国際的な地球温暖化対策がエネルギー産業の構造転換を促進する。 石炭、石油から天然ガスへ、様々な再生

			可能エネルギー（風力発電、太陽光発電、バイオ燃料等）の発展。 ET 革命（エネルギー技術革命）をリードする IT 産業。																	
	11	環境問題への対応を迫られる資本主義(4) アメリカの鉛公害と環境政策に対する自動車、石油、農業関連産業の対応	環境問題の発生、環境政策の展開、諸産業の対応を、アメリカにおけるガソリン無鉛化を例として、具体的、歴史的に分析する。	事後・質問提出																
	12	持続可能性と経済学(1)	セーデルバウムの「持続可能性の経済学」。 持続可能性の概念は、貨幣価値に還元できない多様な価値基準を包含する。 経済人(homo economicus)への批判。	事後・質問提出																
	13	持続可能性と経済学(2)	「持続可能な発展」をめぐる多様なイデオロギイの立場と解釈。 市場主義的資本主義、エコロジー的近代化、持続可能性。	事後・質問提出																
	14	持続可能性と経済学(3)	持続可能性（＝人類社会と自然の安定的再生産を求める倫理）と資本主義（＝自己目的的な永遠の経済成長を要求する経済システム）の関係。 人類社会の持続的発展と資本主義経済の持続的成長は両立するか、矛盾するか。資本主義のもとでの生産力発展は、環境問題を激化するか、解決するか。資本主義のもとで大量生産＝大量消費＝大量廃棄を克服することは可能か、不可能か。	事後・質問提出																
	15	講義のまとめ																		
関連科目	国際経済論、経済地理、農業経済論、社会経済学 I、II																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響</td> <td>豊福裕二</td> <td>文理閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二	文理閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二	文理閣																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末レポート（100%）で評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																			
学生への メッセージ	地球環境問題に関心をもって自ら学んで下さい。積極的な質問、授業への参加を期待します。																			
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）																			
備考																				

科目名	地方財政論	科目名(英文)	Local Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2032a0		

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係などについて、基本的な理論と現状が理解できるようになる。 地方財政の課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法と留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、実際の地方財政を分析して発表してもらう。
科目学習の効果(資格)	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する	復習
2	政府の役割と地方政府の役割 (1) パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習
3	政府の役割と地方政府の役割 (2) 公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習
4	政府の役割と地方政府の役割 (3) 政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習
5	地方財政の予算と収入 (1)	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習
6	地方財政の予算と収入 (2)	地方税の体系について学ぶ	復習
7	地方税と補助金の理論 (1)	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習
8	地方税と補助金の理論 (2)	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習
9	地方財政の経費 (1)	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習
10	地方財政の経費 (2)	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	復習、レポート課題に取り組む(提出期限まで引き続き取り組む)
11	地方財政の経費 (3)	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習
12	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習
13	地方財政の歴史	地方自治の歴史や三位一体の改革について学ぶ	復習
14	地方財政の現状分析	学生による地方財政分析の発表を行う	復習
15	地方財政の現状分析	学生による地方財政分析の発表を行う	復習

関連科目	財政学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい地方財政論	中井英雄ほか著	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波ジュニア新書
2			
3			

評価方法(基準)	レポート(35%)、授業中の発表や課題提出(5%)、期末テスト(60%)で評価する
----------	---

学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかりと理解しましょう。地方財政は地域の健康診断ともいえます。地方財政を見ると地域の経済力も分かります。そのため、地域活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室
----------	-------------

備考	授業内容は、学生の理解度に応じて変更することがある
----	---------------------------

科目名	地方自治論	科目名(英文)	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治を学ぶに際して、国と地方は相互協力であって依存関係ではないという認識が重要である。 住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。 現状の組織や制度を講義するとともに地方自治法などの法との関連も講義したい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の現状の制度を理解する。 地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。 変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。 地方公務員の仕事だけでなく地方自治の仕組みについて理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。 地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。 2010年に総務省が取りまとめた「地方自治法抜本改正の考え方」を講義内容に加え、未改正項目等、その現代的意義についても考察する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験の基本的考え方を修得する。 地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。 第一章
	2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第二章
	3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第三章
	4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第四章
	5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第五章
	6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第六章
	7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第七章
	8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第八章
	9	地方公共団体の執行機関1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第一、二節
	10	地方公共団体の執行機関2	地方公共団体の機関、長及び他の機関(議会と行政委員会)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第三、四節
	11	地方公共団体の財務1	地方公共団体の財務(収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第一、二、三、四節
	12	地方公共団体の財務2	地方公共団体の財務(資金的収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第五、六、七節
	13	地方公共団体と他の主体との関係1	地方公共団体と国との関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第一節
	14	地方公共団体と他の主体との関係2	地方公共団体の相互の関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第二節
	15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。

関連科目 「地方自治と法(法学部)」等の行政法関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治制度 第七次改訂版	久世公堯	学陽書房

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。

学生へのメッセージ

- 一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義である。
- 経済学部学生・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。
- 国家及び地方公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。本講義で公務員についての知識を修得してほしい。
- 公務員の種類を含め制度理解に役立つ内容を説明する。

・政令指定都市で30年間勤務した経験から公務員業務全般に関して実践的な教育を行う。

担当者の研究室等 1号館7階 田井准教授室(経済学部)

科目名	地方自治論	科目名(英文)	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2030a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治を学ぶに際して、国と地方は相互協力であって依存関係ではないという認識が重要である。 住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。 現状の組織や制度を講義するとともに地方自治法などの法との関連も講義したい。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の現状の制度を理解する。 地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。 変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。 地方公務員の仕事だけでなく地方自治の仕組みについて理解する。 		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。 地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。 2010年に総務省が取りまとめた「地方自治法抜本改正の考え方」を講義内容に加え、未改正項目等、その現代的意義についても考察する。 		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験の基本的考え方を修得する。 地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。 		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。
	2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。
	3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。
	4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。
	5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。
	6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。
	7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。
	8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。
	9	地方公共団体の執行機関1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。
	10	地方公共団体の執行機関2	地方公共団体の機関、長及び他の機関(議会と行政委員会)について講義する。
	11	地方公共団体の財務1	地方公共団体の財務(収支関係項目)について講義する。
	12	地方公共団体の財務2	地方公共団体の財務(資本的収支関係項目)について講義する。
	13	地方公共団体と他の主体との関係1	地方公共団体と国との関係について講義する。
	14	地方公共団体と他の主体との関係2	地方公共団体の相互の関係について講義する。
	15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。
事前・事後学習課題	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。		
	第一章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第二章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第三章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第四章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第五章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第六章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第七章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第八章		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第九章第一、二節		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第九章第三、四節		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第十章第一、二、三、四節		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第十章第五、六、七節		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第十一章第一節		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
	第十一章第二節		
	教科書及び参考書を読んでおく。		
関連科目	「地方自治と法(法学部)」等の行政法関連科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	地方自治制度 第七次改訂版	久世公堯
			出版社名
			学陽書房
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
			出版社名
評価方法(基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義である。 経済学部学生・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。 国家及び地方公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。本講義で公務員についての知識を修得してほしい。 公務員の種類を含め制度理解に役立つ内容を説明する。 		
担当者の研究室等備考	1号館7階 田井准教授室(経済学部)		

科目名	中小企業論	科目名(英文)	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3036a0		

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。ベンチャー企業、地域経済、政策との関連についても理解する。担当教員は実務経験を、電機メーカーにおいて生産技術、設計VE、事業企画、新事業開発を7.8年、その後、医療機械メーカーにおいて取締役を5年、行政系産業支援機関において理事を3年している。その経験を生かし、中小企業のイノベーションの実態や中小企業支援のあり方を論じることとする。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業の可能性と諸課題を理解すること。 ③中小ベンチャー企業の実情について理解すること。
授業方法と留意点	データ、事例を挙げながら授業を進める。 ノートをしっかりとること。
科目学習の効果(資格)	中小企業経営、ベンチャー企業経営、関連諸政策について理解することができる。 キャリア形成の基礎とすることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中小企業概論	中小企業の定義、基礎的キーワードについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
2	中小企業政策①	高度成長期の中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
3	中小企業政策②	新しい中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
4	下請中小企業	下請中小企業の存在、その生き残り戦略について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
5	ベンチャー企業	ベンチャー企業概念、海外の諸状況について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
6	ベンチャー企業政策	新規開業状況について述べ、ベンチャー企業を創出、育成していく政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
7	ベンチャー企業から大手企業に成長した事例①	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
8	ベンチャー企業から大手企業に成長した事例②	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
9	産業集積と中小ベンチャー企業	産業集積における中小ベンチャー企業の重要性について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
10	産業クラスター政策	国内外の産業クラスター、我が国の産業クラスター政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
11	新事業創造とビジネスプラン	新事業創造の際にはビジネスプランが不可欠である。そのフレームワークについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
12	新事業創造とファイナンス	中小ベンチャー企業による新事業創造とファイナンス、金融機関の支援について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
13	新事業創造事例①	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
14	新事業創造事例②	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、まとめを行う。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。

関連科目	日本産業史、関西経済論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験100%により評価します。
----------	-------------------

学生へのメッセージ	具体的な中小ベンチャー企業の事例を多数紹介していきますので、興味を持ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階
----------	-------

備考	
----	--

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEFGHI
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1016a0		

授業概要・目的	<p>「結果を残すことが大切だ」—ビジネスの世界でもスポーツの世界でもよく聞くこの言葉は、確かに1つの真理です。では、結果を残すためにはどうすればよいのでしょうか。「勘」や「運の強さ」に頼ったとしても、(悪いことをせずに)結果を残すことができればそれでも良いでしょう。しかし何かをする前であれば、より確実に成果を残せるよう行動を取ることが得策です。そのための行動の1つとして、「データに基づいた分析」があります。ここでいう「分析」とは、適度な分量のデータとExcelで対処できる手法を用いるものを指します。</p> <p>基本的な分析手法を用いることで、世の中のことがいろいろとわかってきます。ビジネスのヒントをつかむこともできるかもしれません。この講義では、実際のデータを用いながら基本的な統計分析の手法を学びます。それと同時に、データに騙されないための注意点も解説します。</p> <p>※前半は、PCを使った実習を中心に進めます。後半では通常の講義形式が多くなります。</p>
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データを通じて、世の中のことを知る。 2. データに騙されないように、データの特性を知る。 3. 世の中のことを知るための基本的な統計分析の手法を修得する。 4. 確率変数、分布など、今後の学習の基礎となる知識を習得する(計量経済学の前提科目です)。
------	---

授業方法と留意点	<p>講義を理解するうえで必要となる順列や組み合わせ、確率などの数学知識、Excelの基本的な使い方に関しては、講義中に解説をします。ただし、数学が不得手な学生は一層の努力が必要となります。</p> <p>また、「数字」に対して不必要に恐れを感じないようにしてください。</p> <p>電卓は必修ではありませんが、持参するほうが便利かもしれません。</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	<p>データに惑わされず、データを上手に活用するための基礎知識が身に付きます。また、統計検定など資格試験を準備するうえでの統計学・確率の基礎知識が身に付きます。</p>
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	データと仮説 :「修羅の国」は本当に危険か	授業内容の概要、データ分析の目的	シラバスおよび配布資料(1)
2	データの平均値 :肉じゃがに何の肉を使うか?	平均と分散の話	配布資料(2)
3	度数分布 :日本の家計はお金持ちか?	データの散らばりを視覚的にとらえる	配布資料(3)
4	2変数間の関係 :アニメ「サザエさん」と景気	共分散、相関係数	配布資料(4)
5	確率(確率、独立試行) :番号「111111」の宝くじを手に入れたら?	確率の基本と独立な試行について	配布資料(5)
6	確率(条件付確率) :実践・モンティ・ホール問題	条件付確率とベイズの定理の基本	配布資料(6)
7	確率変数と分布(1) :「偏差値」はこの話です	正規分布にとその使い方について	配布資料(7)
8	確率変数と分布(2) :自然界の法則?	その他の分布	配布資料(8)
9	標本平均の分布 :視聴率調査の不思議	標本の意味、標本平均について	配布資料(9)
10	標本分散の分布 :「分散」に平均と分散?	標本分散の意味・特徴について	配布資料(10)
11	中間テスト	ここまでの講義内容が試験範囲です。	これまでの講義資料を復習してください。
12	推定	点推定と区間推定について	配布資料(11)
13	検定(1)	仮説検定の考え方	配布資料(12)
14	検定(2)	様々な検定について	配布資料(12)
15	講義のまとめ	講義の復習、要点のまとめ、定期試験に対するアナウンス	これまでの講義資料

関連科目	<p>経済情報論 この講義は、計量経済学の前提科目です。</p>
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	統計学入門	森棟公夫	新世社
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>中間試験(40%)、期末試験(60%)を総合的に評価します。5回以上欠席した人は期末試験の採点対象外とします。</p>
----------	--

学生へのメッセージ	<p>疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥」です。</p>
-----------	---

担当者の研究室等備考	<p>1号館7階 小塚研究室</p>
------------	--------------------

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1016a0		

授業概要・目的	本講義では統計学の基礎を学ぶ。
到達目標	統計学の基礎をしっかりと理解し、金融分野への応用も理解できること。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行い、計算機(いわゆる計算機やパソコン)を用いて、分析する。
科目学習の効果(資格)	本講義を受講することで確率分布を理解できるようになり、仮説検定を行うことができるようになる。また、金融分野においてどの商品・株を買うべきかをシャープレシオを使い、判断できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス		教科書第0講
	2	記述統計(1)	度数分布表、ヒストグラム	教科書第1講
	3	記述統計(2)	平均値、分散、標準偏差	教科書第2講、第3講
	4	統計学の応用(1)	金融分野への応用	教科書第4講、第5講、第6講
	5	正規分布(1)	正規分布	教科書第7講、第8講
	6	正規分布(2)	統計的推定、仮説検定、信頼区間	教科書第9講、第10講
	7	統計学の応用(2)	ポートフォリオ	講義の復習
	8	試験	第7回講義までのまとめ、中間試験	
	9	母集団	統計的推定	教科書第11講、第12講
	10	標本平均	母平均、母分散、母標準偏差	教科書第13講、第14講、第15講
	11	カイ二乗分布(1)	カイ二乗分布と区間推定	教科書第16講、第17講
	12	カイ二乗分布(2)	カイ二乗分布と標本分散	教科書第18講、第19講
	13	t分布	t分布の性質、統計量の計算	教科書第20講、第21講
	14	中心極限定理	中心極限定理、大数の法則	講義の復習
	15	まとめ	講義全体のまとめ	講義の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験100%で評価を行う。講義中の発言で加点も行う。
学生へのメッセージ	なるべく数学を使わずに授業を行いますので、中身の理解を心がけてください。
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室
備考	

科目名	日本経済史	科目名(英文)	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、近代化以降の日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	現代の日本経済を理解するために、歴史的な流れを把握できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義形式。必要に応じて、演習を実施する。
科目学習の効果(資格)	外国人に日本経済をわかりやすく説明ができる。現在の日本の社会システムがなぜこのようになったのかを理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	幕末期以前の流れ	イントロダクション、なぜ歴史を学ぶか、幕末期以前の政治経済の流れを学ぶ。	教科書を通覧しておくこと
2	幕末期、明治維新	幕末期の政治経済、維新政府の誕生とその初期の政策(版籍奉還、廃藩置県、地租改正、秩禄処分等)を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
4	日清・日露戦争と日本経済	1890年代から1910年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
5	日本の近代産業の発達(1)	日本の産業革命の実態を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
6	日本の近代産業の発達(2)	日本の産業の基礎となる官営工業、民間企業、金融システムの確立を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化(機軸国アメリカの登場)と国内的变化(日本的労使関係の形成等)の視点から考察する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
9	昭和恐慌	1929年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
11	戦時経済	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を歩んでいった日本経済を、その当時の国際環境(世界経済のブロック化)の中で理解する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
12	戦時経済(つづき)	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
13	戦後経済改革(占領軍の対日政策)	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期から近年に至る経済状況の流れを学ぶ。	講義中に指示した教科書、配布物の当該箇所を読み直しておくこと

関連科目	日本経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説日本経済史	三和良一	東京大学出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3			
評価方法 (基準)	授業の内容に基づき作成された定期試験 100%で評価します。			
学生への メッセージ	日本経済の歴史がイメージできるようになれば、現在の日本経済の理解がより一層進むのががんばってください。日本産業史と合わせて履修することで、歴史的な流れをさらに俯瞰できるようになりますので、履修時に留意してください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 野長瀬教授室			
備考				

科目名	日本経済史	科目名(英文)	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2△, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW1006a0		

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、近代化以降の日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	現代の日本経済を理解するために、歴史的な流れを把握できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義形式。必要に応じて、演習を実施する。
科目学習の効果(資格)	外国人に日本経済をわかりやすく説明ができる。現在の日本の社会システムがなぜこのようになったのかを理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	幕末期以前の流れ	イントロダクション、なぜ歴史を学ぶか、幕末期以前の政治経済の流れを学ぶ。	教科書を通覧しておくこと
2	幕末期、明治維新	幕末期の政治経済、維新政府の誕生とその初期の政策(版籍奉還、廃藩置県、地租改正、秩禄処分等)を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
4	日清・日露戦争と日本経済	1890年代から1910年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
5	日本の近代産業の発達(1)	日本の産業革命の実態を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
6	日本の近代産業の発達(2)	日本の産業の基礎となる官営工業、民間企業、金融システムの確立を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化(機軸国アメリカの登場)と国内的变化(日本的労使関係の形成等)の視点から考察する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
9	昭和恐慌	1929年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
11	戦時経済	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を歩んでいった日本経済を、その当時の国際環境(世界経済のブロック化)の中で理解する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
12	戦時経済(つづき)	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
13	戦後経済改革(占領軍の対日政策)	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期から近年に至る経済状況の流れを学ぶ。	講義中に指示した教科書、配布物の当該箇所を読み直しておくこと

関連科目	日本経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説日本経済史	三和良一	東京大学出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3			
評価方法 (基準)	授業の内容に基づき作成された定期試験 100%で評価します。			
学生への メッセージ	日本経済の歴史がイメージできるようになれば、現在の日本経済の理解がより一層進むのがんばってください。日本産業史と合わせて履修することで、歴史的な流れをさらに俯瞰できるようになりますので、履修時に留意してください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 野長瀬教授室			
備考				

科目名	日本経済論	科目名(英文)	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この講義では、日本経済の動きを観察できるようになるためのツール（マクロ経済学理論入門）を習得し、日本経済の各種データを確認することでその現状を把握します。
到達目標	<p>日本経済の次の項目について説明でき、必要に応じて計算できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会、合計特殊出生率 ・フローとストック、名目と実質、GDP ・物価指数 ・三面等価の原則 ・信用創造 ・金融政策、マネーサプライ、マネタリーベース ・投資、利子 ・労働需給、失業 ・社会保障、社会保険 <p>・経済学の基礎的な考え方を知る。 ・日本経済の現状に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義形式で授業を進めます。 ・直感的に問題を理解できるように視聴覚教材を利用することもあります。 ・Moodleによる理解度チェックや小テストを実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方を日本経済のあり方と結びつけてデザイン(考案・計画)することができる。 ・日本での就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、内容の概観、評価方法の確認を行い、学習の準備をします。	シラバスを確認し、講義内容、評価方法について確認する。
2	人口と日本経済	日本の人口構造は今後大きく変化していきます。人口減少、高齢化、少子化、合計特殊出生率をキーワードに日本の人口構造を説明します。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
3	日本経済の大きさ(GDP)	日本経済の大きさをつかむためにつけられているのが国民経済計算です。GDPの計算方法を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
4	物価指数	物価の安定自身が経済政策の重要な目標であるため、物価の変動をあらわす物価指数について、計算方法を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
5	三面等価の原則	一国経済において家計、企業、政府、海外という4つの経済主体が生産、所得、支出という3つの経済活動を行っています。それらが等しくなることを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
6	銀行の信用創造	貸し手のお金を借り手がスムーズに使えるようになることが金融の役割です。その創造メカニズムを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
7	金融政策	中央銀行は、様々な金融調整手段を使って物価の安定と経済成長を実現しようとしています。中央銀行の役割を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
8	投資と利子(1)	企業が生産活動を行うには設備などへの投資が必要になります。どのような判断の下に投資が行われるのかを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
9	投資と利子(2)	金利には多くの種類があります。投資の関係で利子の大きさを把握するため、計算問題を通して、利子について学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
10	日本の労働市場(雇用と失業)	「働く意思を持つ全ての人に働く機会がある」ことを完全雇用といいます。日本の労働市場の需給状況を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
11	日本的雇用慣行	1980年代頃まで日本的雇用慣行は国際的に高く評価されていましたが、バブル経済崩壊後、大幅な見直しが行われています。近年の働き方改革について学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
12	産業構造の変化	日本経済が成長していくためには成長性の高い産業への産業構造の変化が必要です。今後の産業構造の変化の方向について学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
13	社会保障と財政(1)	社会保障負担の増大が現時点の雇用・賃金に影響を与えることを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。

				内容を配付資料等で確認する (60分)。 (事前) 事前配付資料を読み, 独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い, 当該箇所の内容を配付資料等で確認する (60分)。
	14	社会保障と財政 (2)	日本の年金制度・医療保険の制度を, 財政との関わりで学びます。	(事前) これまでの配付資料を読み, ノートの整理を行う (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い, 当該箇所の内容を配付資料等で確認する (60分)。
	15	まとめ	これまでの授業内容をまとめ, 定期試験にそなえます。	
関連科目	日本経済史, マクロ経済学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (70%) ・授業中に実施する小テストないしチェックテスト (30%) ・出席日数が不足する者は, 単位取得の資格を失う場合があります。 			
学生へのメッセージ	日本経済の現状は皆さんの生活と密接に関わる事象です。日本経済の変化が皆さんの生活にどのように関わるのか, 経済学的思考で考えてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室			
備考				

科目名	日本経済論	科目名(英文)	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1007a0		

授業概要・目的	この講義では、日本経済の動きを観察できるようになるためのツール（マクロ経済学理論入門）を習得し、日本経済の各種データを確認することでその現状を把握します。
到達目標	<p>日本経済の次の項目について説明でき、必要に応じて計算できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会、合計特殊出生率 ・フローとストック、名目と実質、GDP ・物価指数 ・三面等価の原則 ・信用創造 ・金融政策、マネーサプライ、マネタリーベース ・投資、利子 ・労働需給、失業 ・社会保障、社会保険 <p>・経済学の基礎的な考え方を知る。 ・日本経済の現状に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義形式で授業を進めます。 ・直感的に問題を理解できるように視聴覚教材を利用することもあります。 ・Moodleによる理解度チェックや小テストを実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方を日本経済のあり方と結びつけてデザイン(考案・計画)することができる。 ・日本での就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方、内容の概観、評価方法の確認を行い、学習の準備をします。	シラバスを確認し、講義内容、評価方法について確認する。
2	人口と日本経済	日本の人口構造は今後大きく変化していきます。人口減少、高齢化、少子化、合計特殊出生率をキーワードに日本の人口構造を説明します。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
3	日本経済の大きさ(GDP)	日本経済の大きさをつかむためにつけられているのが国民経済計算です。GDPの計算方法を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
4	物価指数	物価の安定自身が経済政策の重要な目標であるため、物価の変動をあらわす物価指数について、計算方法を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
5	三面等価の原則	一国経済において家計、企業、政府、海外という4つの経済主体が生産、所得、支出という3つの経済活動を行っています。それらが等しくなることを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
6	銀行の信用創造	貸し手のお金を借り手がスムーズに使えるようになることが金融の役割です。その創造メカニズムを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
7	金融政策	中央銀行は、様々な金融調整手段を使って物価の安定と経済成長を実現しようとします。中央銀行の役割を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
8	投資と利子(1)	企業が生産活動を行うには設備などへの投資が必要になります。どのような判断の下に投資が行われるのかを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
9	投資と利子(2)	金利には多くの種類があります。投資の関係で利子の大きさを把握するため、計算問題を通して、利子について学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
10	日本の労働市場(雇用と失業)	「働く意思を持つ全ての人に働く機会がある」ことを完全雇用といいます。日本の労働市場の需給状況を学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
11	日本的雇用慣行	1980年代頃まで日本的雇用慣行は国際的に高く評価されていましたが、バブル経済崩壊後、大幅な見直しが行われています。近年の働き方改革について学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
12	産業構造の変化	日本経済が成長していくためには成長性の高い産業への産業構造の変化が必要です。今後の産業構造の変化の方向について学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。
13	社会保障と財政(1)	社会保障負担の増大が現時点の雇用・賃金に影響を与えることを計算を通して学びます。	(事前) 事前配付資料を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を配付資料等で確認する(60分)。

				内容を配付資料等で確認する (60分)。 (事前) 事前配付資料を読み, 独自のノートをまとめる (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い, 当該箇所の内容を配付資料等で確認する (60分)。
	14	社会保障と財政 (2)	日本の年金制度・医療保険の制度を, 財政との関わりで学びます。	(事前) これまでの配付資料を読み, ノートの整理を行う (90分) (事後) 理解度チェックの課題を行い, 当該箇所の内容を配付資料等で確認する (60分)。
	15	まとめ	これまでの授業内容をまとめ, 定期試験にそなえます。	
関連科目	日本経済史, マクロ経済学 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (70%) ・授業中に実施する小テストないしチェックテスト (30%) ・出席日数が不足する者は, 単位取得の資格を失う場合があります。 			
学生へのメッセージ	日本経済の現状は皆さんの生活と密接に関わる事象です。日本経済の変化が皆さんの生活にどのように関わるのか, 経済学的思考で考えてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 平尾研究室			
備考				

科目名	日本産業史	科目名(英文)	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8○, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3033a0		

授業概要・目的	日本の産業の発展の経緯、現状と今後の展望について理解する。担当教員は実務経験を、電機メーカーにおいて生産技術、設計VE、事業企画、新事業開発を7.8年、その後、医療機械メーカーにおいて取締役を5年、行政系産業支援機関において理事を3年している。その経験を生かし、日本産業のイノベーションの実態を論じることとする。
到達目標	①日本産業の発展の経緯と現状を理解する。 ②日本産業の今後の展望について理解する。 ③日本産業のイノベーションについて理解する。
授業方法と留意点	事例、データを示しつつ、授業を進める。
科目学習の効果(資格)	①日本の産業の流れについて把握できる。 ②産業界の最近の動向について把握できる。 ③自らのキャリア形成を考える上での基礎が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本産業史の概観	日本の産業発展について概説する。基礎的なキーワードについても説明を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
2	産業発展モデルと日本の主要産業	産業発展モデル、日本における主要産業について概説する。長期間存在した企業群についても概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	繊維産業史	繊維産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
4	化学産業史	化学産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
5	造船産業史	造船産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。航空産業についても論じる。	講義中に示した課題を検討してください。
6	電機産業史	電機産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
7	機械産業史	機械産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
8	自動車産業史	自動車産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
9	自動車産業の競争力とイノベーション①	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	自動車産業の競争力とイノベーション②	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	第三次産業とサービスイノベーション①	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	第三次産業とサービスイノベーション②	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	第三次産業とサービスイノベーション③	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	ベンチャー企業と技術イノベーション	次世代の経済を担うベンチャー企業の成長と技術イノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	日本の産業発展の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業を展望する。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、関西経済論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験100%で評価する。
----------	----------------

学生へのメッセージ	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。ノートをしっかりととり、復習を行ってください。日本経済史と併せて学ぶことで経済の歴史的俯瞰がより可能となりますので履修時に留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階
備考	

科目名	農業・資源経済学	科目名(英文)	Economics of Agriculture and Resources
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3058a0		

授業概要・目的	<p>本講義では、人間の生活を支える食料生産を担う農業とエネルギー産業について経済的に考察する。</p> <p>食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた(モノカルチャー)。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争にさらされている。また、農薬、遺伝子組み換え作物、バイオ燃料などの科学技術の発展は、農業そのもののあり方も大きく変容させるとともに、環境問題の懸念も引き起こしている。本講義では、第一に、このような現代の農業に関わる変化について概観する。</p> <p>産業革命以来、石炭、石油、天然ガスなどの化石エネルギーは、生産力を飛躍的に発展させることに貢献し、人間の生活を豊かにしてきた。しかし、化石エネルギーの大量消費は大気中の温室効果ガス濃度を上昇させて温暖化の原因となっている。また化石エネルギーは将来的に資源の枯渇が予測されている。さらに、化石エネルギーは地球に偏在しており、地下資源の豊富な地域の領有権をめぐる、たびたび戦争や紛争が起きてきた。また、化石エネルギーに代替するものとして、原子力発電などの核エネルギーの利用が進められてきたが、高レベル放射性廃棄物の処分問題や過酷事故による放射性物質汚染の問題など、困難な課題が残されている。1990年代以後、世界的に見て技術革新と普及が著しいのが自然エネルギー(再生可能エネルギー)である。本講義では、第二に、産業革命以来、人類が依拠してきたエネルギーの過去、現在、未来について概観する。</p>
到達目標	食料と農業、エネルギーと資源産業に関する諸問題と経済構造について、認識を深める。まずは、良質の海外ドキュメンタリーを視聴し、現実の経済関係についてイメージを豊かにすることを目指す。
授業方法と留意点	視聴覚教材を活用した講義形式で行う。
科目学習の効果(資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	――	――
2	グローバリゼーションと世界の農業(1) コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」(原題 "Black Gold", Fulcrum Productions, イギリス, 2005年)	事後・レポート提出
3	グローバリゼーションと世界の農業(2) プランテーションと現代の奴隷労働	アメリカ企業が所有するドミニカ共和国のサトウキビ畑で働くハイチ人不法移民労働者 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～前編 さとうきび農場の奴隷たち」(原題 "Big Sugar", Galafilm, カナダ, 2005年)	事後・レポート提出
4	先進国の「豊かな」食生活とその問題(1) 砂糖の大量消費と生活習慣病	砂糖産業、清涼飲料水産業のマーケティング 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～後編 肥満を招く甘い誘い」(原題 "Big Sugar", Galafilm, カナダ, 2005年)	事後・レポート提出
5	先進国の「豊かな」食生活とその問題(2) 食品廃棄物	先進国における大量の食品廃棄と途上国の貧困、飢え 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食品廃棄物を減らせるか」(原題 "Taste the Waste", Schnittstelle Film Koln & Thurn Film, ドイツ, 2010年)	事後・レポート提出
6	農業の工業化 アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオプラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国に行く」(原題 "King Corn", Mosaic Films / itvs, アメリカ, 2008年)	事後・レポート提出
7	持続可能な農業を目指して工業化された農業への批判	持続可能な農業を目指すアメリカの取り組み 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食料増産へのチャレンジ 変わる企業型農業 ～アメリカ～」(原題 "Jimmy's Global Harvest Ep3, BBC Scotland, イギリス, 2010年)	事後・レポート提出
8	石油の世紀	19世紀～21世紀の石油の世界史、欧米石油メジャーによる石油採掘競争と協調、列強による植民地分割と世界大戦、資源ナショナリズムと OPEC、オイルショック、石油生産国対消費国 視聴覚教材: 「石油の世紀」など	事後・レポート提出
9	戦後日本の石油開発	戦後の日本の石油戦略、欧米石油資本と民族資本 視聴覚教材: NHK「プロジェクト X 挑戦者たち 夢遙か、決戦への秘策 炎のアラビア/巨大油田に挑んだ技術者たち」など	事後・レポート提出

	10	日本の原子力政策	戦後日本の原子力政策、国策民営路線の破綻 視聴覚教材：NHK 教育「原発事故への道程（前篇）置き去りにされた慎重論」2011年。	事後・レポート提出
	11	バイオ燃料とその問題	アメリカ、トウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材：NHK スペシャル「ファンドマネーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007年。 ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 視聴覚教材：NHK スペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006年。 インドネシアとマレーシア。パームオイル（椰子油）の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材：NHK クローズアップ現代「地球温暖化 森林破壊を食い止める」2007年。	事後・レポート提出
	12	シェールガス アメリカのブームと環境問題	未曾有の埋蔵量を誇るアメリカのシェールガスの引き起こす新たな環境問題、水質汚染、地震 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「ガスランド」（原題“Gasland”, Gasland Productions, アメリカ、2010年）	事後・レポート提出
	13	自然エネルギー(1) 太陽光発電	太陽光発電。日本企業の先進性と海外企業のキャッチアップ	事後・レポート提出
	14	自然エネルギー(2) 風力発電	風力発電。デンマーク、ドイツ企業の先進性、日本企業の追撃	事後・レポート提出
	15	講義のまとめ	——	事後・レポート提出
関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート（100%）で評価する。			
学生への メッセージ	農業と資源産業は、私たちの生活の基礎となる食糧、エネルギーの供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。 関心の高い学生の参加を求めます。			
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）			
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。			

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名(英文)	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW3065a0		

授業概要・目的	FP3級取得レベルの知識の習得
到達目標	FP技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおよそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	FP3級の取得、FP2級の学習への予備的学習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー(以下FP)に関する概要	特になし
2	ライフプランニングと資金計画(1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
3	ライフプランニングと資金計画(2)	公的年金制度	第3回の復習
4	ライフプランニングと資金計画(3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習(第5回に確認テスト①)
5	確認テスト① + リスク管理(1)	生命保険	第5回の復習
6	リスク管理(2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習(第7回に確認テスト②)
7	確認テスト② + 金融資産運用(1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
8	金融資産運用(2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習(第9回に確認テスト③)
9	確認テスト③ + タックスプランニング(1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
10	タックスプランニング(2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習(第11回に確認テスト④)
11	確認テスト④ + 不動産(1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
12	不動産(2)	不動産に係る関連法規(都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習(第13回に確認テスト⑤)
13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継(1)	贈与・相続制度	第13回の復習
14	相続・事業承継(2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習(第15回に確認テスト⑥)
15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし

関連科目	金融論・地域金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	確認テスト(計6回)60%、定期試験40%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	FP試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください(もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。FP試験は年間3回あります(5月・9月・1月)ので、積極的に受験することを勧めます。
----	---

科目名	文化政策論	科目名(英文)	Cultural Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3038a0		

授業概要・目的	経済や観光において文化の重要性が増している。それに伴い、文化政策の範囲も、文化財保護や芸術振興ばかりでなく、国際貿易や文化産業、知的財産権、都市政策等を含むものへと変化した。この授業では、文化政策の経済的側面に焦点を当てて学習する。他の授業では取り上げないインターネット企業のビジネスモデル等についても、その経済理論を学ぶ。
到達目標	地域振興、観光、国際貿易における文化の役割を理解できるようになる。文化政策の経済的側面を理解できるようになる。
授業方法と留意点	文化政策の基礎理論を学ぶとともに、日本や世界の事例を紹介しながら、文化政策の多様な役割について考える。課題を出し、発表してもらいながら学習を進める。
科目学習の効果(資格)	魅力的なまちづくりや、観光振興について考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	変化する文化政策	文化政策の歴史と変容について講義する	復習
3	文化政策の経済学	文化政策の経済学について学ぶ	復習
4	美術館・博物館	レポート課題と関連する企業ミュージアムについて学ぶ	復習、レポート課題に取り組む(提出日まで引き続き取り組む)
5	文化活動への参加	文化活動への参加を決定する要因は何か、どうやって分析するのか学ぶ	復習
6	文化への公的支援の理論(1)	政府はなぜ文化を支援するのか、文化政策と産業政策の両面から学ぶ	復習
7	文化への公的支援の理論(2)	文化への税制インセンティブについて学ぶ	復習
8	日本の文化政策(1)	日本の文化政策の歴史と特徴を学ぶ	復習
9	日本の文化政策(2)	文化遺産政策について学ぶ	復習
10	舞台芸術とアートマネジメント	舞台芸術団体の経営やアートマネジメントについて学ぶ	復習
11	クリエイティブ産業	クリエイティブ産業の理論と現状を学ぶ	復習
12	著作権の経済学	著作権の歴史や経済的機能を学ぶ	復習
13	文化と観光、文化と地域経済	文化を活用した観光や地域活性化について学ぶ	復習
14	グローバル化と文化経済	文化的財やサービスの国際貿易について学ぶ	復習
15	まとめ	全体のまとめを行う	復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	文化経済学—理論と実際を学ぶ	後藤和子・勝浦正樹編著	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	レポート(35%)と期末試験(60%)、授業中の発表(5%)で評価する
学生へのメッセージ	新しい領域です。新しい現象に興味を持ち、文化に関わる経済について深く、広く学びましょう。
担当者の研究室等	後藤研究室(1号館7階)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスの内容を変更することもあり得る。

科目名	貿易論	科目名(英文)	International Trade
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2050a0		

授業概要・目的	国際貿易に関する様々な理論とそれに関する現実が生じている問題について学ぶ。
到達目標	貿易理論の基礎を理解し、現実の国際貿易を分析できるようになること。
授業方法と留意点	講義形式で行うが、貿易のゲームをグループで行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	世界経済の概観	世界経済の概観	講義内容の復習
3	労働生産性と比較優位(1)	貿易の利益 リカードモデル 比較優位	講義内容の復習
4	労働生産性と比較優位(2)	リカードモデルの拡張 リカードモデルの実証分析	講義内容の復習
5	生産要素と所得分配	特定要素モデル 所得分配と貿易 国際労働移動	講義内容の復習
6	生産要素と貿易(1)	ヘクシャー・オリーンモデル レオンチェフパラドックス	講義内容の復習
7	生産要素と貿易(2)	リプチンスキーの定理 ストルパー＝サミュエルソンの定理 要素価格均等化定理	講義内容の復習
8	標準的な貿易モデル	標準的な貿易モデル 関税と輸出補助金 国際的な貸借	講義内容の復習
9	規模の外部経済と生産ロケーション	規模の経済 貿易と経済地理	講義内容の復習
10	グローバル経済の中の企業	不完全競争の理論 独占的競争と貿易	講義内容の復習
11	国際貿易政策	関税政策の費用便益 補助金政策 輸入数量制限政策	講義内容の復習
12	貿易政策の政治経済学	最適関税論 所得分配と貿易政策 国際交渉と貿易政策	講義内容の復習
13	発展途上国の貿易政策	輸入代替政策 幼稚産業保護論とその問題 貿易と経済成長	講義内容の復習
14	貿易政策に関する新たな問題	ハイテク産業 途上国とグローバルバリエーション 貿易と環境	講義内容の復習
15	まとめ	講義のまとめ	講義内容の復習

関連科目	国際投資論、国際経済学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Economics Theory and Policy Tenth Edition	Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz	Pearson
2	クルーグマン国際経済学 理論と政策 上貿易編	Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz	丸善出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポートで基本的には評価するが、講義中の発言など積極的な姿勢で加点する。
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。日本語の教科書でも英語の教科書でも構いませんが、できれば英語版で頑張ってください。最初は大変かもしれませんが、徐々に慣れ、英語力が向上すると思います。
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室
備考	

科目名	簿記原理 I	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2021a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要な財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録 (仕訳) ができ、簿記における最終成果物である財務諸表の理解し、経営管理における財務管理の必要性の理解するよう講義・演習を行う。
到達目標	(1) 簿記の基本的な手続き (特に、日常の手続き) の理解 (2) 簿記における最終成果物である財務諸表の理解 (3) 経営管理における財務管理の必要性の理解
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を利用する。授業は 90 分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。演習と確認テストを通じて、授業内容は、できるだけ、その時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会计学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA 等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の概要	講義の進め方、講義の概要などを説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	日常の手続き：現金・現金過不足	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、現金と関連する取引について学習する	演習問題・確認テスト
3	日常の手続き：当座預金・小口現金①	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
4	日常の手続き：当座預金・小口現金②	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
5	日常の手続き：手形①	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
6	日常の手続き：手形②	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
7	日常の手続き：手形③	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
8	その他の日常 (期中) の取引①	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
9	その他の日常 (期中) の取引②	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
10	その他の日常 (期中) の取引③	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
11	その他の日常 (期中) の取引④	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
12	その他の日常 (期中) の取引⑤	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
13	総勘定元帳の締め切りプロ	期中に日常的に発生する取引を記録し	演習問題・確認テスト

	セス	た総勘定元帳の締切りプロセスを学習する。資産勘定科目・負債勘定科目・資本勘定科目の締め切りと次期繰り越しの手続きおよび、収益勘定科目と費用勘定科目の損益への振り替え手続きを理解する。																	
14	試算表および精算表の理解	決算報告書である精算表の形式および内容を理解し、また清算表の作成過程である試算表を理解し、作成手続きを学習する。	演習問題・確認テスト																
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題																
関連科目	「会計学入門」を履修していることが望ましい。 「簿記原理Ⅱ」「管理会計論」と関連する。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、平常点 40%(授業中の演習・レポートなど)で総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。 ※「簿記原理Ⅰ」を履修するためには、「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。																		
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室(経済学部)																		
備考																			

科目名	簿記原理Ⅱ	科目名(英文)	Principles of Bookkeeping II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW3022a0		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要となる財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録(仕訳)と共に決算手続きができるよう、企業会計基準に沿って決算手続きを解説し演習を行う。
到達目標	1. 簿記の基本的な手続きの理解 2. 日常の手続き・決算手続きができること 3. 財務諸表(貸借対照表・損益計算書)の作成と解説ができること
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を利用する。授業は90分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。演習と確認テストを通じて、授業内容は、できるだけ、その時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	日商簿記・税理士・公認会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の全体の流れ	講義の進め方、講義の概要などを説明	授業全体における学習内容および流れの把握
2	商品取引 ①日常の取引の手続き	売買業において最も頻繁に発生する商品取引について学習する	演習問題・確認テスト
3	商品取引 ②決算時の手続き	商品取引と関連して、決算時に必要な手続きについて学習する	演習問題・確認テスト
4	商品取引 ③決算時の手続き	商品取引と関連して、決算時に必要な手続きについて学習する 繰越商品の整理・売上原価の計算・仕入勘定の整理	演習問題・確認テスト
5	収益・費用の決算手続き ①	繰延べ・見越しとは、費用の繰延べ・収益の繰延べ・費用の見越し・収益の見越しに関する決算整理仕訳と振替仕訳について学習する	演習問題・確認テスト
6	収益・費用の決算手続き ②	繰延べ・見越しとは、費用の繰延べ・収益の繰延べ・費用の見越し・収益の見越しに関する決算整理仕訳と振替仕訳について学習する	演習問題・確認テスト
7	精算表の作成 ①	決算整理事項を考慮したうえで、精算表を作成して、さらに、精算表から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の作成演習を行う	演習問題・確認テスト
8	精算表の作成 ②	決算整理事項を考慮したうえで、精算表を作成して、さらに、精算表から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の作成演習を行う	演習問題・確認テスト
9	勘定の締め切り ①	決算整理によって5要素に属する勘定の記録が正しくなったことを確認し、各勘定を締め切る手続きを演習する	演習問題・確認テスト
10	勘定の締め切り ②	決算整理によって5要素に属する勘定の記録が正しくなったことを確認し、各勘定を締め切る手続きを演習する	演習問題・確認テスト
11	財務諸表の作成 ①	決算整理が終わった後の、精算表に基づいて貸借対照表と損益計算書を作成する手続きを学習する	演習問題・確認テスト
12	財務諸表の作成 ②	決算整理が終わった後の、精算表に基づいて貸借対照表と損益計算書を作成する手続きを学習する	演習問題・確認テスト
13	伝票式会計と補助帳簿①	伝票式会計の意義と各種補助帳簿について学習する	演習問題・確認テスト
14	伝票式会計と補助帳簿②	伝票式会計の意義と各種補助帳簿について学習する	演習問題・確認テスト
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題

関連科目	「会計学入門」「簿記原理Ⅰ」「管理会計論」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	定期試験60%、平常点40%(授業中の演習・レポートなど)で総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。 ※「簿記原理Ⅱ」を履修するためには、「簿記原理Ⅰ」「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが必要である。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 朴教授室(経済学部)			

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEFGHI
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1012a0		

授業概要・目的	マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。この動きは、毎日の新聞・ニュースで紹介されています。設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことー 将来、社会人になると、これら経済の動きを知っておく必要があります。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです (もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります)。この講義は、知っておくべきマクロ経済学の基礎理論を習得すること、そして実際のマクロ経済の動向について経済学に基づいた視点で考察できるようにすることを目的としています。 使用テキストは、日本の事例を用いたグラフを用いたものであり、できる限り図表を用いた解説を行います。場合によっては初歩的な数学も用います。
到達目標	基本的なマクロ経済学の知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べることができるようになることを目標としています。
授業方法と留意点	講義資料は毎回配布します。基本的にテキストや講義資料に従って講義を進めますが、講義中に練習問題や調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作 (必要な時は指示します)、イヤホンで音楽などを聴くこと、を禁止します (常識の範囲内ですが)。
科目学習の効果 (資格)	現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学の概観	講義資料 (1)
2	GDP とは何だろうか	マクロ経済の基本項目である GDP (国内総生産) とその関連事項について	講義資料 (2)、教科書第 1 章
3	消費と貯蓄	表裏一体の関係にある消費と貯蓄について、その決定要因や日本における状況について考察する。	講義資料 (3)、教科書第 2 章
4	設備投資と在庫投資	企業の購入である設備投資や在庫投資について、その決定メカニズムを考察する。	講義資料 (4)、教科書第 3 章
5	金融と株価	貯蓄と投資をつなぐ存在である金融について、その役割について考察する。また、株価についてもここで述べる。	講義資料 (5)、教科書第 4 章
6	貨幣の需要と供給 (1)	われわれの経済活動において、貨幣は欠かすことのできない存在となっている。ここでは貨幣の役割について考察する。	講義資料 (6)、教科書第 5 章
7	貨幣の需要と供給 (2)	前回に引き続き、貨幣について考察する。ここでは、貨幣の需要や供給がどのような要因で起こるのか、考察する。	講義資料 (7)、教科書第 5 章
8	乗数理論と IS-LM (1)	一国全体の需要ー総需要は、これまでの講義で扱った様々な要素から成り立つ。これらの変化が国民生活にどのように影響するのか考察する。	講義資料 (8)、教科書第 6 章
9	乗数理論と IS-LM (2)	ここでは、総需要の状況をあらわす IS-LM モデルを取り上げ、そこから財政・金融政策の国民生活への影響を考察する。※中間試験実施	講義資料 (9)、教科書第 6 章
10	経済政策の必要性	近年、財政・金融政策には、限界があるといわれている。ここではその限界について考察し、さらに最近の金融政策についても取りあげる。	講義資料 (10)、教科書第 7 章
11	財政赤字と国債	財政支出は需要を刺激する効果があるとされるが、その一方でコストも存在する。ここでは財政支出拡大の問題点について考察する。	講義資料 (11)、教科書第 8 章
12	インフレとデフレ	ここ数年、日本ではデフレ脱却が大きな課題となっている。インフレとデフレがどのような要因で発生するのか、そしてその問題点は何かについて、ここでは考察する。	講義資料 (12)、教科書第 9 章
13	失業	失業についての考え方は、マクロ経済学の考え方によって異なる。ここではそれぞれの考え方について述べ、さらに日本の失業についても説明する。	講義資料 (13)、教科書第 10 章
14	経済成長理論	ここでは、経済成長のメカニズムについて考察する。各国の経済成長の状況を観察し、それらの成長の要因についても説明する。	講義資料 (14)、教科書第 11 章
15	オープン・マクロ経済学	一国内で完結する経済活動は、今日では考えられないものとなっている。ここでは、海外の要素を考慮したオープン・マクロ経済学について解説する。	講義資料 (15)、教科書第 12 章

関連科目 マクロ経済学Ⅱ、現代ファイナンス論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣アルマ	マクロ経済学入門 (第 5 版)	福田慎一・照山博司

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間試験(40%)、定期試験(60%)で評価します。			
学生への メッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。 なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1012a0		

授業概要・目的	この授業では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、失業率、利率、物価等主要な経済変数・指標がどのように決定され、どのように変動するかを解説する。
到達目標	集計された経済変数間の関係に法則性を見だし、一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review (前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容 (ポイントについて解説)、練習問題 (内容に対応する課題) の形式で進めていく。さらに、マクロ経済分析に重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	マクロ経済学を学ぶことによって、日本経済および世界経済の動向を理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス・マクロ経済学とは	マクロ経済学はどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施。
2	GDPに関する基礎知識 (I)	付加価値の概念、GDPとGNPの区別について解説する。	
3	GDPに関する基礎知識 (II)	GDPの三面等価とGDPデフレータについて解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済学における需要と供給	需要、供給および均衡の概念について解説する。	授業後、課題の提出
5	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と消費関数について解説する。	授業後練習問題の提出
6	国民所得の決定	国民所得はどのように決まるかについて解説する。	授業後練習問題の提出
7	インフレギャップとデフレギャップ	完全雇用GDP、インフレギャップ及びデフレギャップについて解説する。	
8	利率と投資	利率と投資との関係について解説する。後半は小テストを行う。	
9	貨幣の機能と債券	貨幣の機能、貨幣と債券の関係について解説する。	授業後、課題の提出
10	貨幣の需要	貨幣の需要と貨幣需要曲線について解説する。	
11	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する。	授業後、課題の提出
12	貨幣市場の均衡と利率の決定	貨幣市場の均衡、利率はどのように決まるのかについて解説する。	
13	金融政策の手段と効果	中央銀行による金融政策とその効果について解説する。	授業後、課題の提出
14	IS-LM分析 (I)	財市場と貨幣市場との関係を考えるIS-LM分析について解説する。	授業後練習問題の提出
15	IS-LM分析 (II)	IS-LM分析に基づく財政政策と金融政策について解説する。	

関連科目 マクロ経済学 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。

学生へのメッセージ 学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。

担当者の研究室等 1号館7階 郭准教授室 (経済学部)

備考

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目名(英文)	Macroeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8△, DP9△		
科目ナンバリング	WDW2013a0		

授業概要・目的	本講義では、マクロ経済学Ⅰの授業内容を踏まえ、引き続きマクロ経済理論を学習する。特に経済政策、労働市場と失業、インフレーションとデフレーション、経済成長、国際マクロ経済学などのトピックスを取り上げて学習する。
到達目標	講義を履修することで、マクロ経済学における諸概念をより深く理解した上、様々な経済現象を自ら分析できる能力を身につける。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review(前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容(ポイントの解説)、練習問題(内容に対応する課題)の形式で進めていきます。さらに、マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	中級レベルのマクロ経済学への橋渡しとなるように、マクロ経済学の理論を体系的に理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学Ⅱの内容の概略を紹介する。	授業後、アンケートの実施。
2	IS-LM分析の復習	IS-LM分析を復習し、その応用について解説する。	授業後練習問題の提出
3	マクロ経済政策の効果Ⅰ	マクロ経済学における財政政策について解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済政策の効果Ⅱ	マクロ経済学における金融政策について解説する。	
5	労働市場と賃金率の決定	労働市場における需要曲線と供給曲線の導出及び賃金率の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
6	マクロ経済学の総供給と総需要	労働市場から総供給の導出、IS-LM分析から総需要曲線の導出について解説する。	授業後、課題の提出
7	物価水準の決定	マクロ経済学における総需要と総供給による物価水準の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
8	まとめ、中間テスト	前半のまとめと中間テストの実施。範囲は1回目から7回目の内容とする。	授業前、7回目までの内容を復習すること
9	AD-AS分析と経済政策	物価が変動するAD-AS分析における経済政策の効果を、物価一定と仮定したIS-LM分析と比較して、その違いについて理解する。	授業後練習問題の提出
10	インフレーションとデフレーション	インフレーションとデフレーションの概念および物価指数について解説する。	授業後練習問題の提出
11	インフレ率と失業率の関係	フィリップス曲線を紹介し、インフレーションと失業の関係などを解説する。	授業後練習問題の提出
12	国際収支と海外部門の導入	国際収支表を理解し、海外部門を考慮する開放マクロ経済学について紹介する。	授業後練習問題の提出
13	為替レートの決定理論	為替レート概念、国際通貨制度、購買力平価理論などについて解説する。	授業後練習問題の提出
14	IS-IM-BP分析と経済政策の有効性	海外部門を考慮したIS-LM-BP分析を学ぶ。開放マクロ経済の下で、経済政策の有効性を再考する。	
15	まとめ、総合演習	重要なポイントのまとめ及び総合演習を行う。	

関連科目	マクロ経済学Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業での提出課題20%、中間テスト30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室(経済学部)
備考	マクロ経済学Ⅰを履修するのが望ましい。

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1010a0		

授業概要・目的	ミクロ経済学は「選択の科学」です。本講義では、個々の経済主体 (=消費者、企業、政府) が様々な状況下でどのような選択 (もしくは意思決定) を行うかに焦点を当て、経済分析の枠組みを理解することを目標とします。ミクロ経済学の基礎、とりわけ消費者理論・企業理論・完全競争市場に重点を置いて解説します。
到達目標	市場における消費者と企業の行動や物価と生産量の決定の仕方を理解し、応用ミクロ経済学の範囲である労働経済学、産業組織論、国際経済学の基礎知識を習得する。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。数式などは極力用いず、図やグラフなどを通じて理解を深めます。
科目学習の効果 (資格)	すべての経済学の基礎となる考え方が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場における需要と供給曲線がどのように求められ、また市場の均衡がどのようにして決まるかを説明する。	テキスト 4 章予習・復習
2	弾力性とその応用	消費者の需要の弾力性と生産者の供給の弾力性について説明する。	テキスト 5 章予習・復習
3	消費者選択の理論 1 (無差別曲線、予算制約)	消費者の効用・予算がどのように表現されるのかを説明する。	テキスト 21 章予習・復習
4	消費者選択の理論 2 (効用最大化、需要曲線の決定)	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	テキスト 21 章予習・復習
5	競争市場における企業 1	企業の生産活動について説明する。	テキスト 13 章予習・復習
6	競争市場における企業 2	企業が利潤最大化をするためにどのように生産額を決めるかについて説明する。	テキスト 14 章予習・復習
7	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、社会の厚生について説明する。	テキスト 7 章予習・復習
8	消費者、生産者行動、社会厚生に関するテーマの総括	1~7 回までの講義に関する練習問題を行う	講義ノートの復習
9	需要、供給、および政府の政策	政府が経済の厚生最大化のためにとる価格規制や税金などの経済政策について説明する。	テキスト 6 章予習・復習
10	中間試験		
11	余剰分析の応用 1 (課税の費用)	税金による経済厚生への影響について説明する。	テキスト 8 章予習・復習
12	余剰分析の応用 2 (国際貿易)	国際貿易が生じるメカニズムについて説明する。	テキスト 9 章予習・復習
13	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト 15 章予習・復習
14	寡占	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト 16 章予習・復習
15	総括	これまで習った部分のまとめを行います。	

関連科目	ミクロ経済学 II、公共政策論、産業組織論
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マンキュー経済学 (I) ミクロ編	N. グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中間試験 (30%)、定期試験 (70%) で評価します。中間試験において不正行為をした学生には中間試験の点数は 0 になり、また悪質な場合には定期試験の受験を認めません。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
-----------	--

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1 号館 7 階 名方准教授室 (経済学部)
------------	------------------------

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目名(英文)	Microeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		
科目ナンバリング	WDW2011a0		

授業概要・目的	国際経済学、労働経済学、産業組織論、財政学等の応用ミクロ経済学の基礎となるミクロ経済学について学ぶ。とりあげるテーマはミクロ経済学Ⅰとほとんど同じであるが、数式や計算を通じてミクロ経済学Ⅰで学んだことに対する深い理解が得られることを目標とする。また新しいテーマとして①消費者の期待効用、②寡占市場における企業間の競争、③外部性・公共財の3点を取り上げる。
到達目標	市場における消費者、企業、政府の行動を理解し、また市場の失敗である「公共財」「外部性」「寡占・独占」の問題を数式を使って解けるようにする。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。レポート・定期試験は数式を用いた計算問題がほとんどであり、微分の知識が必要となります。
科目学習の効果(資格)	経済学検定試験や公務員試験の勉強に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場において需要と供給曲線がどのように求められ、またどのように市場の均衡が決まるかについて説明する。	講義ノートの復習
2	消費者の行動	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	講義ノートの復習
3	消費者の期待効用	不確実性のもとでの消費者の行動について説明する。	講義ノートの復習
4	1～3 回目のテーマに関する練習問題	消費者の行動に関連する計算問題	講義ノートの復習
5	競争市場における企業の行動	競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	講義ノートの復習
6	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習
7	寡占Ⅰ	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習
8	寡占Ⅱ	クールノー・ナッシュ均衡やカルテルについて説明する。	講義ノートの復習
9	5～8 回目のテーマに関する練習問題	企業の行動に関連する計算問題	講義ノートの復習
10	社会厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性について説明する。	講義ノートの復習
11	外部性	市場が完全競争にならない原因である外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習
12	公共財	市場が完全競争にならない原因である公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
13	10～12 回目のテーマに関する練習問題	社会厚生、外部性・公共財、労働市場に関連する計算問題	講義ノートの復習
14	4、9、13 回目で行った練習問題の復習	4、9、13 回目で行った練習問題	講義ノートの復習
15	総括	14 回で行った講義内容を復習する。	講義ノートの復習

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ、経済数学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート(30%)、定期試験(70%)で総合的に評価します。私語をする学生・授業態度が著しく悪い学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	民法	科目名(英文)	Civil Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2073a0		

授業概要・目的	民法は、私人の間の問題等を規律するための規範として私たちに最も身近な法律です。本講義では、法律の中で民法がどのような地位を占めているのか、具体的にどのような規定が置かれているのかについて概観します。民法の中身は膨大ですが、条文を基本として民法の体系がイメージできるよう試みていきます。
到達目標	この講義を通じて学生は、私人間に適用される法の基本である民法の概要を知り、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任主義といった近代法の基礎を理解するとともに、その修正原理についても一定の理解を得ることが期待される。
授業方法と留意点	後記教科書を使用するが、論点整理のためのレジュメ、参考判例等を適宜配布します。授業には教科書のほか六法を必ず携行してください。少なくとも一度は確認のための小テストを行う予定です。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	民法の全体像	・民法が法の中において占める地位 ・民法が規定するもの ・民法の諸原則	教科書第1編(1頁から28頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
2	所有権 その他の物権	・物権とは何か ・登記の意味 ・担保物権	教科書第2編1、2章(29頁から49頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
3	債権と取引の通則	・債権と契約 ・契約取引の通則	教科書第2編3、4章(50頁から75頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
4	贈与と売買	・売買契約の内容 ・一方当事者の債務不履行	教科書第2編5章(76頁から94頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
5	金銭の貸借	・消費貸借契約についての法の規制 ・借金の返済方法	教科書第2編6章(95頁から123頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
6	物の貸借	・使用貸借と質貸借 ・借地借家に対する特別の規制	教科書第2編7章(124頁から136頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
7	他人の労務を利用する契約	・雇用 ・請負 ・委任	教科書第2編8章(137頁から144頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
8	民法が定めるその他の契約 団体の法理	・典型契約と非典型契約 ・混合契約 ・組合と法人	教科書第2編9章から12章(145頁から163頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
9	不法行為と不当利得	・不法行為の一般規定と特別規定 ・過失責任主義 ・不当利得と「サラ金問題」	教科書第2編13章(164頁から185頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
10	財産法のまとめ	財産法分野で十分な説明ができなかった点を補う。	予め、これまでの配布資料を通読しておいてください
11	夫婦の法律関係	・婚姻の成立と効果 ・離婚	教科書第3編1章から3章(187頁から205頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
12	親子の法律関係	・親権と後見 ・嫡出子と非嫡出子	教科書第3編4章から7章(206頁から229頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
13	相続の法律関係	・相続人の範囲 ・遺産分割の方法 ・遺言	教科書第3編8章から14章(230頁から258頁)を予め読み、事後には配布資料を検討してください。
14	家族法のまとめ	家族法分野で十分な説明ができなかった点を補う。	予め、これまでの配布資料を通読しておいてください
15	全体のまとめ	民法の全体を改めて確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法(第10版)	我妻栄・良永和隆	勁草書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験(60%)、授業中小テスト(20%)、出席態度(20%)を、上記の割合で総合評価します。
学生へのメッセージ	民法を学習することにより、日常生活を法的観点から検討する能力を身につけることができるほか、法的なものの方というものを体感できるはずです。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	

科目名	レジャー産業論	科目名(英文)	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW3046a0		

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げその意義と重要性を理解します。 また、授業担当者は観光事業会社での6年間のレジャー施設運営管理の経験からレジャー産業に関する実践的な教育を行う。			
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	レジャー関連産業動向の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	レジャーとは何か	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	事後：配布資料の復習 課題作成
	2	レジャーの種類	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	事後：配布資料の復習
	3	レジャーの規模	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事後：配布資料の復習
	4	わが国のレジャーの歴史Ⅰ	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	5	わが国のレジャーの歴史Ⅱ	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	6	レジャー関連産業とは何か	レジャー関連産業の領域を理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	7	レジャー産業Ⅰ(スポーツ産業①)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	8	レジャー産業Ⅱ(スポーツ産業②)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	小テスト 事後：配布資料の復習
	9	レジャー産業Ⅲ(健康産業①)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	10	レジャー産業Ⅳ(健康産業②)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	11	レジャー産業Ⅴ(外食産業①)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	12	レジャー産業Ⅵ(外食産業②)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	13	レジャー産業Ⅶ(旅行業)	レジャー活動における旅行業の役割を考える。	事後：配布資料の復習
	14	今後のレジャー産業の展望	今後のレジャー産業の在り方考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習
関連科目	観光学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト(2回)30%、その他(課題作成等)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から余暇・レジャー関連ニュースに関心を持ってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	労働経済学	科目名(英文)	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平尾 智隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW1017a0		

授業概要・目的	講義では、労働統計などから、キャリア形成に役立つデータを紹介し、そこから何が見えてくるのかを説明します。経済学が明らかにしてきた事実から自身の今後のキャリア形成を考えると同時に、社会問題としての労働問題も同時に理解していきます。
到達目標	本講義では、様々な労働統計、データ、図表からどこに注目し、何が見えてくるのかを説明していきます。 ・労働経済学の基礎的な考え方を知る。 ・講義の知見から自身の今後のキャリア形成を考えることができる。 ・現代日本で起こっている労働問題に対して経済学のツールを使って自分なりの政策提起を行なうことができる。
授業方法と留意点	・教科書、板書による講義形式で授業を進めます。 ・キャリア形成や労働問題を直感的に理解できるように視聴覚教材を利用することもあります。 ・Moodleを利用した理解度チェックや小テストなどの課題を実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	・自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン(考案・計画)することができる。 ・就職活動を客観視できるようになり、職業選択に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、授業内容の全体像について説明します。	教科書を購入手「はしがき」を読む。
2	働き方の変化	労働市場とは何かを説明し、就労状況が時代によって変動するのはなぜなのかを考えます。	(事前)教科書第1章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
3	キャリアをデザインすること	進路選択や就職にとって大切なことはいくつかを解説します。職業や働き方の調べ方を説明します。	(事前)教科書第2章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
4	求職と求人	企業は毎年多くの人を採用しています。逆に、毎年多くの人々が就職・転職しています。そこにはどうしてもミスマッチが生まれますが、そのメカニズムを探ります。	(事前)教科書第3章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
5	就職活動と大学教育	教育、特に大学教育に関する個人の選択について、経済学的な考え方を学びます。	(事前)教科書第4章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
6	賃金格差	賃金は生産性によって決まる。したがって、賃金格差を分析する場合、その生産性の差を決定づける要因を考えなければなりません。	(事前)教科書第5章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
7	昇進と昇格	会社で働く人の大きな関心事に出世があります。社長や管理職の実態を把握し、訓練、選抜、労働意欲の観点から出世の仕組みを説明します。	(事前)教科書第6章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
8	労働時間と休暇	仕事と生活をバランスさせることは、働く人にとって重要なテーマです。労働時間や休暇の実態、それらが健康や家庭生活に及ぼす影響を考えます。	(事前)教科書第7章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
9	福利厚生	企業は従業員の福利厚生にどれほどの費用を投じているのか、またその理由は何か、といった点を探っていきます。	(事前)教科書第8章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
10	ダイバーシティ	男性労働者だけではなく、多様な人材活用が求められています。日本企業の女性活用の実態を見ていきます。	(事前)教科書第9章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
11	離職と転職	会社辞める理由は多々ありますが、会社辞める決断をする背景や辞めた後に起こる事実について学びます。	(事前)教科書第10章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
12	解雇と失業	自分の雇用がどの程度安定的かは、働く上での重要な関心事でしょう。美豆から望まない離職がどうして起きるのかを考えます。	(事前)教科書第11章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
13	定年退職	いつかは引退の日がやってきます。定年制や継続雇用の現状や経済学的な考え方を学びます。	(事前)教科書第12章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
14	コーポレートガバナンスと従業員	株主、経営者といった企業の様々な利害関係者と従業員の関係を説明します。	(事前)教科書第13章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。
15	様々なキャリア	会社だけが働く場所ではないだろう。国内企業で働く以外の働き方を考えてみる。	(事前)教科書第14章を読み、独自のノートをとめる(90分) (事後)理解度チェックの課題を行い、当該箇所の内容を教科書で確認する(60分)。

関連科目	公共経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアのみかた (改訂版)	阿部正浩・松繁寿和	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	職業の経済学	阿部正浩ほか	中央経済社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 (70%) ・授業中に実施する小テストないしチェックテスト (30%) ・出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。 			
学生への メッセージ	労働の諸現象は皆さんのキャリア形成にとっても避けることのできない事象です。労働市場の状況が皆さんの人生にどのように関わるのか、経済学的思考で考えてください。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平尾研究室 (経済学部)			
備考				

科目名	労働法	科目名(英文)	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		
科目ナンバリング	WDW2077a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の2分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。授業には教科書および六法を必ず携行してください。期間中に小テストを行うことがあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第1編(2頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第2編第1章から第3章の2まで(24頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第2編第3章の3から6まで(79頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(2時間)
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第5章の7から第7章まで(154頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第2編第11、12章(243頁-286頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第4編第1、2章(312頁-329頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第4編第3、4章(330頁-354頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第4編第5章(355頁-379頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第4編第6、7章(380頁-418頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(1時間)
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておくこと(1時間)

関連科目 日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英紳・西村健一郎	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選[第9版]		有斐閣
2				
3				

評価方法(基準)	期末テスト(7割)、授業中の小テスト(2割)、授業への参加状況(1割)を総合して評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

基礎科目

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鯨井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson3</td> <td>代名詞</td> <td>演習 3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson4</td> <td>代名詞</td> <td>演習 4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson5</td> <td>時制</td> <td>演習 5</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson6</td> <td>時制</td> <td>演習 6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson7</td> <td>時制</td> <td>演習 7</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson8</td> <td>助動詞</td> <td>演習 8</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Lesson9</td> <td>助動詞</td> <td>演習 9</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson10</td> <td>態</td> <td>演習 10</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson11</td> <td>態</td> <td>演習 11</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson12</td> <td>不定詞</td> <td>演習 12</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson13</td> <td>不定詞</td> <td>演習 13</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson3~13</td> <td>Grammar Point のまとめ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習</td> <td>総合復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プリント教材</td> <td>TOEIC 演習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明			2	Lesson3	代名詞	演習 3	3	Lesson4	代名詞	演習 4	4	Lesson5	時制	演習 5	5	Lesson6	時制	演習 6	6	Lesson7	時制	演習 7	7	Lesson8	助動詞	演習 8	8	Lesson9	助動詞	演習 9	9	Lesson10	態	演習 10	10	Lesson11	態	演習 11	11	Lesson12	不定詞	演習 12	12	Lesson13	不定詞	演習 13	13	Lesson3~13	Grammar Point のまとめ	授業の復習	14	総合復習	総合復習	授業の復習	15	プリント教材	TOEIC 演習	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明																																																																		
2	Lesson3	代名詞	演習 3																																																																
3	Lesson4	代名詞	演習 4																																																																
4	Lesson5	時制	演習 5																																																																
5	Lesson6	時制	演習 6																																																																
6	Lesson7	時制	演習 7																																																																
7	Lesson8	助動詞	演習 8																																																																
8	Lesson9	助動詞	演習 9																																																																
9	Lesson10	態	演習 10																																																																
10	Lesson11	態	演習 11																																																																
11	Lesson12	不定詞	演習 12																																																																
12	Lesson13	不定詞	演習 13																																																																
13	Lesson3~13	Grammar Point のまとめ	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	授業の復習																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習																																																																	
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Mastering Basic English Grammar</td> <td>Nagaki kitayama</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%																																																																	
	全学共通英語課題 B	10%																																																																	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																																																																	
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション 英文を理解するのに必要な技能チェック	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 基本文法事項や辞書の使い方などを確認する	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
2	A Family Sees America Together (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
3	A Family Sees America Together (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
4	How Alike Are Identical Twins? (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
5	How Alike Are Identical Twins? (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
6	How Alike Are Identical Twins? (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
7	How Alike Are Identical Twins? (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
8	前期前半内容の総復習	語彙・内容理解、音読チェックなど	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
9	The Search for Happiness through Adoption (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
10	The Search for Happiness through Adoption (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
11	Robots: The Face of the Future (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
12	Robots: The Face of the Future (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
13	A New Way to Go (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習
14	A New Way to Go (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
15	前期後半内容の総復習 前期学習内容の総まとめテスト	語彙・内容理解、音読チェックなど	テスト内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Access (読解力の基礎を高めるためのリーディングスキル)	山科美和子, 横山美鶴, 沖野泰子	セنگーゼラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には、毎回使用するため、英和辞典を必ず持参してください。外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。辞書を活用し、毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングポルタ) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、成績評価の説明 テキスト Unit 1 前半	Unit 1 Warm-up & Vocabulary Build-up
2	Unit 1 後半	リーディング と 文法説明 Unit 1 の単語小テスト	Unit 1 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
3	Unit 2 前半	Unit 2 リスニングパート	Unit 2 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
4	Unit 2 後半	リーディングと文法説明 Unit 2 の単語小テスト	Unit 2 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
5	(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパッセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語
6	Unit 3 前半	リスニング	Unit 3 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
7	Unit 3 後半	リーディングと文法説明 Unit 3 の単語小テスト	Unit 3 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語
8	Unit 4 前半	リスニング	Unit 4 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
9	Unit 4 後半	リーディングと文法説明 Unit 4 の単語小テスト	Unit 4 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
10	(前回は) 配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パッセージを読む。	自然科学の内容の英文パッセージを読む。 単語集の指定された単語
11	Unit 5 前半	リスニング	Unit 5 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
12	Unit 5 後半	リーディングと文法説明 Unit 5 の単語の小テスト	Unit 5 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
13	Unit 6 前半	リスニング	Unit 6 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
14	Unit 6 後半	リーディングと文法説明 Unit 6 の単語小テスト	Unit 6 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
15	前期の総括と確認テスト	前期末まとめテストと解説	前期学習事項

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストの章のはじめ (リーディング、リスニングとも) の単語は 1 章が終わったら小テストする。語彙力の強化は TOEIC の得点アップにつながる。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Learning a Second Language (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
3	Learning a Second Language (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
4	The Best Place to Live (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
5	The Best Place to Live (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
6	A Musical Family (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
7	A Musical Family (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
8	前期前半内容の総復習	語彙・内容理解、音読チェックなど	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
9	The McCaugheys: An Unusual Family (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
10	The McCaugheys: An Unusual Family (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
11	The Importance of Exercise for Children (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 80 個
12	The Importance of Exercise for Children (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
13	The New York City Marathon: A World Race (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習
14	The New York City Marathon: A World Race (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
15	前期後半内容の総復習 前期学習内容の総まとめテスト	語彙・内容理解、音読チェックなど	テスト内容の復習

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ
 授業には、毎回使用するため、英和辞典を必ず持参してください。
 外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。辞書を活用し、毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングポルタ) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。

担当者の研究室等 7 号館 2 階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Personal Correspondence (1)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
3	Personal Correspondence (2)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
4	Biography (1)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
5	Biography (2)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Events & Festivals (1)	情報入手のポイント	テキストの予習と単語の学習
7	Events & Festivals (2)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習
8	Events & Festivals (3)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習
9	Directions & Locations (1)	道順の指示/ 前置詞(場所)	テキストの予習と単語の学習
10	Directions & Locations (2)	道順の指示/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習
11	Directions & Locations (3)	歴史と観光に関する文/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習
12	Occupations (1)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習
13	Occupations (2)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習
14	Occupations (3)	求人広告の読み方/ 再帰代名詞	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-Up English (Basic)	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1. A Piece of History in Your Closet	裏付けとなる記述 単語・内容理解・音声表現	テキストの予習
3	Unit 2 Birth Order among Siblings	事実と意見 英作文・会話スキット作り	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 3 The Origin of Basketball	実例 単語・内容理解・音声表現	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 4 Table Manners	メインアイデア 英作文・会話スキット作り	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 5 Music Beats	詳細を探す 単語・内容理解・音声表現	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 6 Amazing Koalas	配列と接続 英作文・会話スキット作り	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	Summary ①	クイズと音読テスト	次回に向けての予習
9	Unit 7 Coffee and Healthy Life	比較と対照 単語・内容理解・音声表現	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 8 Pyramids of Egypt	原因と結果 英作文・会話スキット作り	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 9 Days of Showing Your Love	推論と結論 単語・内容理解・音声表現	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 10 Unique Careers	論の構成 英作文・会話スキット作り	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 11 They Story of Medusa	文中の記号① パラグラフを読む	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 12 Genetic Modification	文中の記号② パラグラフを書く	テキストの復習 次回に向けての予習
15	Summary ②	クイズと音読テスト	後期全範囲の復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Success (2000 円 税別)	ISBN:978-4-7919-6022-4 A. Sato & V. Tidwell	Seibido
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ 中家で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。

担当者の研究室等 7号館4階 齋藤研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオフィスアワーに対応する。

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明 自己紹介	
2	Unit 1. Please to Meet You.	be 動詞 単語・音読・内容理解	テキストの予習
3	Unit 1. Please to Meet You.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 2. Do You Remember?	一般動詞現在 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 2. Do You Remember?	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 3. I Spoke to Ms. Hayashi Yesterday.	一般動詞過去 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 3. I Spoke to Ms. Hayashi Yesterday.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	Unit 1-3	次回に向けての予習
9	Unit 4. When Does the Meeting Start?	疑問詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 4. When Does the Meeting Start?	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 5. Can You Meet Me at the Airport?	助動詞 1 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 5. Can You Meet Me at the Airport?	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 6. Feel Free to Ask Me Anytime.	文の種類 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 6. Feel Free to Ask Me Anytime.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	Unit 1-6	後期全範囲の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Le's Read Aloud & Learn English!	角山昭彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
学生へのメッセージ	中高で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。	
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。	

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
	2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding (1)	強く発音される語を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 1 Cross-Cultural Understanding (2)	文の主語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 2 Foods (1)	語順のまま理解する	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 2 Foods (2)	動詞の目的語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 3 Foreign Language Learning (1)	消える t と d を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 3 Foreign Language Learning (2)	動詞の目的語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
	9	Unit 4 Sports (1)	似た音に注意して聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	10	Unit 4 Sports (2)	補語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 5 Fashion (1)	n でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 5 Fashion (2)	何の代わりかを見抜く (代名詞)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 6 Living Things (1)	弱い can を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 6 Living Things (2)	「to+ 動詞」を理解する (不定詞)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	飯井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明	_____	_____
	2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4
	3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5
	4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6
	5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7
	6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8
	7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9
	8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0
	9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1
	10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2
	11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3
	12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4
	13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習
	14	総合復習	総合復習	_____
	15	プリント教材	TOEIC 演習	_____

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	TOEIC Bridge	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	60%

学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Improving Lives with Pet Therapy (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
3	Improving Lives with Pet Therapy (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
4	A Healthy Diet for Everyone (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
5	A Healthy Diet for Everyone (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
6	Alfred Nobel: A Man of Peace (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
7	Alfred Nobel: A Man of Peace (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
8	後期前半内容の総復習	語彙・内容理解、音読チェックなど	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
9	Marie Curie: Nobel Prize Winner (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
10	Marie Curie: Nobel Prize Winner (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
11	Oil as an Important World Resource (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
12	Oil as an Important World Resource (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
13	Earthquakes: Hard to Predict (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習
14	Earthquakes: Hard to Predict (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
15	後期後半内容の総復習 後期学習内容の総まとめテスト	語彙・内容理解、音読チェックなど	テスト内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Access (読解力の基礎を高めるためのリーディングスキル)	山科美和子, 横山美鶴, 沖野泰子	センゲージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には、毎回使用するため、英和辞典を必ず持参してください。外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。辞書を活用し、毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングボルト) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7 前半	テキスト Unit 7 前半	Unit 7 Warm-up & Vocabulary Build-up
	2	Unit 7 後半	リーディング と 文法説明 Unit 7 の単語小テスト	Unit 7 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	3	Unit 8 前半	リスニング	Unit 8 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	4	Unit 8 後半	リーディングと文法説明 Unit 8 の単語小テスト	Unit 8 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	5	(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパッセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語
	6	Unit 9 前半	リスニング	Unit 9 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	7	Unit 9 後半	リーディングと文法説明 Unit 10 の単語小テスト	Unit 10 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語
	8	Unit 11 前半	リスニング	Unit 11 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	9	Unit 11 後半	リーディングと文法説明 Unit 11 の単語小テスト	Unit 11 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	10	(前回は配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パッセージを読む。	自然科学の内容の英文パッセージを読む。 単語集の指定された単語
	11	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	12	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語の小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	13	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	14	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	15	後期の総括と確認テスト	後期末まとめテストと解説	後期学習事項

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
-----------	--

学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストのユニットが 1 つ終わるごとにウォームアップの単語の小テストを行う。語彙力のアップは TOEIC の得点アップにつながる。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション 前期内容の復習	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 語彙テスト、要約文の音読など	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
2	Margaret Mead: The World Was Her Home (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
3	Margaret Mead: The World Was Her Home (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
4	Louis Pasteur: A Modern-Day Scientist (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
5	Louis Pasteur: A Modern-Day Scientist (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
6	The Origin of the Moon (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
7	The Origin of the Moon (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
8	後期前半内容の総復習	語彙・内容理解、音読チェックなど	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
9	A New Route across the Top of the World (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
10	A New Route across the Top of the World (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
11	Clues and Criminal Investigation (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
12	Clues and Criminal Investigation (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングポルタ課題 60 個
13	Saving Lives with Weather Forecasting (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習
14	Saving Lives with Weather Forecasting (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
15	後期後半内容の総復習 後期学習内容の総まとめテスト	語彙・内容理解、音読チェックなど	テスト内容の復習

関連科目 他英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Base (読解入門のためのリーディングスキル)	山科美和子, 横山美鶴, 沖野泰子	センゲージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
-----------	---

学生へのメッセージ
授業には、毎回使用するため、英和辞典を必ず持参してください。外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。辞書を活用し、毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングポルタ) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。

担当者の研究室等 7 号館 2 階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の再確認、プリント教材	前期の内容の再確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Instructions	取扱説明書を読む上でのポイント/ 命令文	テキストの予習と単語の学習
3	Health & Physical Condition	健康・医療に関する文/ Yes/No Questions	テキストの予習と単語の学習
4	Service Requests	用紙に必要な事項を記入する上でのポイント/ 現在完了	テキストの予習と単語の学習
5	Special Orders	注文書などの読み書きのポイント/ 疑問詞を用いた疑問文	テキストの予習と単語の学習
6	Money	金銭に関する表現を読む上でのポイント/ how を用いた疑問文	テキストの予習と単語の学習
7	Public Signs	掲示の読み方/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
8	Sports	スポーツに関する文を読む上でのポイント/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
9	History (1)	歴史を読む上でのポイント/ 受動態	テキストの予習と単語の学習
10	History (2)	歴史を読む上でのポイント/ 受動態	テキストの予習と単語の学習
11	Sightseeing (1)	旅行に関する表現のポイント/ 原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
12	Sightseeing (2)	旅行に関する表現のポイント/ 原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
13	Science (1)	科学関係の文を読む上でのポイント/ 比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
14	Science (2)	科学関係の文を読む上でのポイント/ 比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English (Basic)	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明	
2	Unit 1 : 文の要素と基本 5 文型	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの予習
3	Unit 2 : 動詞の種類	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 3 : 動詞の時制	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 4 : 助動詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 5 : 名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 6 : 代名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	文法問題、資料の読解問題を解く	次回に向けての予習
9	Unit 7 : 冠詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 8 : 不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 9 : 分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 10 : 動名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 11 : 接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 12 : 関係詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	文法問題、資料の読解問題を解く	後期全範囲の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-	日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
-----------	---

学生へのメッセージ	中高で学習した英文法を復習しながら、TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。 Email: iharashun0@gmail.com
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明		
2	Unit 7. I'm Thinking about Quitting My Job.	進行形 単語・音読・内容理解		テキストの予習
3	Unit 7. I'm Thinking about Quitting My Job.	文法問題 TOIEC 形式問題		テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 8. I'll Call Give Her Your Message.	未来形 単語・音読・内容理解		テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 8. I'll Call Give Her Your Message.	文法問題 TOIEC 形式問題		テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 9. I haven't Received the latest figures.	現在完了形 単語・音読・内容理解		テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 9. I haven't Received the latest figures.	文法問題 TOIEC 形式問題		テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	Unit 7-9		次回に向けての予習
9	Unit 10. The Cafeteria Is Closed today.	受動態 単語・音読・内容理解		テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 10. The Cafeteria Is Closed today.	文法問題 TOIEC 形式問題		テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 11. We Expect Higher Sales in China.	比較 単語・音読・内容理解		テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 11. We Expect Higher Sales in China.	文法問題 TOIEC 形式問題		テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 12. I's Like to Check in.	助動詞 2 単語・音読・内容理解		テキストの復習 次回に向けての予習
14	.Unit 12. I's Like to Check in.	文法問題 TOIEC 形式問題		テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	Unit 7-12		後期全範囲の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Le's Read Aloud & Learn English!	角山昭彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	TOEIC Bridge	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	60%

学生へのメッセージ
この授業の評価 10% は TOEIC Bridge の得点によるので、必ず受験すること。
中高で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。

担当者の研究室等
7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の再確認、夏休みについての作文	テキストの前期の内容の再確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Unit 7 Art (1)	話の展開を予測する	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 7 Art (2)	「動詞 + ing」を理解する (動名詞)	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 8 Global Issues (1)	強弱のリズムに慣れる	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 8 Global Issues (2)	主語が「されること」を理解する (受動態)	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 9 Japanese Culture (1)	t でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
7	Unit 9 Japanese Culture (2)	比較を理解する (同等比較・比較級・最上級)	テキストの予習と単語の学習
8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
9	Unit 10 Human Rights (1)	l でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
10	Unit 10 Human Rights (2)	後ろからの説明を見抜く (後置修飾)	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 11 Health & Medical Issues (1)	弱い of を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 11 Health & Medical Issues (2)	名詞を限定していることを見抜く (関係代名詞)	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 12 Environmental Issues (1)	対比による強調を理解する	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 12 Environmental Issues (2)	and がつなぐものを見抜く (並列 1)	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された箇所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 1 予定?動詞・5文型 基礎	授業の進め方の説明、練習問題 語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	特になし
2	Unit 1 予定?動詞・5文型 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 2 数量を尋ねる?名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 2 数量を尋ねる?名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 3 命令・依頼?形容詞・副詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 3 命令・依頼?形容詞・副詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	まとめ1	Unit 1-3の復習、およびまとめテスト	Unit 1-3の復習
8	Unit 4 広告・宣伝?フレーズ・リーディング 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 4 広告・宣伝?フレーズ・リーディング 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 5 時間を尋ねる?動名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 5 時間を尋ねる?動名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 6 場所を尋ねる?to 不定詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 6 場所を尋ねる?to 不定詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ2	Unit 4-6の復習、およびまとめテスト	Unit 4-6の復習
15	復習	Unit 1-6の復習、応用問題	Unit 1-6の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST Trainer Target 470, Revised Edition	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などについて説明する。	事後学習課題： ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
2	Unit1: Job Interview (過去完了形、別れ際の挨拶)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
3	Unit2: First Day on the Job (助動詞1、依頼の仕方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
4	Unit 3: Hurricane on the Weekend (関係代名詞1、反論の仕方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
5	Unit 4: Andy's Makeover (現在進行形、困惑を示す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
6	Unit 5: Andy Meets Christian (助動詞2、聞き返す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
7	Unit 6: Miranda's Request (分詞、希望の伝え方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備 ・ 中間テストの準備
8	中間テスト	これまでの学習内容より、中間試験	事後学習課題： ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
9	Unit 7: Nate's Birthday (仮定法、驚きを示す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備

		内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	
10	Unit 8: Andy's Decision (現在完了形、確認の仕方)	・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
11	Unit 9: Breakup with Nate (動名詞、提案の仕方)	・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
12	Unit 10: The Dream Job (受動態、提案する時)	・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
13	Unit 11: Announcement at the Party (関係代名詞 2、称賛の言い 方)	・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
14	Unit 12: Andy's Final Choice (使役動詞、丁寧な依頼の仕 方)	・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備 ・期末テストの準備
15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末試験	事後学習課題： これまでの内容の総復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英 語	Aline Brosh McKenna, 角山照彦, Simon Capper	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
--------------	---

学生への メッセージ	<p>・毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。 ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。 成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。</p> <p>①私語など授業を妨害するような行為は、自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則、欠席をレポートでカバーすることはできない) ①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <p>・おしゃべりなニューヨークの物語を楽しみながら、総合的な英語能力の向上を図りましょう。 ・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・TOEICなどの試験を積極的に受けましょう。また、ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを期待します。</p>
---------------	--

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
	2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
	9	冠詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	まちがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的
1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標
「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)
TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	シラバスの説明 1. 手紙(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(1. 手紙)の予習
2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
15	1. 手紙～13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備

関連科目
他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 全学共通英語課題 A 20%
 全学共通英語課題 B 10%
 定期試験 40%
 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 30%

学生へのメッセージ
 There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(= easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!
 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。

担当者の研究室等
7号館2階非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2303c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1 Fashion	名詞	Unit 1 の単語の確認と予習・復習
3	Unit 2 Companies	代名詞	Unit 2 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
4	Unit 3 Business Trips	自動詞・他動詞・リンキング動詞	Unit 3 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
5	Unit 4 Transportation and commuting	助動詞	Unit 4 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
6	Unit 5 Marketing, Sales and Products	不定詞・動名詞	Unit 5 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
7	Unit 1 から Unit 5 までの復習	名詞、代名詞、動詞、助動詞と不定詞・動名詞（構文と語彙を中心として）	Unit 1 から Unit 5 までの復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
8	Unit 6 Offices and Supplies	場所・動きを表す前置詞	Unit 6 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
9	Unit 7 Meetings and Presentations	時間を表す前置詞	Unit 7 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
10	Unit 8 Art	形容詞・副詞	Unit 8 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
11	Unit 9 Restaurants and Food	原級・比較級・最上級	Unit 9 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
12	Unit 10 Housing	接続詞（1）	Unit 10 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
13	Unit 11 The Environment and Recycling	現在時制と現在進行形	Unit 11 の単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
14	前期の総括	前期まとめテストと解説	テスト範囲の復習 ATR-CALL 課題
15	Unit 6 から Unit 11 までの復習	前置詞、形容詞・副詞、比較、接続詞と現在形（構文と語彙を中心として）	前期の総復習 ATR-CALL 課題

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多吉彦	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、レポート、まとめテスト等も含む） 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は毎回携帯すること。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 7 予定?動詞・5 文型 基礎	授業の進め方の説明、練習問題 語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	特になし
2	Unit 7 予定?動詞・5 文型 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 8 数量を尋ねる?名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 8 数量を尋ねる?名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 9 命令・依頼?形容詞・副詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 9 命令・依頼?形容詞・副詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	まとめ1	Unit 7-9の復習、およびまとめテスト	Unit 7-9の復習
8	Unit 10 広告・宣伝?フレーズ・リー ディング 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 10 広告・宣伝?フレーズ・リー ディング 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 11 時間を尋ねる?動名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 11 時間を尋ねる?動名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 12 場所を尋ねる?to 不定詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 12 場所を尋ねる?to 不定詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ2	Unit 10-12の復習、およびまとめテスト2	Unit 10-12の復習
15	復習	Unit 7-12の復習、応用問題	Unit 7-12の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TOEICR TEST Trainer Target 470, Revised Edition</td> <td>Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEICR TEST Trainer Target 470, Revised Edition	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	Cengage Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	TOEICR TEST Trainer Target 470, Revised Edition	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	Cengage Learning													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%
全学共通英語課題 A	20%						
全学共通英語課題 B	10%						
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%						
学生への メッセージ							
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室						
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。						

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事前学習課題：テキストに書かれている映画の概要を読む 事後学習課題：指定した内容の復習
2	Unit 1: The Woman in the Picture (分詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
3	Unit 2: Back to Titanic (受動態)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
4	Unit 3: Leaving Port (助動詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
5	Unit 4: Don't Do It (仮定法)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
6	Unit 5: Do You Love him? (進行形)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
7	Unit 6: I Can't See You (関係詞1)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
8	Unit 7: I'm Flying! (関係詞2)	・単語テスト ・単語・表現のチェック	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記

			<ul style="list-style-type: none"> ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	9	Unit 8: Iceberg Right Ahead! (完了形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	10	Unit 9: An Honest Thief (分詞2)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	11	Unit 10: Goodbye, Mother (未来形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	12	Unit 11: Get in the Boat (代名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	13	Unit 12: Two Tragic Bullets (動名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
	14	Unit 13: Promise Me (不定詞) +Unit 14 (否定)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末テスト	これまでの総復習
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への	・毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。			

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。続く場合は単位を認めない。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則、欠席をレポートでカバーすることはできない) ①から③が続く場合、単位を認めない。 <ul style="list-style-type: none"> ・名作映画で英語表現を学びながら、外国の文化にも親しみましょう。 ・TOEIC や英検の受験をお勧めします。ランゲージ・パートナーを作ることもお勧めします。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、毎回一つでも多くのことを身に付けてくれることを望んでいます。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事後	事前
1	イントロダクション	授業運営と評価についての説明	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
2	Unit 1 名詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
3	Unit 2 形容詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
4	Unit 3 副詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
5	Unit 4 時制を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
6	Unit 5 主語と動詞の一致を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
7	Unit 6 能動態と受動態を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
8	中間まとめのテスト	これまでの授業のまとめのテスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
9	Unit 7 動名詞、不定詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
10	Unit 10 & Unit 11 前置詞と接続詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
11	Unit 12 前置詞と接続詞の違いを学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
12	Unit 13 関係代名詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
13	Unit 14 語彙の結びつきを学ぶ(名詞・形容詞)	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：確認テストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
14	Unit 15 語彙の結びつきを学ぶ(動詞・副詞)	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後：まとめのテストの準備	事前：次のチャプターのわからない単語を調べる
15	まとめのテスト	これまでの授業内容のまとめのテスト		

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レベル別 TOEIC L&R テスト実力養成コース:初級編	早川幸治、岸洋一	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ
 基礎的な英語力をつけるのはいつからでも遅くありません。1限目の授業ですが、新たな言語世界を開いていく気持ちで一緒に楽しく学びましょう。
 授業の進度は上記の表を目安としますが、開講後の様子によって必要であれば調整します。

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	ましがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	ましがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的
1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標
「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)
TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
7	19. 引合い(1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
8	20. 引合い(2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備

関連科目
他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 全学共通英語課題 A 20%
 全学共通英語課題 B 10%
 定期試験 40%
 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 30%

学生へのメッセージ
 There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(= easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!
 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。

担当者の研究室等
7号館2階非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	2	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	3	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	4	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	5	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	6	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	7	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	8	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	9	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	10	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	11	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	12	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	13	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	14	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	15	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生への メッセージ	<p>文章の目的を分析し、また組み立てや展開を理解する訓練を行ない、効率的な読みのできる読解力を養いましょう。 英語を毎日学習する習慣を身につけてください。 All students should make utmost efforts to attend every class and have a textbook.</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師室			
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>			

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN2304c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習(品詞、5文型など)	事前学習課題:教科書全体に目を通しておくこと リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 12 Business Profile	過去時制	事前学習課題:Unit 12の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 12の単語の復習
3	Unit 13 Schedules	未来	事前学習課題:Unit 13の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 13の単語の復習
4	Unit 14 Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	事前学習課題:Unit 14の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 14の単語の復習
5	Unit 15 Industry and Manufacturing	能動態と受動態	事前学習課題:Unit 15の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 15の単語の復習
6	Unit 16 Making Arrangements	接続詞(2)	事前学習課題:事後学習課題:Unit 16の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 16の単語の復習
7	Unit 12からUnit 16までの復習	過去形、未来形、完了形、態と接続詞(構文と語彙を中心として)	事前学習課題:Unit 12からunit 16までの復習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 12からunit 16までの復習
8	Unit 17 Business Culture	否定文	事前学習課題:事後学習課題:Unit 17の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 17の単語の復習
9	Unit 18 Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	事前学習課題:Unit 18の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 18の単語の復習
10	Unit 19 Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	事前学習課題:Unit 19の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 19の単語の復習
11	Unit 20 Education	後置修飾	事前学習課題:Unit 20の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題	事後学習課題:Unit 20の単語の復習
12	Unit 21 Banking	仮定法	事前学習課題:Unit 21の単語の確認と予習	

				リンガボルト 課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題：Unit 21 の単語の復習
	13	Unit 22 Health	話法	事前学習課題：Unit 22 の単語の確認と予習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：Unit 22 の単語の復習
	14	後期の総括	後期まとめテストと解説	事前学習課題：テスト範囲の復習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：テストの復習
	15	Unit 17 から Unit 22 までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法（構文と語彙を中心として）	事前学習課題：後期の総復習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：後期の総復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は携帯すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Classroom Procedures, Topic Interview: Family	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	Essential English / Nice to meet you!	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Who are they talking about?	人の外見の特徴を述べる	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	When do you start?	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	Topic Interview: House and Home	自宅についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Where does this go?	物の位置	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	How do I get there?	道案内	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	What happened?	過去の出来事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Food	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: Self Introduction 3 minutes	3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English in common 1	Maria Vitoria Saumell	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	15% Conversation test 1 15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 15% Approach to lesson 10% Learning reach confirmation 20% TOEIC Bridge 15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc.
-----------	--

	<p>このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。</p> <p>Everyone, please enjoy talking about English. Good Luck! 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!</p>
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グライノ スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリNZ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1&2 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about art	Students will discover, practice and	Complete online homework

		(using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). / Units 3&4 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) TOEIC Bridge Test (20%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト 2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
3	Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
4	Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
5	Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
6	Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short written assignment.	Students should study the content of the days lesson
8	Mid semester speaking assessment	Students will work in pairs and present conversations demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
9	Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
10	Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
11	Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
12	Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
14	Semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short written assignment.	Students should study the content of the days lesson
15	Final semester speaking assessment	Students will work in pairs and present conversations demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1	ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski
2	Stretch 1 Workbook	ISBN 978-0-19-460324-9	Susan Stempleski	Oxford
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 80% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) TOEIC Bridge の結果 20%
学生への	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication

メッセージ	<p>skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.</p> <p>This course will include teaching of reading, writing, and listening skills. The main focus, however, will be speaking and communication skills. It is important, therefore, to come to class every week to learn and practice these skills. Use your class time wisely to practice speaking every chance you get, and your skills will improve!</p>
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 80% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) TOEIC Bridgeの結果 20%			
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 80% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。) TOEIC Bridgeの結果 20%			
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Classroom Procedures, Topic Interview: Family	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	Essential English / Nice to meet you!	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Who are they talking about?	人の外見の特徴を述べる	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	When do you start?	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	Topic Interview: House and Home	自宅についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Where does this go?	物の位置	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	How do I get there?	道案内	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	What happened?	過去の出来事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Food	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: Self Introduction 3 minutes	3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English in common 1	Maria Vitoria Saumell	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% Conversation test 1 15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 15% Approach to lesson 10% Learning reach confirmation 20% TOEIC Bridge 15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc. このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
-----------	---

	<p>Students are give teacher worksheets and need to take notes on each lesson. 生徒は教師のワークシートを出し、各レッスンでメモを取る必要があります。 Everyone, please enjoy talking about English. Good Luck! 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!</p>
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト 2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グライノ スレーカー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 1-3	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー/ 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー/3分 スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test I I / Achievement Test, Units 4-6	会話テスト 2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, Fifth Edition	Helegsen, Wiltshier, Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリノズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Sharing personal information. / Units 1 & 2 test. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 3: Talking about Likes	Students will discover, practice and	Complete online homework

	and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. / Units 3 & 4 test. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 6: Talking about past	Students will discover, practice and	Complete online homework

	<p>events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.</p>	<p>individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.</p>	<p>(sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.</p>																
15	<p>Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.</p>	<p>Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.</p>	<p>Practice English 'maintenance' methods.</p>																
関連科目	英語基礎会話 b																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)</td> <td>Wilson, K.</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) TOEIC Bridge Test (20%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!</p> <p>In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p> <p>Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.</p>																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>																		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	.Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson.
3	Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson.
4	Jobs	Presentations Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson.
5	Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson.
6	Daily Activities	Presentations Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson.
7	Midterm Assessment Activity	Students will do a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.
8	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.
9	Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object Pronouns	Students should study the content of the days lesson.
10	Feelings	Presentations Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson.
11	Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past tense	Students should study the content of the days lesson.
12	Talking about the past	Presentations Skills Mini-Presentation 4: My favorite vacation	Students should study the content of the days lesson.
13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of Place	Students should study the content of the days lesson.
14	Final Assessment Activity	Students will do a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.

関連科目	Skills training, English Presentation
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1	ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski
2	Stretch 1 Workbook	ISBN 978-0-19-460324-9	Susan Stempleski	Oxford
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 80% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)
-----------	--

	TOEIC Bridge の結果 20%
学生へのメッセージ	<p>The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening, speaking and writing skills. Students will work in pairs and small groups practicing realistic and practical everyday language.</p> <p>By the end of the course, students should be able to effectively use the vocabulary, grammar, and conversation strategies learned to successfully communicate in English.</p> <p>All classes will be conducted in English, so please come to class every week prepared to do your best.</p> <p>Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.</p> <p>I'm looking forward to having class with you.</p>
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ディチコ ニック
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Starter (3rd Edition)	Ken Wilson and Thomas Healy.	Oxford University Press
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） TOEIC Bridgeの結果 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1307c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方、評価の方法などの説明 ・簡単な自己紹介	・事前学習： 英語で自己紹介ができるように考えてくる
2	Unit 1: 自己紹介 (be 動詞、Yes/No の答え方)	・単語テスト ・自己紹介の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
3	Unit 2: 物事の説明 (命令文)	・単語テスト ・説明の仕方の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
4	Unit 3: 物の配置 (There is/are)	・単語テスト ・場所の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
5	Unit 4: 習慣 (Do/Does を使った疑問文)	・単語テスト ・日々の習慣の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
6	Unit 5: 家族 (Wh- を使った疑問文)	・単語テスト ・自分の家族を紹介する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認 ・中間テストの準備
7	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト (ペア・グループの発表+筆記)	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1~5 の総復習
8	Unit 6: ショッピング (Some と Any)	・単語テスト ・ショッピングでの表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
9	Unit 7: 週末 (時制)	・単語テスト ・週末の過ごし方の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
10	Unit 8: 食事 (可算名詞/不可算名詞)	・単語テスト ・食事に関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
11	Unit 9: スポーツ (現在進行形)	・単語テスト ・スポーツに関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
12	Unit 10: 家・部屋 (前置詞)	・単語テスト ・家や部屋に関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
13	Unit 11: 過去 (過去形)	・単語テスト ・過去に行ったことに関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前学習： ・Vocabulary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認
14	Unit 12: 将来のこと	・単語テスト	事前学習：

	(未来)	・将来のことに関する表現についてリスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	・Vocabluary の単語を覚える 事後学習： ・会話例の発音 ・文法の確認 ・発表の準備	
	15 発表	これまで学んだことより発表 (ペア・グループの発表+筆記)	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6～12 の総復習	
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Access (5th Edition)	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson and Longman
	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC Bridge 20% ・単語テスト 20% ・中間テスト+発表 40% ・平常点：20% 注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。遅刻は 3 回で 1 回の欠席とみなす。 平常点とは、課題へ取り組む姿勢、授業態度（投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。			
学生へのメッセージ	本授業では、基本的な英会話力の向上を目指す。 日常における様々なシーンを想定し、会話がスムーズにできるように練習する。ペアワークやグループワークなどを通じて、自分のことを一方的に話すだけでなく、相手の話を聞いてそれに受け答えできるように訓練をする。 また様々な英語表現に触れ、会話の幅を広げることも本授業の目的の一つである。 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な英会話のスキルを磨く。 ・スムーズな会話ができるようになる。 ・語彙や慣用句の知識の増強。 ・授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生にはどんどん成績を上げていきます。 ・ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。) ①から③が続く場合、単位を認めない。 ・練習を積みめば、英語での会話はそれほど難しいものではありません。毎回、一言でも多く話せるようにしましょう。 ・積極的に海外旅行や留学に行ってみましょう。英語の力だけでなく、視野が広がります。			
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたベースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Occupations	仕事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	What's playing?	娯楽について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	What are you going to do?	予定について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	TopicSchool	大学についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	How much is this?	買い物について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	How do you make it?	手順を説明する	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Opinions and Music	好みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Work	仕事についてインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English in common 1	Maria Vitoria Saumell	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法 (基準)	15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 30% Learning reach confirmation 30% Class participation
-----------	--

学生へのメッセージ	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc. このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 Students are give teacher worksheets and need to take notes on each lesson. 生徒は教師のワークシートを出し、各レッスンでメモを取る必要があります。 Be prepared to speak in class. Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外出についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリノズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 8: Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
8	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise

		have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	until you get a score of 100%.
	9	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups. Units 3 & 4 test.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 12: Discussing the news (using reported speech).. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生への メッセージ	<p>If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.</p> <p>In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p> <p>Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外出についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
14	Final Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6</td> <td>Susan Stempleski</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Stretch 1 Workbook ISBN 978-0-19-460324-9</td> <td>Susan Stempleski</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford	2	Stretch 1 Workbook ISBN 978-0-19-460324-9	Susan Stempleski	Oxford	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford														
2	Stretch 1 Workbook ISBN 978-0-19-460324-9	Susan Stempleski	Oxford														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%</p>																
学生への メッセージ	<p>The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークをしながらよりリアルな状況で英会話ができるようにする。 By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English. Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回修得した英語の表現などを積極的に使用することが望まれる。</p> <p>This course will include teaching of reading, writing, and listening skills. The main focus, however, will be speaking and communication skills. It is important, therefore, to come to class every week to learn and practice these skills. Use your class time wisely to practice speaking every chance you get, and your skills will improve!</p>																
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Occupations	仕事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	What's playing?	娯楽について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	What are you going to do?	予定について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	TopicSchool	大学についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	How much is this?	買い物について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	How do you make it?	手順を説明する	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Opinions and Music	好みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Work	仕事についてインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English in common 1	Maria Vitoria Saumell	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 30% Learning reach confirmation 30% Class participation
-----------	--

学生へのメッセージ	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc. このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。 Be prepared to speak in class. Good Luck!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15%学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	11 Summer Vacation, continued	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	13 Eating Out	外出についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Conversation Test I / Achievement Test, Units 11-16	会話テスト / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Conversation Test II / Achievement Test, Units 16-20	会話テスト2 / 学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success, 5th Edition	Helgesen, Wiltshier, Brown	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	20% 会話テスト 1 20% 会話テスト 2 10% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 15% 学習到達確認
-----------	--

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリNZ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Orientation, review of 'classroom English' phrases. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. / Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

	exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. / Units 9 & 10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouonlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. / Units 11 & 12 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
15	Course Review and Holiday	Students will discover, practice and	Practice English level 'maintenance' methods.

	Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.		
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, (ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Online homework assignments sc3e.ouonlinepractice.com (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生への メッセージ	<p>If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.</p> <p>In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p> <p>Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction and review of semester one materials. Summer vacation discussion and activities.	Students will take part in pair and group discussions and complete activities about their summer vacations, as well as review speaking strategies from semester one.	Students should study the content of the day's lesson.
	2	People We Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Simple Past of the "be" verb. Pair Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
	3	People We Admire	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Someone you admire.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Count and Noncount nouns Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
	5	At a Supermarket	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the day's lesson.
	6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Using "Should" to give advice. Pair and Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
	7	Health Problems	Presentation Skills Mini-Presentation 3: Describing how to treat a health problem.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	Midterm Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of the materials covered in class.	Students should study the content of the day's lesson.
	9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a conversation activity demonstrating their ability to make use of speaking strategies and vocabulary presented in lessons.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Wh-Questions with past of "be" verb. Pair and Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
	11	Cities	Presentation Skills Mini-Presentation 4: Recommending and describing your favourite city.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Future Plans with "be going to" and "might". Pair and Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
	13	Travel Plans	Presentation Skills Mini-Presentation 5: Present your plans for the Spring Vacation.	Students should study the content of the day's lesson.
	14	Final Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of the materials covered in class.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a conversation activity demonstrating their ability to make use of speaking strategies and vocabulary presented in lessons.	Students should study the content of the day's lesson.	
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2	Stretch 1 Workbook ISBN 978-0-19-460324-9	Susan Stempleski	Oxford
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Homework Assignments: 15% Mini-Presentations: 15% Classwork: 30% Midterm Assessment Assignments: 20% Final Assessment Assignments: 20%			
学生への メッセージ	<p>In this course students will continue to develop the basic skills in vocabulary and grammar to communicate effectively in English. Students will work in pairs and small groups and practice English in a variety of realistic situations. By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.</p> <p>Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Please relax and have a positive attitude in class! There will be weekly assessment so it's important to do your homework and participate in the class activities every week.</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ディチコ ニック
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Starter (3rd Edition)	Ken Wilson and Thomas Healy	Oxford University Press
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN1308c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身につける。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方、評価方法の説明 ・夏休みの過ごし方	事前学習： 夏休みの過ごし方について英語で表現を考えてくる
2	Unit 1: ファストフード店での注文	・単語テスト ・ファストフード店での注文について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
3	Unit 2: レストランでの来客対応	・単語テスト ・レストランでの来客対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
4	Unit 3: 接客サービス	・単語テスト ・接客サービスについて、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
5	Unit 4: コンビニやスーパーでの対応	・単語テスト ・コンビニやスーパーでの対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
6	Unit 5: 会計	・単語テスト ・会計時の対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認、中間テストの準備
7	中間テスト	これまでの内容より中間テスト (ペア・グループワーク+筆記)	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit1~5の総復習
8	Unit 6: 苦情対応	・単語テスト ・苦情対応について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
9	Unit 7: ホテルでの宿泊客の受付	・単語テスト ・宿泊客の受付について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
10	Unit 8: サービス提供、近隣情報の案内	・単語テスト ・サービス提供、近隣情報の案内の仕方について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
11	Unit 9: 観光案内	・単語テスト ・観光案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
12	Unit 10: 道案内	・単語テスト ・道案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
13	Unit 11: 交通機関や観光施設の案内	・単語テスト ・交通機関や観光施設の案内について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認
14	Unit 12: 発券機や機器の説明	・単語テスト ・発券機や機器の説明について、会話例やリスニング、ペア or グループワークを通して学ぶ	事前学習： 単語の暗記 事後学習： リスニング、発音の確認、発表の準備
15	発表	これまでの内容より発表 (ペア・グループワーク+筆記)	事前学習： ・ペア・グループで発表内容の打ち合わせ ・Unit6~12の総復習

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	You're Welcome Communication with Tourists Made Easy	Tae Kudo	Cengage Learning

	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト 20% ・中間テスト+発表 60% ・平常点：20% <p>注意：原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。遅刻は3回で1回の欠席とみなす。 平常点とは、課題へ取り組む姿勢、授業態度（投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>			
学生への メッセージ	<p>本授業では、前期に引き続き、基本的な英会話力の向上を目指す。特に日本を観光中の外国人への案内を想定し、的確な会話ができるように練習をする。ペアワークやグループワークなどを通じて、会話のキャッチボールがスムーズにできるように訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生にはどんどん成績を上げていきます。 ・ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績の低下だけでなく、単位の取得にも影響を及ぼす。 <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</p> <p>①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習を積み重ね、英会話はそれほど難しいものではありません。一言でも多く英語を話しましょう。 ・大学の成績だけでなく、仕事や海外旅行の際にも英語は役立ちます。楽しみながら英語を学びましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3309c1		

授業概要・目的	外国語の運用能力（語学力）と、異文化環境で適切なコミュニケーションと行動をとる力（異文化間能力）の向上を目的とする。募集ガイダンスへの参加からはじまる事前学習、海外研修先での実地学習、帰国後の成果報告を含む事後学習で構成される。研修先での授業は月曜日から金曜日に開講され、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等の詳細は募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	<p>・語学力については、基礎的な会話への不安を解消し、TOEIC スコア等の客観的指標の自己ベストを更新すること。また、事前学習と現地での実践、そして帰国後の反省を通じて、自らにとって最も効果的な自学自習の方法と教材を発見し、自律的な語学学習を継続できるようになることを目標とする。</p> <p>・異文化間能力については、渡航先の社会事情、歴史、文化についての基礎的な知識と理解を身につけ、現地では会う人々と積極的に交流し、交流の成果と反省点を客観的に整理して報告できるようになること。さらには帰国後も国際社会と異文化への好奇心を高め、広く多様な国・地域の人々と積極的に協力し合う姿勢と適応力を身につけることを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>参加学生は教員およびスタッフの指導を受けながら事前学習、実地学習、事後学習を行う。講義を聞いてメモをとるだけで完結する授業はなく、常に自発的な語学学習と現地事情の情報収集に励む必要がある。また、現地において安全で効果的な実習を行うためには参加学生同士の協同が不可欠であるので、事前授業の段階からチームとして情報を共有し、学び合う姿勢が求められる。</p> <p>次のスケジュールと内容が予定されている。(8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認のこと。)</p> <p>4月 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席、指示された学習課題が義務付けられている。また、事後には成果報告会における発表とレポート提出が求められる。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施（全3回）</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬（予定）</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬（予定）</p> <p>9月下旬～10月上旬（予定） 成果報告会</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の目的と安全管理に関するガイダンスの受講と内容理解の確認 ・多読、会話演習など、学内の教材や設備を使った語学演習、ICTを活用した自主練習（ガイダンス時に説明） ・渡航先の社会事情、歴史、文化に関する情報収集（ガイダンス時に説明） ・研修中の目標と行動計画の策定。漠然と「語学力を上げたい」「話せるようになりたい」ではなく、「滞在中に・・・をする」という具体的な行動目標を立てること。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と行動計画に従い、授業に真摯に取り組むことはもちろん、授業外でも積極的に講師、スタッフ、ホストファミリーなど周囲の人々に話しかけ、コミュニケーションを進めること。 ・事前に情報収集して得た知識を活用して目標に向けて行動し、日々の成果と反省点について記録をつけながら過ごすこと。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と合同での成果報告会が開催されるので、そこで研修の成果と反省点についてのプレゼンテーションを行う。 ・成果と反省点をまとめたレポート（報告書）を作成して提出する。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																	
関連科目	英語その他外国語科目、研修先の地域に関する科目																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前・事後学習と成果報告会のプレゼン・レポートの評価 (30%) 研修先での成績 (70%)			
学生への メッセージ	大学生になったら早い段階で一度は海外に出ましょう。少しでも興味があれば、まずは国際交流センターへ足を運んで下さい。			
担当者の 研究室等	国際交流センター			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で出席できない場合は事前に国際交流センターへ連絡し相談すること。 ・事前に参加申込みを行い許可を得た者に限り履修できる科目であり、通常の履修申請とは手続きが異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上で履修を検討すること。学部・学年によって、また個々の学生の事情によって当該年度は受講できない場合がある。 			

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WIL1314a1		

授業概要・目的	経済学を学習する上で不可欠な、パソコンによる情報処理の基礎を学び、経済学の学習や経済分析に役立つ情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法を身につけることを目標とする。より具体的には、①電子メール・ウェブサイトの利用法、②Microsoft Wordによる文書・レポート作成、③Microsoft Excelによる表作成・基礎的データ分析、④Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション法、⑤ネットを活用した経済情報の収集と分析について学ぶ。
到達目標	授業で取得した情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法をもとに、経済情報収集と分析能力をスムーズに行い、その成果をレポートやプレゼンテーション、また卒業論文の作成などとしてまとめることができる。
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら授業を行う(実習形式)。
科目学習の効果(資格)	パソコンによる情報収集、レポート作成やプレゼンを通して、自分の考えを正確かつ効果的に他者に伝えることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	大学の情報環境について。Windowsの基礎	授業後、課題の提出
	2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出
	3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出
	4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出
	5	Microsoft Word②	数式の入力と表作成	授業後、課題の提出
	6	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出
	7	Microsoft Excel②	表・グラフの作成とデータベース機能	授業後、課題の提出
	8	Microsoft Excel③	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出
	9	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要とスライド作成	授業後、課題の提出
	10	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーションの要領と資料作成	授業後、課題の提出
	11	経済統計情報の利用	インターネット上から得たデータを使い、初歩的な統計データの加工を行う	授業後、課題の提出
	12	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出
	13	日本の経済政策を学ぶ	政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る	授業後、課題の提出
	14	経済情報にアクセスする	インターネット上でさまざまな経済情報を取得する	授業後、課題の提出
	15	レポートの作成	これまで得た情報から、レポートを作成する	授業後、課題の提出

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末レポート50%、授業内での課題50%を総合的に評価する
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	分からない点などは、遠慮なく積極的に質問するようにしてください。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H I J K L M N
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WIL1314a1		

授業概要・目的	<p>大学の学習においても、社会に出てからの仕事においても、パソコンの基本的な技能は必要です。むしろ、「使えることが前提」となっていることが多いかもしれません。</p> <p>とはいえ、パソコンを使ってプログラミングをする、計量分析ソフトを使って複雑な数式からなるモデルをもとに分析をする、といったことが求められているわけではありません。求められているものは、文書作成ソフト（Wordなど）、表計算ソフト（Excelなど）、プレゼンテーションソフト（PowerPointなど）の基本的な使い方です。また、インターネットを活用したデータ収集も重要です。</p> <p>この講義では、実習を中心として、これらの基本的なパソコンの使い方を学びます。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本的な使い方を修得する。 2. インターネットを利用したデータ収集の方法を修得する。 3. 文書作成ソフトを用いたレポート作成方法を学ぶ。 4. 表計算ソフトを用いて、簡単なデータ処理を学ぶ。 5. プレゼンテーションソフトの使い方を修得する。 																																																																		
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら、講義を進めていきます。また、テーマを各自で設定した上で、プレゼンテーションソフトを用いて、(グループ単位で) 実際に発表をしていただきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学の授業やゼミに必要なパソコンの技能や情報収集の仕方を修得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>大学の情報環境やパソコンの基本的な使い方について</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>データや資料の検索</td> <td>経済データや経済関係の資料の検索方法など</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文書作成ソフトの使い方①</td> <td>Wordを利用した文書の作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文書作成ソフトの使い方②</td> <td>Wordによる手紙の作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文書作成ソフトの使い方③</td> <td>その他の便利な使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>表計算ソフトの使い方①</td> <td>Excelでできること、セルの参照、グラフの作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表計算ソフトの使い方②</td> <td>Excelで計算できる基本統計量</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>表計算ソフトの使い方③</td> <td>Excelの各種関数について：便利な使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>表計算ソフトの使い方④</td> <td>Excelを使った基本統計量の計算</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>表計算ソフトの使い方⑤</td> <td>Excelを使った簡単なデータ分析</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>表計算ソフトの使い方⑥</td> <td>Excelのその他の便利な使い方</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーションソフトの使い方①</td> <td>PowerPointの概要</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーションソフトの使い方②</td> <td>PowerPointを使った、プレゼンテーション資料の作成</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プレゼンテーション実習①</td> <td>グループ単位で実施します。</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション実習②</td> <td>グループ単位で実施します。</td> <td>授業後、課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	大学の情報環境やパソコンの基本的な使い方について	授業後、課題の提出	2	データや資料の検索	経済データや経済関係の資料の検索方法など	授業後、課題の提出	3	文書作成ソフトの使い方①	Wordを利用した文書の作成	授業後、課題の提出	4	文書作成ソフトの使い方②	Wordによる手紙の作成	授業後、課題の提出	5	文書作成ソフトの使い方③	その他の便利な使い方	授業後、課題の提出	6	表計算ソフトの使い方①	Excelでできること、セルの参照、グラフの作成	授業後、課題の提出	7	表計算ソフトの使い方②	Excelで計算できる基本統計量	授業後、課題の提出	8	表計算ソフトの使い方③	Excelの各種関数について：便利な使い方	授業後、課題の提出	9	表計算ソフトの使い方④	Excelを使った基本統計量の計算	授業後、課題の提出	10	表計算ソフトの使い方⑤	Excelを使った簡単なデータ分析	授業後、課題の提出	11	表計算ソフトの使い方⑥	Excelのその他の便利な使い方	授業後、課題の提出	12	プレゼンテーションソフトの使い方①	PowerPointの概要	授業後、課題の提出	13	プレゼンテーションソフトの使い方②	PowerPointを使った、プレゼンテーション資料の作成	授業後、課題の提出	14	プレゼンテーション実習①	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出	15	プレゼンテーション実習②	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	大学の情報環境やパソコンの基本的な使い方について	授業後、課題の提出																																																																
2	データや資料の検索	経済データや経済関係の資料の検索方法など	授業後、課題の提出																																																																
3	文書作成ソフトの使い方①	Wordを利用した文書の作成	授業後、課題の提出																																																																
4	文書作成ソフトの使い方②	Wordによる手紙の作成	授業後、課題の提出																																																																
5	文書作成ソフトの使い方③	その他の便利な使い方	授業後、課題の提出																																																																
6	表計算ソフトの使い方①	Excelでできること、セルの参照、グラフの作成	授業後、課題の提出																																																																
7	表計算ソフトの使い方②	Excelで計算できる基本統計量	授業後、課題の提出																																																																
8	表計算ソフトの使い方③	Excelの各種関数について：便利な使い方	授業後、課題の提出																																																																
9	表計算ソフトの使い方④	Excelを使った基本統計量の計算	授業後、課題の提出																																																																
10	表計算ソフトの使い方⑤	Excelを使った簡単なデータ分析	授業後、課題の提出																																																																
11	表計算ソフトの使い方⑥	Excelのその他の便利な使い方	授業後、課題の提出																																																																
12	プレゼンテーションソフトの使い方①	PowerPointの概要	授業後、課題の提出																																																																
13	プレゼンテーションソフトの使い方②	PowerPointを使った、プレゼンテーション資料の作成	授業後、課題の提出																																																																
14	プレゼンテーション実習①	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出																																																																
15	プレゼンテーション実習②	グループ単位で実施します。	授業後、課題の提出																																																																
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末レポート50%、授業内での課題50%を総合的に評価します。5回以上欠席した人は期末レポートの採点対象外とします。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WIL1314a1		

授業概要・目的	この授業の目的は、経済学の学習に役立つ情報処理の方法を身につけること。
到達目標	この授業を履修することによって、次のスキルを習得できる。①電子メールやインターネットの利用方法。とりわけ、経済に関連するデータや情報をネットワークで検索・収集する能力を習得する。② Microsoft Word を学習することによって、レポートや卒業論文などを作成に必要なスキルを身につける。③ Microsoft Excel を学習することによって、表の作成とデータ分析の基礎をマスターする。④ Microsoft PowerPoint を学習することによって簡単なプレゼンテーションができる。
授業方法と留意点	各種の応用ソフトウェアを使った演習を行う。
科目学習の効果(資格)	この授業で習得した情報処理のスキルは、大学生活だけではなく社会人として働くときにも役に立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	大学の情報環境(解説); Windows の操作など(演習)	授業後、アンケートを実施。
	2	コンピューターのしくみと文書入力	コンピューターのしくみや二進数と十進数など(解説); ファイル操作、日本語テキスト入力(演習)	授業後、課題の提出
	3	電子メールの利用とインターネットの基礎	インターネットの利用とネット接続(解説); 電子メールの使い方(演習)	授業後、課題の提出
	4	情報セキュリティと情報検索	情報セキュリティと著作権(解説); インターネットで図書、文献、経済データなどの検索方法(演習)	授業後、課題の提出
	5	Microsoft Word (I)	Word の概要と書式の設定(解説); Word による文書作成(演習)	授業後、課題の提出
	6	Microsoft Word (II)	図表の作成、文章の表現力アップの方法(解説); Word による文書作成(演習)	授業後、課題の提出
	7	Microsoft Word (III)	大学レポートの作成方法(解説); Word による課題の提出(演習)	授業後、課題の提出
	8	Microsoft Excel (I)	Excel の概要とデータの作成(解説); Excel によるデータの作成(演習)	授業後、課題の提出
	9	Microsoft Excel (II)	表とグラフの作成とデータベース機能(解説); Excel による表とグラフの作成(演習)	授業後、課題の提出
	10	Microsoft Excel (III)	様々な関数の利用(解説); Excel によるデータ処理(演習)	授業後、課題の提出
	11	Microsoft Excel (IV)	簡単な統計分析の方法(解説); データに基づく初歩的な統計分析を行う(演習)	授業後、課題の提出
	12	Microsoft PowerPoint (I)	PowerPoint の概要とスライド作成(解説); PowerPoint によるスライド作成(演習)	
	13	Microsoft PowerPoint (II)	プレゼンテーションの要領とポイント(解説); PowerPoint によるプレゼンテーション作成(演習)	授業後、課題の提出
	14	経済統計情報の利用と Word、Excel、Powerpoint の連携	経済学の勉強に必要な経済データの収集方法(解説); Word、Excel、Powerpoint の連携(演習)	授業後、課題の提出
	15	総まとめとプレゼンテーション	全体の総括(解説); これまでに学んだ知識に基づき、簡単なプレゼンテーションを行う(演習)	

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30 時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013	杉本くみ子 大澤栄子	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での提出課題 50%、期末レポート 50%の割合で総合的に評価する。ただし、無断欠席が 3 回以上ある場合には、成績評価できない。
----------	---

学生へのメッセージ	経済学を学習するには情報処理の能力が不可欠である。毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	--

担当者の研究室等	1 号館 7 階 郭准教授室(経済学部)
----------	----------------------

備考	
----	--

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1312a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート
	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート
	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート
	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等備考	3号館 3階 数学準備室
------------	--------------

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1312a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・ 計算の法則 ・ 因数分解</td> <td>第 1 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・ 整式の割り算 ・ 剰余、因数の定理</td> <td>第 1 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・ 通分の規則</td> <td>第 2 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・ 平方根、立方根 ・ 有理化の計算</td> <td>第 2 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・ 等式の基本法則</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・ 方程式の導き方 ・ 解き方</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・ 不等式の基本法則</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・ 不等式の導き方 ・ 解き方</td> <td>第 3 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・ 連立方程式の導き方</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・ 解き方 ・ 基本法則</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・ 消去法</td> <td>第 4 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・ 数え上げの原則</td> <td>第 5 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・ 並べ方、選び方 ・ 順列、組み合わせ</td> <td>第 5 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・ 確率の計算</td> <td>第 6 章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・ くりかえす試行の確率</td> <td>第 6 章の問 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	第 1 章の問 課題レポート	2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート	3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	第 2 章の問 課題レポート	4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根、立方根 ・ 有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート	5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート	6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート	7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート	8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート	9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート	10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	第 4 章の問 課題レポート	11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	第 4 章の問 課題レポート	12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート	13	場合の数 (2)	・ 並べ方、選び方 ・ 順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート	14	確率 (1)	・ 確率の計算	第 6 章の問 課題レポート	15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	第 1 章の問 課題レポート																																																																
2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	第 2 章の問 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根、立方根 ・ 有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート																																																																
5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート																																																																
6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート																																																																
7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート																																																																
8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	第 4 章の問 課題レポート																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	第 4 章の問 課題レポート																																																																
12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート																																																																
13	場合の数 (2)	・ 並べ方、選び方 ・ 順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート																																																																
14	確率 (1)	・ 確率の計算	第 6 章の問 課題レポート																																																																
15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学研究室 編</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習 (30%) 及び期末テスト (70%) の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1312a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	第 1 章の問 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根、立方根 ・ 有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
	5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
	6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート
	7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
	8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート
	9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
	10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	第 4 章の問 課題レポート
	11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	第 4 章の問 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・ 並べ方、選び方 ・ 順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
	14	確率 (1)	・ 確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
	15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習 (30%) 及び期末テスト (70%) の合計で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽 焜
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA1312a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2313a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 座標 ・ 面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加, 減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・ 面積, 体積 ・ 応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階 数学準備室
------------	-------------

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2313a1		

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果(資格)
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 演習(30%)及び期末テスト(70%)の合計で評価する。

学生へのメッセージ
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて発表する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室

備考
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2313a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
	2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
	3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
	4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
	5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
	6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
	7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
	8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
	9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
	10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
	11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
	12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
	13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
	14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
	15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)及び期末テスト(70%)の合計で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて発表する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽 焜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WMA2313a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等備考 3号館3階 数学研究室

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WPH1315a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	活動点 5 0 %、態度点 2 5 %、技能点 2 5 %として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1 F 体育館事務室へ来ること。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1 F 体育館事務室
----------	------------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)
----	--------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WPH2316a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する 事後: 本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく 事後: 内容の振り返り
4	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
5	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
6	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
7	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 全授業の総括

関連科目 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。
なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ 授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。

担当者の研究室等 総合体育館 1F 体育館事務室

備考 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習・確認テスト	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。
----	---

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室(7号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	<p>授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の4点を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料で使用されている語彙や表現を学ぶ 2. 資料の内容を理解する 3. 資料の内容について意見交換を行う 4. 必要に応じて資料の要約や意見文を書く <p>日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。 2. 社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。 3. 特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。 4. 適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。
------	--

授業方法と留意点	社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方向的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明	自己紹介文を書く
	2	テーマ1	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	3	テーマ2	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	4	テーマ3	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	5	確認	テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く
	6	テーマ4	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	7	テーマ5	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	8	テーマ6	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	9	確認	テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く
	10	テーマ7	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	11	テーマ8	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	12	テーマ9	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
	13	確認	テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く
	14	レポート作成準備	レポートの書き方	これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する
15	発表・フィードバック	レポート内容の発表および話し合い	返却されたレポートの訂正箇所について確認する	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター講師控室 (3号館4階)
----------	----------------------

備考	<p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。</p>
----	--

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p>
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	———
	2	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
	6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	これまでの授業の復習 課題①を見直す
	7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	これまでの授業の復習 課題②を見直す
	13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	前回の復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題③	構成を意識した文章を書く	前回の復習	

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、常用漢字の練習も行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に役立つ。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>授業についての説明</td> <td>教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方 1</td> <td>レポート・論文の基本事項</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文章の書き方 2</td> <td>わかりやすい文章の書き方</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事実と意見文</td> <td>事実と意見の書き分け</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題① 説明文</td> <td>必要なことをわかりやすく説明する</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を知る</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>課題② 論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方 1</td> <td>レポートの体裁について学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポートの書き方 2</td> <td>レポート作成の注意点を教える</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポートの書き方 3</td> <td>アウトラインの構成を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>復習と確認</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	漢字の復習 (30 分)	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)																																																																
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)																																																																
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)																																																																
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)																																																																
5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)																																																																
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)																																																																
11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)																																																																
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	漢字の復習 (30 分)																																																																
14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)																																																																
関連科目	ゼミ、卒業研究など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	総合学習時間の目安は 60 時間。提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																																		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	———
	2	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
	6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	これまでの授業の復習 課題①を見直す
	7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	これまでの授業の復習 課題②を見直す
	13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	前回の復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題③	構成を意識した文章を書く	前回の復習	

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1310a1		

授業概要・目的	<p>文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。</p>																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、常用漢字の練習も行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に役立つ。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>導入</td><td>授業についての説明</td><td>教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)</td></tr> <tr><td>2</td><td>文章の書き方 1</td><td>レポート・論文の基本事項</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>3</td><td>文章の書き方 2</td><td>わかりやすい文章の書き方</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>4</td><td>事実と意見文</td><td>事実と意見の書き分け</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>5</td><td>課題① 説明文</td><td>必要なことをわかりやすく説明する</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>6</td><td>構成</td><td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>7</td><td>要約</td><td>要旨の要約の作成方法を知る</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>8</td><td>文章を引用する</td><td>文章を引用する方法を学ぶ</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>9</td><td>図表を引用する</td><td>図表を引用する方法を学ぶ</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>10</td><td>意見を述べる</td><td>考察に基づいて意見を述べる</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>11</td><td>課題② 論説文</td><td>資料を引用して意見を述べる</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>12</td><td>レポートの書き方 1</td><td>レポートの体裁について学ぶ</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>13</td><td>レポートの書き方 2</td><td>レポート作成の注意点をささえる</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>14</td><td>レポートの書き方 3</td><td>アウトラインの構成を学ぶ</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td>復習と確認</td><td>漢字の復習 (30 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点をささえる	漢字の復習 (30 分)	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)																																																																
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)																																																																
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)																																																																
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)																																																																
5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)																																																																
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)																																																																
11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)																																																																
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点をささえる	漢字の復習 (30 分)																																																																
14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)																																																																
関連科目	ゼミ、卒業研究など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	総合学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																																		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA1310a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	———
	2	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
	6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	これまでの授業の復習 課題①を見直す
	7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	これまでの授業の復習 課題②を見直す
	13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	前回の復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題③	構成を意識した文章を書く	前回の復習	

関連科目 日本語表現Ⅱ、ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA231a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する	前回の復習
	4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する	前回の復習
	5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する	前回の復習
	7	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習
	8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習
	9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	前回の復習
	10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める	発表の準備
	11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する	発表の準備
	12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	報告文の準備
	13	課題③	プレゼンテーションの内容を報告する	これまでの復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
	15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2311a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッションなどを含む。また、常用漢字の練習も行う。
科目学習の効果(資格)	研究発表や就職面接での話し方に不安がなくなる。また、漢字検定2級の漢字が習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書を復習する(60分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	漢字の復習(30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	漢字の復習(30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	漢字の復習(30分)
	9	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	漢字の復習(30分)
	10	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	漢字の復習(30分)
	11	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	12	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	13	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	14	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	漢字の復習(30分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習(30分)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	総合学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA231a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する	前回の復習
	4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する	前回の復習
	5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する	前回の復習
	7	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習
	8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習
	9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	前回の復習
	10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める	発表の準備
	11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する	発表の準備
	12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	報告文の準備
	13	課題③	プレゼンテーションの内容を報告する	これまでの復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
	15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2311a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッションなどを含む。また、常用漢字の練習も行う。
科目学習の効果(資格)	研究発表や就職面接での話し方に不安がなくなる。また、漢字検定2級の漢字が習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書を復習する(60分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	漢字の復習(30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	漢字の復習(30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	漢字の復習(30分)
	9	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	漢字の復習(30分)
	10	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	漢字の復習(30分)
	11	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	12	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	13	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	14	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	漢字の復習(30分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習(30分)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	総合学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WJA2311a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明。	———
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する。	前回の復習
3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する。	前回の復習
4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する。	前回の復習
5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く。	これまでの復習
6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する。	前回の復習
7	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の基本とそれに関連するマナーを学ぶ。	前回の復習
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う。	前回の復習
9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う。 ディスカッションの経過とその結論を文章で報告する。	前回の復習
10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める。	発表の準備
11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する。	発表の準備
12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う。	報告文の準備
13	課題③	プレゼンテーションの内容をまとめ、報告する。	これまでの復習
14	復習テスト	これまでに実施した小テストの復習を行う。	小テストの復習
15	授業のまとめ	これまでの授業の再確認。	これまでの授業の復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	誤字脱字や誤用が目立つ記事があったとします。そのような記事を信頼できますか。 どれほど正しいことを述べていても、文章表現ひとつで良くも悪くも印象は変わってしまいます。 自身の書く文章としっかり向き合い、正確な文章表現を身につけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP8○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文FⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1)授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。</p> <p>(3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>
----	---

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p>																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ, DP1 O, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情FⅡ	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:B〇,C科:Ⅲ〇,VⅠ〇,L科:DP1△,DP2〇,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間)
2	映画1:テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画1:テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画1:テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
5	映画2:テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
6	映画2:テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画2:テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
9	映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
10	映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画3:テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
12	映画4:「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
13	映画4:「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習(10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
14	映画4:「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, N 科 : DP1 O, DP8 ΔN : DP1 O, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ
2		映画1: テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
3		映画1: テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
4		映画1: テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
5		映画2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
6		映画2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
7		映画2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
8		テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
9		映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間)
10		映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
11		映画3: テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
12		映画4: 「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間)
13		映画4: 「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間)
14		映画4: 「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)
15		テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。			
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門協研究室)			
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。			

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	講義の進め方、評価方法などを説明 自己紹介	
2	unit1 Talking about your job.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
3	Unit 2 Introducing people	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
4	Unit 3. Explaining office layout	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
5	Unit 4 Giving instructions.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
6	Unit 5. Making invitations and arrangements.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
7	Review Units 1-5	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習 & テストに備えての学習
8	Mid-term Test and review. Units 1-5	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
9	Case Study	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
10	Case Study	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
11	Unit 6. Travel plans, making requests.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
12	Unit 7 Dealing with problems & offering help.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
13	Unit 8. Messages and contact details	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	テストに備えての学習
14	Quiz and review.	Quiz units 5-8 and review	復習
15	Issues	Dealing with issues	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Passport to Work.	Angela Buckingham & Norman Whitney.	Oxford University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Quizzes 30%, Homework, preparation and readiness for class 20% Participation, written work, listening, clear accurate speaking, answering of questions and bearing in class. 50%.
-----------	---

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be VERY USEFUL when you go JOB HUNTING in the near future ! (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	89101121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3305c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期は CEFR-J [B1.1]、後期は CEFR-J [B1.2] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1. I'm in the computer business.	Job titles, company organisation.	Page 6-7.
3	Unit 2. No, he's the boss!	Introducing people	Page 8-9.
4	Unit 2. No, he's the boss!	Job descriptions, department names.	Page 8-9.
5	Unit 3. This is where we have lunch.	Explaining office layout.	Page 10-11.
6	Unit 3. This is where we have lunch.	Location, ordinal numbers.	Page 10-11.
7	Unit 4. Can I use your phone.	Giving instructions, saying telephone numbers.	Page 12-13.
8	Unit 4. Can I use your phone. Mid-term test	Using sequencing words	Page 12-13.
9	Unit 5. How about some coffee?.	Inviting, making arrangements.	Page 14-15.
10	Unit 5. How about some coffee	Places of entertainment..	Page 14-15.
11	Unit 6. Can you meet me at the airport?	Talking about travel plans, making arrangements.	Page 20-21.
12	Unit 6. Can you meet me at the airport?	Air travel, dates	Page 20-21.
13	Unit 7. I'll take care of it.	Offering to help, apologising.	Page 22-23.
14	Unit 7. I'll take care of it.	Talking about things are in the office.	Page 22-23.
15	Final test.	Final test.	Study for test.

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Passport to Work (student book)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
2	Passport to Work (workbook)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	Mid-term and final tests: 50% Participation and classwork: 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most. Pair and group work will form the core of each lesson. I'm looking forward to meeting you!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introducing the course. Getting to know each other activities.	Lecture. Pair work, Group work.	
	2	Talking about yourself, and past experiences, qualifications and skills.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	3	Talking about yourself, and past experiences, qualifications and skills.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	4	Dealing with inquiries. Talking about things you haven't and done yet.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	5	Making Predictions. and Comparisons.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	6	Dealing with numbers.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	7	General office conversations and body language	Listening,	Review to be completed.
	8	General office conversations and body language	Listening, Speaking.	Review to be completed.
	9	Asking and giving travel advice.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	10	Talking about preferences. Offering Congratulations.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	11	Review	Listening	
	12	Current events. and review.	Listening, Speaking, Reading &	
	13	Seasonal Activities.	Listening and Vocabulary.	
	14	Taking about passed events and the New Year. Review.	Vocabulary, Listening and Speaking. Pair and group work.	
	15	Quiz and Review	Listening, Reading writing.	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Passport to Work.</td> <td>Angela Buckingham</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Passport to Work.	Angela Buckingham	Oxford	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Passport to Work.	Angela Buckingham	Oxford													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	TOEIC 30% Other 70% (See below) Being prepared for class (being on time with your file of class prints and completed homework on your desk and ready to start) 15%. Homework 5%. Following instruction, participation and contribution to pairs or groups work 20%. Spoken English in class (quality quantity and how appropriate it is to the class tasks.) 20%. Listening in class 20%. Test 20%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	89101121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WEN3306c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 8: What are the sales figures.	Talking about sales, saying large numbers.	Pages 24-25
	2	Unit 8: What are the sales figures.	Talking about sales and promotion. Approximation.	Pages 24-25
	3	Unit 9: Do you have an email address?	Taking telephone messages, checking information.	Pages 26-27
	4	Unit 9: Do you have an email address?	Taking telephone messages, checking information - continued.	Pages 26-27
	5	Unit 10: I'd like to work overseas	Discussing future plans.	Pages 28-29
	6	Unit 10: I'd like to work overseas	Family life, travel, career plans, future time expressions	Pages 28-29
	7	Unit 11: What's your job like?	Talking about yourself.	Pages 34-35
	8	Unit 11: What's your job like?	Education and work experience, past time expressions.	Pages 34-35
	9	Unit 12: Would you like me to fax you the details?	Talking about things you have and haven't done, dealing with inquiries.	Pages 36-37
	10	Unit 12: Would you like me to fax you the details?	Talking about facilities and conference equipment.	Pages 36-37
	11	Unit 13: What's the budget for the website?	Predicting, making comparisons.	Pages 38-39
	12	Unit 13: What's the budget for the website?	Percentages and decimals.	Pages 38-39
	13	Unit 14: I'll meet you at the north exit.	Asking for and giving travel advice.	Pages 40-41
	14	Unit 14: I'll meet you at the north exit.	Train travel, using the telephone while travelling.	Pages 40-41
		15	Final test	Final test

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Passport to Work (student book)</td> <td>Angela Buckingham and Norman Whitney</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Passport to Work (workbook)</td> <td>Angela Buckingham and Norman Whitney</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Passport to Work (student book)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press	2	Passport to Work (workbook)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Passport to Work (student book)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press													
	2	Passport to Work (workbook)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press													
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	TOEIC 30% Other 70% (See below) Mid-term and final tests: 50% Participation and classwork: 50%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in-class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most. Pair and group work will form the core of each lesson. I'm looking forward to meeting you!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

教 養 科 目

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じる事が期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (2 時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (1 時間)
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・興味のある会社や自治体などの組織について調べる (1 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3 時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (3 時間)
5	課題のプレゼンテーション①	・第 4 回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (1 時間)
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (2 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (2 時間)
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みる (2 時間)
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (2 時間)
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (2 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を書き直すこと (2 時間)
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (2 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2 時間)
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (2 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (2 時間)
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること (2 時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたい

				かをもう一度考えること(3時間)
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個別の発表(40%)、グループでの発表(20%)、授業でのレポート等の提出物(30%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークへの参加姿勢など)(10%)を総合的に評価する			
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。</p> <p>※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p>			

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	直前学修① 6月22日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習: 社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
8	事後学修① 9月21日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
9	事後学修② 9月21日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
10	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
11	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
12	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間)
13	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
14	事後学修⑦ 10月26日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ 10月26日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	1. 「インターンシップ I」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップ I」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
	2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding (1)	強く発音される語を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	3	Unit 1 Cross-Cultural Understanding (2)	文の主語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	4	Unit 2 Foods (1)	語順のまま理解する	テキストの予習と単語の学習
	5	Unit 2 Foods (2)	動詞の目的語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	6	Unit 3 Foreign Language Learning (1)	消える t と d を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	7	Unit 3 Foreign Language Learning (2)	動詞の目的語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	8	小テスト、復習	小テスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習
	9	Unit 4 Sports (1)	似た音に注意して聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	10	Unit 4 Sports (2)	補語を見つける	テキストの予習と単語の学習
	11	Unit 5 Fashion (1)	n でつながる語句を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	12	Unit 5 Fashion (2)	何の代わりかを見抜く (代名詞)	テキストの予習と単語の学習
	13	Unit 6 Living Things (1)	弱い can を聞き取る	テキストの予習と単語の学習
	14	Unit 6 Living Things (2)	「to+ 動詞」を理解する (不定詞)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目 他英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AMBITIONS: Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース: 初級編	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ 辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等 7 号館 2 階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション 前期内容の復習	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 語彙テスト、要約文の音読など	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
2	Improving Lives with Pet Therapy (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
3	Improving Lives with Pet Therapy (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
4	A Healthy Diet for Everyone (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
5	A Healthy Diet for Everyone (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
6	Alfred Nobel: A Man of Peace (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
7	Alfred Nobel: A Man of Peace (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
8	後期前半内容の総復習	語彙・内容理解、音読チェックなど	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
9	Marie Curie: Nobel Prize Winner (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
10	Marie Curie: Nobel Prize Winner (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
11	Oil as an Important World Resource (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
12	Oil as an Important World Resource (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習; 指定のリングボルト課題 60 個
13	Earthquakes: Hard to Predict (1)	語彙と用法の確認、文章前半の内容理解・要点の整理	授業内容の予習・復習
14	Earthquakes: Hard to Predict (2)	文章後半の内容理解・要点の整理、文章全体の要約、音読演習	授業内容の予習・復習
15	後期後半内容の総復習 後期学習内容の総まとめテスト	語彙・内容理解、音読チェックなど	テスト内容の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Access (読解力の基礎を高めるためのリーディングスキル)	山科美和子, 横山美鶴, 沖野泰子	センゲージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には、毎回使用するため、英和辞典を必ず持参してください。 外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。辞書を活用し、毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングボルト) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果的です。 間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
-----------	--

担当者の	7号館 2階非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。

到達目標 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果 (資格) TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 1 予定?動詞・5 文型 基礎	授業の進め方の説明、練習問題 語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	特になし
2	Unit 1 予定?動詞・5 文型 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 2 数量を尋ねる?名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 2 数量を尋ねる?名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 3 命令・依頼?形容詞・副詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 3 命令・依頼?形容詞・副詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	まとめ1	Unit 1-3の復習、およびまとめテスト	Unit 1-3の復習
8	Unit 4 広告・宣伝?フレーズ・リー ディング 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 4 広告・宣伝?フレーズ・リー ディング 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 5 時間を尋ねる?動名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 5 時間を尋ねる?動名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 6 場所を尋ねる?to 不定詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 6 場所を尋ねる?to 不定詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ2	Unit 4-6の復習、およびまとめテスト	Unit 4-6の復習
15	復習	Unit 1-6の復習、応用問題	Unit 1-6の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEIC TEST Trainer Target 470, Revised Edition	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などについて説明する。	事後学習課題： ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
2	Unit1: Job Interview (過去完了形、別れ際の挨拶)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
3	Unit2: First Day on the Job (助動詞1、依頼の仕方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
4	Unit 3: Hurricane on the Weekend (関係代名詞1、反論の仕方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
5	Unit 4: Andy's Makeover (現在進行形、困惑を示す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
6	Unit 5: Andy Meets Christian (助動詞2、聞き返す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
7	Unit 6: Miranda's Request (分詞、希望の伝え方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備 ・ 中間テストの準備
8	中間テスト	これまでの学習内容より、中間試験	事後学習課題： ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
9	Unit 7: Nate's Birthday (仮定法、驚きを示す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備

			内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	
10	Unit 8: Andy's Decision (現在完了形、確認の仕方)		・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
11	Unit 9: Breakup with Nate (動名詞、提案の仕方)		・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
12	Unit 10: The Dream Job (受動態、提案する時)		・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
13	Unit 11: Announcement at the Party (関係代名詞 2、称賛の言い方)		・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
14	Unit 12: Andy's Final Choice (使役動詞、丁寧な依頼の仕方)		・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション 内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備 ・期末テストの準備
15	期末テスト		これまでの学習内容より、期末試験	事後学習課題： これまでの内容の総復習

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語	Aline Brosh McKenna, 角山照彦, Simon Capper	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ

- ・毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。
- ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。
- ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。
- ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。

成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。

- ①私語など授業を妨害するような行為は、自動的に欠席とみなす。
- ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
- ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
(原則、欠席をレポートでカバーすることはできない)

①から③が続く場合、単位を認めない。

- ・おしゃべりなニューヨークの物語を楽しみながら、総合的な英語能力の向上を図りましょう。
- ・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。
- ・TOEICなどの試験を積極的に受けましょう。また、ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。
- ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを期待します。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
	2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
	9	冠詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	ましがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ a	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 1. 手紙(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(1. 手紙)の予習
	2	1. 手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	2. ファックス	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	3. 電子メール	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	4. 電話	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	5. 面会の申し入れ	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	6. ホテルの予約	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	7. オフィスの移転通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	8. 支店の開設案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	9. レセプションへの招待	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	10. アンケートの回答依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	11. 資料の送付依頼	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	12. 慶弔	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	13. 会議の通知	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	15	1. 手紙～13. 会議の通知	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	定期試験	40%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	30%

There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(= easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!

原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 1 Fashion	名詞	Unit 1 の単語の確認と予習・復習
	3	Unit 2 Companies	代名詞	Unit 2 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	4	Unit 3 Business Trips	自動詞・他動詞・リンキング動詞	Unit 3 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	5	Unit 4 Transportation and commuting	助動詞	Unit 4 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	6	Unit 5 Marketing, Sales and Products	不定詞・動名詞	Unit 5 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	7	Unit 1 から Unit 5 までの復習	名詞、代名詞、動詞、助動詞と不定詞・動名詞（構文と語彙を中心として）	Unit 1 から Unit 5 までの復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	8	Unit 6 Offices and Supplies	場所・動きを表す前置詞	Unit 6 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	9	Unit 7 Meetings and Presentations	時間を表す前置詞	Unit 7 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	10	Unit 8 Art	形容詞・副詞	Unit 8 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	11	Unit 9 Restaurants and Food	原級・比較級・最上級	Unit 9 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	12	Unit 10 Housing	接続詞 (1)	Unit 10 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	13	Unit 11 The Environment and Recycling	現在時制と現在進行形	Unit 11 の単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
	14	前期の総括	前期まとめテストと解説	テスト範囲の復習 ATR-CALL 課題
15	Unit 6 から Unit 11 までの復習	前置詞、形容詞・副詞、比較、接続詞と現在形（構文と語彙を中心として）	前期の総復習 ATR-CALL 課題	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、レポート、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は毎回携帯すること。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 7 予定?動詞・5 文型 基礎	授業の進め方の説明、練習問題 語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	特になし
2	Unit 7 予定?動詞・5 文型 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
3	Unit 8 数量を尋ねる?名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
4	Unit 8 数量を尋ねる?名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
5	Unit 9 命令・依頼?形容詞・副詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
6	Unit 9 命令・依頼?形容詞・副詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
7	まとめ1	Unit 7-9の復習、およびまとめテスト	Unit 7-9の復習
8	Unit 10 広告・宣伝?フレーズ・リー ディング 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
9	Unit 10 広告・宣伝?フレーズ・リー ディング 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
10	Unit 11 時間を尋ねる?動名詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
11	Unit 11 時間を尋ねる?動名詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
12	Unit 12 場所を尋ねる?to 不定詞 基礎	語彙、文法、リスニング、リーディング 問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
13	Unit 12 場所を尋ねる?to 不定詞 応用	スピーキング、ライティング問題に取り組む	語彙問題の予習、文法事項の確認
14	まとめ2	Unit 10-12の復習、およびまとめテスト2	Unit 10-12の復習
15	復習	Unit 7-12の復習、応用問題	Unit 7-12の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TOEICR TEST Trainer Target 470, Revised Edition</td> <td>Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEICR TEST Trainer Target 470, Revised Edition	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	Cengage Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	TOEICR TEST Trainer Target 470, Revised Edition	Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer	Cengage Learning													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	事前学習課題：テキストに書かれている映画の概要を読む 事後学習課題：指定した内容の復習
2	Unit 1: The Woman in the Picture (分詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
3	Unit 2: Back to Titanic (受動態)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
4	Unit 3: Leaving Port (助動詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
5	Unit 4: Don't Do It (仮定法)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
6	Unit 5: Do You Love him? (進行形)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
7	Unit 6: I Can't See You (関係詞1)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞(読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
8	Unit 7: I'm Flying! (関係詞2)	・単語テスト ・単語・表現のチェック	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記

			<ul style="list-style-type: none"> ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
9	Unit 8: Iceberg Right Ahead! (完了形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
10	Unit 9: An Honest Thief (分詞2)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
11	Unit 10: Goodbye, Mother (未来形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
12	Unit 11: Get in the Boat (代名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
13	Unit 12: Two Tragic Bullets (動名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
14	Unit 13: Promise Me (不定詞) +Unit 14 (否定)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ 期末テストの準備	
15	期末テスト	これまでの学習内容より、期末テスト	これまでの総復習	

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
-----------	--

学生への ・毎回単語テストを行うので、指定範囲を覚えてくること。

<p>メッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。続く場合は単位を認めない。</p> <p>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</p> <p>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則、欠席をレポートでカバーすることはできない)</p> <p>①から③が続く場合、単位を認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名作映画で英語表現を学びながら、外国の文化にも親しみましょう。 ・TOEIC や英検の受験をお勧めします。ランゲージ・パートナーを作ることもお勧めします。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、毎回一つでも多くのことを身に付けてくれることを望んでいます。
<p>担当者の研究室等</p>	<p>7号館2階非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事後	事前
1	イントロダクション	授業運営と評価についての説明	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
2	Unit 1 名詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
3	Unit 2 形容詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
4	Unit 3 副詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
5	Unit 4 時制を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
6	Unit 5 主語と動詞の一致を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
7	Unit 6 能動態と受動態を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
8	中間まとめのテスト	これまでの授業のまとめのテスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
9	Unit 7 動名詞、不定詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
10	Unit 10 & Unit 11 前置詞と接続詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
11	Unit 12 前置詞と接続詞の違いを学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
12	Unit 13 関係代名詞を学ぶ	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
13	Unit 14 語彙の結びつきを学ぶ(名詞・形容詞)	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: 確認テストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
14	Unit 15 語彙の結びつきを学ぶ(動詞・副詞)	内容把握、語彙・発音、確認テスト	事後: まとめテストの準備	事前: 次のチャプターのわからない単語を調べる
15	まとめのテスト	これまでの授業内容のまとめのテスト		

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レベル別 TOEIC L&R テスト実力養成コース:初級編	早川幸治、岸洋一	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	基礎的な英語力をつけるのはいつからでも遅くありません。1限目の授業ですが、新たな言語世界を開いていく気持ちで一緒に楽しく学びましょう。 授業の進度は上記の表を目安としますが、開講後の様子によって必要であれば調整します。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	ましがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	ましがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プリント教材	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シラバスの説明 14. 議事録(導入)</td> <td>授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など</td> <td>次回講義(14. 議事録)の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>14. 議事録</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>15. 物品の購入</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>16. 社内研修の案内</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>17. 社外研修の報告</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>18. 日程の中間報告</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>19. 引合い(1)</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>20. 引合い(2)</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>21. 注文</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>22. 代金の回収</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>23. クレームと調整</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>24. 履歴書</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>25. 応募の手紙</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>26. 推薦状</td> <td>内容把握、語彙・発音、練習問題</td> <td>既習範囲の復習及び予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>14. 議事録～26. 推薦状</td> <td>既習範囲の総復習 定期試験の準備</td> <td>定期試験の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	シラバスの説明 14. 議事録(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(14. 議事録)の予習	2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	7	19. 引合い(1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	8	20. 引合い(2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習	15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	シラバスの説明 14. 議事録(導入)	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	次回講義(14. 議事録)の予習																																																																
2	14. 議事録	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
3	15. 物品の購入	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
4	16. 社内研修の案内	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
5	17. 社外研修の報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
6	18. 日程の中間報告	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
7	19. 引合い(1)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
8	20. 引合い(2)	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
9	21. 注文	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
10	22. 代金の回収	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
11	23. クレームと調整	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
12	24. 履歴書	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
13	25. 応募の手紙	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
14	26. 推薦状	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習																																																																
15	14. 議事録～26. 推薦状	既習範囲の総復習 定期試験の準備	定期試験の準備																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Essentials of Global Business English</td> <td>豊田 暁 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Essentials of Global Business English	豊田 暁 他	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 40% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 30%																																																																		
学生へのメッセージ	<p>There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(= easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習、只管筆写、英語多読を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!</p> <p>原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	2	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	3	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	4	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	5	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	6	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	7	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	8	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	9	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	10	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	11	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	12	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	13	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	14	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	15	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生への メッセージ	文章の目的を分析し、また組み立てや展開を理解する訓練を行ない、効率的な読みのできる読解力を養いましょう。 英語を毎日学習する習慣を身につけてください。 All students should make utmost efforts to attend every class and have a textbook.			
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習(品詞、5文型など)	事前学習課題:教科書全体に目を通しておくこと リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 12 Business Profile	過去時制	事前学習課題:Unit 12の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 12の単語の復習
3	Unit 13 Schedules	未来	事前学習課題:Unit 13の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 13の単語の復習
4	Unit 14 Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	事前学習課題:Unit 14の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 14の単語の復習
5	Unit 15 Industry and Manufacturing	能動態と受動態	事前学習課題:Unit 15の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 15の単語の復習
6	Unit 16 Making Arrangements	接続詞(2)	事前学習課題:事後学習課題:Unit 16の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 16の単語の復習
7	Unit 12からUnit 16までの復習	過去形、未来形、完了形、態と接続詞(構文と語彙を中心として)	事前学習課題:Unit 12からunit 16までの復習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 12からunit 16までの復習
8	Unit 17 Business Culture	否定文	事前学習課題:事後学習課題:Unit 17の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 17の単語の復習
9	Unit 18 Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	事前学習課題:Unit 18の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 18の単語の復習
10	Unit 19 Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	事前学習課題:Unit 19の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 19の単語の復習
11	Unit 20 Education	後置修飾	事前学習課題:Unit 20の単語の確認と予習 リングボルト課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題:Unit 20の単語の復習
12	Unit 21 Banking	仮定法	事前学習課題:Unit 21の単語の確認と予習

				リンガボルト 課題 ATR-CALL 課題 事後学習課題：Unit 21 の単語の復習
	13	Unit 22 Health	話法	事前学習課題：Unit 22 の単語の確認と予習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：Unit 22 の単語の復習
	14	後期の総括	後期まとめテストと解説	事前学習課題：テスト範囲の復習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：テストの復習
	15	Unit 17 から Unit 22 までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法（構文と語彙を中心として）	事前学習課題：後期の総復習 ATR-CALL 課題 事後学習課題：後期の総復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は携帯すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語の運用能力（語学力）と、異文化環境で適切なコミュニケーションと行動をとる力（異文化間能力）の向上を目的とする。募集ガイダンスへの参加からはじまる事前学習、海外研修先での実地学習、帰国後の成果報告を含む事後学習で構成される。研修先での授業は月曜日から金曜日に開講され、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等の詳細は募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	・語学力については、基礎的な会話への不安を解消し、TOEIC スコア等の客観的指標の自己ベストを更新すること。また、事前学習と現地での実践、そして帰国後の反省を通じて、自らにとって最も効果的な自学自習の方法と教材を発見し、自律的な語学学習を継続できるようになることを目標とする。 ・異文化間能力については、渡航先の社会事情、歴史、文化についての基礎的な知識と理解を身につけ、現地では会う人々と積極的に交流し、交流の成果と反省点を客観的に整理して報告できるようになること。さらには帰国後も国際社会と異文化への好奇心を高め、広く多様な国・地域の人々と積極的に協力し合う姿勢と適応力を身につけることを目標とする。																
授業方法と留意点	参加学生は教員およびスタッフの指導を受けながら事前学習、実地学習、事後学習を行う。講義を聞いてメモをとるだけで完結する授業はなく、常に自発的な語学学習と現地事情の情報収集に励む必要がある。また、現地において安全で効果的な実習を行うためには参加学生同士の協同が不可欠であるので、事前授業の段階からチームとして情報を共有し、学び合う姿勢が求められる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	次のスケジュールと内容が予定されている。(8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認のこと。) 4月 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席、指示された学習課題が義務付けられている。また、事後には成果報告会における発表とレポート提出が求められる。 5月 申込書の提出 5月下旬 派遣学生の決定および履修申請 6月～8月 事前ガイダンスを実施（全3回） 8月上旬 結団式 <研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬（予定） [3週間コース] 8月中旬～9月上旬（予定） 9月下旬～10月上旬（予定） 成果報告会 事前学習 ・海外研修の目的と安全管理に関するガイダンスの受講と内容理解の確認 ・多読、会話演習など、学内の教材や設備を使った語学演習、ICTを活用した自主練習（ガイダンス時に説明） ・渡航先の社会事情、歴史、文化に関する情報収集（ガイダンス時に説明） ・研修中の目標と行動計画の策定。漠然と「語学力を上げたい」「話せるようになりたい」ではなく、「滞在中に・・・をする」という具体的な行動目標を立てること。 海外研修中 ・目標と行動計画に従い、授業に真摯に取り組むことはもちろん、授業外でも積極的に講師、スタッフ、ホストファミリーなど周囲の人々に話しかけ、コミュニケーションを進めること。 ・事前に情報収集して得た知識を活用して目標に向けて行動し、日々の成果と反省点について記録をつけながら過ごすこと。 事後学習課題 ・同時期に開催される他の研修参加者と合同での成果報告会が開催されるので、そこで研修の成果と反省点についてのプレゼンテーションを行う。 ・成果と反省点をまとめたレポート（報告書）を作成して提出する。																
関連科目	英語その他外国語科目、研修先の地域に関する科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前・事後学習と成果報告会のプレゼン・レポートの評価 (30%) 研修先での成績 (70%)			
学生への メッセージ	大学生になったら早い段階で一度は海外に出ましょう。少しでも興味があれば、まずは国際交流センターへ足を運んで下さい。			
担当者の 研究室等	国際交流センター			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で出席できない場合は事前に国際交流センターへ連絡し相談すること。 ・事前に参加申込みを行い許可を得た者に限り履修できる科目であり、通常の履修申請とは手続きが異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上で履修を検討すること。学部・学年によって、また個々の学生の事情によって当該年度は受講できない場合がある。 			

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのため、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p> <p>なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ (旅行会社) の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 																
授業方法と留意点	<p>研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ (旅行会社) 等を予定している。研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習は10日を予定している。具体的には、ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動</p> <p>2日目 環境学習 マングローブセンターにて</p> <p>3日目 サラスワティ大学で国際交流会</p> <p>4日目～6日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施</p> <p>7日目～8日目 ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施</p> <p>9日目 現地視察</p> <p>10日目 移動</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介 (茶道、書道、空手等)、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する)</p> <p>報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 10%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン (10%) で評価する。</p> <p>ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。</p>																
学生へのメッセージ	参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。																
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室 11号館8階 田中研究室																
備考	事前学習は、全体で10時間程度行うこと。																

科目名	科学技術教養A1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	8号館3階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書(配布予定)の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養C1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
	2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
	3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
	4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
	5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
	6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
	7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
	8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
	9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか。 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
	10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
	11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
	12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
	13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
	14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習	

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		

評価方法(基準)	受講メモ50%、レポート50%の総合点で評価する。※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。
----------	--

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
-----------	--

担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
----------	--------------------

備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。
----	---

科目名	科学技術教養E1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2	3	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2	3	

評価方法(基準) 受講メモ50%、小テスト50%の総合点で評価する。

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学教員室 責任者：片田（1号館4階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の4年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。

科目名	科学技術教養M1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは?	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	テキスト第1章に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史:ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	テキスト第2章 2.1-2.3に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・ casting, 塑性加工, 粉末冶金, 材料加工, 生産加工 ・ 刀鍛冶, セラミックス, 溶接・切断	テキスト第2章 2.4-2.5に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	テキスト第3章(鉄つくりの変遷)に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	テキスト第4章(非金属材料)に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶, 超伝導, ナノ材料	テキスト第5章(新素材)に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計, 工具と運動, 機械部品	テキスト第6章(母なる機械)に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工, マシニングセル, ナノ加工	テキスト第7章(精密に加工する)に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場, デジタル屋台, トヨタ生産方式	テキスト第8章(ファクトリー)に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪, 滑車, てこ, 歯車	テキスト第9章(人間の作業を補助する機械)に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器, 電動機	テキスト第10章(力を伝える・増幅する機械)に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ, 電動アシスト自転車, 人工筋肉	テキスト第11章(機械の知能化)に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計, 携帯電話, 計算機, テレビカメラ, 情報機器	テキスト第12章(精密機械)に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則, 加工法・アクチュエータ ・微細加工, ナノテク, 半導体製造, カーボンナノチューブ, 微細気泡	テキスト第13章(小さくつくる)に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡, 鞭毛モーター	テキスト第14章(小さくて広大な世界)に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。
学生へのメッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本

	講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	<p>出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率80%以上を成績評価の対象とする。 ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は2回で欠席1回とみなす。 <p>※詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。</p> <p>フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却します。</p>

科目名	科学技術教養 R 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景のもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。 15回目には、まとめテストを行うので、必ず出席すること。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	(オリエンテーション) 自然の力をかりた住宅デザイン	(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。) 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおける対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内での問題や対策の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りと人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、まとめテストを受けること。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R 1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室			
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題やテストの学習時間も含め、毎回1.5時間程度とする。			

科目名	科学技術教養 T 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
11	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)

	12	放射光と未来の光	紹介する。 科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
関連科目	数学・物理の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階, 8 号館 2 階]			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。			

科目名	科学技術教養V1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2417a2		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
2	病気と遺伝子	我々が持つDNAは日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)

			医薬品開発への応用について述べる。	
	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 川崎、尾山、西村、中嶋、宮崎、船越、井尻、居場研究室			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間			

科目名	株式投資と企業家育成	科目名(英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>『投資』とは何か、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】 ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション

			設問による授業内容の再確認	ヨソ開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と上場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総合的評価としてのレポート課題とします。</p>			
学生への メッセージ	<p>■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。</p>			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・尾山 廣・喜多 大三・久保 貞也・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DPS△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01436a2, L科: LL01417a2, D科・S科: IL01423a2, P科: YL01418a2, J科: JL01434a2, W科: WL01419a2, N科: NL01415a2		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。</p> <p>この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内7市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク 9月28日(土)2限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: グループワークの成果物をまとめる(30分)
2	北河内地域に関する講演 10月5日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
3	北河内地域に関する講演 10月5日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	グループワーク・プレゼンテーション 10月5日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
5	北河内地域に関する講演 10月19日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見する	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
6	北河内地域に関する講演 10月19日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月19日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
8	北河内地域に関する講演 11月2日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
9	北河内地域に関する講演 11月2日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月2日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	北河内地域に関する講演 11月16日(土)1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
12	北河内地域に関する講演 11月16日(土)2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月16日(土)3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月7日(土)1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月7日(土)2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	荻田喜代一(薬学部・副学長室)、鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科)、尾山廣(理工学部・生命科学科)、久保貞也(経営学部・経営情報学科)、喜多大三			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

教養科目

授業概要・目的

この授業を通じて学生には、
 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。
 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。
 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。
 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
 ようになることが期待される。

なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NP0 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。

到達目標

1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。
 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。
 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。

授業方法と留意点

講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。

科目学習の効果 (資格)

社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。
 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(3時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 大学生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的をを考慮すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)

	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間） 																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。 																			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成すること。ことが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く	・事前学修: 摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的を再確認すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・事前学修: 摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的をを考えること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名(英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか? ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間)
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(2時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間)

関連科目: キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成すること。ことが期待される。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く	・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修: 大学へ入学した目的を再確認すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える

				こと(3時間)
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること(4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること(4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)
----------	---------------------------

備考	毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。
----	----------------------------

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2		

授業概要・目的
この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。

到達目標
将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。

授業方法と留意点
講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。

科目学習の効果 (資格)
来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと (3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること (4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること (3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること (3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配布資料を見直すこと ・自らの将来について考えること (3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3時間)

関連科目
キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)
グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ
来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の研究室等
7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)

備考
毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。

科目名	現代韓国事情	科目名(英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようにする。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識(1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識(2)	韓国近現代史概説: 軍政時代の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解(1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解(2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解(3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解(4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う(1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う(2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	現代ビジネス論	科目名(英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果(資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか?
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓 4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案(6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか? 自身の能力をどう評価していますか?
11	自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例1. 平生飢三郎	日本の経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生3分論(成長・働く・奉仕(奉公)を実践)	以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
13	地方創生	「やりたい仕事がない」[若者が地方に魅力を持たなくなっている]地方の現状を如何に解決するか	外部講師を呼ぶ予定です
14	国際企業を経営する	マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。	外部講師を呼ぶ予定です
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Public Health Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1416a2		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響などについても取り上げる。
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
3	保健統計(1)	日本の人口	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
4	保健統計(2)	健康指標	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
5	疫学(1)	疫学の歴史と考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
6	疫学(2)	集団の疾病をとらえる方法	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
7	疾病予防	予防医学の考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
8	感染症(1)	感染症の疫学	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
9	感染症(2)	感染症と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
10	慢性疾患(1)	慢性疾患の疫学	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと(適宜)
11	慢性疾患(2)	慢性疾患と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと(30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと(30分)

教養科目

				と (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	12	環境保健 (1)	環境が健康に及ぼす影響	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	13	環境保健 (2)	地球規模の環境問題と取り組み	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	14	国際保健	世界の健康・日本の健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)																
	15	移民と健康	日本在住外国人の健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分)																
関連科目	なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シンプル衛生公衆衛生学 2019</td> <td>鈴木庄亮</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2019	鈴木庄亮	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	シンプル衛生公衆衛生学 2019	鈴木庄亮	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国民衛生の動向 2018/2019</td> <td>厚生労働統計協会</td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	課題 20%、試験 80%で評価し、60%以上を合格とする。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。 																			
担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3 階 24																			
備考	提出された課題内容をまとめたものを授業で取り上げ、解説する。																			

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA2414a2		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通じて自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で複数回の理解度確認テストを実施し、その結果をもとに評価する(授業内の理解度確認テスト:100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	社会学	科目名(英文)	Sociology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01409a2		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念(=キーワード)と社会的なものについて解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」—他者から影響を受け、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は1回完結のオムニバス形式でおこないます。毎回、レジュメを配布し、時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果(資格)	社会的なものを見方を学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業内容に関する復習
	2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(1)—社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(2)—ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(3)—役割	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(4)—自己	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	6	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(5)—再社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	7	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(6)—感情	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	8	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(7)—小括	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	9	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	10	社会学における基礎的知識と発想	組織のなかの個人	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	11	社会学における基礎的知識と発想	社会的逸脱	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	12	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果(1)—予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	13	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果(2)—社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	14	社会学における基礎的知識と発想	社会学の古典から—自殺と社会	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
	15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験…80%、提出物…20%
----------	------------------

学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと思っていたり、気にもとめないことから「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。 なお、授業中の私語には厳しく対処します。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	提出物のフィードバックは授業中に行う。 質問などについては、授業終了後に対応する。
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果(資格)	社会で必要とされる数的能力を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
	11	論理推論①	順序推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
	14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学が楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宜, 寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果(資格)	社会で必要とされる数的能力を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
11	論理推論①	順序推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2408a2		

授業概要・目的	高等学校までの「覚える」地理学習とは異なり、大学の地理学は「考え、創造する」点に特徴がある。本講義では身近な事例を通じて、大学における人文地理学の見方・考え方を学習することを目的とする。																																																																		
到達目標	人文地理学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中学社会・高校地理歴史教員免許																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>小中高の地理学習と大学の地理学</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>工業地理学 (1)</td><td>現代経済における工業地理</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>工業地理学 (2)</td><td>企業組織と地域間分業</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>工業地理学 (3)</td><td>自動車産業にみる立地と集積</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>農村と都市 (1)</td><td>変動する農村の社会</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>農村と都市 (2)</td><td>農村変動と都市</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>農業と食のネットワーク (1)</td><td>現代の農業と食</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>農業と食のネットワーク (2)</td><td>食の外部化とフードシステム論</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>流通システムの地理学 (1)</td><td>業態店の流通システム</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>流通システムの地理学 (2)</td><td>スーパーと流通システム</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>流通システムの地理学 (3)</td><td>コンビニと流通システム</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>現実世界の歴史地理 (1)</td><td>歴史地理学の視角について</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>現実世界の歴史地理 (2)</td><td>時の断面と景観史</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>想像世界の歴史地理</td><td>地図からみた世界観</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>総括と期末試験の説明</td><td>教科書の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	小中高の地理学習と大学の地理学	授業内容の復習	2	工業地理学 (1)	現代経済における工業地理	教科書の復習	3	工業地理学 (2)	企業組織と地域間分業	教科書の復習	4	工業地理学 (3)	自動車産業にみる立地と集積	教科書の復習	5	農村と都市 (1)	変動する農村の社会	教科書の復習	6	農村と都市 (2)	農村変動と都市	教科書の復習	7	農業と食のネットワーク (1)	現代の農業と食	教科書の復習	8	農業と食のネットワーク (2)	食の外部化とフードシステム論	教科書の復習	9	流通システムの地理学 (1)	業態店の流通システム	教科書の復習	10	流通システムの地理学 (2)	スーパーと流通システム	教科書の復習	11	流通システムの地理学 (3)	コンビニと流通システム	教科書の復習	12	現実世界の歴史地理 (1)	歴史地理学の視角について	教科書の復習	13	現実世界の歴史地理 (2)	時の断面と景観史	教科書の復習	14	想像世界の歴史地理	地図からみた世界観	教科書の復習	15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	小中高の地理学習と大学の地理学	授業内容の復習																																																																
2	工業地理学 (1)	現代経済における工業地理	教科書の復習																																																																
3	工業地理学 (2)	企業組織と地域間分業	教科書の復習																																																																
4	工業地理学 (3)	自動車産業にみる立地と集積	教科書の復習																																																																
5	農村と都市 (1)	変動する農村の社会	教科書の復習																																																																
6	農村と都市 (2)	農村変動と都市	教科書の復習																																																																
7	農業と食のネットワーク (1)	現代の農業と食	教科書の復習																																																																
8	農業と食のネットワーク (2)	食の外部化とフードシステム論	教科書の復習																																																																
9	流通システムの地理学 (1)	業態店の流通システム	教科書の復習																																																																
10	流通システムの地理学 (2)	スーパーと流通システム	教科書の復習																																																																
11	流通システムの地理学 (3)	コンビニと流通システム	教科書の復習																																																																
12	現実世界の歴史地理 (1)	歴史地理学の視角について	教科書の復習																																																																
13	現実世界の歴史地理 (2)	時の断面と景観史	教科書の復習																																																																
14	想像世界の歴史地理	地図からみた世界観	教科書の復習																																																																
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の復習																																																																
関連科目	「自然地理学」「地誌学」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>人文地理学への招待</td><td>竹中克行編</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>人文地理学事典</td><td>人文地理学会編</td><td>丸善出版</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人文地理学事典	人文地理学会編	丸善出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人文地理学事典	人文地理学会編	丸善出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末試験 75%、平常点 25% 簡単な理解度チェックを適宜行う。期末試験とは別に、授業内で小試験を実施する。																																																																		
学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。講義内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートをとりながら集中して受講してください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師控室)。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。																																																																		
備考																																																																			

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1401a2		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 また、授業の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、QR コードを用いる。リアルタイムでの回答を回収した上で、心理学の問題について解説、授業内容を確認する課題の提出を行う場合がある。その際、携帯のカメラから QR コードを読み取る。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができる。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	事前: 心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく (1 時間) 事後: 課題作成 (1 時間)
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業での VTR について課題を提出する。 事前: 実験手続き・関連文献・を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめ、ノートを作成 (1 時間)
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。 事前: 実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
5	社会的学習 (1)	学習とは学校での勉強のことでなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
6	社会的学習 (2)	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する (2 時間)
8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
9	動機づけ (2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめて提出する。(2 時間)
10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	事前: 関連文献等を紹介するのでよんでおくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前: 授業全般、分からない部分についてまとめておくこと (1 時間) 事後: 授業についてまとめノート作成する (1 時間)

関連科目	心理学 II と併せて履修することが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験、講義内で行う小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。 【定期試験 50%、小テスト・課題・レポート等 50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。 講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)			
備考	授業内でQRによる回答、意見を求める場合、また、後日QRにより課題を提出する場合があります。文章が多くなりそうな問題には、紙によるレポート提出を行います。その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 携帯の充電は十分行っておいてください。もし、動かない場合は、授業の最初にその旨、申し出てください。			

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2402a2		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、社会的現実と対比した日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 また、授業の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、QRコードを用いる。リアルタイムでの回答を回収した上で、心理学の問題について解説、授業内容を確認する課題の提出を行う場合がある。その際、携帯のカメラからQRコードを読み取る。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができる。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会、集団の中でおこる心理	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。	事前：心理学はどのような学問かまとめておく(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について概説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
3	知覚(2)	知覚の種類や見えに及ぼす社会的影響について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
4	知覚(3)	心理学の基礎実験の1つである「ミュラーリヤーの錯視」実験を実施する。心理学におけるデータの取り扱い方、考え方や人間の知覚行為についての理解を深める。	事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる(2時間)
5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
7	対人関係(3)	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。また好きと愛の行動パターン、自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
8	集団(1)	集団について説明する。集団の理解を深めるため、小集団でのディスカッションを行う。リーダーシップについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：ディスカッションについてまとめること 授業全体についてまとめノート作成する(2時間)
9	集団(2)	集団について理解を深める。集団のもつ持つ影響力として「同調」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
10	集団(3)	集団について理解を深める。集団のもつ持つ影響力として「服従」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
11	集団(4)	ジンバルドーが行った「監獄実験」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
12	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの種類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
13	援助行動(1)	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われない状況とはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
14	援助行動(2)	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前：疑問点がどこにあるのか考えておく(1時間) 事後：授業についてまとめノート作成する(1時間)

関連科目	心理学Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験 50%、小テスト・課題・レポート等 50%】			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館6階(経営学部非常勤控室)			
備考	授業内でQRによる回答、意見を求める場合、また、後日QRにより課題を提出する場合があります。文章が多くなりそうな問題には、紙によるレポート提出を行います。その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 携帯の充電は十分行っておいてください。もし、動かない場合は、授業の最初にその旨、申し出てください。			

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート
	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート
	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート
	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート

関連科目 数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでまありませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館 3階 数学準備室

備考

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
この授業を通じて学生には、
(1) 式の展開・因数分解ができる。
(2) 方程式・不等式を解くことができる。
(3) 場合の数・確率の計算ができる。
を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)
問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	第 1 章の問 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根、立方根 ・ 有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・ 並べ方、選び方 ・ 順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・ 確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目
数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
演習 (30%) 及び期末テスト (70%) の合計で評価する。

学生へのメッセージ
数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等
3号館3階 数学研究室

備考
事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 式の展開・因数分解ができる。
 (2) 方程式・不等式を解くことができる。
 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)
 問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・ 計算の法則 ・ 因数分解	第 1 章の問 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・ 整式の割り算 ・ 剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・ 通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・ 平方根、立方根 ・ 有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・ 等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・ 方程式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・ 不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・ 不等式の導き方 ・ 解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・ 連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・ 解き方 ・ 基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・ 消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・ 数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・ 並べ方、選び方 ・ 順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・ 確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・ くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 演習 (30%) 及び期末テスト (70%) の合計で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	陽 焜
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
(1) 式の展開・因数分解ができる。
(2) 方程式・不等式を解くことができる。
(3) 場合の数・確率の計算ができる。

授業方法と留意点
テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果 (資格)
問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の問 課題レポート
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目
数学基礎 II、統計学、経済学関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。

学生へのメッセージ
数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分が授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等
3 号館 3 階 数学研究室

備考

教養科目

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標 ・面の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階 数学準備室
------------	-------------

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関数とグラフ</td> <td>・座標平面 ・点の表し方</td> <td>第7章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1次関数</td> <td>・グラフの書き方 ・傾き、切片</td> <td>第7章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2次関数(1)</td> <td>・グラフの書き方 ・頂点、対称軸</td> <td>第7章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2次関数(2)</td> <td>・最大値、最小値 ・応用例</td> <td>第7章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>無理関数</td> <td>・逆関数 ・定義域</td> <td>第7章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>数列(1)</td> <td>・等差数列 ・和の公式</td> <td>第8章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>数列(2)</td> <td>・等比数列 ・和の公式</td> <td>第8章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>整関数の微分(1)</td> <td>・変化率 ・微分係数、接線</td> <td>第9章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>整関数の微分(2)</td> <td>・導関数 ・極大値、極小値</td> <td>第9章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>整関数の微分(3)</td> <td>・関数の増加、減少 ・関数のグラフ</td> <td>第9章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>整関数の微分(4)</td> <td>・最大値、最小値 ・応用問題</td> <td>第9章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>積分(1)</td> <td>・不定積分 ・原始関数</td> <td>第10章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>積分(2)</td> <td>・区分求積法 ・定積分</td> <td>第10章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>積分(3)</td> <td>・微積分の基本定理 ・定積分の計算</td> <td>第10章の問 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>積分(4)</td> <td>・面積、体積 ・応用問題</td> <td>第10章の問 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート	2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート	3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート	4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート	5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート	6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート	7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート	8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート	9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート	10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート	11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート	12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート	13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート	14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート	15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート																																																																
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート																																																																
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート																																																																
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート																																																																
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート																																																																
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート																																																																
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート																																																																
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート																																																																
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート																																																																
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート																																																																
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート																																																																
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート																																																																
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート																																																																
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート																																																																
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学研究室 編</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	演習(30%)及び期末テスト(70%)の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて発表する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標
 この授業を通じて学生には、
 (1) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。
 (2) 等差数列、等比数列を基本として、その他の数列について規則性を見つけることができる。
 (3) 3次関数を中心に、様々な関数の変化の様子をとらえることができる。
 (4) 基本的な関数の積分計算ができる。
 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果(資格)
 数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目
 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
 演習(30%)及び期末テスト(70%)の合計で評価する。

学生へのメッセージ
 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等
 3号館3階 数学研究室

備考
 事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。
 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽 焜
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。

授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
----------	--

科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。
-------------	-----------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問 課題レポート
	2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
	3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
	4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
	5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
	6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
	7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
	8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
	9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
	10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
	11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
	12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
	13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
	14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
	15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階 数学研究室
------------	-------------

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する 事後: 本実習の理解を深める
	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る
	3	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく 事後: 内容の振り返り
	4	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
	5	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
	6	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
	7	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
	15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日

メッセージ	程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室へ来ること。
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	政治学	科目名(英文)	Political Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01412a2		

授業概要・目的	日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、自由民主主義・政党や利益集団・地方分権など、政治学の基本的な項目について習得することが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治学の内容が一般教養として問われる。また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。この授業によって、上記に際して必要な基本的な知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	国家の政治体制(1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	国家の政治体制(2)	自由民主主義体制の分類について	レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	国家の政治体制(3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	政治と経済・福祉(1)	政治と経済の関わりについて	レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	政治と経済・福祉(2)	戦後の福祉国家について	レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	政策と行政	政策過程について	レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	近代の国際政治と現代の国際政治(1)	近代の国際体系=ウェストファリア体制について	レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	近代の国際政治と現代の国際政治(2)	現代の国際政治の特色について	レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(約4時間)

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治学	加茂利男 他	有斐閣
2	はじめて出会う政治学	北山俊哉 他	有斐閣	
3				

評価方法(基準)	期末の試験(論述式。5問出題して2問を選択してもらう形式)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Political Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
日々ニュースで報じられる政治の動きを、政治学という学問的な裏付けを基礎にしてとらえることを目標とする。政治体制・政党制など、政治学の理論的な整理を試みるとともに、国際政治についても目を向けていきたい。

到達目標
この授業を通じて学生には、自由民主主義・政党や利益集団・地方分権など、政治学の基本的な項目について習得することが期待される。

授業方法と留意点
プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。

科目学習の効果 (資格)
公務員試験や就職活動において、政治学の内容が一般教養として問われる。また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。この授業によって、上記に際して必要な基本的な知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	国家の政治体制 (1)	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	国家の政治体制 (2)	自由民主主義体制の分類について	レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	国家の政治体制 (3)	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	政治と経済・福祉 (1)	政治と経済の関わりについて	レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	政治と経済・福祉 (2)	戦後の福祉国家について	レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	政治制度と政治過程	国民代表・利益代表の政治過程について	レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	政策と行政	政策過程について	レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	政党制	政党とはなにか、また政党システムの類型について	レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	集権と分権	分権と連邦主義、国際統合について	レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	近代の国際政治と現代の国際政治 (1)	近代の国際体系=ウェストファリア体制について	レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	近代の国際政治と現代の国際政治 (2)	現代の国際政治の特色について	レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする (約4時間)

関連科目
政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治学	加茂利男 他	有斐閣
2	はじめて出会う政治学	北山俊哉 他	有斐閣	
3				

評価方法 (基準)
期末の試験 (論述式。5問出題して2問を選択してもらう形式) の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。

学生へのメッセージ
日々ニュースや新聞にふれて、世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。

担当者の研究室等
11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)

備考
出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Political Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく(約2時間)
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説(2009)」について調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをし、試験の準備をする

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法(基準)	期末の試験(論述式。5問出題して2問を選択してもらう形式)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分：</p> <p>①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全、衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																		

科目名	生物学	科目名(英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WNA1415a2		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問うビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	—————
2	生殖系系 神経系の構造と機能	生殖系系、中枢神経と末梢神経、神経の運動の妙	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	生殖系系 神経系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第1章細胞のスーパーパワー」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	内分泌系、神経系の構造	ホルモンと神経との関係はどのようになっているのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	内分泌系、神経系の構造	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第2章細胞が出す魔法の薬」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	免疫系の構造と機能	外敵への抵抗	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	免疫系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 老いと戦う細胞」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	泌尿器系、循環器系の構造と機能	腎臓、心臓の働きの基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	泌尿器系、循環器系の構造と機能	ビデオ「人体 腎臓が寿命を決める」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	骨、筋肉系の理解	骨、筋肉系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	骨、筋肉系の理解	ビデオ「人体 脂肪と筋肉が命を守る」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	消化器系の理解	消化器系の基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	消化器系の理解	ビデオ「人体 万病撃退 腸が免疫の鍵」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問	すべての授業内容に関する質問に答えるとともに、難解だった部分の解説を行う。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験	習熟度を確認する。	—————

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の小テストを50%、習熟度試験を40%および授業態度：授業への応答状況10%により総合的に判断する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
備考	事後学習30分、授業日の授業前に小試験対策の事後学習30分が必要です。授業中の小テストについてはテスト終了後に解説する

科目名	世界遺産論	科目名(英文)	Rethinking World Heritage
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(1972年採択、1975年発効)に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編(前半7回)と、それぞれ異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根付く人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。
到達目標	世界遺産を通し、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。
授業方法と留意点	前半7回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は4名の教員が2回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。
科目学習の効果(資格)	世界遺産検定3級 旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関g委える。	「世界遺産」の種類(自然、文化、複合)について理解しておく。
2	世界遺産誕生までの流れ	世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。	前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。
3	登録基準	世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。	京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。
4	日本の産業遺産	日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。	日本の近代化について調べておく。
5	世界で最初の世界遺産	1978年に登録された世界で最初の世界遺産12件について学ぶ。	世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。
6	文化的景観	文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。	日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。
7	中間テスト シリアル・ノミネーションと トランスバウンダリー・サイト	第6回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。	第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第6回までに学んだことを復習しておく。
8	日本の文化遺産1	平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。	日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍やwebで調べておく。
9	日本の文化遺産2	白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。	白川郷、五箇山について書籍やwebで調べておく。
10	自然遺産の重要性と課題1	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。	日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍やwebで調べておく。
11	自然遺産の重要性と課題2	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。	アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍やwebで調べておく。
12	負の世界遺産1	アウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。	ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。
13	負の世界遺産2	海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。	リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。
14	文明の衝突の記憶1	スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。	イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。
15	文明の衝突の記憶2	ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスモ(先住民擁護)の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。	中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。

関連科目 エリアスタディーズ、多文化共生論、エコツーリズム論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	きほんを学ぶ世界遺産100<第2版>世界遺産検定3級公式テキスト	世界遺産検定事務局	マイナビ出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	第7回目までの学習に関する中間テスト(40%)、後半8回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート(40%)、毎回の質問・コメント票(20%)によって総合的に評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	講師控室(7号館2階)、赤澤研究室(7号館4階)、手代木研究室(7号館5階)、林田研究室(7号館4階)、北條研究室(7号館5階)			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 第7回目を行う中間テストに関するフィードバックは第8回目を行う。			

科目名	世界の政治	科目名(英文)	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WSO2413a2		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく(約2時間)
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間)
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間)
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間)
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間)
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく(約30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間)
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間)
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく(約30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間)
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく(約30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間)
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説(2009)」について調べておく(約30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間)
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間)
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく(約30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間)
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく(約30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間)
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく(約30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをし、試験の準備をする

関連科目 政治・外交関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣	

評価方法(基準)	期末の試験(論述式。5問出題して2問を選択してもらう形式)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1406a2		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって(1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる(1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる(2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる(3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市(1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市(2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市(3)	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市(4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市(5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目 特になし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するならば、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。

学生へのメッセージ 歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具

	体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組み姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

教養科目

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。																
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく																
関連科目	テクニカルデザイン演習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。																
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。																
担当者の研究室等	8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。																
備考	週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起きている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考	自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成を自主学习として、調べておくこと。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築(携帯アプリ)の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近のIT動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる 																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会(土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会(土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査(4時間×2回) ・IT関連の情報収集(サービス、セキュリティ、生産性向上など)(1時間×8回) ・データベース設計の見直し(3時間) ・作成したアプリの動作テスト(2時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	技術習得の成長度(グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!																		
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志、久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の研究室等	11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室																		
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02438a2, L科:LL02419a2, D科・S科:IL02425a2, P科:YL02420a2, J科:JL02436a2, W科:WL02421a2, N科:NL02417a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。																		
到達目標	<p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。 																		
授業方法と留意点	<p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。http://www.abd-abd.com/</p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p>																		
関連科目	教養系、キャリア系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力:内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人を伸ばす力:内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社	2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳	世界思想社	3	モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著; 大前研一訳	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	人を伸ばす力:内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社																
2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳	世界思想社																
3	モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著; 大前研一訳	講談社																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる!:教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社	2	教え上手になる!:教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング	3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社																
2	教え上手になる!:教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング																
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社																
評価方法(基準)	PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?																		
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。																		
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 マーケティング手法の学習(座学による) 連携先との面談 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 まとめと最終報告会 																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画 (企画・活動・推進・振り返り活動への参画) を行う。 ・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等でも紹介された。 ・2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画 (前述のとおり) することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 								
到達目標	<p>I 到達目標 (共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標 (本プロジェクト): I の目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例への P D C A スキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。 								
授業方法と留意点	<p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点 (コンビニ 2 階) を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習 (参画による) によって到達目標へ指導する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。 								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月頃: WEB 稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR 吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。) ・5月～6月: 今後の企画運営検討 (エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) ・今後の企画運営検討 (落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: 吹田祭推進、応援 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室 (親子教室) に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用 (古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ) による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援 (チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導) に参加 ・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けての WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。 <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>								
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社						

	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房																
	3	商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td> <td>足立基浩</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-</td> <td>森川すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房																
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社																
3																				
評価方法 (基準)	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。 																			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。 																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する ・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる ・連携先に企画提案ができる ・広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する ・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる ・親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる ・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる ・プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する 																		
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</p> <p>【年間計画（予定）】 4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ 5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施 8月 ホームゲームでのイベントの実施 9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（ポスト調査）の実施 10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会 12月 最終報告会とその準備 2月 Sports Festival</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																		
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																		
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																		
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らし人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） 地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） 中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原 京佳, 梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。																		
授業方法と留意点	さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらい。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%																		
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	自主学習時間の目安は毎週1時間。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組み姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2		

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域(和歌山県すさみ町)の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。																		
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく																		
関連科目	テクニカルデザイン演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。																		
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。																		
担当者の研究室等	8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。																		
備考	週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																		
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																		
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C1・C2</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																		
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>1号館3階 石田准教授室</p>																		
備考	<p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学习として、調べておくこと。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

教養科目

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築(携帯アプリ)の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近のIT動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる 																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会(土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会(土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査(4時間×2回) ・IT関連の情報収集(サービス、セキュリティ、生産性向上など)(1時間×8回) ・データベース設計の見直し(3時間) ・作成したアプリの動作テスト(2時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	技術習得の成長度(グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう!																		
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志、久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。																		
授業方法と留意点	学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の研究室等	11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室																		
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B◎,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2, L科:LL02420a2, D科・S科:IL02426a2, P科:YL02421a2, J科:JL02437a2, W科:WL02422a2, N科:NL02418a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。																		
到達目標	<p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。 																		
授業方法と留意点	<p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。http://www.abd-abd.com/</p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 学内研修:まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修:就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修:理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修:就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修:中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修:企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修:阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修:ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修:最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修:ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修:成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p>																		
関連科目	教養系、キャリア系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力:内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人を伸ばす力:内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社	2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳	世界思想社	3	モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著; 大前研一訳	講談社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	人を伸ばす力:内発と自律のすすめ	エドワード・L・デン, リチャード・フラスト	新曜社																
2	フロー体験 喜びの現象学	M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳	世界思想社																
3	モチベーション 3.0:持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著; 大前研一訳	講談社																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる!:教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社	2	教え上手になる!:教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング	3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術:人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社																
2	教え上手になる!:教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング																
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社																
評価方法(基準)	PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。?																		
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。																		
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。 当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。 2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画(前述のとおり)することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 								
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。 								
授業方法と留意点	<p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。 上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。 事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。 								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月頃: WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。) 5月～6月: 今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) 今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) 7月頃: 吹田祭推進、応援 8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) 随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) 10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。 <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p>								
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社						

	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房																
	3	商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td> <td>足立基浩</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-</td> <td>森川すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房																
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」に行く-	森川すいめい	青土社																
3																				
評価方法 (基準)	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。 																			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。 																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02439a2,L科:LL02420a2,D科・S科:IL02426a2,P科:YL02421a2,J科:JL02437a2,W科:WL02422a2,N科:NL02418a2		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているの明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する ・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる ・連携先に企画提案ができる ・広報活動(飛び込み営業)を通じ、基本的な営業スキルを感得する ・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる ・親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる ・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる ・プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する 																		
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施) ・近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ 5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(プレ調査)の実施 域内商店街での広報活動の実施 8月 ホームゲームでのイベントの実施 9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(ポスト調査)の実施 10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会 12月 最終報告会とその準備 2月 Sports Festival</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																		
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																		
担当者の研究室等	吉田佐治子(7号館3階) 水野武(7号館3階)																		
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） 地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） 中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原 京佳, 梅野 将之
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動(オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等)を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。																		
授業方法と留意点	さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらい。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ミーティング、報告会、各活動への貢献度60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート40%																		
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。																		
担当者の研究室等																			
備考	自主学習時間の目安は毎週1時間。																		

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01437a2, L科: LL01418a2, D科・S科: IL01424a2, P科: YL01419a2, J科: JL01435a2, W科: WL01420a2, N科: NL01416a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。よくなるのが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間) ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること(2時間)
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間) ・事後学修: 企業の事例を調べること(2時間)
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べること(2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること(2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること(2時間)
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解くこと(2時間) ・事後学修: 問題プリント②を解くこと(2時間)
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間) ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること(2時間)
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること(2時間) ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること(2時間)
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること(2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること(2時間)
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修: 各自がテーマを見つけること(2時間) ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと(2時間)

			・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの）。	間)																
	14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（2時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2時間）																
	15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行うこと（2時間） ・事後学修：最終レポートを作成すること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 																			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	大学教養応用	科目名(英文)	Applied Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人, 伊藤 謙, 越 希美江, 原 由紀子, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この科目は、プロジェクトベースラーニング形式で学ぶ、学部の枠を越えた教養応用科目です。初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため、大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身に付けます。また、身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができる。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p>
到達目標	<p>(1)社会課題を考えるための教養として、SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。</p> <p>(2)読書により教養を身につけ、さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる。</p> <p>(3)シナリオプランニングを通して、情報収集の方法を知り、実践できる。論理的思考を知り、実践できる。</p> <p>(4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる。</p> <p>(6)チームの中でリーダーシップを発揮し、成果が上がる協働作業に貢献ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。学修法としてABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)、テーマ設定のためのQFT、未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係のつくり方、チームワークの仕方、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます。諸君が積極的に参加することが大切となります。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る シナリオプランニング体験 振り返りシート	SDGsを調べる(3時間以上)
2	世界を知る教養: 2030SDGsを体感する	2030SDGsカードゲームを実施する。入門編でも行っているが、そのときとの違いを知る。 振り返り、振り返りシート	SDGs前文を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
3	世界を知る教養: SDGs前文	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
4	世界を知る教養: SDGs前文+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート	教科書のP32-97を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)
5	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
6	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート	教科書のp98-159を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上)
7	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)	解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上)
8	世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)+アカデミックインパクト	解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 シナリオプランニングとは講義	振り返りレポート 外部環境リサーチ(3時間以上)
9	未来を考える教養: ほぼ確実な未来を考える	解説、課題の共有、提出 協働学習 振り返り、振り返りシート	外部環境リサーチシート作成(3時間以上)
10	未来を考える教養: 不確実な未来を考える①	課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオづくり	外部環境リサーチシート作成(3時間以上)

			振り返り、振り返りシート																	
	11	未来を考える教養： 不確実な未来を考える②	課題の共有，提出 協働学習 10年後の未来シナリオ完成 振り返り、振り返りシート	グループでシナリオ完成（3時間以上）																
	12	未来を考える教養： 不確実な未来を考える③	課題の共有，提出 協働学習、プレゼンテーション講義 10年後の機会、脅威、対応策検討 振り返り、振り返りシート	ポスター作成，プレゼンテーション準備（3時間以上）																
	13	未来を考える教養： プレゼンテーション	プレゼンテーション実施，質疑応答 プレゼンテーション相互評価 振り返り、振り返りシート	自己の行動計画案作成（3時間以上）																
	14	未来を考える教養： 未来に向けての行動計画作成	課題の共有，協働学習，対話 ワールドカフェ実施、行動計画完成 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート2回目（3時間以上）																
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有，振り返り	振り返りレポート2回目（3時間以上）																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて？																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs アジェンダ前文</td> <td></td> <td>国連</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来を変える目標 SDGs アイデアブック</td> <td>蟹江憲史</td> <td>紀伊國屋書店 1,800円(税別)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs アジェンダ前文		国連	2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店 1,800円(税別)	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SDGs アジェンダ前文		国連																	
2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店 1,800円(税別)																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢（チーム：20%） ・新聞作り／発表（チーム：20%） ・振り返りレポート 2回（個人：20%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・外部環境リサーチ 3回（20%） <p>・振り返りシート（個人：10%）</p> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部、学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として未来を創っていくための教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	大塚正人（薬学部1号館5F）、伊藤謙（1号館3F）、柳沢学（8号館3F）、喜多大三（7号館8F）、水野武（7号館3F）、原由紀子（非常勤講師室）、越希美江（非常勤講師室）																			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。																			

科目名	大学教養実践	科目名(英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 譲, 越 希美江, 原 由紀子, 藤林 真美, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この科目は、チームで協働し、対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の基礎知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そうすることで、教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p>
到達目標	<p>(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)QFTにより、自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる。</p> <p>(4)人間関係のつくり方、チームワーク能力、リーダーシップを身に付けることができる。</p> <p>(5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け、協働学習を進めることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。?</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD, QFT 法等の協働学習の方法が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る チームづくり+振り返りの大切さ	「星の王子さま」1章?12章を読み、サマリーの下書き(3時間以上)
2	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	教科書の紹介、概要 ABDによる学習の進め方の説明 ABDにチャレンジ 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」13章?24章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
3	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	解説 協働学習、プレゼン、対話 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」25章?27章を読んでサマリーの下書き(3時間以上)
4	教養としての文学に触れる:「星の王子さま」	解説 協働学習、プレゼン、対話 QFTにより、探求テーマだし 振り返り、振り返りシート	探求テーマのリサーチ、検討(3時間以上)
5	教養としての文学に触れる:中間成果発表	解説 前回課題の共有、対話 ポスター作成 プレゼン、質疑応答 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート1回目 「未来の年表」P3-79を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
6	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	教科書の紹介 解説 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返りシート	「未来の年表」P3-79から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3時間以上)
7	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
8	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 相互評価、振り返り、振り返りシート	「未来の年表」P80-146を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上)
9	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	解説、 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りシート	「未来の年表」p80-146から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3時間以上)
10	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3時間以上)
11	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 振り返り、振り返りレポート	「未来の年表」第2部を読む(3時間以上)
12	教養として社会課題を知る:「未来の年表」	自分たちで解決策を考えたい社会課題 テーマを決める 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りレポート	解決策の検討(3時間以上)

	13	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	解決策を検討、ポスター作成 プレゼンテーション準備 振り返り、振り返りレポート	ポスター作成、プレゼンテーション準備(3時間以上)																
	14	教養として社会課題を知る：最終発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	振り返りレポート2回目(3時間以上)																
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	振り返りレポート2回目(3時間以上)																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて？																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サンテグジュペリ</td> <td>新潮文庫 476円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書 760円</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮文庫 476円	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書 760円	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	星の王子さま	サンテグジュペリ	新潮文庫 476円																	
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書 760円																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター／発表 (チーム：20%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：20%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F)、柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F)、喜多大三 (7号館 8F)、藤林真美 (総合体育館 1F)、水野武 (7号館 3F)、原由紀子 (非常勤講師室)、越希美江 (非常勤講師室)																			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？																			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から、対話力を学生に伝えることができます。</p> <p>授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。石井は企業、自治体、NPO の運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている。</p>
到達目標	<p>(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。</p> <p>(2)ABD による読書法を身に付けている。</p> <p>(3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。</p> <p>(4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。</p> <p>(6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。 ABD 法等の協働学習の方法が身につく。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	「おとなの教養」第二章を読むこと(1.5 時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5 時間以上)
3	教養入門: 第六章 歴史	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5 時間以上)
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	中間発表の下調べ、ポスターの案(3 時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	ポスターの改善、プレゼンの改善 振り返りレポート1 回目(3 時間以上)
7	教養入門: 中間成果発表	ポスター改善 発表・質疑応答 振り返り	SDG s とは何か調べる(3 時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDG s の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	チーム学習の振り返り(1.5 時間以上)
9	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	UNAI とは何かを調べる(3 時間以上)
10	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト?	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し(2 時間以上)
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2 時間以上)
12	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養: 第五章 人生の意味を求めて?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成	振り返りレポート2 回目

	表	発表・質疑応答 振り返り	(3時間以上)															
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	振り返りレポート3回目 (3時間以上)															
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KKベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KKベストセラーズ	3				
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版															
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KKベストセラーズ															
3																		
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3				
番号	書籍名	著者名	出版社名															
1																		
2																		
3																		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター／発表 (チーム：30%) ・振り返りレポート 3回 (個人：30%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																	
学生への メッセージ	<p>この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。</p>																	
担当者の 研究室等	<p>荻田喜代一 (7号館 8F, 副学長室), 伊藤謙 (1号館 3F), 柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 藤林真美 (総合体育館 1F), 久保貞也 (11号館 7F), 寺内睦博 (11号館 10F), 石井三恵 (7号館 5F)</p>																	
備考	<p>この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。</p>																	

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学が姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること(1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること(3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること(2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること(2時間)
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること(2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること(2時間)
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること(2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること(2時間)
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること(2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること(2時間)
6	性役割の形成①	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること(2時間) ・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること(2時間)
7	性役割の形成②	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること(2時間) ・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成すること(2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること(2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること(2時間)
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること(2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること(2時間)
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること(2時間) ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること(2時間)
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること(2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること(2時間)
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること(2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること(2時間)

	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03440a2, L科: LL03421a2, D科・S科: IL03427a2, P科: YL03422a2, J科: JL03438a2, W科: WL03423a2, N科: NL03419a2		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内での役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	この授業はグループワークで行います。 ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきませんが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。 月に1度程度のミーティングの年間スケジュールは第1回目に提示します。 第1回 4月18日(木) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明を行います 履修者は必ず出席してください。																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																		
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																		
担当者の研究室等																			
備考	【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。																		

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01435a2, L科: LL01416a2, D科・S科: IL01422a2, P科: YL01417a2, J科: JL01433a2, W科: WL01418a2, N科: NL01414a2		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月13日(土)2時間目	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える(1時間) 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える(1時間)
2	自己の探求 4月20日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる(1時間)
3	自己の探求 4月21日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる(2時間)
4	今、地域で何が起きているか 5月18日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅可能性都市」について調べる(1時間)。 【事後学習】由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)
5	由良町関係者の講演 5月18日(土)2限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光・環境・防災・スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる(1時間) 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる(2時間)
6	地域経済・経営 —地域の観光・ブランディング— 5月18日(土)3限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる(1時間) 【事後学習】 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる(2時間)
7	地域環境・防災 —空き家の現状と課題— 6月1日(土)1限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる(2時間)
8	地域政策・文化 —地域とスポーツ— 6月1日(土)2限	地域とスポーツとの関連;「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる(2時間)
9	地域医療 —地域で健康な生活を送るには?— 6月15日(土)1限	民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと(1時間) 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、由良町の地

		(田中・上野山)	域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる(2時間)																
10	事前学習 グループワーク 6月15日(土)2、3限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく(1時間) 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)																
11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月29日(土)終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく(1時間) 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく(2時間)																
12	プレゼンテーション講座 7月6日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく(1時間) 【事後学習】 スライドをつくってみる(2時間)																
13	事後学習① グループワーク 7月6日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく(2時間) 【事後学習】 発表できるよう準備をする(4時間)																
14	事後学習② 成果発表会 7月20日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う(4時間) 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする(1時間) 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する(1時間) 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成(3時間)																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生へのメッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名(英文)	Community-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	<p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2年生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何かを理解する	事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク(予定) ・チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する	事後学修: チームでの取り組みを振り返る。(1時間)
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学修: 講義3で出る課題に取り組むこと(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1.5時間)
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	事後学修: 講義で配布された資料を見直すこと(1.5時間)
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	事後学修: 講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5時間)
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する	事後学修: チームで課題に取り組むこと(4時間)
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5時間)
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5時間)
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間)
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間)
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修: 提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間)

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野研究室)			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1407a2		

授業概要・目的 地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学(人文地理学・自然地理学)とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。

到達目標 地誌学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。

授業方法と留意点 最新の教科書を用いて講義形式で進める。

科目学習の効果(資格) 中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	熱帯気候と住民生活(1)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の復習
3	熱帯気候と住民生活(2)	熱帯雨林の狩猟採集民(1)	教科書の復習
4	熱帯気候と住民生活(3)	熱帯雨林の狩猟採集民(2)	教科書の復習
5	熱帯気候と住民生活(4)	発展途上国の都市問題	教科書の復習
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活(1)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の復習
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活(2)	乾燥地帯で生きる人々(1)	教科書の復習
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活(3)	乾燥地帯で生きる人々(2)	教科書の復習
9	寒帯・冷帯気候と住民生活(1)	氷河と人々の暮らし	教科書の復習
10	寒帯・冷帯気候と住民生活(2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の復習
11	寒帯・冷帯気候と住民生活(3)	山岳地帯の牧畜	教科書の復習
12	温帯気候と住民生活(1)	先進国の都市問題	教科書の復習
13	温帯気候と住民生活(2)	日本の自然と住民生活(1)	教科書の復習
14	温帯気候と住民生活(3)	日本の自然と住民生活(2)	教科書の復習
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の復習

関連科目 人文地理学、自然地理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 期末試験75%、平常点25%
簡単な理解度チェックを適宜行う。期末試験とは別に、授業内で小試験を実施する。

学生へのメッセージ 高校で地理(A・B)を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内で複数回の理解度確認テストを実施し、その結果をもとに評価する(授業内の理解度確認テスト:100%)			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。			

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校までの「覚える」地理学習とは異なり、大学の地理学は「考え、創造する」点に特徴がある。本講義では身近な事例を通じて、大学における人文地理学の見方・考え方を学習することを目的とする。																																																																		
到達目標	人文地理学の基本的な考え方について、具体的な事例を通して理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	中学社会・高校地理歴史教員免許																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>小中高の地理学習と大学の地理学</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>工業地理学(1)</td><td>現代経済における工業地理</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>工業地理学(2)</td><td>企業組織と地域間分業</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>工業地理学(3)</td><td>自動車産業にみる立地と集積</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>農村と都市(1)</td><td>変動する農村の社会</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>農村と都市(2)</td><td>農村変動と都市</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>農業と食のネットワーク(1)</td><td>現代の農業と食</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>農業と食のネットワーク(2)</td><td>食の外部化とフードシステム論</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>流通システムの地理学(1)</td><td>業態店の流通システム</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>流通システムの地理学(2)</td><td>スーパーと流通システム</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>流通システムの地理学(3)</td><td>コンビニと流通システム</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>現実世界の歴史地理(1)</td><td>歴史地理学の視角について</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>現実世界の歴史地理(2)</td><td>時の断面と景観史</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>想像世界の歴史地理</td><td>地図からみた世界観</td><td>教科書の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>総括と期末試験の説明</td><td>教科書の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	小中高の地理学習と大学の地理学	授業内容の復習	2	工業地理学(1)	現代経済における工業地理	教科書の復習	3	工業地理学(2)	企業組織と地域間分業	教科書の復習	4	工業地理学(3)	自動車産業にみる立地と集積	教科書の復習	5	農村と都市(1)	変動する農村の社会	教科書の復習	6	農村と都市(2)	農村変動と都市	教科書の復習	7	農業と食のネットワーク(1)	現代の農業と食	教科書の復習	8	農業と食のネットワーク(2)	食の外部化とフードシステム論	教科書の復習	9	流通システムの地理学(1)	業態店の流通システム	教科書の復習	10	流通システムの地理学(2)	スーパーと流通システム	教科書の復習	11	流通システムの地理学(3)	コンビニと流通システム	教科書の復習	12	現実世界の歴史地理(1)	歴史地理学の視角について	教科書の復習	13	現実世界の歴史地理(2)	時の断面と景観史	教科書の復習	14	想像世界の歴史地理	地図からみた世界観	教科書の復習	15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	小中高の地理学習と大学の地理学	授業内容の復習																																																																
2	工業地理学(1)	現代経済における工業地理	教科書の復習																																																																
3	工業地理学(2)	企業組織と地域間分業	教科書の復習																																																																
4	工業地理学(3)	自動車産業にみる立地と集積	教科書の復習																																																																
5	農村と都市(1)	変動する農村の社会	教科書の復習																																																																
6	農村と都市(2)	農村変動と都市	教科書の復習																																																																
7	農業と食のネットワーク(1)	現代の農業と食	教科書の復習																																																																
8	農業と食のネットワーク(2)	食の外部化とフードシステム論	教科書の復習																																																																
9	流通システムの地理学(1)	業態店の流通システム	教科書の復習																																																																
10	流通システムの地理学(2)	スーパーと流通システム	教科書の復習																																																																
11	流通システムの地理学(3)	コンビニと流通システム	教科書の復習																																																																
12	現実世界の歴史地理(1)	歴史地理学の視角について	教科書の復習																																																																
13	現実世界の歴史地理(2)	時の断面と景観史	教科書の復習																																																																
14	想像世界の歴史地理	地図からみた世界観	教科書の復習																																																																
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の復習																																																																
関連科目	「自然地理学」「地誌学」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人文地理学への招待</td> <td>竹中克行編</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人文地理学事典</td> <td>人文地理学会編</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人文地理学事典	人文地理学会編	丸善出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人文地理学事典	人文地理学会編	丸善出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末試験 75%、平常点 25%																																																																		
学生へのメッセージ	高校で地理(A・B)を履修していない人も問題なく受講できます。講義内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。																																																																		
備考																																																																			

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1403a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。</p>			
到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>			
授業方法と留意点	<p>講義形式</p> <p>授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。教科書は遅くとも4回目の講義までには入手し、授業時に持参すること。その他の参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。</p> <p>前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小テスト、中間レポートを実施する。</p>			
科目学習の効果 (資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
	2	古代における知の探求	古代ギリシアにおける知の探求と、その可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	3	古代・中世における自然法	西洋古代・中世の自然法思想とその意義を考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	4	近代における自然法	西洋近代における自然法思想とその意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	5	社会の起源—ルソー『人間不平等起源論』を読む(1)	ルソーの社会批判の要点について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	6	人間の原初状態—ルソー『人間不平等起源論』を読む(2)	ルソーにおける「自然状態」について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	7	人間の自由—ルソー『人間不平等起源論』を読む(3)	ルソーにおける人間の本质について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	8	社会的不平等と自然不平等—ルソー『人間不平等起源論』を読む(4)	ルソーが問題視する不平等について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	9	不平等の起源—ルソー『人間不平等起源論』を読む(5)	ルソーが論じる社会的不平等の起源について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	10	国家の専制—ルソー『人間不平等起源論』を読む(6)	ルソーが論じる不平等の極致について考察する。	〈予習〉教科書の該当箇所の精読。〈復習〉中間レポートの作成。
	11	ルソーの社会契約説(1)	ルソーの社会契約説の要点について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	12	ルソーの社会契約説(2)	ルソーの社会契約説の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	13	現代の社会契約説—ロールズのリベラリズム	ロールズの社会契約説とその意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	14	現代リベラリズムへの諸批判	ロールズの理論への批判を取り上げ、現代における自由と平等について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
	15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉期末レポートの作成。
関連科目	哲学 II、社会学、経済倫理、社会と人権			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間不平等起源論	ジャン=ジャック・ルソー	講談社学術文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会契約論	重田園江	ちくま新書
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業内での小テスト等を20%、中間レポートを50%、期末レポートを30%として、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（授業日のみ入室）			
備考	<p>授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp</p> <p>提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、授業時間の前後に対応することができる。授業時間外での質問等は出講時に非常勤講師室にて対応することができる。</p> <p>授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回1時間程度とする。</p>			

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU2404a2		

授業概要・目的	哲学という語の元にある「愛知」的探究の態度は、真理の原理だけでなく正義や善などの倫理的価値によって支えられていた。このような知的パラダイムは「倫理的パラダイム」と呼ぶことができるが、この講義を通じて倫理的パラダイムを理解しそのパラダイムに基づいて思考する思考力を身につける。
到達目標	哲学に関する基礎的知識を獲得することができる。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、講義中心の授業となる。授業で取り扱うテーマに基づいて現代社会に生じている諸問題を実際に読み解く。テーマとなるのは、人間論としての哲学、倫理的パラダイム、近代啓蒙主義の回顧、リベラル・デモクラシーと科学的思考の諸問題、理想主義からニヒリズムへ、ポストモダンの生活世界、コスモスの世界像と幸福、教養教育と人間論などである。
科目学習の効果(資格)	哲学的・倫理的言語を学習し身につけることによって、日常生活を見る眼つまり世界観が変わる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義の概略と見直し	オリエンテーション	—————
	2	人間論としての哲学について	人間のあり方の問題と哲学の可能性	シラバスの熟読
	3	倫理的パラダイムとは何であるのか	テクノロジーの専制と生きる目的の喪失、そして倫理の復権	前回のノートの見直し
	4	近代啓蒙主義の回顧(1)	カントと理想主義 啓蒙の理性	前回のノートの見直し
	5	近代啓蒙主義の回顧(2)	歴史と社会の哲学と自由主義 カントそしてヘーゲル	前回のノートの見直し
	6	理想主義からニヒリズムへ	ヘーゲル、マルクス、ニーチェ	前回のノートの見直し
	7	数学的世界像と科学の世界	理性の危機と科学の客観性の問題	前回のノートの見直し
	8	真理の共同体と科学的パラダイム	真理の客観性と時間性	前回のノートの見直し
	9	ポストモダンの生活世界—複製技術の世界に抗して	大量生産とオリジナルの喪失	前回のノートの見直し
	10	手仕事技術の復権と生活の確かさを求めて	道具連関と生活の確かさ	前回のノートの見直し
	11	実存から構造主義へ、そして歴史の終焉	人間存在の主体性あるいはその解体	前回のノートの見直し
	12	ポストモダンの到来と末人たちの最後の国	ポストモダンとは何か。	前回のノートの見直し
	13	コスモス的世界像と幸福追求のために	共同体の存在可能性を求めて。	前回のノートの見直し
	14	徳と異種混合の知について考えてみる	幸福を求めて。	前回のノートの見直し
		まとめ	何が問題であったのか。	これまでの授業ノートの見直し。

関連科目	思想系の科目。
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト(30%)、「定期試験」(70%)で評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	積極的に授業に参加して下さい。かなりの板書の量となるので、必ずノートを準備すること。ノートがないと試験問題は解答することができません。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。
----	-------------------------------

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Constitutional Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01411a2		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題をとりあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書 11 頁から 20 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのように関わるかなどについて説明します。	事前に教科書 243 頁から 249 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
3	基本的人権の保障 1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書 21 頁から 30 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
4	基本的人権の保障 2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書 31 頁から 40 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書 49 頁から 58 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
6	法の下での平等	憲法 14 条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書 60 頁から 70 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書 71 頁から 82 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書 83 頁から 104 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書 105 頁から 114 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
10	社会権	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書 115 頁から 134 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
11	刑罰と刑事手続	犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。	事前に教科書 135 頁から 144 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
12	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。	事前に 161 頁から 172 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
13	内閣	議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。	事前に教科書 173 頁から 184 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。	事前に教科書 185 頁から 206 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
15	平和主義	戦争の放棄の意味、憲法 9 条と自衛隊の存在などについて説明します。	事前に教科書 217 頁から 229 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学 (第 3 版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末試験の点数 (60%)、小テストの点数 (40%) の合計によって評価します。
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	①小テストの返却は 11 号館 6 階キャリアルームで行い、その正解は次回の授業で解説します。 ②授業時間外の質問等に対しては、水曜日 12 時 30 分から 13 時 20 分に 11 号館 5 階法学部資料室において対応できます。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	———
	2	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
	6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	これまでの授業の復習 課題①を見直す
	7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	これまでの授業の復習 課題②を見直す
	13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	前回の復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題③	構成を意識した文章を書く	前回の復習	

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。

授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、常用漢字の練習も行う。
----------	---------------------------------

科目学習の効果 (資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に役立つ。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)
	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)
	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)
	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)
	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)
	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)
	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)
	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	漢字の復習 (30 分)
	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	総合学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	———
	2	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
	6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	これまでの授業の復習 課題①を見直す
	7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	これまでの授業の復習 課題②を見直す
	13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	前回の復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題③	構成を意識した文章を書く	前回の復習	

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文章の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義と演習を行う。また、常用漢字の練習も行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に役立つ。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>授業についての説明</td> <td>教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方 1</td> <td>レポート・論文の基本事項</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文章の書き方 2</td> <td>わかりやすい文章の書き方</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>事実と意見文</td> <td>事実と意見の書き分け</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題① 説明文</td> <td>必要なことをわかりやすく説明する</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>構成</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約</td> <td>要旨の要約の作成方法を知る</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>図表を引用する</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>意見を述べる</td> <td>考察に基づいて意見を述べる</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>課題② 論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートの書き方 1</td> <td>レポートの体裁について学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポートの書き方 2</td> <td>レポート作成の注意点を教える</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポートの書き方 3</td> <td>アウトラインの構成を学ぶ</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>復習と確認</td> <td>漢字の復習 (30 分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)	2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)	3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)	4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)	5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)	11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)	12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)	13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	漢字の復習 (30 分)	14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)	15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の「はじめに」と目次を読む (30 分)																																																																
2	文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	漢字の復習 (30 分)																																																																
3	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	漢字の復習 (30 分)																																																																
4	事実と意見文	事実と意見の書き分け	漢字の復習 (30 分)																																																																
5	課題① 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	漢字の復習 (30 分)																																																																
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	漢字の復習 (30 分)																																																																
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	漢字の復習 (30 分)																																																																
11	課題② 論説文	資料を引用して意見を述べる	漢字の復習 (30 分)																																																																
12	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
13	レポートの書き方 2	レポート作成の注意点を教える	漢字の復習 (30 分)																																																																
14	レポートの書き方 3	アウトラインの構成を学ぶ	漢字の復習 (30 分)																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習 (30 分)																																																																
関連科目	ゼミ、卒業研究など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	総合学習時間の目安は 60 時間。提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																																		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方①	授業の目的、進め方 話し言葉と書き言葉の違いを認識する	———
	2	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
	3	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
	4	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
	5	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
	6	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を確認する	これまでの授業の復習 課題①を見直す
	7	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	8	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	9	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	10	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	11	課題②	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	12	課題②フィードバック エントリーシートの書き方	課題②の返却・講評 就職活動関連に必要な文章を書く	これまでの授業の復習 課題②を見直す
	13	注の付け方	注の付け方・書き方を学ぶ	前回の復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題③	構成を意識した文章を書く	前回の復習	

関連科目	日本語表現Ⅱ、ゼミ、卒業研究など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する	前回の復習
	4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する	前回の復習
	5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する	前回の復習
	7	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習
	8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習
	9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	前回の復習
	10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める	発表の準備
	11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する	発表の準備
	12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	報告文の準備
	13	課題③	プレゼンテーションの内容を報告する	これまでの復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
	15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッションなどを含む。また、常用漢字の練習も行う。
科目学習の効果(資格)	研究発表や就職面接での話し方に不安がなくなる。また、漢字検定2級の漢字が習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書を復習する(60分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	漢字の復習(30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	漢字の復習(30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	漢字の復習(30分)
	9	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	漢字の復習(30分)
	10	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	漢字の復習(30分)
	11	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	12	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	13	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	14	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	漢字の復習(30分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習(30分)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	総合学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する	前回の復習
	4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する	前回の復習
	5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する	前回の復習
	7	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習
	8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	前回の復習
	9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	前回の復習
	10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める	発表の準備
	11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する	発表の準備
	12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	報告文の準備
	13	課題③	プレゼンテーションの内容を報告する	これまでの復習
	14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	授業の総括	これまでの授業の再確認	これまでの授業の復習	

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行う。演習はプレゼンテーション、グループディスカッションなどを含む。また、常用漢字の練習も行う。
科目学習の効果(資格)	研究発表や就職面接での話し方に不安がなくなる。また、漢字検定2級の漢字が習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書を復習する(60分)
	2	小論文1	小論文の話題について学ぶ	漢字の復習(30分)
	3	小論文2	小論文の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	4	小論文3	小論文の構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	5	課題① 小論文	800字程度の小論文を書く	漢字の復習(30分)
	6	グループディスカッション1	意見表明の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	7	グループディスカッション2	反論の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	8	グループディスカッション3	意見の調整について学ぶ	漢字の復習(30分)
	9	課題② グループディスカッション	グループディスカッションに基づいて800字程度の意見文を書く	漢字の復習(30分)
	10	プレゼンテーション1	プレゼンテーションの手順について学ぶ	漢字の復習(30分)
	11	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの構成について学ぶ	漢字の復習(30分)
	12	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	13	プレゼンテーション4	質疑応答の表現について学ぶ	漢字の復習(30分)
	14	課題③ プレゼンテーション	プレゼンテーションのレジュメと原稿をまとめる	漢字の復習(30分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習(30分)

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	総合学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 理正
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明。	———
	2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する。	前回の復習
	3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する。	前回の復習
	4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する。	前回の復習
	5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く。	これまでの復習
	6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する。	前回の復習
	7	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の基本とそれに関連するマナーを学ぶ。	前回の復習
	8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う。	前回の復習
	9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う。 ディスカッションの経過とその結論を文章で報告する。	前回の復習
	10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める。	発表の準備
	11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する。	発表の準備
	12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う。	報告文の準備
	13	課題③	プレゼンテーションの内容をまとめ、報告する。	これまでの復習
	14	復習テスト	これまでに実施した小テストの復習を行う。	小テストの復習
15	授業のまとめ	これまでの授業の再確認。	これまでの授業の復習	

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	誤字脱字や誤用が目立つ記事があったとします。そのような記事を信頼できますか。 どれほど正しいことを述べていても、文章表現ひとつで良くも悪くも印象は変わってしまいます。 自身の書く文章としっかり向き合い、正確な文章表現を身につけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	Japanese History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WHU1405a2		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
	15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第1回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この講義を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 「被害者」概念について説明できる 犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる 犯罪被害者の支援制度について理解できる <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方と文献紹介 「加害者」の法的責任 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」の意義 「犯罪被害者」の意義 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の入手 事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること(2時間)
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と被害者救済 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること(2時間)
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> 性犯罪被害特有の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)
4	ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者	<ul style="list-style-type: none"> DV被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ストーカーへの対抗手段 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> インターネット犯罪被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> 児童虐待の意義 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者の加害行為と対処法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間)
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> 被害届と告訴・告発の効果 加害者との示談交渉 マスコミ対策 検察審査会 検察審査員 審査申立手続 検察審査会と被害者 起訴議決制度 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること(2時間)
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> 被害者による裁判傍聴と参加 被害者による記録の閲覧と謄写 	<ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと(2時間)

			<ul style="list-style-type: none"> ・被害者における心情陳述 ・被害者等特定事項の非公開 ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者情報へのアクセス ・法テラス 	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	講義の進め方、評価方法などを説明 自己紹介	
	2	unit1 Talking about your job.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	3	Unit 2 Introducing people	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	4	Unit 3. Explaining office layout	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	5	Unit 4 Giving instructions.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	6	Unit 5. Making invitations and arrangements.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	7	Review Units 1-5	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習 & テストに備えての学習
	8	Mid-term Test and review. Units 1-5	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	9	Case Study	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	10	Case Study	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	11	Unit 6. Travel plans, making requests.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	12	Unit 7 Dealing with problems & offering help.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習
	13	Unit 8. Messages and contact details	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	テストに備えての学習
	14	Quiz and review.	Quiz units 5-8 and review	復習
	15	Issues	Dealing with issues	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work.	Angela Buckingham & Norman Whitney.	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Quizzes 30%, Homework, preparation and readiness for class 20% Participation, written work, listening, clear accurate speaking, answering of questions and bearing in class. 50%.
-----------	---

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be VERY USEFUL when you go JOB HUNTING in the near future ! (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	89101121314
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1. I'm in the computer business.	Introduction. Talking about your job.	Page 6-7.
	2	Unit 1. I'm in the computer business.	Job titles, company organisation.	Page 6-7.
	3	Unit 2. No, he's the boss!	Introducing people	Page 8-9.
	4	Unit 2. No, he's the boss!	Job descriptions, department names.	Page 8-9.
	5	Unit 3. This is where we have lunch.	Explaining office layout.	Page 10-11.
	6	Unit 3. This is where we have lunch.	Location, ordinal numbers.	Page 10-11.
	7	Unit 4. Can I use your phone.	Giving instructions, saying telephone numbers.	Page 12-13.
	8	Unit 4. Can I use your phone. Mid-term test	Using sequencing words	Page 12-13.
	9	Unit 5. How about some coffee?.	Inviting, making arrangements.	Page 14-15.
	10	Unit 5. How about some coffee	Places of entertainment..	Page 14-15.
	11	Unit 6. Can you meet me at the airport?	Talking about travel plans, making arrangements.	Page 20-21.
	12	Unit 6. Can you meet me at the airport?	Air travel, dates	Page 20-21.
	13	Unit 7. I'll take care of it.	Offering to help, apologising.	Page 22-23.
	14	Unit 7. I'll take care of it.	Talking about things are in the office.	Page 22-23.
	15	Final test.	Final test.	Study for test.

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work (student book)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
	2	Passport to Work (workbook)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Mid-term and final tests: 50% Participation and classwork: 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most. Pair and group work will form the core of each lesson. I'm looking forward to meeting you!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	1234567
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introducing the course. Getting to know each other activities.	Lecture. Pair work, Group work.	
	2	Talking about yourself, and past experiences, qualifications and skills.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	3	Talking about yourself, and past experiences, qualifications and skills.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	4	Dealing with inquiries. Talking about things you haven't and done yet.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	5	Making Predictions. and Comparisons.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	6	Dealing with numbers.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	7	General office conversations and body language	Listening,	Review to be completed.
	8	General office conversations and body language	Listening, Speaking.	Review to be completed.
	9	Asking and giving travel advice.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	10	Talking about preferences. Offering Congratulations.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	11	Review	Listening	
	12	Current events. and review.	Listening, Speaking, Reading &	
	13	Seasonal Activities.	Listening and Vocabulary.	
	14	Taking about passed events and the New Year. Review.	Vocabulary, Listening and Speaking. Pair and group work.	
	15	Quiz and Review	Listening, Reading writing.	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work.	Angela Buckingham	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	TOEIC 30% Other 70% (See below) Being prepared for class (being on time with your file of class prints and completed homework on your desk and ready to start) 15%. Homework 5%. Following instruction, participation and contribution to pairs or groups work 20%. Spoken English in class (quality quantity and how appropriate it is to the class tasks.) 20%. Listening in class 20%. Test 20%
----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	89101121314
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う (2) 前期はCEFR-J [B1.1]、後期はCEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 8: What are the sales figures.	Talking about sales, saying large numbers.	Pages 24-25
	2	Unit 8: What are the sales figures.	Talking about sales and promotion. Approximation.	Pages 24-25
	3	Unit 9: Do you have an email address?	Taking telephone messages, checking information.	Pages 26-27
	4	Unit 9: Do you have an email address?	Taking telephone messages, checking information - continued.	Pages 26-27
	5	Unit 10: I'd like to work overseas	Discussing future plans.	Pages 28-29
	6	Unit 10: I'd like to work overseas	Family life, travel, career plans, future time expressions	Pages 28-29
	7	Unit 11: What's your job like?	Talking about yourself.	Pages 34-35
	8	Unit 11: What's your job like?	Education and work experience, past time expressions.	Pages 34-35
	9	Unit 12: Would you like me to fax you the details?	Talking about things you have and haven't done, dealing with inquiries.	Pages 36-37
	10	Unit 12: Would you like me to fax you the details?	Talking about facilities and conference equipment.	Pages 36-37
	11	Unit 13: What's the budget for the website?	Predicting, making comparisons.	Pages 38-39
	12	Unit 13: What's the budget for the website?	Percentages and decimals.	Pages 38-39
	13	Unit 14: I'll meet you at the north exit.	Asking for and giving travel advice.	Pages 40-41
	14	Unit 14: I'll meet you at the north exit.	Train travel, using the telephone while travelling.	Pages 40-41
	15	Final test	Final test	Review for test

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to Work (student book)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
	2	Passport to Work (workbook)	Angela Buckingham and Norman Whitney	Oxford University Press
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	TOEIC 30% Other 70% (See below) Mid-term and final tests: 50% Participation and classwork: 50%
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in-class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most. Pair and group work will form the core of each lesson. I'm looking forward to meeting you!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2~IT01432a2,L科:LT01422a2~LT01426a2,D科・S科:IT01428a2~IT01432a2,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2~WT01428a2,N科:NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名(英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	<p>新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking）』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。</p> <p>デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形成の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。</p> <p>担当教員は、IT&コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。</p>
到達目標	<p>インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのか（試作化）を試みる。 2. 共創（コラボレーション） 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案 共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。
授業方法と留意点	<p>授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。</p> <p>グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。 ・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。 ・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス ・『デザイン思考（Design Thinking）』とは何か ・デザインファームの役割 	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。（標準学習時間：0.5 時間）
2	サービスデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザイン ・人間中心のデザイン ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。（標準学習時間：1 時間）
3	ヒトの視点の適用デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの人間の感性 ・IT サービスデザイン ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：参考文献の『デザイン思考』（前半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
4	市場とプロポーザルの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・市場におけるプロポーザルの意味 ・プロポーザルの視点 ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
5	デザイン思考の概観	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表（プレゼンテーション） 	事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
6	顧客体験デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design） ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：参考文献の『デザイン思考』（後半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
7	デザイン思考の手順	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考の手順 ・発見・定義・発想・実証 ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
8	デザイン思考のプロトタイプング	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスのプロトタイプング（試作） ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
9	プロポーザルのステークホルダー	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO（chief marketing officer）、利益団体（Interest Group） ・個人発表（プレゼンテーション） 	事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
10	プロポーザル（提案書）	<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルの構成と目次 ・顧客の課題解決の提案 ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
11	B2C/B2B とデザイン思考	<ul style="list-style-type: none"> ・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
12	デザイン思考の個別手法	<ul style="list-style-type: none"> ・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法 ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
13	オープンデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク&プレゼン 	事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間）
14	デザイン思考ビジネスの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインファーム企業の講演 	事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど

	介	・トークセッション	んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)	
15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエン、アネミック/ダールハウゼン、ヤープ/ザイルストラ、イエル/ファンデル・スコール、ロース	各務 太郎	クロスメディア・パブリッシング
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル、バス/エバズ、ルーカス/クラークセン、ロエル/トクスター、ピーター	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。			
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)			
備考	指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面 (MS Office 形式) や学習支援ツール (Web フォーム形式) の媒体を使って、詳細を説明する。 初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	WS01410a2		

授業概要・目的	私たちの日常生活は多くの法律と関わります。そこでこの講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、民事訴訟法などの基本的な内容と考え方を説明します。この授業の目的は、日常生活に必要な法律の知識を習得してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で習得した法律学の基礎的な知識を用いて、交通事故の損害賠償や相続などの日常生活において生じる問題を法的な視点から考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 239 頁から 243 頁と 246 頁から 247 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 244 頁から 245 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 106 頁から 131 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 131 頁から 147 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いてください。(1 時間程度)
10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 147 頁から 155 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 156 頁から 168 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 169 頁から 204 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 205 頁から 216 頁、248 頁から 249 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。	事前に教科書 216 頁から 238 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配付プリントの問題を確認して下さい。(1 時間程度)

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界 (第 7 版)	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末試験の点数 (60%) と小テストの点数 (40%) の合計で評価します。
学生への	

メッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①小テストの返却は11号館6階キャリアルームで行い、その正解は次の回の授業で解説します。 ②授業時間外の質問等に対しては、月曜日12時30分から13時20分に11号館5階法学部資料室において対応できます。

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 (基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視点、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。																			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。 なお、本授業では、パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に、授業内容についてのレポートを作成する。概大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月11日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月18日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月25日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月9日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月16日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月23日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月30日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月6日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月13日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月20日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月27日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 7月4日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月11日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月18日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月25日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	12号館6階 坂本教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/11(木), 7/18(木)6限目)。 パナソニック講師: 佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人々と交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション1	パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介	事前: 海外渡航手続き調査(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
2	海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情	事前: 英語での自己紹介準備(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
3	研修先 事前調査、英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情、企業・大学	事前: 研修先の英字新聞調査(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など	事前: 格差社会の調査(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間) 格差社会の問題について、レポート提出
5	社会人基礎力、英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表	事前: 英語での日本紹介準備(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
6	英語コミュニケーション5	海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
7	英語コミュニケーション6	研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2、テクニカルニュースのリスニングなど	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3、テクニカルニュースの発表など	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4、英語フレーズ集の作成など	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5、英語フレーズ集の作成など	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
13	マナー実習	挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	事前: 予習プリント学習(1時間)	事後: 課題レポート作成(1時間)
15	英語による成果発表	まとめ	事前: 成果発表の準備(1時間)	事後: 成果発表の反省(1時間)

関連科目	ものづくり海外インターンシップ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 檜橋教授室
----------	-------------

備考	【共同担当者】 檜橋教授(E科)、原教授(M科)、木多教授(A科)、白鳥准教授(R科)、理工学部インターンシップ委員会委員
----	---

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。 なお、本授業は、パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産、製造の実践を通して、企業における目標達成のプロセスを体得するものである。																
到達目標	(1)生産革新・改善を体験、理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験、理解することができる。(3)チームワーク・QCD問題を体験、理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/18 (木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/25 (木) 6限目 <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4～5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計～生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月31日 (土) 1～4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会 (2回目) ・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法	実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																

(基準)	
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	坂本教授室 (12号館6階)
備考	<p>期間：2019年8月26日(月)～8月30日(金)、9月2日(月)～9月3日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月31日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック(株)社員の朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名(英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	檜橋 祥一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。			
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。			
授業方法と留意点	東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1~2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4~5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6~8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9~10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>			
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	海外現地研修 60%(実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。			
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。			
担当者の研究室等	1号館4階 檜橋教授室 1号館5階 原教授室 8号館3階 木多教授室 12号館7階 白鳥准教授室			
備考	【注意事項】研修予定期間: 2019年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】 檜橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。</p> <p>具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。 ③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。 <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

				・デリバティブ テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託 ・債券
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト<P105~117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P136~153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P58~67> ・ライフプランニング
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P68~78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	全体レビュー
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。) ・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。) ・平常点 : 30% (受講状況と態度、質疑応答、e-Learning) 実績等を評価します。出席は前提条件です。) <p>必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておください。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身に付けてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>			
担当者の 研究室等	11 号館 1 階 (教務課)			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について 予習 (シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む) : 30 分程度 復習 (講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する) : 30 分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。 興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。</p>			

この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学(大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	共生機能材料学(松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学(向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)
----------	-----------------------------

備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。 事後学習に要する総時間の目安は1.5時間
----	---

科目名	歴史学 I	科目名 (英文)	History I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
	15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義最終日に行う論述試験 (持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第 1 回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館 4階 (赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	歴史学Ⅱ	科目名(英文)	HistoryⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって(1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる(1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる(2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる(3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市(1)	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市(2)	1000年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市(3)	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市(4)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市(5)	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するならば、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。

学生へのメッセージ 歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具

	体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

キャリア形成科目



科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2506a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じる事が期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学修	事後学修
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修: インターンシップとは何かについて考えること (1時間) ・事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (2時間)	
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3時間) ・事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (1時間)	
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・興味のある会社や自治体などの組織について調べる (1時間) ・事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3時間)	
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること (1時間) ・事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること (3時間)	
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3時間) ・事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる (1時間)	
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修: マナーがなぜ大切なかを考えること (2時間) ・事後学修: 配付されたテキストを精読すること (2時間)	
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間) ・事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みる (2時間)	
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2時間) ・事後学修: マナーの大切さを再度考えること (2時間)	
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと (2時間) ・事後学修: 講義を振り返り、履歴書を下書きすること (2時間)	
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修: グループ内の自分の役割を考えること (2時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと (2時間)	
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2時間) ・事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2時間)	
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (2時間) ・事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること (2時間)	
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間)	
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2時間)	
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修: インターンシップ I で学んだことをまとめること (2時間) ・事後学修: インターンシップで何を身につけたい	

キャリア形成科目

				かをもう一度考えること(3時間)
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ(企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個別の発表(40%)、グループでの発表(20%)、授業でのレポート等の提出物(30%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークへの参加姿勢など)(10%)を総合的に評価する			
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。</p> <p>※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p>			

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
8	事後学修① 9月21日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
9	事後学修② 9月21日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
10	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
11	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
12	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間)
13	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
14	事後学修⑦ 10月26日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ 10月26日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	1. 「インターンシップ I」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップ I」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。			

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1504a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、各回講師の大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解できるようになることが期待される。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることで、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2019年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかがかわることについて考える契機となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な3つのこと～ (担当:看護学部事務室 課長 古屋豊吾)	・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
3	学生生活② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- (担当:経営学部 准教授 久保 貞也)	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち(事例紹介) (2) チャンスを失う典型的な学生(注意喚起) (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた10のこと(担当:教務課 池田 有紀)	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
5	学生生活④ 講義の中間まとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・グループ分けの実施 ・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・第1回「学生生活」に関するレポートを作成すること(2時間)
6	キャリアパス① 個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること(2時間)
7	キャリアパス② 「私のキャリア」 キャリアアップを考える(担当:経済学部 教授 持永 政人)	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	キャリアパス③ 「NO.1プロジェクト」途中経過の共有(担当:教育イノベーションセンター)	・講義6で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5時間)
9	キャリアパス④ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか?(担当:スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)	・自身の失敗(しかし、将来への原動力につながる)から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、メンバーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就けるor起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。	・講義内容を振り返ること(0.5時間)
10	キャリアパス⑤ 講義の中間まとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第2回課題「キャリアパス」に関する課題を作成すること(2時間)
11	学修① 学修の回のオリエンテーション(担当:教育イノベーションセンター)	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・グループで課題に取り組むこと(2時間)
12	学修② 法律とスポーツと将来の職(担当:法学部 教授 石井 信輝)	法とスポーツとの関係性は見出しにくい、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	学修③ 講師のキャリア事例から「キャリア」を考える(担当:経	・これまで学んできた「キャリア」は何か、キャリアについてあらためて考える	・講義の内容を振り返ること(0.5時間)

キャリア形成科目

	<table border="1"> <tr> <td></td> <td> 営学部 講師 西之坊 穂 学修③ 14 課題「グループで課題研究」の発表(担当:教育イノベーションセンター) </td> <td> ・講義11で取り組んだ課題をグループごとに発表する。 </td> <td> ・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること(0.5時間) </td> </tr> <tr> <td></td> <td> 15 講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター) </td> <td> ・エンプロイメントデザインIの振り返り </td> <td> ・講義全体を振り返ること ・第3回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間) </td> </tr> </table>		営学部 講師 西之坊 穂 学修③ 14 課題「グループで課題研究」の発表(担当:教育イノベーションセンター)	・講義11で取り組んだ課題をグループごとに発表する。	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること(0.5時間)		15 講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザインIの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第3回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間)										
	営学部 講師 西之坊 穂 学修③ 14 課題「グループで課題研究」の発表(担当:教育イノベーションセンター)	・講義11で取り組んだ課題をグループごとに発表する。	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること(0.5時間)																
	15 講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザインIの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第3回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間)																
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、レポート3回(70%)、を総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	学生生活4年間をいかに有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。																		
担当者の研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)																		
備考	教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。																		

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1505a3		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・事前学修: シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	「先人(企業家)に学ぶ ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属: 大阪企業家ミュージアム)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います(予定)。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	「社会起業家とは」(社会起業家)	今、進路に悩む方も多いかと思いますが、私たちは何のために働くのでしょうか。今、世界でも日本でも「働く上で、お金を動かすのも大事だが、むしろ自分は社会を動かしたい」と考える人々が増えていきます。市場メカニズムを用いて社会課題の解決を目指す社会起業家。社会起業家たちはなぜ出現し、どのような生き様をし、どのように社会を変えていくのか。国内外の最新動向もご紹介しつつ、一緒に新しい可能性を探ります。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- (摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修: グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)
9	枚方市から J リーグへ! ?FC ティアモ枚方の挑戦?	社会人サッカークラブのマネジメントに携わるまでの経歴と今後についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	新卒での就職活動で全てが決まる! ? (摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験談を交えてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財(金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員- 経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間)

				・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想(30%)、レポート2回(60%)、グループ課題(10%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(1時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(1時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(2.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・グループ課題に取り組むこと(2時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような業種・会社があるのか調べること(1.5時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(1.5時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布資料を見直し、学生生活の振り返りを行うこと(1時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1.5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1.5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(1.5時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配布資料を見直し、自らの将来について考えること(1.5時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(2時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について理解すること(1時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(1時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)
----------	-------------------------

備考	毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。
----	----------------------------

科目名	キャリア特別講義	科目名(英文)	Special Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA2508a3		

授業概要・目的	オリックス・バファローズの球団職員を講師に招き、実体験を交えた野球ビジネスを解説いただくとともに、球団へのヒアリング調査を実施。そして、京セラドームでの球場調査も実施するなどして、プロ野球に関する情報の収集と分析を行う。
到達目標	プロ野球球団社員によるレクチャーや球場でのフィールド調査の実施を通して現実の球団による生きた経済活動を体験し、それによって経済学を実践的に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プロ野球球団社員による球団経営に関するレクチャーの後、実際のオリックス・バファローズの試合でグループ別にフィールド調査を行い、その結果をレポートにまとめ、球団等に対してプレゼンテーションし、その内容を評価する。 講義内容の性格上、履修学生数は限定する。
科目学習の効果(資格)	プロ野球球団の現実の経済活動に直接触れることによる経済学学習への動機付けと、就業力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、授業のすすめ方、評価方法等を説明する	
	2	プロ野球球団経営Ⅰ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤーズブックの熟読
	3	プロ野球球団経営Ⅱ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤーズブックの熟読
	4	プロ野球球団経営Ⅲ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤーズブックの熟読
	5	研究テーマの設定	グループに分かれ研究テーマを設定する	事前：これまでの講義を復習したうえ、研究テーマを考える
	6	球場でのフィールド調査準備	グループに分かれフィールド調査に向けての準備	
	7	球場でのフィールド調査準備	グループに分かれフィールド調査に使用するアンケートの完成	事前：アンケートの完成
	8	球場でのフィールド調査実施	「京セラドーム大阪」でのアンケート調査実施	事後：アンケートの集計
	9	アンケート結果のチェックと集計	全体でのアンケート結果の集計作業と整理	
	10	アンケート結果のチェックと集計	全体でのアンケート結果の集計作業と整理	事後：作業の完成
	11	グループ別アンケート結果の分析	グループごとのアンケート結果の集計作業と整理	事後：作業の完成
	12	グループ別アンケート結果の分析	グループに分かれての分析作業	事後：作業の完成
	13	プレゼンテーション準備	グループに分かれレポート・プレゼンテーション資料作成	事後：資料修正
	14	プレゼンテーション準備	グループに分かれプレゼンテーションのリハーサル	事後：資料完成
15	プレゼンテーション	グループ別発表会	事前：発表準備	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション評価50%、授業、フィールド調査への参加態度50%を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経済学を生の事例を通して実践的に学ぶユニークな授業です。変則的な授業日程でも参加する意思があり、また、集計・分析、プレゼンテーションのためにエクセル、パワーポイントに習熟していることが望ましい。
担当者の研究室等備考	1号館7階 郭准教授室(経済学部)

科目名	キャリアプラン	科目名(英文)	Career Plan
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1503a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・配付資料を熟読すること ・どんな業界があるのかを調べること(1時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・配付資料を熟読すること ・どんな会社があるのかを調べること(1時間)
4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・配付資料を熟読すること ・ビジネスモデルについて調べること(1時間)
5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・配付資料を熟読すること ・自分のワークスタイルを考えること(1時間)
6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・配付資料を熟読すること ・自分の未来について考えること(1時間)
10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・配付資料を熟読すること ・自分について振り返ること(1時間)
11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・配付資料を熟読すること ・自分の特性について考えること(1時間)
12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・配付資料を熟読すること ・エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1.5時間)
13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・配付資料を熟読すること ・模擬面接の準備をしておくこと(1.5時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること(1時間)

関連科目 ・キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 講義での提出物と授業態度(30%)、期末レポート(50%)、授業での課題(20%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。

担当者の研究室等 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野研究室)

備考 参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

キャリア形成科目

科目名	経済キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1501a3		

授業概要・目的	キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、どのような生き方をしたいかということに連なる問題です。人生の大半を占める職業生活を充実したものにするためには、自分の適性や価値観を知ったうえで職業についての理解を深め、進路を選択していく必要があります。本授業は航空会社やホテルでの実務経験を持つ教員が担当し、企業側からの視点も入れながら、具体的に自分のキャリアについて考えることができるようになることを目指します。
到達目標	観光経済と地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深めること、社会で求められる人材像を理解すること、生涯にわたるキャリアを主体的に考えていく能力を涵養することを目標とします。
授業方法と留意点	授業は配布資料を用いた講義のほか、映像資料なども取り入れてわかりやすく進めていきます。また、学生が主体となるグループディスカッション (演習) も行います。
科目学習の効果 (資格)	地域経済と観光経済および国際経済に関連する職業について理解を深めます。また、授業を通して自分自身の価値観や適性を知り、将来像に向かって大学生活を有意義に送るための主体性を身に着けます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	働くということ	働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める	配布資料の復習 (1時間)
3	学生と社会人の違いについて	社会人として求められるマナーや態度について講義する	配布資料の復習 (1時間)
4	「キャリア・マップ」に挑戦!	適性検査により、物事への取り組み姿勢や自分に向いている職業を知り、今後の大学生活を考えるきっかけとする	配布資料の復習 (1時間)
5	職業理解 (1)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	課題レポート提出
6	職業理解 (2)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	課題レポート提出
7	職業理解 (3)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	課題レポート提出
8	SPIに挑戦!	就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する	出題問題の復習 (1時間)
9	先輩の体験から学ぶ	経済学部の上級生による大学生活や就活の体験談を聴講する	課題レポート提出
10	能力開発とキャリア	働くうえで必要な能力の開発とキャリアの考え方について理解する	配布資料の復習 (1時間)
11	演習: グループディスカッション (1)	与えられたテーマについてグループディスカッションを行う	演習課題レポート準備
12	演習: グループディスカッション (2)	グループディスカッションの結果をレポートにまとめる	演習課題レポート提出
13	社会で求められる人材について	社会で求められる人材について講義する	配布資料の復習 (1時間)
14	企業の採用活動	企業の採用活動と人材戦略について講義する	配布資料の復習 (1時間)
15	まとめ	授業全体を通してのまとめと補足	配布資料の復習 (1時間)

関連科目	観光学入門
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 50%、課題 40%、演習参加および演習課題 10%
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	本授業を自分の将来像を描く一助として、目標に向かって有意義な大学生活を送ってほしいと思います。皆さんの授業への積極的な参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 野村教授室 (経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	経済キャリア入門	科目名(英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1501a3		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、「どのような生き方をしたいか。」を考えることが重要である。 ・時間の余裕がある大学生の時期に、職業に対する自分の適性や価値観を知ることが重要である。 ・本講義では、以下の3つの内容の修得を目的とする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 礼儀、個人間のコミュニケーション力、集団での意志表現力。 (2) 目標管理とスケジュール作成力。 (3) 観光関連、地域関連および国際経済関連産業の職業とそこで求められる人材像の理解。 ・政令指定都市において総務(行政改革、職員研修所、人事)、経理(経営企画)、事業所現場庶務、システム開発部門での実務経験を活かして、組織が求める人材の資質(コンピテンシー)向上の啓発に資する講義を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的の講義内容から、自分のキャリアを主体的に考える習慣を身につけること。 ・決められた課題を期限内に達成する習慣を身につけること。 ・レポート提出回数などを自主管理することで、計画的に課題対応及び就学の習慣をつけること。 ・経済学部学生としてのキャリア形成に必要な考える習慣を身につけること。 以上を到達目標とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、教科書を用いた講義を中心に進めるが、参加が必要なコミュニケーションの実践やグループディスカッション(演習)も行う。 ・参加意欲、積極的な意思表示、真摯な受講態度を重視する。 ・他の受講生に迷惑になる行為に対しては、退出を求める等の厳格な対応を行う。 ・授業目的を達成するため、毎回のレポート提出を重視する。
科目学習の効果(資格)	地域、観光および国際経済産業の仕事を理解することと自分自身の価値観や適正を知ることおよび主体的に行動することの重要性を知るとともに、大学生生活を有意義に過ごし、自己の将来像を描ける学習効果を修得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・イントロダクション 教科書内容: ・潜在能力を引き出す3つの力。 ・意志力の本能	・講義内容と進め方を講義する。 ・教科書で講義する内容を説明する。	事前:教科書第1章、第2章の熟読と自己体験の比較 事後:レポート提出①
2	【外部講師講演】 ・民間企業の代表取締役社長の講演 ・働くために必要なこと。働き方を考える	・働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める。 ・積極的かつ自立した学外活動の必要性の理解を深める。	事後:配布資料の復習。アンケート回答②
3	教科書内容: ・自制心が筋肉と似ている理由。 ・「人は間違った衝動」を信用する。 ・欲求と幸せと勘違いする理由	教科書内容に沿って講義する。	事前:教科書第3章、第4章、第5章の熟読と自己体験の比較 事後:レポート提出③
4	【演習】 自己理解のための「キャリアマップ」	「キャリアマップ」を使って、自分の性格や適正を知る。	事後:出題問題の復習 レポート提出④
5	【職業理解(1)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後:感想文提出⑤
6	【職業理解(2)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後:感想文提出⑥
7	【職業理解(3)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後:感想文提出⑦
8	【試験体験】 SPIに挑戦!	・就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する。 ・知識レベルの確認と対策の認識。 ・学習支援センター、資格サポートセンターの活用方法の紹介。	事後:出題問題の復習
9	【職業理解(3)】 先輩たちと語る。	・内定を得ている4年生の先輩から学生生活や就活について話を聞く。 ・先輩への質問から今後の学習等について気づきを得る。	事後:感想文提出⑧
10	【演習】 社会で求められる人材について(1) (演習:コミュニケーション能力)	社会で求められる人材能力としてのコミュニケーション演習を行う。	事後:レポート提出⑨
11	【演習】 社会で求められる人材について(2)-1 (演習:グループディスカッション能力)	社会で求められる人材能力としてのグループディスカッション演習を行う。	事後:グループ毎に第12回目発表のグループワークをまとめる 感想文提出⑩
12	【演習】 社会で求められる人材について(2)-2 (演習:グループディスカッション能力)	第11回で実施したグループディスカッション演習の内容をグループワークにまとめる。	事後:グループワークの内容復習 感想文レポート提出⑪
13	教科書内容:	教科書内容に沿って講義する。	事前:教科書第6章、第7章、第8章の熟読と自己

	<ul style="list-style-type: none"> ・気分の落ち込みが挫折に繋がる。 ・快樂の経済学 ・意志力はうつる。 		体験の比較 事後：レポート提出⑫																
14	【講演】 スケジュールリングの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と目標に向かうスケジュールリングの重要性を知る。 ・スケジュールリングの実践を行う。 	事後：配布資料の復習 感想文提出⑬スケジュール表の提出⑬																
15	教科書内容： <ul style="list-style-type: none"> ・「やらない力」の限界 ・自分自身をじっとみつめる。 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書内容に沿って講義する。 ・講義全体を通してのまとめと補足 	事前：教科書第9章、第10章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出⑭																
関連科目	観光学入門 地方自治論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタンフォードの自分を変える教室</td> <td>ケリー・マクゴニカル</td> <td>大和書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について、レポートの作成や感想文を求める。 ・定期試験 (50%) レポート (20%) 受講態度 (30%) で総合評価する。受講態度はレポートの提出回数 12 回以上を厳守する。提出回数は評価に加える。 ・本講義は、説明だけでなく演習などの参加型の場合もあるので、その習熟度結果報告であるレポート、感想文提出を含めた受講態度を重視する。 																		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活ほど多くの時間を有する時間は無い。人生のこの時期に「考える習慣」や「社会と関わる術」などを取得して欲しい。 ・大学生生活を有意義に過ごす行動指針に活用して欲しい。 ・提出物に質問や意見を記載する自由記入欄を必ず設けるので、意見がある場合は、そこに記入してください。 ・演習や動画感想など講義に出席しないとレポート作成することができない場合があるので必ず出席してください。 <p>・政令指定都市で30年間複数の部局で勤務し、職員から管理職に到るまでの経験から組織に必要な人材のコンピテンシーに関する実践的な教育を行う。</p>																		
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進捗に関わらず、選定した教科書を熟読し、自己体験と比較する習慣を勧める。 ・納得できる内容とそうでない内容について、しっかりと認識し、レポートで表現できることを目指す。 ・騒ぐなど他の受講生に迷惑を及ぼす場合は、退席などを求める。 																		

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永見 誠二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのため、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します。成績は、毎回の小テスト40%+中間・期末試験50%+Smart SPI10%でつけます。
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

キャリア形成科目

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1510a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる (400 字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400 字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目 キュリアデザイン I・II、インターンシップ I・II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名(英文)	Business Manner II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		
科目ナンバリング	WCA1511a3		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力(非言語ならびに言語能力)とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	適宜プリントを配布する。 第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務能力が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認 ・ビジネス用語の基本	・事前学修: ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。 受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修: オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修: 自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修: 第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修: 日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 ・事後学修: その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修: 日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修: 相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修: テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修: 逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」ユニバーサルマナー	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 ・相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える	・事前学修: 「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修: 「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修: 日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修: ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用クレーム対応	・来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修: TPO 意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修: 処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方法、プレゼンテーションの方法	・設営業務の基本 ・会議に参加する心構え	・事前学修: 会議に参加するための心構えを考える。 ・事後学修: YTT 方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修: 手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修: 企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修: 自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修: ケーススタディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修: 実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修: 「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事前学修: ビジネスマナーの必要性を考える。 ・事後学修: ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修: キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修: キャリアに関するレポートを作成する。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事前学修: ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

キャリア形成科目

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ワークならびに小テスト (30%)、レポート (30%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。まずは、TPO を考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。 レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

教 職 科 目



科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通していただくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを一冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題: シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷 I	戦前から戦後(経験主義～系統主義: 高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷 II	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題: シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括: 教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2				
3				

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習(特に復習)をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象外となりますので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。
2. 欠席・遅刻はしない。
3. 授業中、むやみやたらに入出入りしたり、私語、飲食はしない。

	<p>4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む（グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない）。</p> <p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に来てください。</p>
担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	<p>2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。</p> <p>教科書に代わる配布資料（『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい）については事前に該当箇所を印刷し、配布します。高額ですので購入する必要はありません。また、その他のテキスト、資料等については適宜印刷し、配布します。</p> <p>事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。</p>

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」 「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内 孜	学術図書出版社
2				
3				

参考書

教職科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	---

到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
------	---

授業方法と留意点	<p>授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。</p> <p>また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎理論に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	「教育とは一体何だろう」という問いについて自分なりの考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	教育の必要性について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	教育の目的について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	子ども観や子どもをめぐる問題について、自分なりの考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	教師の教育的役割について、自分なりの考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	近代の学校や学校教育の広がりについて、授業後にもう一度整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概観する。	家庭における教育について、授業後にもう一度整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	学力問題について、授業後にもう一度整理しておく。
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	生涯学習の思想について、授業後にもう一度整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	「自分はどのような教師になりたいのか」について、考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版

評価方法(基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、学期末試験の結果(70%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
----------	---

学生への	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言
------	---

メッセージ	を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階（谷口研究室）
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について	授業時に指示する
	2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
	3	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
	4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
	5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
	6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
	7	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
	8	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
	9	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	10	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	11	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	12	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
	14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
	15	まとめ		

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階) 谷口研究室(7号館4階)
----------	---

備考	教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。
----	--

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。			
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。			
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>			
関連科目	教職関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2	学習指導要領解説	文部科学省	
	3			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)			
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
---------	--

到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
------	---

授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももうけます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。
----------	--

科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。
3	マイノリティと教育 I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策
4	マイノリティと教育 II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について議論する。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。
5	マイノリティと教育 III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)を招聘し、学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりを実施する。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
6	教育格差・学力格差問題 I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。
7	教育格差・学力格差問題 II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞、及び子どもの貧困問題に取り組んでいる実践者の方を招聘し、現状についての理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。ゲスト講師からの課題があれば予習をしてくる。
8	教育格差・学力格差問題 III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。なお、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
9	学校教育の現場を知る I	予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び講師、話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
10	学校教育の現場を知る II	予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
11	学校教育の現場を知る III	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、それぞれ関心のある問題を選択し、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、グループ発表資料の準備をしてくる。
12	ジェンダーと教育 I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークを実施する。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
13	ジェンダーと教育 II	ジェンダー問題を扱った映画の鑑賞予定。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
14	ジェンダーと教育 III	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。

			考える。																	
	15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎、近藤博之</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版『教育社会学を学ぶ人のために』</td> <td>石戸教嗣</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス																	
2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社																	
3																				
評価方法 (基準)	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。																			
学生への メッセージ	<p>本講義を履修する者は、原則、前期履修期間中に学校現場でのボランティア活動経験が必須条件となります。すでに何らかの活動をしているものはその活動内容についてレポートをまとめ提出してもらいます（必須）。一度も活動したことがないものは、前期履修期間中にいくつかの活動を紹介するので、その活動に参加しレポートを作成し提出してもらいます（必須）。この必須レポート提出がない者は単位認定できませんので、履修前によく考えてから履修してください。なお、地域連携やその他の大学認定の活動（PBLなど）は、本レポートの対象とはなりません。</p> <p>学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。</p>																			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)																			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1、配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因、主な発達理論の概観	テキスト第8章1、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考……人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語……言語の機能、言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①……学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②……観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む……こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……A T T I、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト30%、期末試験70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階(吉田研究室)

備考 ・授業内で、moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。
・期末試験は希望者に返却します。
・事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)…… 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)…… 開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、 適応過程	テキスト第3章を読む グループ発表の準備
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の 発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応 (学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目	教職課程の科目全般
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	グループ発表 50%、期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、授業の最後にコメントペーパーを配付する。「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。)</p> <p>(3) 授業終了時に復習用の講義資料を配布する。講義資料は各自ファイリングすること。</p> <p>(4) 第9～12回でチームでのマイクロ・ティーチングを実施する。また、チーム・マイクロ・ティーチングに関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(5) 定期試験を必ず受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの私試、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる	各種メディアの授業への活用、学習用デ	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に

	① ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	デジタル・コンテンツの利用	学習内容を整理する。																
12	ICTを活用した授業をつくる ② ワーク6 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。																
13	インクルーシブな授業をつくる ワーク7 チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。																
14	ユニバーサルデザインの授業をつくる ワーク8 チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。																
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐる 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																		

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子・朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、中学校での実地学習では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目(教職実践演習を除く)の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたち	(事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

			ちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	
	10	学校の危機管理①:学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	11	学校の危機管理②: 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	12	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性はどのように担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどういう教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究(2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読み レポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究(3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読み レポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究(4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する 配布資料
11	教員の役割・職務(1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務(3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務(チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方や学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務(4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に、参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
---------	---

到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
------	---

授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらおうような「実践的・参加型の授業」を目指します。模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、模擬授業に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
--------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
	2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
	7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
	8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
	11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
	12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
	13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
	14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。	

関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。)、課題・レポート(提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、小テストや最終試験(予定)により総合的に評価する。遅刻も欠席扱いとするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さん自身が授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。また、毎時間、講義開始時に社会科の教員としての知識を問う小テストを行う予定です。詳細については第一回目の授業で説明し、資料等も配布します。第一回目の授業を休まれる方にはそれら一切お渡ししません。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので本講義に関しては、教科教育法という特殊性もあるため、履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的にを行います。

到達目標
 本講義の到達目標は以下の通りです。
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。
 (4) 政治教育、市民性教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

授業方法と留意点
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらいような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は一切認めません。

科目学習の効果(資格)
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。
【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：教育課程及び指導法に関する科目
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目
 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席 (全 15 回出席すること。少なくとも 80%以上の出席が必須。)、課題・レポート (提出の締め切りは厳守すること)、平常点 (授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験 (予定) により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します (前期社会科公民科教育法 I で購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	脇田 孝豪
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。 授業担当者は高校6校で28年間教諭や学校長の職を経験し、さらに教育委員会や教育センターで指導主事を5年間の経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中学・高校教員免許 (社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後 授業終了時に指示する。
	2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後 授業終了時に指示する。
	3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後 授業終了時に指示する。
	4	学習指導案の作成について 1	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。 事後 授業終了時に指示する。
	5	学習指導案の作成について 2	地理・歴史科学学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後 授業終了時に指示する。
	6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
	14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛えるための授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後 授業終了時に指示する。
	15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。 事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目	社会科・地歴科教育法 II
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
------	------------------------------

(基準)	
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の研究室等	11号館 1階 教務課
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	脇田 孝豪
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。 授業担当者は高校6校で28年間教諭や学校長の職を経験し、さらに教育委員会や教育センターで指導主事を5年間の経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出	

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
-----------	--

担当者の	1 1号館 1階 教務課
------	--------------

教職科目

研究室等	
備考	

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また折時、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方(2)	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220, pp. 223-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	文部科学省		
3				

評価方法(基準) 定期試験80%、レポート20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。
授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行う者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考	Moodle を通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。メンバー登録については初回到説明します。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 テキストは授業の各回に先立ち配布します。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。
----	---

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。
授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。

到達目標
受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の「特別の教科 道徳」の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、「特別の教科 道徳」の学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点
授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業を適宜取り入れます。
また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。

科目学習の効果(資格)
中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	自身が学校教育においてを受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	日本の道徳教育の歴史や信念対立について、授業後にもう一度整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について、授業後にもう一度整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	道徳の授業のねらいに基づく8類型について、授業後にもう一度整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	ねらいに基づく発問の構成法について、授業後にもう一度整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	道徳の授業の学習指導案の作成方法について、授業後にもう一度整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	道徳の授業の評価の内容や方法について、授業後にもう一度整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	教材分析の方法や授業構成について、授業後にもう一度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	教材分析の方法について授業後に整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	問題解決的な学習や、発問分析に基づく授業改善の方法について、授業後にもう一度整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。
13	学習指導案の作成①	これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	作成した学習指導案をグループ内で発表するための準備をしておく。
14	学習指導案の作成②	前回の授業で作成した学習指導案について各グループで発表し、模擬授業の準備を行う。	グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
15	まとめ： 模擬授業と事後の検討	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳の授業づくりについてまとめる。	「よい道徳の授業」について、考えをまとめる。

関連科目
教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―	文部科学省	東山書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名(英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的

特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中で特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。

子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。

「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。

総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。

到達目標

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。

主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

授業方法と留意点

講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならぬ教員の立場に立って、集団をファシリテートできるように、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

科目学習の効果(資格)

教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワークと意見交換)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って(ソロワークと意見交換)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出(ソロワークと意見交換)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出(ソロワークと意見交換)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
6	体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ(1)(グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校(グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力(即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども(グループ討議・発表)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育(即興劇・交流)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育(グループ討議・発表)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT(即興劇・発表)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。

	14	総合的な学習の時間の指導計画と評価ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
	15	補足とまとめ 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3F林研究室																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
---------	---

到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。
--------------	-----------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	5	生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワークと意見交換)	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ (1) (グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校 (グループ討議・発表)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩いじめ (その2) (即興劇・交流)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪進路指導 (グループ討議・発表)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
	13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブ教	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する

	育〈グループ討議・発表〉																		
	14	総合的な学習の時間の指導計画と評価 ワーク⑬ジェンダー・性的マイノリティ〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い総合的な学習の時間の体制づくり																
			総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
			特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことに関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																
2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。																		
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することによって成る。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																		
担当者の研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																		

科目名	特別支援教育論	科目名(英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史の変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高（・小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>⑤個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。</p>
授業方法と留意点	講義演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDHからICFへ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
8	通常学級での特別支援教育の実践(通級による指導を含む)	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
13	校内支援体制の構築とSC・SSW等との連携・協働	校内での連携、他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
14	社会的養護にある子供、LGBTなど性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBTなど性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特別支援教育資料(平成30年度版)	文部科学省	Web

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階林研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。			

発行 2019年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】

電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

